市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第32集

市原市海保地区遺跡群 II

海 保 広 作 遺 跡

２０１５

大 成 建 設 株 式 会 社
市 原 市 教 育 委 員 会

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第32集

市原市海保地区遺跡群 II

海保広作遺跡

（かいほ ひろさく）

2015

大成建設株式会社
市原市教育委員会

東側調査区（空撮）

104 号遺構（空撮）

序　文

温暖な気候に恵まれた房総半島には、古来より多くの人々が暮らしてきました。その中央に位置する市原の地にも、豊かな森と養老川や海がもたらす大自然の恵みを求めて、多くの人々が集い、先人たちの営みの痕跡は遺跡となって今も市内各地に残されています。特に養老川の右岸に位置する国分寺台の地には、上総国分寺跡、稲荷台１号墳、神門古墳群、西広貝塚など全国にその名が知られる遺跡が数多くあり、文化や政治の中心地として長らくその役割を担ってきました。

さて、ここに報告する「海保広作遺跡」は、養老川の左岸に位置する台地上にある遺跡です。この度、当該地に大規模な宅地造成が計画されましたが、開発事業者のご理解のもと、貴重な文化財を記録として後世に伝えるための遺跡発掘調査が実施できました。そして調査の結果、市原市内では珍しい縄文時代前期を主体とする時期の集落跡が見つかり、当時のムラでの人々の暮らしぶりが明らかになりました。遺跡から出土した遺構や遺物の記録が、学術的な資料としてはもとより、市民の方々に広く活用され、市原の歴史の一つとして永く伝えられていくことを願ってやみません。

最後に、遺跡の発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大な御尽力を頂きました文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課、大成建設株式会社、国際文化財株式会社並びに関係各位に対しまして、深く御礼申し上げます。

平成27年３月

市原市教育委員会
教育長　白鳥 秀幸

序　文

温暖な気候に恵まれた房総半島には、古来より多くの人々が暮らしてきました。その中央に位置する市原の地にも、豊かな森と養老川や海がもたらす大自然の恵みを求めて、多くの人々が集い、先人たちの営みの痕跡は遺跡となって今も市内各地に残されています。特に養老川の右岸に位置する国分寺台の地には、上総国分寺跡、稲荷台１号墳、神門古墳群、西広貝塚など全国にその名が知られる遺跡が数多くあり、文化や政治の中心地として長らくその役割を担ってきました。

さて、ここに報告する「海保広作遺跡」は、養老川の左岸に位置する台地上にある遺跡です。この度、当該地に大規模な宅地造成が計画されましたが、開発事業者のご理解のもと、貴重な文化財を記録として後世に伝えるための遺跡発掘調査が実施できました。そして調査の結果、市原市内では珍しい縄文時代前期を主体とする時期の集落跡が見つかり、当時のムラでの人々の暮らしぶりが明らかになりました。遺跡から出土した遺構や遺物の記録が、学術的な資料としてはもとより、市民の方々に広く活用され、市原の歴史の一つとして永く伝えられていくことを願ってやみません。

最後に、遺跡の発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大な御尽力を頂きました文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課、大成建設株式会社、国際文化財株式会社並びに関係各位に対しまして、深く御礼申し上げます。

平成 27 年 3 月

市原市教育委員会
教育長　白鳥 秀幸

例　言

1　本書は、市原市内に所在する埋蔵文化財調査報告書の第 32 集である。

2　本書は、千葉県市原市海保 1449-3-7 ほかに所在する海保遺跡群のうちの海保広作遺跡の発掘調査報告書である（分布地図遺跡番号 359　調査コードセ 430・セ 436・セ 437）。

3　発掘調査は、当該地の宅地造成に伴い、大成建設株式会社の依頼を受け、市原市教育委員会が実施した。なお、開発事業対象となった当該地周辺には、広域にわたって遺跡が存在するため、遺跡群を 4 つに区分して発掘調査を実施した。それぞれを、海保広作遺跡、海保西竹谷遺跡、海保小谷作遺跡、海保大塚遺跡と呼称し、海保広作遺跡以外の 3 遺跡については、大成建設株式会社の委託を受けた国際文化財株式会社が、本調査及び整理作業を実施し、「海保地区遺跡群Ⅰ」として報告書を刊行している。

海保広作遺跡については、確認調査を平成 19 年 12 月 3 日から平成 20 年 3 月 17 日まで行い、この結果を受けて、本調査を平成 20 年 7 月 1 日から 10 月 31 日、11 月 17 日から平成 21 年 3 月 19 日まで行った。調査担当者はいずれも近藤敏である。

4　整理・報告事業は、大成建設の依頼を受け、市原市教育委員会が実施した。期間、担当者は次のとおりである。

平成 25 年 8 月 1 日～平成 26 年 3 月 20 日　忍澤成視（図面・遺物の整理、実測等）

平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 3 月 20 日　忍澤成視（調査報告書の編集、刊行）

5　本書の執筆・編集は、忍澤成視が行った。石器石材及び礫類の肉眼鑑定は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果を同社が第 4 章第 2 節に執筆した。また、火山噴出物起源とみられる遺構土壌中の物質について、関東第四紀研究会によって理化学的な分析が行われたので、この結果を報告した同会誌から分析結果の要点をまとめ、第 4 章第 3 節に掲載した。

6　本書で使用した地形図は、国土地理院平成 19 年 10 月発行の 1:25,000（姉崎）NI-54-19-16-3 である。

7　本書に掲載した出土遺物及び図面・写真等の記録類は、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターで収蔵、保管している。

凡　例

1　本書で使用した図面の方位は、全て座標北であり、日本測地系による。

2　本遺跡の水準は、全て海抜高である。

3　遺構実測図の縮尺は、竪穴住居跡 1/60、炉穴・土坑など 1/60 を基本とするが、必要に応じ適した縮尺を採用した。

4　遺物実測図の縮尺は、概ね以下のとおりであるが、必要に応じ適した縮尺を採用した。
　土器：1/3、礫石器類：1/3、剥片石器類：4/5、土製品：1/2

5　遺物写真図版の縮尺については、遺物実測図に準じた。

6　注及び参考文献については、各節末に掲載した。

7　石器実測の一部（剥片石器等）の実測については、創和システム株式会社に委託した。また、石器・礫類の石材肉眼鑑定を、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

8　挿図中のスクリーントーンやインスタントレタリングの用例は以下のとおりであるが、例外の場合は図中に凡例を付した。

＜遺構＞

炉燃焼面、焼土

貝層

＜遺物＞

● 土器

▲ 礫

△ 石器

→ ●←赤彩範囲

● 摩耗痕

▼ 凹み状の摩耗

○ 敲打痕

9　遺物類のうち、土器の属性に関するデータ（表 6、表 10）については、本篇中には収録せず付録の DVD 内のみに納めた。なお、この DVD 内には、本篇全ての PDF ファイルと遺物データを収録してある。

本　文　目　次

巻頭図版
序文
例言
凡例
目次
第１章　序説
　第１節　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 1
　第２節　調査の経緯と方法 …… 4
　第３節　遺跡の概要 …… 6
第２章　遺構と遺物
　第１節　旧石器時代の遺物集中地点 …… 15
　第２節　竪穴建物 …… 48
　第３節　土坑及び炉穴 …… 55
　第４節　その他の遺構 …… 92
第３章　遺物包含層
　第１節　遺物包含層の概要 …… 111
　第２節　土器と礫 …… 111
　第３節　石器 …… 145
　第４節　土製品 …… 170
第４章　分析篇
　第１節　98 号遺構検出の貝層について …… 170
　第２節　石器と礫類の石材について …… 174
　第３節　溝状遺構等検出の「固結火山灰土塊」について …… 187
第５章　総括 …… 189

挿　図　目　次

第 1 図　海保広作遺跡周辺の遺跡 …… 2
第 2 図　海保地区の遺跡 …… 5
第 3 図　確認調査地点の配置 …… 7
第 4 図　グリッド配置図 …… 8
第 5 図　海保広作遺跡全体図 …… 9
第 6 図　遺構配置図 1 …… 10
第 7 図　遺構配置図 2 …… 11
第 8 図　遺構配置図 3 …… 12
第 9 図　旧石器時代遺物集中地点　A ブロック (1)… 16
第 10 図　旧石器時代遺物集中地点　A ブロック (2)… 17
第 11 図　旧石器時代遺物集中地点　A ブロック (3)… 18
第 12 図　旧石器時代遺物集中地点　A ブロック (4)… 19
第 13 図　旧石器時代遺物集中地点　A ブロック (5)… 21
第 14 図　旧石器時代遺物集中地点　B ブロック …… 23
第 15 図　旧石器時代遺物集中地点　C ブロック (1)… 25
第 16 図　旧石器時代遺物集中地点　C ブロック (2)… 26
第 17 図　旧石器時代遺物集中地点　C ブロック (3)… 28
第 18 図　旧石器時代遺物集中地点　D ブロック (1)… 30
第 19 図　旧石器時代遺物集中地点　D ブロック (2)… 31
第 20 図　旧石器時代遺物集中地点　D ブロック (3)、E ブロック …… 33
第 21 図　1 号遺構・遺物 …… 49
第 22 図　2 号遺構・遺物 …… 50
第 23 図　3 号遺構・遺物、4 号遺構・遺物 (1)…… 52
第 24 図　4 号遺構・遺物 (2) …… 53
第 25 図　5 号遺構・遺物 …… 54
第 26 図　6 号遺構・遺物、7 号遺構、8 号遺構・遺物、9 号遺構、10 号遺構 …… 56
第 27 図　11 号遺構・遺物、12 号遺構、13 号遺構・遺物 …… 58
第 28 図　14・15・16 号遺構・遺物、17 号遺構・遺物、18 号遺構・遺物 (1) …… 60
第 29 図　18 号遺構・遺物 (2)、19 号遺構・遺物、20 号遺構・遺物、21 号遺構・遺物 …… 62
第 30 図　22 号遺構・遺物、23 号遺構・遺物、24 号遺構・遺物、25 号遺構、26 号遺構・遺物、27・28 号遺構・遺物 …… 64
第 31 図　29 号遺構・遺物、30 号遺構、31 号遺構・遺物、32 号遺構・遺物、33 号遺構 …… 67
第 32 図　34 号遺構、35 号遺構・遺物、36 号遺構・遺物、37 号遺構、38 号遺構、39 号遺構、40 号遺構、41 号遺構・遺物、42 号遺構・遺物 …… 70
第 33 図　43 号遺構・遺物、44 号遺構・遺物、45 号遺構・遺物 (1) …… 72
第 34 図　45 号遺構・遺物 (2)、46 号遺構・遺物、47 号遺構・遺物 …… 73
第 35 図　48 号遺構・遺物、49・50 号遺構・遺物、51 号遺構、52 号遺構・遺物、53 号遺構・遺物、54 号遺構 …… 76
第 36 図　55 号遺構・遺物、56 号遺構・遺物、57 号遺構、58 号遺構・遺物、59 号遺構、60・61 号遺構 (1)…… 78
第 37 図　60・61 号遺構・遺物 (2)、62 号遺構・遺物、63 号遺構・遺物、64 号遺構・遺物、65 号遺構・遺物 (1) …… 80
第 38 図　65 号遺構・遺物 (2)、66 号遺構・遺物、67 号遺構、68 号遺構、69 号遺構・遺物 …… 82
第 39 図　70 号遺構、71 号遺構・遺物、72 号遺構・遺物、73 号遺構・遺物、74・75 号遺構・遺物、76 号遺構 …… 85
第 40 図　77 号遺構・遺物、78 号遺構・遺物、79 号遺構、80 号遺構・遺物、81 号遺構・遺物、82 号遺構 …… 87
第 41 図　83 号遺構・遺物、84 号遺構・遺物、85 号遺構、86・87・88 号遺構・遺物、89 号遺構・遺物、90 号遺構 …… 90
第 42 図　91 号遺構、92 号遺構・遺物、93 号遺構、94 号遺構、95 号遺構 …… 91
第 43 図　96 号遺構 (1)・遺物 …… 93
第 44 図　96 号遺構 (2) …… 94
第 45 図　97 号遺構・遺物 …… 95
第 46 図　98 号遺構・遺物 (1) …… 96
第 47 図　98 号遺構・遺物 (2)、99 号遺構・遺物…… 97
第 48 図　100・101・102 号遺構・遺物 (1)…… 99
第 49 図　100・101・102 号遺構・遺物 (2)、103 号遺構・遺物 …… 100
第 50 図　104 号遺構 (1) …… 102
第 51 図　104 号遺構 (2) …… 103
第 52 図　104 号遺構 (3) …… 104
第 53 図　104 号遺構・遺物 …… 105
第 54 図　遺物包含層土層断面 …… 112
第 55 図　時期別遺構分布図（早期、前期） …… 113
第 56 図　時期別包含層出土土器分布図 1（撚糸文系、条痕文系） …… 114
第 57 図　時期別包含層出土土器分布図 2（浮島・興津、諸磯） …… 115
第 58 図　時期別包含層出土土器分布図 3（前期末、加曽利 B） …… 116
第 59 図　遺物包含層出土礫分布図 …… 117
第 60 図　A49 区出土土器、A50 区出土土器 (1) … 118
第 61 図　A50 区出土土器 (2) …… 119
第 62 図　A50 区出土土器 (3) …… 120
第 63 図　A50 区出土土器 (4) …… 121
第 64 図　A50 区出土土器 (5) …… 122
第 65 図　A51 区出土土器 (1) …… 123
第 66 図　A51 区出土土器 (2) …… 124
第 67 図　A51 区出土土器 (3) …… 125
第 68 図　A51 区出土土器 (4) …… 126
第 69 図　A51 区出土土器 (5)、A52 区出土土器 (1) …… 128
第 70 図　A52 区出土土器 (2)、A38 区出土土器 (1) …… 129
第 71 図　A38 区出土土器 (2)、A39 区出土土器 (1) …… 130
第 72 図　A39 区出土土器 (2) …… 131
第 73 図　A39 区出土土器 (3)、A40 区出土土器 (1) …… 133
第 74 図　A40 区出土土器 (2) …… 134
第 75 図　A40 区出土土器 (3)、A41 区出土土器 (1) …… 135
第 76 図　A41 区出土土器 (2)、A42 区出土土器、A27 区出土土器 …… 136
第 77 図　A28 区出土土器 (1) …… 137
第 78 図　A28 区出土土器 (2)、A29 区出土土器 (1)

…… 138
第 79 図　A29 区出土土器 (2)、A30・A17 区出土土器、A14・A15・A16 区出土土器 …… 139
第 80 図　A36・A37 区出土土器 …… 141
第 81 図　A63・A64・A65・A56 区出土土器 …… 143
第 82 図　A57・A58 区出土土器、A20・A34 区出土土器 (1) …… 144
第 83 図　A34 出土土器 (2)、遺跡一括出土土器 … 145
第 84 図　確認調査時出土土器 (1) …… 146
第 85 図　確認調査時出土土器 (2) …… 147
第 86 図　確認調査時出土土器 (3) …… 148
第 87 図　遺物包含層出土石器 (1) …… 155
第 88 図　遺物包含層出土石器 (2) …… 156
第 89 図　遺物包含層出土石器 (3) …… 157
第 90 図　遺物包含層出土石器 (4) …… 158
第 91 図　遺物包含層出土石器 (5) …… 159
第 92 図　遺物包含層出土石器 (6) …… 160
第 93 図　遺物包含層出土石器 (7) …… 161
第 94 図　遺物包含層出土石器 (8) …… 162
第 95 図　遺物包含層出土土製品 …… 170
第 96 図　98 号遺構貝層検出状況 …… 172
第 97 図　98 号遺構出土貝類の組成 …… 173
第 98 図　98 号遺構出土主要貝類のサイズ …… 173
第 99 図　石器及び礫の石質組成 …… 184
第 100 図　石材の状況写真 1 …… 185
第 101 図　石材の状況写真 2 …… 186

表　目　次

表 1　海保広作遺跡周辺の主な遺跡 …… 3
表 2　遺構属性表 …… 13
表 3　遺構出土礫集計 1 …… 32
表 4　遺構出土石器属性表 1 …… 34
表 5　遺構出土土器集計 …… 106
表 6　遺構出土土器属性表
＊ DVD のみに収録
表 7　遺構出土礫集計 2 …… 108
表 8　遺構出土石器属性表 2 …… 109
表 9　遺物包含層出土土器集計 …… 149
表 10　遺物包含層出土土器属性表
＊ DVD のみに収録
表 11　遺物包含層出土礫集計 …… 154
表 12　遺物包含層出土石器属性表 …… 163
表 13　遺物包含層出土土製品属性表 …… 170
表 14　98 号遺構内貝層内容物組成 …… 172
表 15　出土軟体動物種名表 …… 173
表 16　98 号遺構内貝層貝種組成 …… 173
表 17　旧石器時代遺物集中地点出土石器の石質組成 …… 176
表 18　旧石器時代ブロック別出土石器及び礫の石質組成 …… 177
表 19　遺構出土石器の石質組成 …… 179
表 20　時期別遺構内出土石器の石質組成 …… 179
表 21　包含層出土石器の石質組成 …… 180
表 22　遺構出土礫の石質組成 …… 181

写真図版目次

PL.1　東側調査区・全景（南から）、東側調査区・縄文前期遺構集中箇所（空撮）
PL.2　旧石器時代遺物集中地点・Ａ－１ブロック　南東から、旧石器時代遺物集中地点・Ａ－１ブロック　東から、旧石器時代遺物集中地点・Ａ－１ブロック　南西から、旧石器時代遺物集中地点・Ａ－２ブロック　西から、旧石器時代遺物集中地点・Ａ－３ブロック　北から、旧石器時代遺物集中地点・Ｂブロック　南から、旧石器時代遺物集中地点・Ｃブロック　西から、旧石器時代遺物集中地点・Ｃブロック　南西から
PL.3　旧石器時代遺物集中地点・Ｃブロック　東壁土層断面、旧石器時代遺物集中地点・Ｄブロック　西から、旧石器時代遺物集中地点・Ｄブロック　北壁土層断面、旧石器時代集中地点・Ｅブロック　北から、1 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、1 号遺構　遺物出土状況、1 号遺構　北から、2 号遺構　南から　Ａ－Ａ′
PL.4　2 号遺構　遺物出土状況　南から、2 号遺構　西から、3 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、3 号遺構　遺物出土状況　南から、3 号遺構　西から、4 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、4 号遺構　遺物出土状況　北から、4 号遺構　北から
PL.5　4 号遺構　東から、5 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、5 号遺構　遺物出土状況　東から、縄文前期遺構集中箇所（西から）、縄文前期遺構集中箇所（東から）、縄文前期遺構集中箇所（西から）、6 号遺構　西から　Ａ－Ａ′、6 号遺構　西から
PL.6　7 号遺構　北から　Ａ－Ａ′、7 号遺構　東から、8 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、9 号遺構　西から　Ａ－Ａ′、8･9 号遺構　西から、10 号遺構　西から、11 号遺構　遺物出土状況　西から、11 号遺構　西から
PL.7　12 号遺構　北から　Ａ－Ａ′、13 号遺構　西から、14･15･16 号遺構　南から、17 号遺構　西から、18 号遺構　東から　Ａ－Ａ′、18 号遺構　遺物出土状況　東から、2 号 ･18 号遺構　西から、19 号遺構　南から　Ａ－Ａ′
PL.8　20 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、20 号遺構　南から、46･24 号遺構　遺物出土状況　東から、25 号遺構　東から、26 号遺構　東から、27･28 号遺構　南東から、29 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、29 号遺構　東から
PL.9　30 号遺構　西から　Ａ－Ａ′、32 号遺構　東から、33 号遺構　南から、35 号遺構　西から、36 号遺構　東から　Ａ－Ａ′、36 号遺構　西から、38 号遺構　南から、39 号遺構　南から　Ａ－Ａ′
PL.10　40 号遺構　南西から、41 号遺構　東から　Ａ－Ａ′、45 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、45 号遺構　南東から、47 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、48 号遺構　西から　Ａ－Ａ′、49･50 号遺構　南から、51 号遺構　西から　Ａ－Ａ′
PL.11　55 号遺構　南から　Ａ－Ａ′、56･57 号遺構　東から、58 号遺構　西から　Ａ－Ａ′、58 号遺構　南西から、

59 号遺構　南から　A－A′、60 ～ 66 号遺構　北から、60･61 号遺構　西から、62 号遺構　東から

PL.12　63 号遺構　南から　A－A′、64 号遺構　西から　A－A′、64 号遺構　北から、66 号遺構　南から、67 号遺構　西から、68 号遺構　北から、69 号遺構　東から、70･71 号遺構　西から

PL.13　72 号遺構　東から　A－A′、73 号遺構　南から　A－A′、73 号遺構　東から、74 号遺構　南西から　A－A′、74･75 号遺構　東から、76 号遺構　南東から、77 号遺構　南東から、78 号遺構　北西から

PL.14　79 号遺構　西から､80 号遺構　北西から､81 号遺構　南から､82 号遺構　東から､83 号遺構　北から　A－A′、83 号遺構　北から、84・85 号遺構　北から、86･87･88 号遺構　北から

PL.15　89 号遺構　東から、90 号遺構　西から、91 号遺構　東から　A－A′、92 号遺構　東から　A－A′、93 号遺構　南から、94 号遺構　西から　A－A′、95 号遺構　北から、96 号遺構

PL.16　96 号遺構　南から　A－A′、96 号遺構　南から　A－A′（近景）、97 号遺構　東から、97 号遺構　遺物出土状況、97 号遺構　東から　B－B′、98 号遺構　東から、98 号遺構　南から、98 号遺構　柱穴内貝層断面 1

PL.17　98 号遺構　柱穴内貝層断面 2、98 号遺構　柱穴内貝層断面 3、98 号遺構　柱穴掘り上げ状況、99 号遺構　遺物出土状況（側面）、99 号遺構　遺物出土状況 (上面)、100 号遺構　東から、101 号遺構　南西から、101 号遺構　西から

PL.18　103 号遺構　西から、103 号遺構　東から　A－A′、104 号遺構　空撮　東から、104 号遺構　南から、104 号遺構　北から

PL.19　104 号遺構　北から、104 号遺構　北から、104 号遺構　南から、104 号遺構　南から　B－B′、104 号遺構　南から　D－D′、104 号遺構　南から　F－F′、104 号遺構　南から　I－I′、104 号遺構　南から　L－L′

PL.20　104 号遺構　南から　M－M′、104 号遺構　南から　N－N′、A57･58･64･65 区遺物包含層　南から、A57･58･64･65 区遺物包含層（近景）、A36 区包含層　北西から、東側遺物包含層調査風景 1、東側遺物包含層調査風景 2、東側遺物包含層調査風景 3

PL.21　東側遺物包含層（土層断面）、東側遺物包含層　A50･51 区　西から、東側遺物包含層　A52･53 区　東から、東側遺物包含層　A39･40 区　南東から、東側遺物包含層　A40 区東側 (礫集中箇所)、東側遺物包含層　A40･41 区　南から、東側遺物包含層　A51･52･40･41 区　南から、東側遺物包含層　A27･28 区　北から

PL.22　旧石器時代遺物集中地点　A－1、A－2、A－3、B、C ブロック遺物

PL.23　旧石器時代遺物集中地点　C、D ブロック遺物

PL.24　1 号遺構、2 号遺構遺物

PL.25　3 号遺構、4 号遺構、5 号遺構遺物

PL.26　5 号遺構、6 号遺構、8 号遺構、11 号遺構、13 号遺構、16 号遺構、17 号遺構、18 号遺構遺物

PL.27　18 号遺構、19 号遺構、20 号遺構、21 号遺構、22 号遺構、23 号遺構、24 号遺構、26 号遺構、27 号遺構、28 号遺構、29 号遺構、31 号遺構、32 号遺構、35 号遺構、36 号遺構、41 号遺構、42 号遺構、43 号遺構遺物

PL.28　44 号遺構、45 号遺構、46 号遺構、47 号遺構、48 号遺構、49 号遺構、52 号遺構、53 号遺構、55 号遺構、56 号遺構、58 号遺構、60 号遺構遺物

PL.29　61 号遺構、62 号遺構、63 号遺構、64 号遺構、65 号遺構、66 号遺構、69 号遺構、71 号遺構、72 号遺構、73 号遺構、75 号遺構、77 号遺構、78 号遺構、80 号遺構、81 号遺構、83 号遺構遺物

PL.30　84 号遺構、86 号遺構、87 号遺構、88 号遺構、89 号遺構、92 号遺構、96 号遺構、97 号遺構、98 号遺構遺物

PL.31　98 号遺構、99 号遺構、100 号遺構、101 号遺構、102 号遺構、103 号遺構遺物

PL.32　104 号遺構遺物

PL.33　遺物包含層土器　A49 区、A50 区

PL.34　遺物包含層土器　A50 区、A51 区

PL.35　遺物包含層土器　A51 区、A52 区

PL.36　遺物包含層土器　A52 区、A38 区、A39 区

PL.37　遺物包含層土器　A39 区、A40 区

PL.38　遺物包含層土器　A41 区、A28 区、A29 区、A30 区、A17 区

PL.39　遺物包含層土器　A14 区、A15 区、A16 区、A36 区、A37 区、A63 区、A64 区、A56 区、A57 区、A58 区

PL.40　遺物包含層土器　A20 区、A34 区、遺跡一括、確認調査

PL.41　遺物包含層石器

PL.42　遺物包含層石器

PL.43　遺物包含層石器、土製品

PL.44　98 号遺構出土の貝類

第 1 章　序説

第 1 節　遺跡の位置と周辺の遺跡

海保広作遺跡は、市原市の北部、養老川の左岸に広がる標高 55 mほどの台地上に位置する。遺跡の北側約 1 ㎞には、養老川の造る広大な沖積地が広がり、遺跡の所在する台地上にはここから南北に伸びる小支谷が幾筋も見られ、その間に残された馬背状の台地上に集落や古墳群などの遺跡が展開している。遺跡の西約 4 ㎞に東京湾を臨む。

海保広作遺跡の主体となる時期は、縄文早期後葉と前期後葉である。また、遺跡の一部には旧石器時代の遺物集中地点、二次的な堆積と見られるものの縄文後期の小規模な貝層などが検出されていることから、ここでは、市内にある当該期の主な遺跡を採り上げその概要を知ることによって、本遺跡の位置付けをしてみたい（第 1 図・表 1）。

養老川左岸では近年、千葉県文化財センターによる東関東自動車道関連の発掘調査により、旧石器時代や縄文時代の遺構等の検出事例が増えた。大作頭遺跡（5）では子母口式を主体とする 160 基の炉穴が、野口遺跡（7）では野島式を主体とする 166 基の炉穴が見つかっている。また、市原市で発掘調査した片又木遺跡（4）では子母口式を主体とする 27 基の炉穴が、大道遺跡（14）では野島式を主体とする 40 基の炉穴が検出されている。これより南下した養老川中流域では、荻原野遺跡（13）で野島・茅山式を主体とする 50 基の炉穴と沈線文系土器の時期の竪穴建物 2 棟が検出されている。しかし、前期後葉となるとわずかな土器片程度の検出例はあるものの、遺構の検出はほとんどない。

養老川の右岸、国分寺台遺跡群にある縄文遺跡は、祇園原貝塚や西広貝塚に代表されるように、後期を主体に一部晩期に及ぶ時期のものがほとんどであり、縄文早期・前期のものとなると数が限られる。このうち、最も大規模な遺跡が先頃報告された天神台遺跡（24）で、早期後葉・前期前葉両時期の集落（鵜ヶ島台・茅山式の竪穴建物 17 棟、炉穴 207 基、関山式の竪穴建物 34 棟）と、早期には比較的規模の大きな貝塚も見られた。天神台遺跡の東に隣接する東間部多遺跡（25）、上総国分僧寺跡の下層にある中台遺跡（23）に早期の遺構がややまとまって知られる。東間部多遺跡では、早期条痕文系の野島・鵜ヶ島台式の時期の炉穴 78 基、中台遺跡では同様の時期の炉穴 65 基が検出されている。また、天神台遺跡の北東約 2 ㎞に位置する大山台遺跡（21）から子母口・野島式の炉穴 32 基が検出されている。この他、祇園原貝塚（22）や西広貝塚（26）にも遺跡の一部から鵜ヶ島台・茅山下層式の時期の炉穴が見つかっているが、数基程度と数はごく限られる。一方、前期後葉となるとわずかな土器片程度の検出例はあるものの、遺構の検出はほとんどない。天神台遺跡において、遺構の検出はないが遺物包含層中からややまとまった土器の検出例が知られる程度である。

このように、海保広作遺跡から見つかった縄文前期後葉の遺構と遺物は、市内ではほとんど例がない当該時期の集落の在り方を知るものとして、極めて貴重な資料と言えよう。

貝塚遺跡としては、発掘調査事例は少ないものの、養老川左岸に位置するこの一帯は、縄文後期貝塚が比較的多く存在する地域である。姉崎台貝塚（2）、諸久蔵貝塚（6）、分目貝塚（12）、山見塚貝塚（15）、堀込貝塚（17）、深城貝塚（18）、上高根貝塚（20）などが知られる。

旧石器時代の遺物集中地点としては、千葉県文化財センターによる東関東自動車道関連の発掘調査

1 海保広作遺跡　2 姉崎台貝塚　3 小谷遺跡　4 片又木遺跡　5 大作頭遺跡　6 諸久蔵貝塚　7 野口遺跡　8 百目木遺跡　9 下椎木遺跡　10 ヤジ山遺跡　11 細山遺跡　12 分目貝塚　13 荻原野遺跡　14 大道遺跡　15 山見塚貝塚　16 外迎山遺跡　17 掘込貝塚　18 深城貝塚　19 南名山遺跡　20 上高根貝塚　21 大山台遺跡　22 祇園原貝塚　23 中台遺跡　24 天神台遺跡　25 東間部多遺跡　26 西広貝塚

第1図　海保広作遺跡周辺の遺跡

表１　海保広作遺跡周辺の主な遺跡

No.	遺跡名	よみ	所在地	時　期			竪穴建物	炉穴	旧石器ブロック	備考
1	海保広作遺跡	かいほひろさく	海保 1449-3-7	早期	条痕文系	野島、茅山		25	7	遺物包含層
				前期	竹管文系	浮島・興津、諸磯	5			土坑、遺物包含層あり
2	姉崎台貝塚	あねさきだい	姉崎字台	早・中・後期						貝塚
3	小谷遺跡	こやつ	畑木字向 247-2	早期	条痕文系			1		
4	片又木遺跡	かたまたぎ	不入斗地先	早期	条痕文系	子母口	1	27		
								2		
5	大作頭遺跡	おおさくがしら	今富字大作 1066 他	早期	条痕文系	子母口		160	2	
6	諸久蔵貝塚	もろくぞう	海保字諸久蔵	中・後期						貝塚
7	野口遺跡	のぐち	海保字野口 1193-1 他	早期	条痕文系	野島		166	15	
8	百目木遺跡	どうめぎ	豊成 396 他	早期	条痕文系			2		
9	下椎木遺跡	しもしいのき	不入斗字下椎木 543 他	早期	条痕文系			17	2	
10	ヤジ山遺跡	やじやま	深城字ヤジ山 282-1 他	早期	条痕文系	子母口	1	37	10	土坑・陥し穴・良好な遺物包含層あり
11	細山遺跡	ほそやま	天羽田字出崎台 1163-1 他	早期	条痕文系			15	6	
12	分目貝塚	わんめ	宮原字布谷台、分目字堂谷							貝塚
13	荻原野遺跡	おぎわらの	新生字西荻原野 641-1 他	早期	撚糸文系		3			
				早期	沈線文系		2			
				早期	条痕文系	野島、茅山		50		
14	大道遺跡	だいどう	今富大道 1055-1 番地他	早期	条痕文系	野島		40		
15	山見塚貝塚	やまみづか	立野字山見塚 301-1 番地他	後期						貝塚
16	外迎山遺跡	そとむかいやま	風戸字入口ノ沢 1163 番地他	早期	条痕文系	茅山下層	1	2		
17	堀込貝塚	ほりこみ	中高根字堀込							貝塚
18	深城貝塚	ふかしろ	深城字瀬戸崎他	後期						貝塚
19	南名山遺跡	ななやま	中高根字南名山 1341-1	早期	条痕文系	鵜ヶ島台	2	1		
20	上高根貝塚	かみたかね	上高根字塚越	中・後期						貝塚
21	大山台遺跡	おおやまだい	山田橋字大山台 340 番地 1 他	早期	条痕文系	子母口・野島		32		
22	祇園原貝塚	ぎおんばら	根田字祇園原	早期	条痕文系	茅山下層		3		
23	中台遺跡	なかで	惣社 4 丁目 6 番地他	早期	条痕文系	野島・鵜ヶ島台		65		
24	天神台遺跡	てんじんだい	村上字諏訪台他	早期	条痕文系	鵜ヶ島台・茅山	17	207		集石、竪穴状遺構などもあり
				前期	羽状縄文系	関山	34			遺物包含層中に浮島・興津、諸磯式土器
25	東間部多遺跡	とうかんべた	西広字東間部多	早期	条痕文系	野島・鵜ヶ島台	1	78		
26	西広貝塚	さいひろ	西広 21-1 他	早期	条痕文系	鵜ヶ島台・茅山下層		3		

文　献

No.	発行年	執筆者	書　名	収録シリーズ
1	本　書			
3	2002	北見一弘	畑木小谷遺跡Ⅱ	（財）市原市文化財センター調査報告書第 81 集
4	1984	山口直樹	片又木遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第 3 集
	2000	小橋健司	片又木遺跡Ⅱ	（財）市原市文化財センター調査報告書第 70 集
5	1999	加納　実	東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書 3 -市原市大作頭遺跡-	千葉県文化財センター調査報告書第 355 集
7	1998	森本和男ほか	東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書 1 -市原市海保野口遺跡-	千葉県文化財センター調査報告書第 335 集
8	2000	小笠原永隆ほか	東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書 5 -市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・志保地遺跡・ヤジ山遺跡・細山 (1)(2) 遺跡-	千葉県文化財センター調査報告書第 383 集
9				
10				
11				
13	1998	田中清美	新生荻原野遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第 59 集
14	1988	米田耕之助	今富大道遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第 26 集
15・16	1987	木對和紀	外迎山遺跡・唐沢遺跡・山見塚遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第 20 集
19	1998	蜂屋孝之・小川浩一	中高根南名山遺跡（第２次）	（財）市原市文化財センター調査報告書第 62 集
20	1961	南総郷土文化研究会	上高根貝塚	南総郷土文化研究会会報第 1 号
21	2004	大村　直	山田橋大山台遺跡	（財）市原市文化財センター調査報告書第 88 集
22	1999	忍澤成視	祇園原貝塚	上総国分寺台遺跡調査報告Ⅴ
23	2013	鶴岡英一	中台遺跡	上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅡ
24	2013	忍澤成視	天神台遺跡Ⅰ	上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅢ
	2015	北見一弘	諏訪台古墳群・天神台遺跡Ⅱ	上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅥ
25	1974	市毛勲ほか	東間部古墳群	上総国分寺台遺跡調査報告Ⅰ
26	2005	安井健一・鶴岡英一	西広貝塚Ⅱ	上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅣ

での検出事例がある。大作頭遺跡（5）、野口遺跡（7）、下椎木遺跡（9）、ヤジ山遺跡（10）、細山遺跡（11）などが知られる。大作頭遺跡ではⅣ層からⅦ層より 2 箇所、野口遺跡ではⅢ層からⅨ層より 15 箇所、下椎木遺跡ではⅢ・Ⅳ層から 2 箇所、ヤジ山遺跡ではⅣ層からⅨ層より 10 箇所の石器出土ブロックが、細山遺跡では 1 箇所の礫群と 6 箇所の石器出土ブロックがそれぞれ検出されている。

第 2 節　調査の経緯と方法

1　調査の経緯

大成建設株式会社は、市原市海保字小谷作 1545-1 他で宅地造成を計画した。計画の策定にあたり、平成 9 年 3 月 10 日付けで、千葉県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を提出した。照会を受け、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課は、現地踏査、試掘を行い、その結果に基づき、千葉県教育委員会教育長は、平成 9 年 11 月 28 日付けで、照会地内に「縄文時代等遺物包蔵地 7 箇所、古墳時代等遺物包蔵地 1 箇所、古墳群 8 箇所、近世塚群 1 箇所」が所在する旨を回答した。

平成 18 年度になって、大成建設株式会社による事業計画が本格化する中で、事業範囲の見直しがあり、平成 19 年 3 月に、市原市教育委員会は再度現地踏査を行った。その結果、古墳群、塚を含む遺物包蔵地範囲として、海保広作遺跡、海保西竹谷遺跡、海保大塚遺跡、海保小谷作遺跡の 4 か所が協議対象となった。これを受け、大成建設株式会社は、平成 19 年 3 月 30 日付けで文化財保護法第 93 条の規定による「埋蔵文化財発掘の届出」を提出した。届出に基づく、大成建設株式会社、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課の三者による協議の結果、事業計画地内の遺跡は現状保存が困難であることから、確認調査を行い、その結果に基づいて記録保存の措置を講ずることとなった。

確認調査は、平成 19 年度から平成 23 年度までの間に、市原市教育委員会が行った。本調査は、当初実施した海保広作遺跡について市原市教育委員会が、海保西竹谷遺跡、海保大塚遺跡、海保小谷作遺跡については、大成建設株式会社の申し出に基づく大成建設株式会社、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会の三者による協議の結果、国際文化財株式会社が実施することとなり、整理・報告書刊行も、それぞれの調査担当機関が行った（第 2 図）。

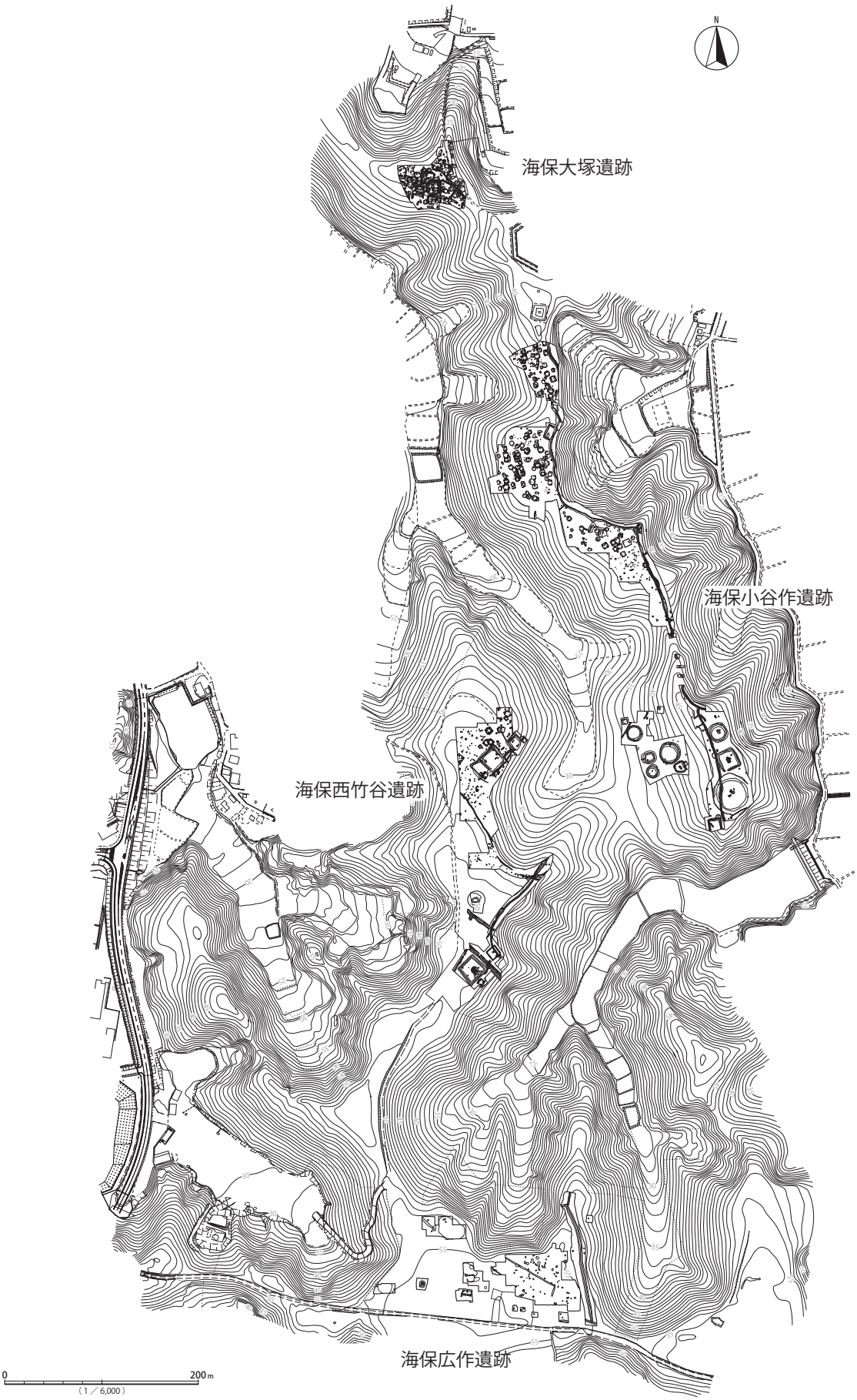
遺跡の調査対象範囲面積、本調査面積は以下の通りである。

海保広作遺跡　　確認調査対象 20,562 ㎡、本調査 7,532 ㎡
海保西竹谷遺跡　確認調査対象 16,250 ㎡、本調査 9,039 ㎡
海保小谷作遺跡　確認調査対象 29,880 ㎡、本調査 20,623 ㎡
海保大塚遺跡　　確認調査対象 4,410 ㎡、　本調査 3,094 ㎡

このうちの一部、海保広作遺跡について、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターが、面積 20,562 ㎡に対して平成 19 年 12 月 3 日から平成 20 年 3 月 17 日まで確認調査を行い、本調査対象となった 7,532 ㎡について、平成 20 年 7 月 1 日から 10 月 31 日、11 月 17 日から平成 21 年 3 月 19 日まで発掘調査を実施した。

2　調査の方法

確認調査では、対象地において 2 m× 4 mないし 4 m× 4 mのトレンチを、全体の 10％にあたる



第2図　海保地区の遺跡

2,056 ㎡分均等に設置し、必要に応じてこれらを拡張しながら遺構の広がり及び時期等を把握した（第 3 図）。そしてこの結果に基づいて本調査範囲を決め、その範囲内に 20m × 20m のグリッドを設定して調査に当たった（第 4 図）。本調査では、縄文時代早期、前期の遺構・遺物が多い遺跡東側の A49 から A17 区においては、遺構確認面にあたるソフトローム上面に至る土層中に、土器片や石器、礫類を多く含むことが判ったので、下部に遺構等が存在することを想定し、これらとの関係や遺物包含層の様相を細かく捉えることを目的として、20 m × 20 mの大グリッド内に 50cm × 50cm の小グリッドを設定して遺物の回収に当たった。また、遺跡西側の A63 から A58 では縄文後期・晩期の遺物包含層が、A36・A37 区では縄文早期・前期の遺物包含層が認められたため、これらについてはその範囲が比較的小規模だったことから、主要な遺物の出土位置情報を 1 点ごと捉えながら回収した。

第 3 節　遺跡の概要

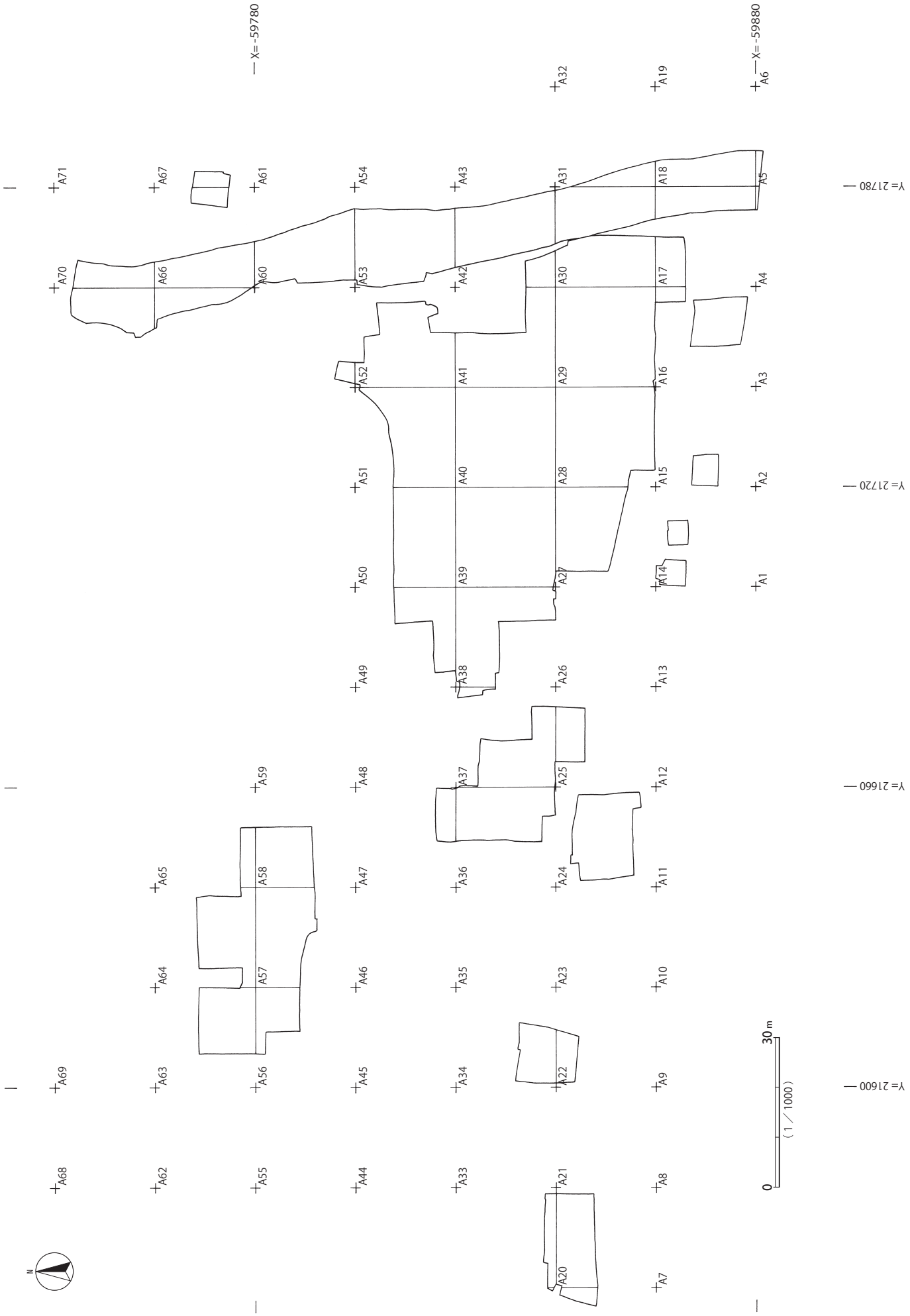
海保地区の遺跡としては、海保広作遺跡以外の 3 遺跡について国際文化財株式会社が発掘調査しその内容を報告している。これによれば、海保西竹谷遺跡では縄文時代の陥し穴 10 基・土坑 9 基、古墳時代の古墳 4 基・竪穴建物 18 棟・掘立柱建物 1 棟・柱穴列 1 条・土坑 6 基、奈良・平安時代の方形区画墓 2 基・溝 10 条・土坑 31 基、中世又は近世の塚 1 基・溝 8 条・土坑 14 基が、海保小谷作遺跡では縄文時代の陥し穴 4 基・土坑 6 基、弥生時代の竪穴建物 78 棟・溝 1 条、古墳時代の古墳 13 基・竪穴建物 56 棟・溝 5 条・土坑 62 基、奈良・平安時代の溝 12 条・土坑 19 基、中世又は近世の塚 1 基・溝 3 条・土坑 53 基が、海保大塚遺跡では縄文時代の竪穴建物 1 棟・炉穴 26 基・土坑 8 基、弥生時代の竪穴建物 85 棟・溝 5 条・土坑 23 基、古墳時代の古墳 11 基・溝 3 条・土坑 14 基、奈良・平安時代の溝 1 条・土坑 2 基が、それぞれ検出されている（第 2 図）。

一方、海保広作遺跡では、旧石器遺物集中地点 7 箇所、縄文時代早期・前期の竪穴建物 5 棟・炉穴 25 基・土坑 47 基、古墳時代前期の方形周溝墓 1 基、奈良・平安時代以降の溝 3 条・掘立柱建物 1 棟・土坑 4 基・埋設土器 1 基、近世以降の塚 1 基・溝 3 条、時期不明の土坑 13 基・焼土 1 基を検出した（第 5 ～ 8 図、表 2）。また、調査区東側の区域において、縄文早期から前期を主とした遺物包含層が、調査区西側の区域において、縄文後期から晩期を主とした遺物包含層を検出した。

参考文献

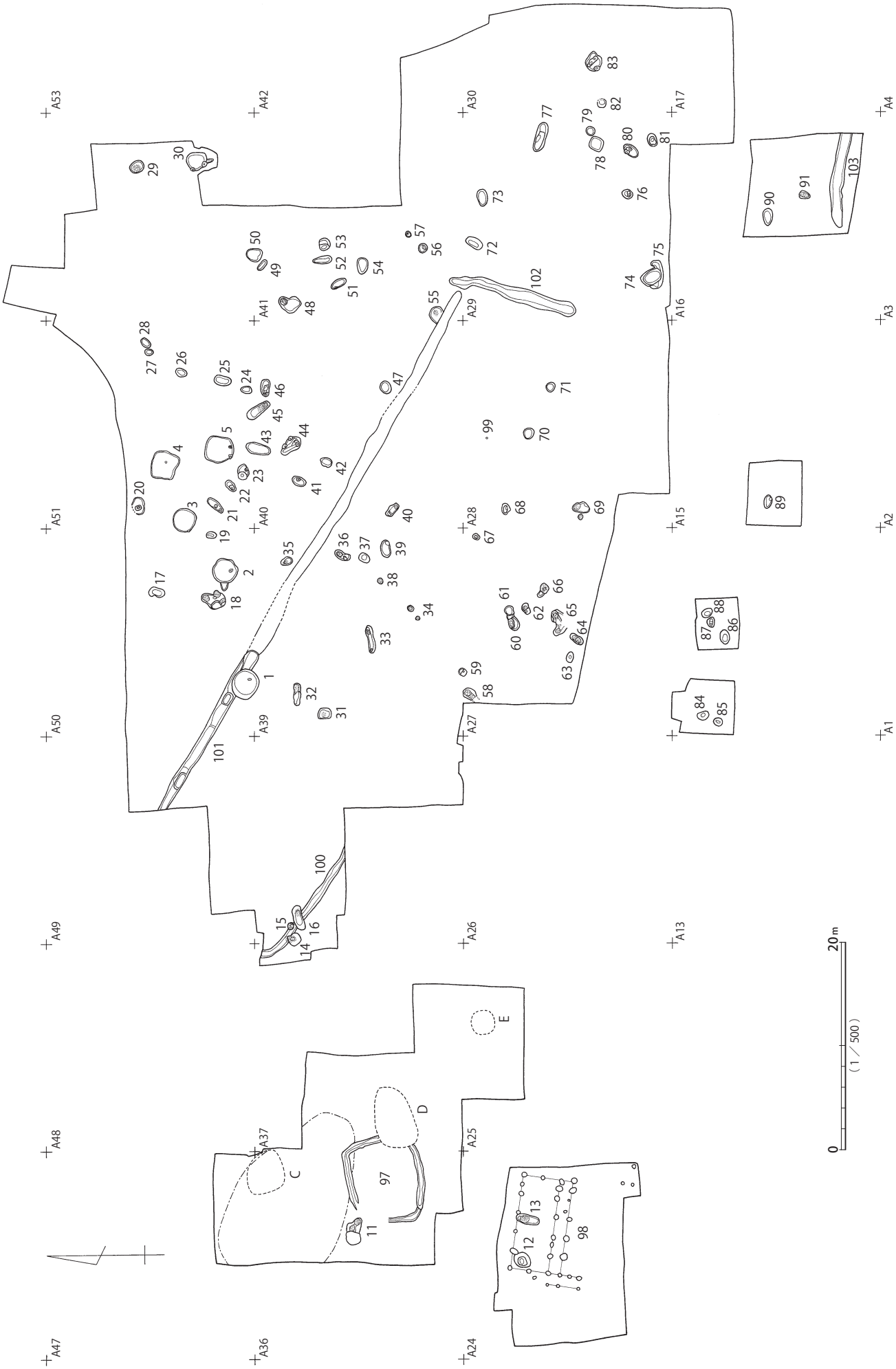
大成建設株式会社・国際文化財株式会社 2014「海保地区遺跡Ⅰ　海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡・海保大塚遺跡」

第3図　確認調査地点の配置

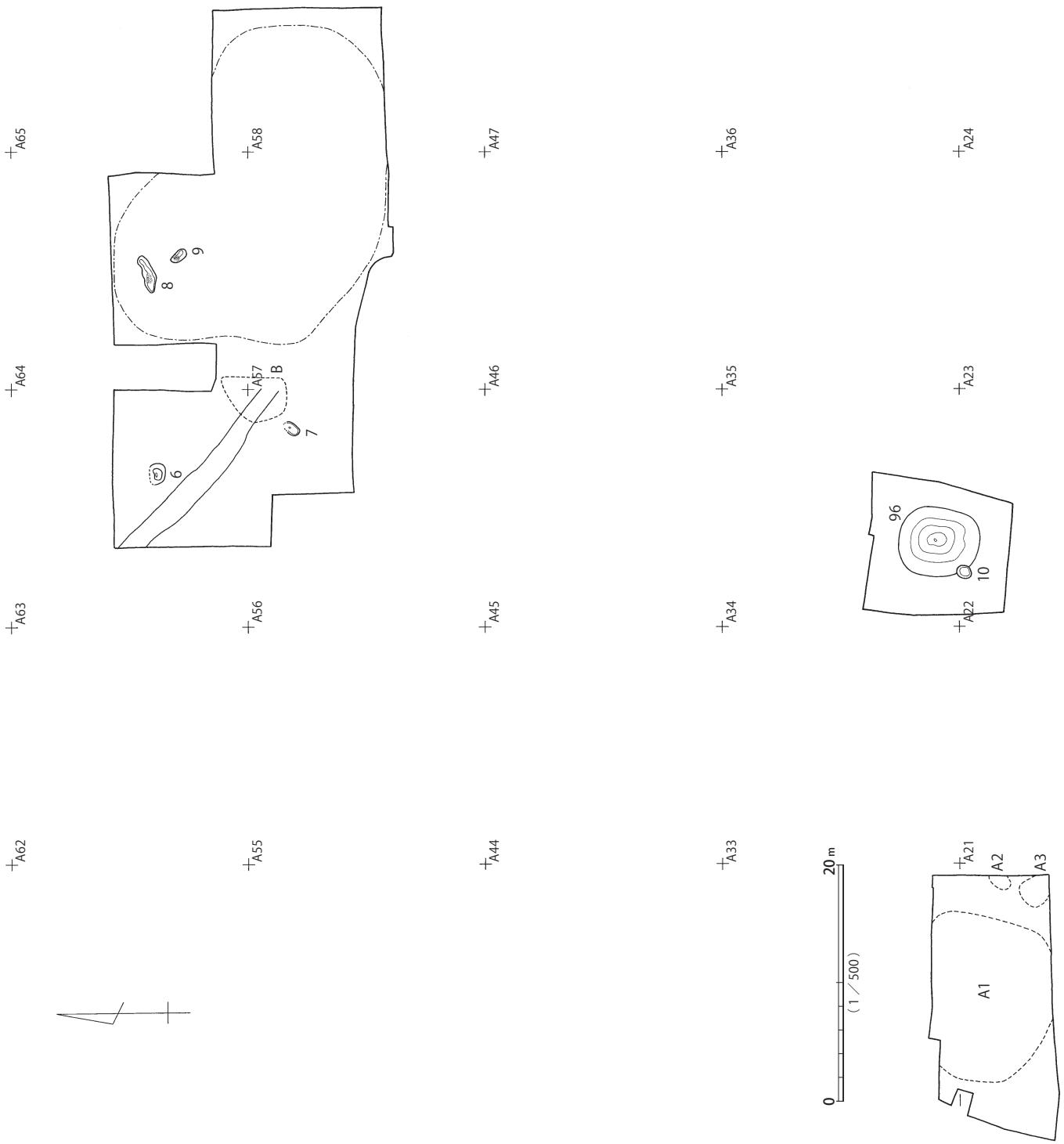

X=-59780
X=-59880
Y=21780
Y=21720
Y=21660
Y=21600
A1
A2
A3
A4
A5
A6
A7
A8
A9
A10
A11
A12
A13
A14
A15
A16
A17
A18
A19
A20
A21
A22
A23
A24
A25
A26
A27
A28
A29
A30
A31
A32
A33
A34
A35
A36
A37
A38
A39
A40
A41
A42
A43
A44
A45
A46
A47
A48
A49
A50
A51
A52
A53
A54
A55
A56
A57
A58
A59
A60
A61
A62
A63
A64
A65
A66
A67
A68
A69
A70
A71
0
30 m
（1／1000）
N

第4図　グリッド配置図

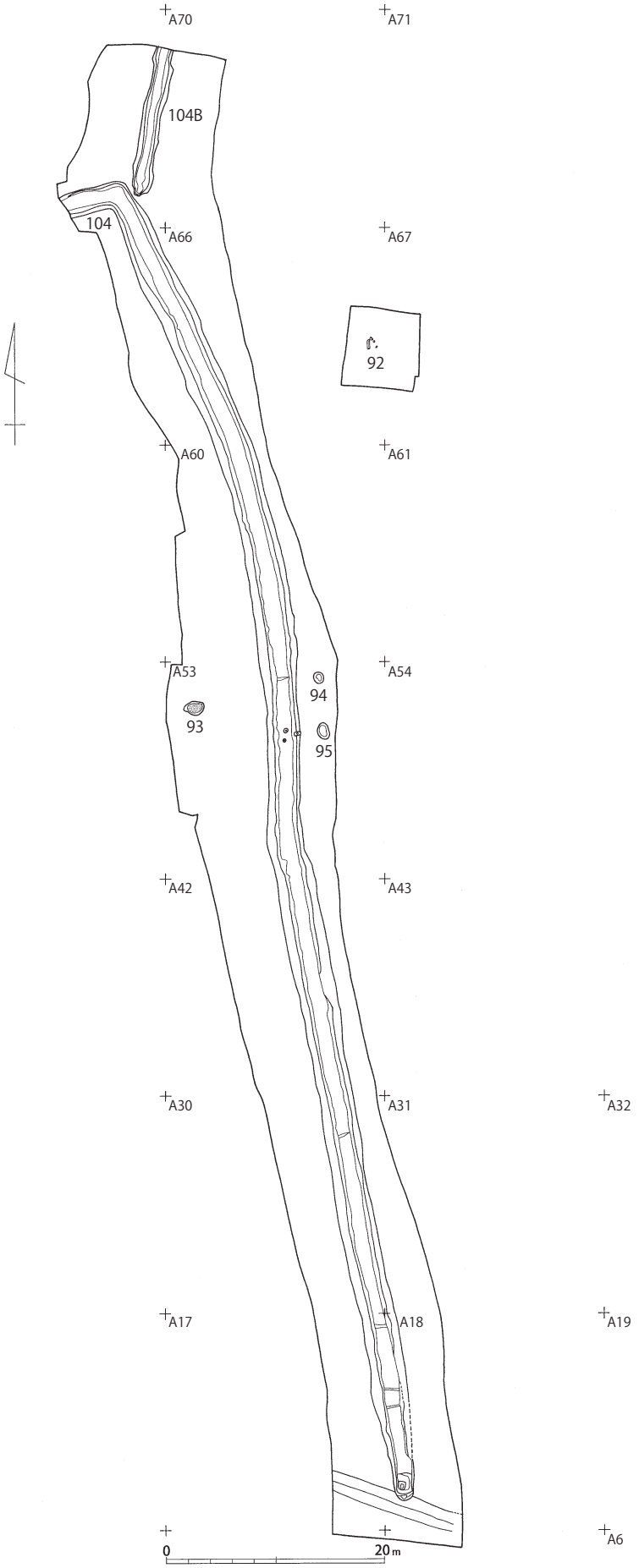
第5図　海保広作遺跡全体図


A53
A42
A30
A17
A4
A41
A29
A16
A3
A51
A40
A28
A15
A2
A50
A39
A27
A1
A49
A26
A13
A48
A37
A25
A47
A36
A24
20m
0
（1／500）

第6図　遺構配置図1


A65
A64
A63
A62
A58
A57
B
A56
A55
A47
A46
A45
A44
A36
A35
A34
A33
A24
A23
A22
A21
A2
A3
A1
6
7
8
9
96
10
0
20m
（1／500）

第7図　遺構配置図2


A70
A71
104B
104
A66
A67
92
A60
A61
A53
A54
94
93
95
A42
A43
A30
A31
A32
A17
A18
A19
A6
0
20m

第8図　遺構配置図3

表 2　遺構属性表

遺構№	遺構旧№	地区	調査コード	時期	種別	グリッド	規模			形状	遺物等				備考
							最大長（m）	最大幅（m）	深さ（m）		焼土塊	焼礫（点数）	燃焼面	その他	
A-1	85	A-1	セ 436	旧石器	地点分布	A20	13.20	10.00						石器 71、無被熱礫 30	Ⅳ層下～Ⅵ層
A-2	86	A-1	セ 436	旧石器	地点分布	A20	1.20	0.50						石器 4、無被熱礫 1	Ⅲ層下部
A-3	87	A-1	セ 436	旧石器	地点分布	A20	2.50	2.40						石器 50	Ⅳ層下～Ⅵ層
B	117	A-2	セ 437	旧石器	地点分布	A56	5.84	4.22	ーー					石器 42、無被熱礫 3	Ⅳ層・Ⅴ層
C	105	A-2	セ 437	旧石器	地点分布	A36	7.00	6.30	ーー					石器 214、被熱礫等 91	Ⅲ層～Ⅵ層。焼土痕跡あり
D	112	A-2	セ 437	旧石器	地点分布	A37	5.60	3.50	ーー					石器 58、被熱礫 28	Ⅲ層下部～Ⅳ層
E	107	A-2	セ 437	旧石器	地点分布	A25	3.60	3.40	ーー					石器 1、被熱礫 81	Ⅲ層下部
1	55	A-1	セ 436	縄文前期	住居	A50	2.94	2.58	0.40	円形		50			小型。地焼炉。掘り込み深い
2	48	A-1	セ 436	縄文前期	住居	A50	2.35	2.26	0.27	円形		39			小型。地焼炉。掘り込み深い
3	37	A-1	セ 436	縄文前期	住居	A50・A51	2.26	2.25	0.21	円形		2			小型。炉なし
4	28	A-1	セ 436	縄文前期	住居	A50	2.75	2.57	0.21	隅丸方形		4			小型。中央に地焼炉
5	33	A-1	セ 436	縄文前期	住居	A51	2.71	2.58	0.25	隅丸方形		23			小型。炉なし
6	101	A-2	セ 437	縄文	土坑	A63	1.80	1.30	1.00	楕円形					
7	120	A-2	セ 437	縄文？	土坑	A56	(1.39)	0.79	0.36	楕円形					
8	115	A-2	セ 437	縄文？	土坑	A64	3.23	0.95	0.40	長楕円形	1	26			
9	114	A-2	セ 437	奈良・平安以降	土坑	A64	1.51	0.80	0.27	楕円形	1	2		固結火山灰土塊	
10	62	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A22	1.14	1.10	0.22	円形					
11	113	A-2	セ 437	縄文早期	炉穴	A36	2.72	1.36	0.41	不整形	3	3			
12	119	A-2	セ 437		土坑	A24	2.25	0.86	0.35	楕円形					
13	118	A-2	セ 437	縄文早期	炉穴	A24	1.75	1.35	0.57	長楕円形		1	1		
14	5	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A38	1.38	1.28	0.33	楕円形			1		100 号との重複により一部を欠く
15	3	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A38	0.67	0.58	0.17	円形			1		100 号との重複により一部を欠く
16	4	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A38	2.34	0.94	0.38	長楕円形			1		100 号との重複により一部を欠く
17	49	A-1	セ 436	縄文前期	土坑	A50	1.59	0.82	0.28	楕円形		2			
18	47	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A50	2.32	1.73	0.29	不整形		6	3		
19	36	A-1	セ 436	縄文	土坑	A51	0.96	0.64	0.15	楕円形					
20	52	A-1	セ 436	縄文早期？	炉穴？	A51	1.66	1.22	0.18	楕円形		21	1		
21	35	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A51	1.86	0.70	0.20	長楕円形			2		
22	34	A-1	セ 436	縄文前期	土坑	A51	1.23	0.73	0.17	楕円形					
23	40	A-1	セ 436	縄文	土坑	A51	1.51	1.09	0.24	楕円形		8			
24	53	A-1	セ 436	縄文前期	土坑	A51	1.13	0.70	0.15	楕円形		11			
25	59	A-1	セ 436		土坑	A51	1.68	1.00	0.23	楕円形					
26	58	A-1	セ 436	縄文前期	土坑	A51	1.14	0.80	0.12	楕円形		1			
27	57	A-1	セ 436	縄文	土坑	A51	0.85	0.60	0.10	楕円形		1			
28	56	A-1	セ 436	縄文	土坑	A51	1.07	0.68	0.09	楕円形					
29	16	A-1	セ 436		土坑	A52	1.40	1.18	0.26	楕円形	1	2			
30	22	A-1	セ 436		土坑	A52	1.94	1.25	0.20	楕円形		3		粘土	
31	14	A-1	セ 436		土坑	A39	1.33	1.04	0.15	楕円形	1	58			
32	51	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A39	2.07	0.70	0.27	長楕円形		15	1		
33	45	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A39	2.63	0.61	0.29	長楕円形		100	2		
34	46	A-1	セ 436	縄文早期？	炉穴？	A39	(1.73)	(0.52)	0.09	長楕円形？	2				
35	50	A-1	セ 436	縄文	土坑	A39	1.13	0.80	0.16	楕円形	1	2			
36	41	A-1	セ 436	縄文	土坑	A39	1.58	0.82	0.23	長楕円形	1	5			
37	43	A-1	セ 436	縄文	土坑	A39	1.13	0.89	0.19	楕円形		3			
38	15	A-1	セ 436		土坑	A39	0.58	0.55	0.12	円形	1				確認調査時検出
39	44	A-1	セ 436	縄文	土坑	A39	1.60	0.94	0.16	楕円形		6			
40	38	A-1	セ 436	縄文早期？	炉穴	A40	1.52	0.72	0.29	長楕円形		5	1		
41	31	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A40	1.37	0.84	0.15	楕円形		7			
42	30	A-1	セ 436	縄文	土坑	A40	1.12	0.85	0.14	楕円形		4			
43	32	A-1	セ 436	縄文前期	土坑	A51	2.45	1.09	0.15	長楕円形		27			
44	29	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A40	2.24	1.35	0.13	楕円形		32			
45	10	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A40	2.52	0.94	0.26	長楕円形		152	1		確認調査時検出
46	54	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A40	1.66	0.93	0.26	楕円形		24			
47	42	A-1	セ 436	縄文前期	土坑	A40	1.24	1.06	0.20	円形		5			
48	24	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A41	2.12	1.40	0.30	不整形		34	1		
49	21	A-1	セ 436	縄文	土坑	A41	1.18	0.50	0.13	長楕円形		5			
50	20	A-1	セ 436	縄文	土坑	A41・A52	1.56	1.26	0.20	楕円形		40			
51	39	A-1	セ 436	縄文早期？	炉穴？	A41	1.62	0.75	0.12	長楕円形		2	1		

遺構No.	遺構旧No.	地区	調査コード	時期	種別	グリッド	規模			形状	遺物等				備考
							最大長（m）	最大幅（m）	深さ（m）		焼土塊	焼礫（点数）	燃焼面	その他	
52	26	A-1	セ 436	縄文	土坑	A41	1.85	0.74	0.26	長楕円形		16			
53	25	A-1	セ 436	縄文	土坑	A41	1.07	1.03	0.25	円形		18			
54	27	A-1	セ 436	縄文	土坑	A41	1.61	1.06	0.18	楕円形		2			
55	9	A-1	セ 436		土坑	A41	(1.35)	1.38	0.33	楕円形？	1	1			101 号遺構との重複により一部を欠く
56	19	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴？	A41	0.86	0.78	0.15	円形			1		
57	18	A-1	セ 436	縄文早期？	炉穴？	A41	0.57	0.47	0.06	円形			1		
58	69	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A27	(1.41)	1.05	0.49	長楕円形		15			
59	77	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A27・39	0.79	0.71	0.27	円形		5			
60	73	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A27	1.27	1.02	0.30	楕円形		29	1		
61	74	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A27	1.37	0.89	0.37	楕円形		50			
62	75	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A27	1.13	0.71	0.15	楕円形		17	1		
63	71	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A27	1.07	0.77	0.25	楕円形		10			
64	72	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A27	1.49	0.76	0.21	楕円形		35	1		
65	76	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A27	2.34	(1.44)	0.32	不整形		65	2		南側部分欠く
66	66	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A27	1.43	1.25	0.28	長楕円形		15	1		
67	60	A-1	セ 436	縄文早期？	炉穴？	A27	0.69	0.55	0.15	円形			1		
68	70	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A28	1.01	0.79	0.18	円形		7			
69	64	A-1	セ 436	縄文早期	炉穴	A28	(1.78)	1.65	0.18	不整形		10	2		
70	67	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A28	1.03	0.96	0.14	円形		3			
71	68	A-1	セ 436	縄文前期？	土坑	A28	0.94	0.83	0.12	円形		2			
72	23	A-1	セ 436	縄文早期？	土坑	A29	1.66	0.92	0.26	長楕円形					
73	7	A-1	セ 436	奈良・平安	土坑	A29	1.59	0.96	0.32	楕円形				木炭粒・粘土、焼人骨片、須恵器片	
74	13	A-1	セ 436		土坑	A29	2.02	1.42	0.61	楕円形		14			調査区南辺
75	17	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A29	2.76	1.18	0.31	不整形		15			74 号との重複により一部を欠く
76	91	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A29	1.05	0.88	0.29	円形		1			
77	89	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A29	2.90	1.01	0.28	長楕円形		3			
78	88	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A29	1.33	1.30	0.21	楕円形		9			
79	11	A-1	セ 436		土坑	A29	0.90	0.82	0.25	円形				木炭粒	
80	92	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A29	1.62	0.95	0.13	楕円形		5			
81	93	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A29	1.19	0.82	0.27	楕円形		4			
82	12	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A30	0.88	0.86	0.31	ピット状		4			確認調査時検出
83	90	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A30	1.87	1.50	0.32	楕円形		2			確認調査時検出
84	78	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A14	1.17	0.82	0.30	楕円形		2			調査区南辺小区画調査区
85	79	A-1	セ 436	縄文？	土坑	A14	0.90	0.80	0.34	円形		1			調査区南辺小区画調査区
86	82	A-1	セ 436		土坑	A14	1.39	0.95	0.30	楕円形					調査区南辺小区画調査区
87	81	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A14	0.99	0.76	0.23	楕円形					調査区南辺小区画調査区
88	80	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A14	1.10	0.85	0.32	楕円形					調査区南辺小区画調査区
89	83	A-1	セ 436	縄文早期	土坑	A15	1.34	0.79	0.20	楕円形		2			調査区南辺小区画調査区
90	84	A-1	セ 436	奈良・平安以降	土坑	A16	1.62	0.98	0.14	楕円形		1		固結火山灰土塊	調査区南辺小区画調査区
91	65	A-1	セ 436	奈良・平安以降	土坑	A16	1.08	0.84	0.14	楕円形	1	10		粘土	確認調査時検出
92	102	A-2	セ 437		焼土	A66	1.17	0.95	0.50	不整形	1	8			
93	110	A-2	セ 437		土坑	A53	1.80	1.24	0.15	楕円形	1				
94	108	A-2	セ 437		土坑	A53	1.08	0.85	0.31	楕円形					
95	109	A-2	セ 437		土坑	A53	1.56	1.04	0.25	楕円形					
96	99	A-1	セ 436	近世以降	塚	A34・A22	7.30	7.00	1.90	方形					塚墳丘下に方形土坑等あり
97	106	A-2	セ 437	古墳前期	方形周溝墓	A36・A37	8.38	7.50	0.40						
98	111	A-2	セ 437	奈良・平安？	掘立柱建物	A24	10.70	7.20	0.24			67		柱穴 34 箇所に貝ブロック	
99	8	A-1	セ 436	奈良・平安	埋設土器	A28	--	--	--					土師器甕、焼骨片	
100	1	A-1	セ 436	近世以降	溝	A37・A38	13.50	0.90	0.10			1			耕作境界溝の地番範囲と合致
101	2	A-1	セ 436	近世以降	溝	A49・A50・A39・A40・A41	55.50	1.48	0.20			85			耕作境界溝の地番範囲と合致
102	6	A-1	セ 436	近世以降	溝	A29	12.50	1.40	0.22			13			耕作境界溝の地番範囲と合致
103	63	A-1	セ 436	奈良・平安以降	溝（道路）	A16	9.14	1.28	0.22	--		10		固結火山灰土塊	調査区南辺小区画調査区
104	103	A-2	セ 437	奈良・平安以降	溝	A66・A60・A53・A42・A30・A31・A17・A18	124.20	3.50	0.92			341		固結火山灰土塊	
104B	103B	A-2	セ 437	奈良・平安以降	溝	A70	13.80	1.80	0.84					固結火山灰土塊	

第２章　遺構と遺物

第１節　旧石器時代の遺物集中地点

旧石器時代の遺物集中地点としては、遺跡の西側から５地点・７箇所のブロックが検出された。各ブロックの様相、出土礫・石器の属性については、表２・３・４に示した。

A-1 ブロック

【検出位置】西側　A20 区

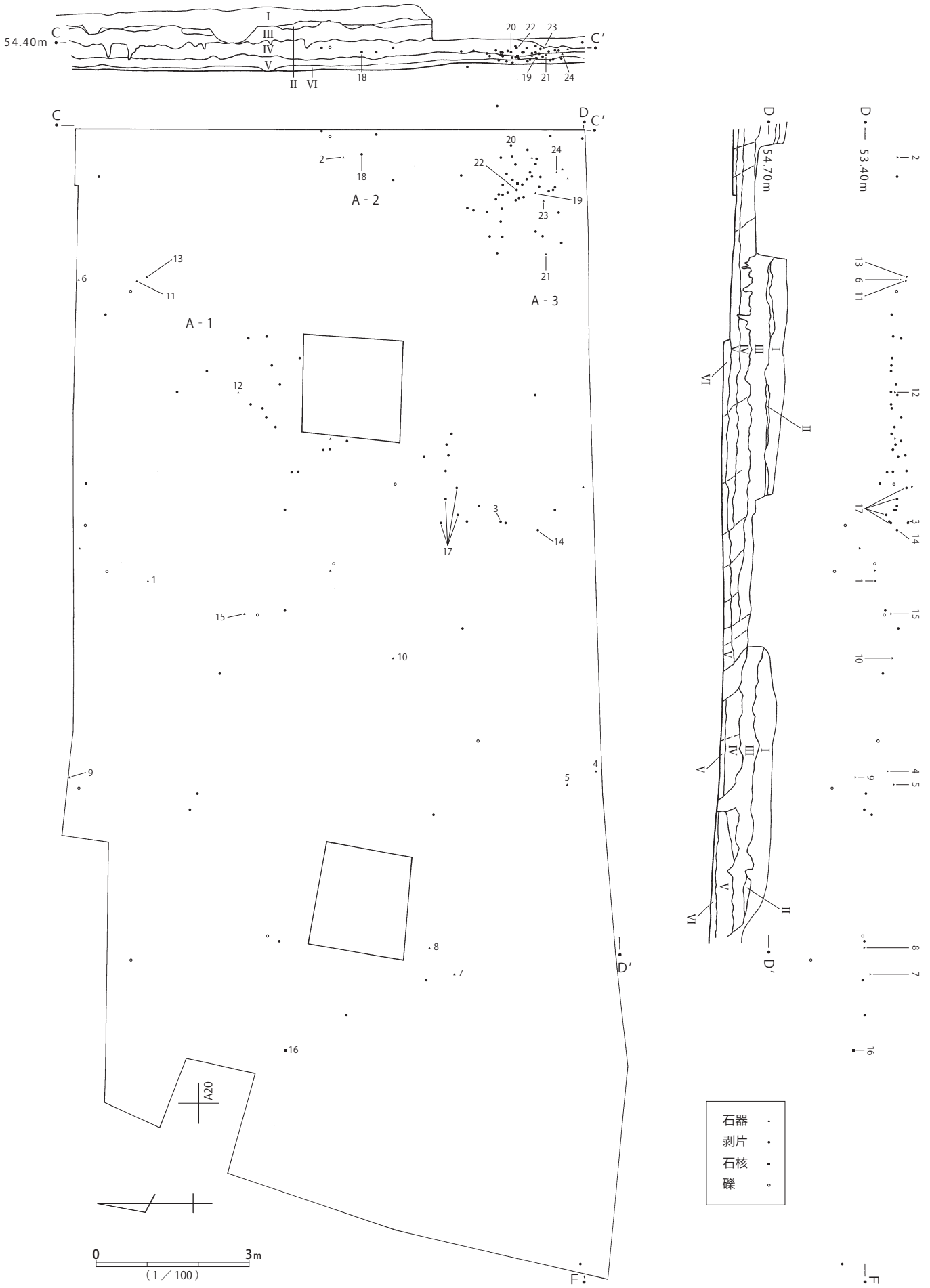
【分布範囲】長軸 13.20m、短軸 10.00m（第 10 図）

【検出層位】Ⅳ層下部からⅥ層を主体とする（第９図）。

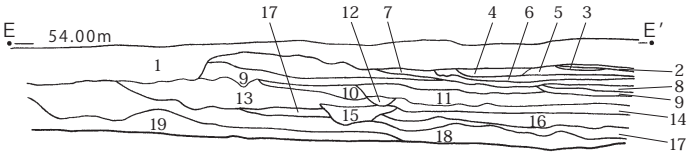
【出土遺物】石器は 71 点検出された。その内訳は角錐状石器 1、ナイフ形石器 4、楔形石器 1、調整剥片 7、使用痕のある剥片 3、剥片 51、石核 4 点である。石器の石材には、黒曜石 27、チャート 14、頁岩 13、玉髄 7、菫青石ホルンフェルス 3、ホルンフェルス 2、無斑晶ガラス質安山岩 2 点がある。また、30 点、1,291g の礫が出土している。平均 43g の被熱した痕跡がほとんど認められない小型礫である。

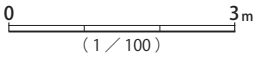
【遺物説明】第 11 図 1 は、最大長 63.1mm、重さ 15.3g を測る角錐状石器で、石材はホルンフェルスである。石刃様剥片を素材とし、裏面からの調整によって基部から中央付近を整形し、上部左側には表裏両面からの調整が見られる。表面中央付近の稜線付近にはダメージがある。2 は、最大長 32.1mm、重さ 6.1g を測る調整剥片で、石材は無斑晶ガラス質安山岩である。断面が方形を呈する厚手の剥片を素材としている。全体的に風化が進み、稜線は不明瞭だが、左側縁に連続した調整が見られ、尖頭を形成している。3 は、最大長 23.1mm、重さ 0.6g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。自然面を残す剥片の端部を用い、左側は折れ面、右側縁上部及び下部には裏面からの連続調整が見られる。右側縁上部を刃部とし、微細剥離が見られるが、刃こぼれとみられる。4 は、最大長 25.7mm、重さ 1.5g を測るナイフ形石器で、石材は黒曜石である。打点付近を欠くが、表面に一部自然面を残す不定形剥片を素材とし、左側縁下部及び右側縁上部に裏面からの連続調整が見られる。よって左側縁を刃部とするナイフとした。5 は、最大長 21.6mm、重さ 1.1g を測るナイフ形石器で、石材は黒曜石である。先端部を欠損している。薄手の剥片左側縁（素材剥片の打瘤付近）に裏面からの連続的調整によって背付けをしており、明確な基部調整は見られない。6 は、最大長 18.6mm、重さ 0.9g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。下部には折れ面が見られるが、石刃様の剥片である。裏面上部に主剥離面を切るような剥離が見られるが、他の箇所には見られない。7 は、最大長 25.1mm、重さ 2.8g を測る楔形石器で、石材はチャートである。自然面を残す剥片の上下に調整が集中し、縦断面が楔状を呈する。裏面下端部には連続的調整が見られ、鋭い刃部を形成している。8 は、最大長 27.0mm、重さ 1.6g を測るナイフ形石器で、石材はチャートである。先端部を欠損しているが、左側縁に連続調整による背付けをしたナイフ形石器とみられる。下部にも鋭い縁辺を残していることから、こちらも刃部として使われた可能性がある。第 12 図 9 は、最大長 72.7 mm、重さ 47.1g を測る調整剥片で、石材はチャートである。自然面を前面に残す大型の剥片である。二次調整は左側縁上部のみだが、同側縁は裏面に見られる大きめの剥離によって縁辺が抉れ、その周辺に刃こぼれとみら

第９図　旧石器時代遺物集中地点Ａブロック（1）



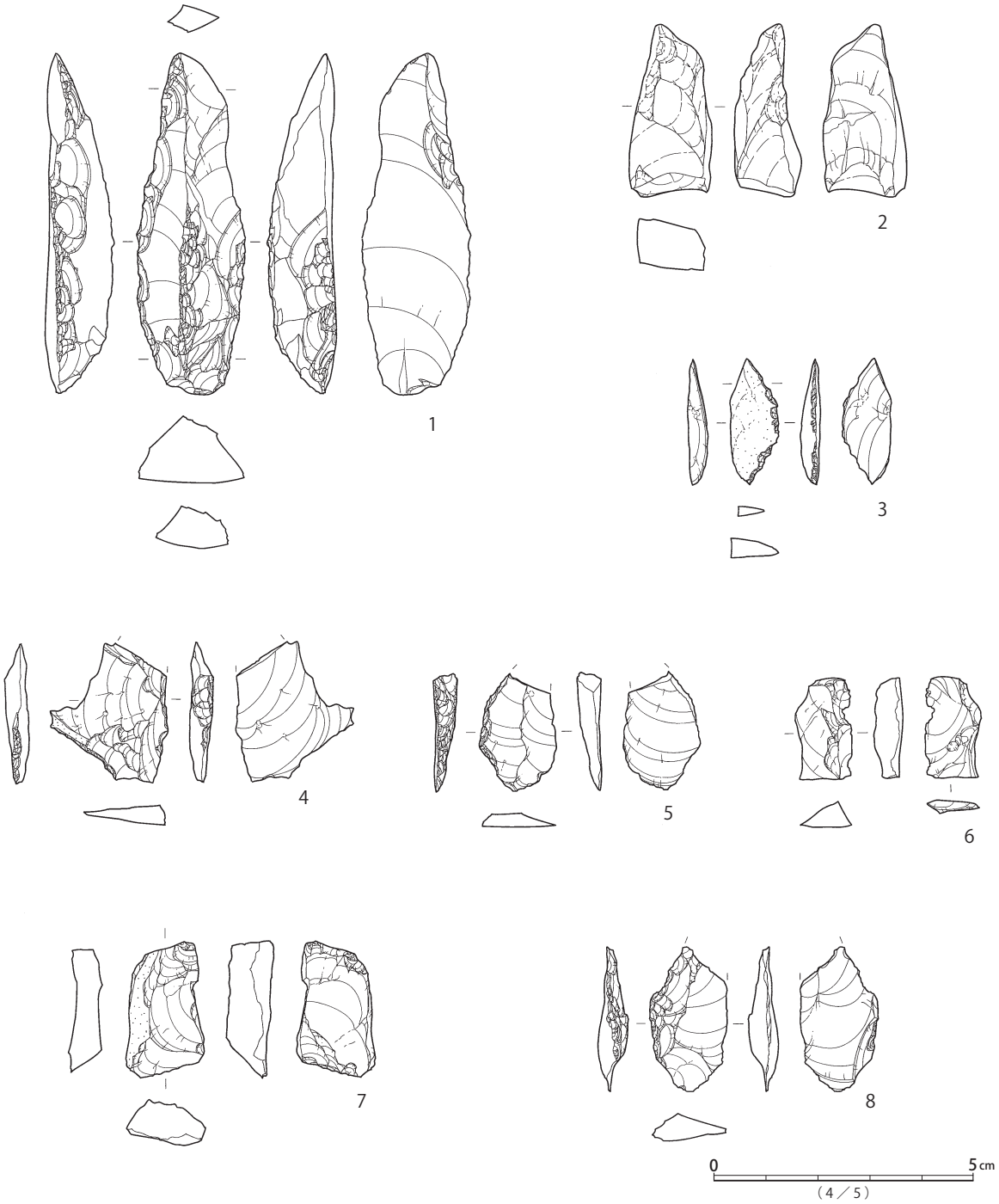
第10図　旧石器時代遺物集中地点Aブロック（2）



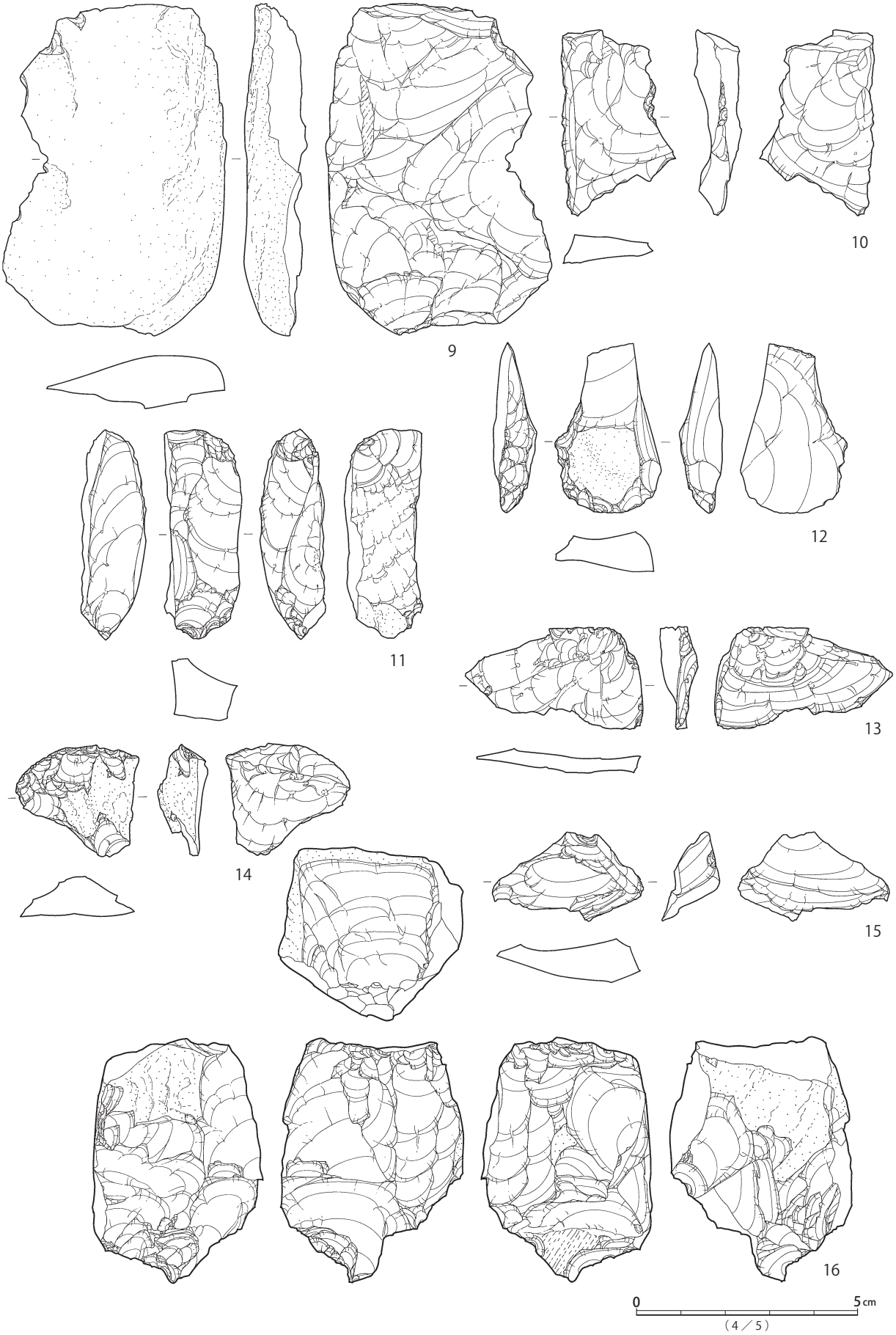


1 灰褐色土（表土）
2 ローム粒・黒色土粒が混じる硬化暗灰褐色土
3 大量のローム粒子が混じる硬化褐色土（道路硬化面）
4 ローム粒が混じる褐色土（若干硬化）
5 ローム粒が混じる砂質暗灰褐色土
6 ローム粒・白色粒が混じる硬化砂質黒褐色土（道路硬化面）
7 ローム粒・砂質火山灰（富士宝永テフラ）が混じる硬化暗褐色土（道路硬化面）
8 褐色土
9 灰褐色土
10 暗褐色土
11 黒色土粒・スコリアが混じる暗灰褐色土
12 暗灰褐色土
13 ローム粒・灰褐色土が混じる褐色土
14 ローム粒・橙色粒が混じる褐色土
15 ローム粒が混じる暗灰褐色土
16 ロームが斑状に混じる暗褐色土
17 ロームブロックが混じる暗褐色土
18 ロームブロックが多く混じる褐色土
19 褐色崩壊ハードローム

A - 1



第 11 図　旧石器時代遺物集中地点 A ブロック（3）



第 12 図　旧石器時代遺物集中地点 A ブロック（4）

れる小剥離がある。10 は、最大長 39.9mm、重さ 6.5g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。剥離面を打面とする剥片を素材とし、右側縁中央付近に、裏面からの部分的な調整が見られる。端部には刃こぼれが見られ、ここを刃部として使われたとみられる。左上に新しい損傷がある。11 は、最大長 45.7mm、重さ 11.7g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。やや厚手の剥片の両側を折り取り、上下に細部調整が見られる。下端部の調整によって突出部を作り出しているようにも見えるが、顕著ではない。12 は、最大長 36.9mm、重さ 6.6g を測るナイフ形石器で、石材は玉髄である。表面下部に自然面が見られ、左側縁から下端部にかけて、裏面からの連続した調整が見られる。掻器のようにも見えるが、鋭い上部縁辺を刃部とするナイフ形石器と判断した。13 は、最大幅 38.4mm、重さ 3.2g を測る使用痕のある剥片で、石材は黒曜石である。剥離面を打面とする横長の剥片である。左側縁及び右側縁下部にわずかながら小剥離が見られる。14 は、最大幅 26.7mm、重さ 4.3g を測る剥片で、石材は黒曜石である。表面に自然面を残し、上部に執拗な打撃痕が見られる剥片である。小礫を打ち欠いた石核の破砕したものであると思われる。15 は、最大幅 32.8mm、重さ 4.1g を測る使用痕のある剥片で、石材は頁岩である。打点を欠くやや翼状の剥片である。右側縁上部に裏面からの小剥離があり、やや浅い抉りが見られる。他の箇所に二次加工は見られない。16 は、最大長 56.7mm、重さ 105.8g を測る石核で、石材はチャートである。左及び裏面に自然面を残し、剥離面を打面として作業が行われている。下部は節理面によって大きく抉れたようになっており、錐状の突出部が見られ、転用された可能性がある。第 13 図 17 は、最大長 79.6mm、重さ 29.0g を測る剥片で、石材は黒曜石である。最大 70cm ほどの距離にある 4 個体が接合した。左側に自然面を残すやや大型の剥片である。左側縁に 2 箇所の剥離が見られるが、いずれも剥離面が新しく、ダメージとみられる。意図的に 4 分割されたとみられるが、それぞれの剥片に明確な再調整は見られない。

A-2 ブロック

【検出位置】西側　A20 区

【分布範囲】長軸 1.20m、短軸 0.50m（第 10 図）

【検出層位】Ⅲ層下部を主体とする。

【出土遺物】剥片が 4 点検出された。石材には、頁岩と無斑晶質安山岩がある。また、1 点、104g の被熱した痕跡がない礫が出土している。

【遺物説明】第 13 図 18 は、最大幅 29.2mm、重さ 1.2g を測る剥片で、石材は頁岩である。脆くなった頁岩で、稜線が不明瞭であるが、剥離面を打面とする横型剥片とみられる。二次加工・使用痕なども不明瞭である。

A-3 ブロック

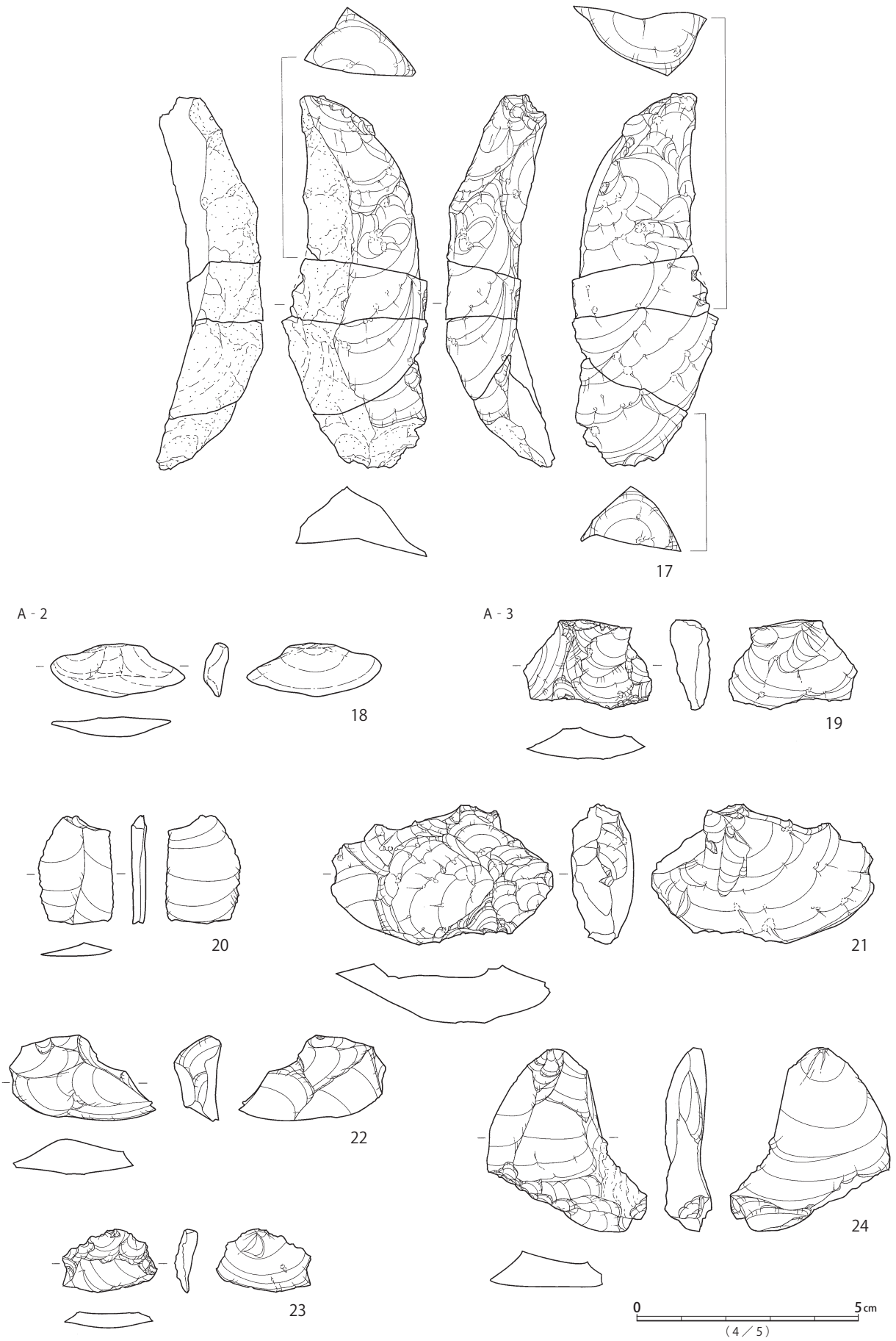
【検出位置】西側　A20 区

【分布範囲】長軸 2.50m、短軸 2.40m（第 10 図）

【検出層位】Ⅳ層下部からⅥ層を主体とする。

【出土遺物】石器は 50 点検出された。その内訳は、調整剥片 4、剥片 44、石核 2 点である。石器の石材には、黒曜石 40、玉髄 6、流紋岩 2、珪化岩 1、珪化流紋岩 1 点がある。

【遺物説明】第 13 図 19 は、最大幅 27.8mm、重さ 3.2g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。やや横長の剥片の下端部右側に部分的な調整が見られる。両縁辺には調整が見られず、器形の整形は



第 13 図　旧石器時代遺物集中地点 A ブロック（5）

されていない。裏面左側には先行する打撃の打瘤が見られる。20 は、最大長 23.6mm、重さ 1.1g を測る剥片で、石材は玉髄である。上下とも折れ面となっており、元々は一稜の薄手の石刃であった可能性がある。明確な調整は見られないが、両側縁は鋭い。21 は、最大幅 48.1mm、重さ 15.7g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。厚手の横型剥片で、左側縁は鋭い。下部に裏面からの調整が部分的に見られる。ここを刃部として使用された可能性がある。22 は、最大幅 31.8mm、重さ 4.1g を測る剥片で、石材は玉髄である。下端部が鋭い曲線を描く剥片で、上部の剥離面は摘みやすい曲面となっている。明確な調整や使用痕は見られない。23 は、最大幅 20.4mm、重さ 0.8g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。小型の横型剥片である。右側縁に裏面からの少剥離の連続が見られる。下端部左側は鋭い縁辺を残す。24 は、最大長 39.7mm、重さ 10.1g を測る調整剥片で、石材は玉髄である。点状打面で下部が右斜に抜けた剥片である。やや厚手の下部に左側からの連続的な調整が見られる。左側縁辺は鋭く、ここを刃部として使ったものと見られる。

B ブロック

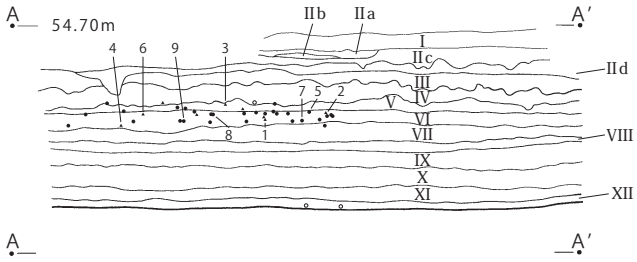
【検出位置】西側　A56 区

【分布範囲】長軸 5.84m、短軸 4.22m（第 14 図）

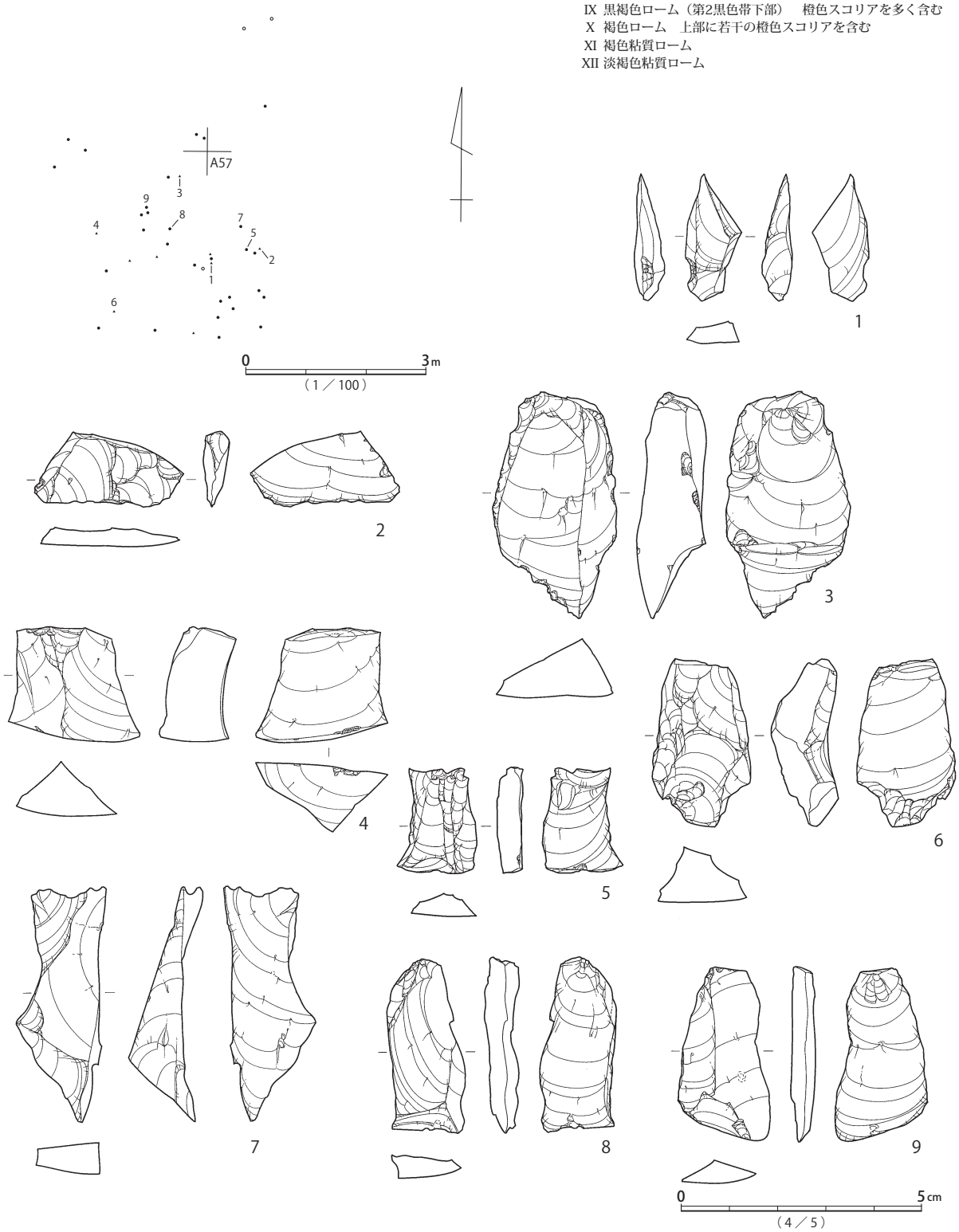
【検出層位】Ⅳ層・Ⅴ層を主体とする。

【出土遺物】石器は 42 点検出された。その内訳はナイフ形石器 1、調整剥片 1、使用痕のある剥片 2、剥片 38 点である。石器の石材は、全て黒曜石である。また、3 点、13g の礫が出土している。平均 4.3g の被熱した痕跡がない礫である。

【遺物説明】第 14 図 1 は、最大長 25.4mm、重さ 1.1g を測るナイフ形石器で、石材は黒曜石である。やや縦長の剥片上部を折り取り、尖頭部を作出している。左側縁上部は鋭い縁辺となっており、下部には部分的な調整が見られる。定型的ではないが、形状からナイフの一種とした。2 は、最大幅 29.9mm、重さ 1.8g を測る使用痕のある剥片で、石材は黒曜石である。上部が折れ面の打点部を欠く剥片である。左側縁表裏に部分的な小剥離が見られる。刃部調整とはみられないので、使用痕と思われる。3 は、最大長 45.3mm、重さ 11.1g を測る使用痕のある剥片で、石材は黒曜石である。剥離面を打点とするやや厚手の剥片である。右側縁及び下端部に部分的な小剥離、また随所に微細な剥離が見られる。いずれも使用痕とみられる。4 は、最大幅 26.3mm、重さ 5.9g を測る剥片で、石材は黒曜石である。上下とも折れ面であり、もともと厚手、一稜の石刃であったとみられる。裏面にわずかに小剥離の集中が見られるが、調整と言えるようなものではない。5 は、最大長 21.0mm、重さ 1.5g を測る剥片で、石材は黒曜石である。下面が折れ面となっているやや縦長の剥片である。下端部に小剥離が見られるが、調整ではなく刃こぼれとみられる。6 は、最大長 33.6mm、重さ 7.1g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。上部は折れ面で、下部には表面からの調整が見られる。全体型が不明であるが、尖頭部を有する石器の欠損品である可能性も否定できない。7 は、最大長 47.0mm、重さ 4.9g を測る剥片で、石材は黒曜石である。剥離軸が湾曲し、上部がねじれたような縦長剥片である。明確な二次加工は見られないが、大型石核の存在を窺わせる。8 は、最大長 35.2mm、重さ 3.1g を測る剥片で、石材は黒曜石である。点状打面の縦長剥片で、明確な二次加工及び使用痕は見られない。よく整形された石核の存在が窺える。9 は、最大長 35.0mm、重さ 2.5g を測る剥片で、石材は黒曜石である。剥離面を打面とする縦長の剥片である。左側縁下部及び下端部一部、また右側縁に刃



Ⅰ 灰褐色表土
IIa 固結火山灰土塊が混じる黒褐色土
IIb 固結火山灰土塊（硬化面）
IIc 固結火山灰土塊が散在する黒褐色土
IId 固結火山灰土塊が散在する暗褐色土（ローム斬移層）
Ⅲ 黄褐色ソフトローム
Ⅳ 赤褐色ハードローム　赤褐色スコリアを多く含む
Ⅴ 暗褐色ハードローム（第1黒色帯）
Ⅵ 明褐色ローム　姶良パミス（AT）を含む
Ⅶ 暗褐色ローム（第2黒色帯上部）
Ⅷ 黒褐色ローム（第2黒色帯中部）　スコリアが凝集
Ⅸ 黒褐色ローム（第2黒色帯下部）　橙色スコリアを多く含む
Ⅹ 褐色ローム　上部に若干の橙色スコリアを含む
Ⅺ 褐色粘質ローム
Ⅻ 淡褐色粘質ローム



第14図　旧石器時代遺物集中地点Bブロック

こぼれとみられる小剥離が見られる。

C ブロック

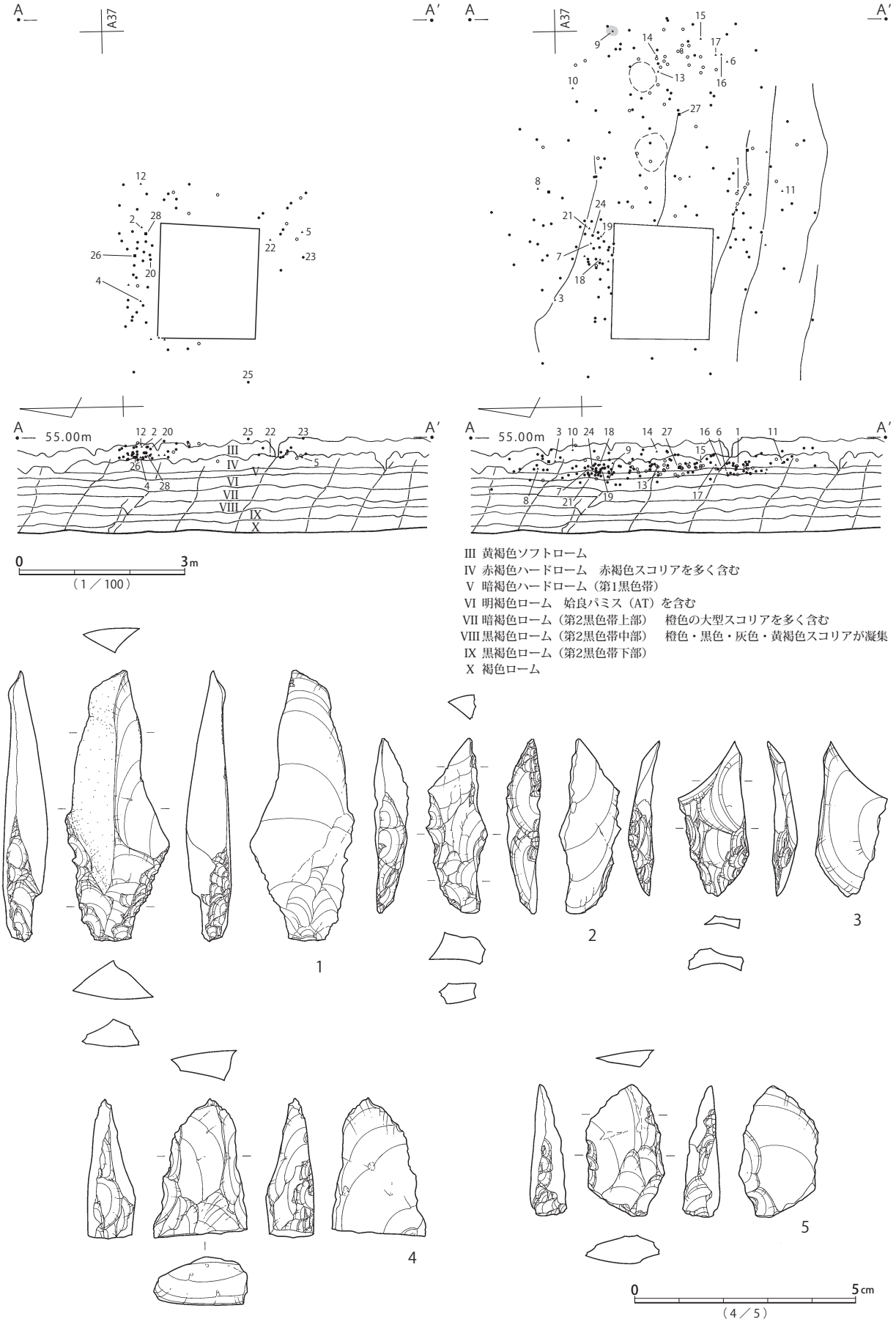
【検出位置】西側　A36 区

【分布範囲】長軸 7.00m、短軸 6.30m（第 15 図）

【検出層位】Ⅲ層～Ⅵ層を主体とする。

【出土遺物】石器は 214 点検出された。その内訳はナイフ形石器 5、掻器 1、調整剥片 12、使用痕のある剥片 4、剥片 187、石核 5 点である。石器の石材には、チャート 115、無斑晶ガラス質安山岩 44、黒曜石 22、頁岩 17、珪化流紋岩 6、変質流紋岩 5、ホルンフェルス 2、玉髄 1、珪化岩 1、石英 1 点がある。また、91 点、2,182g の礫が出土している。平均 24g の小型礫であるが、このうちの 85％に被熱した痕跡が見られる。焼礫は調査区の中央やや東寄りの地点、図中の破線丸の範囲内からまとまって検出された。また、そのやや東には小規模な焼土を確認した。

【遺物説明】第 15 図 1 は、最大長 58.4mm、重さ 8.5g を測るナイフ形石器で、石材はホルンフェルスである。表面に自然面を残す縦長剥片を素材とし、薄くなっている端部一側縁を刃部としている。背付けは無く、打点近くの両側面を裏面からの連続調整によって整形し、基部を作り出している。2 は、最大長 38.0mm、重さ 3.3g を測るナイフ形石器で、石材はチャートである。斜軸の剥片を用い、打点付近を折り取った後、裏面からの調整によって背付けとし、残された鋭い左側縁を刃部としている。端部も裏面からの調整が連続し、基部を作り出している。3 は、最大長 34.0mm、重さ 1.8g を測るナイフ形石器で、石材はチャートである。鋭い縁辺を残した横型の剥片を素材としている。打点付近及びその反対側縁辺を裏面からの調整によって整形し、基部を作り出している。4 は、最大長 30.3mm、重さ 6.0g を測るナイフ形石器で、石材は無斑晶ガラス質安山岩である。横長の剥片を素材とし、端部の一部を刃部としている。下部が折れ面となっており、下部を欠損しているが、このまま使用されたともみられる。5 は、最大長 28.8mm、重さ 2.9g を測るナイフ形石器で、石材は頁岩である。横長の剥片を素材とし、端部を刃部としている。打点付近は調整によって失われ、左右縁辺には部分的な調整が見られ、全体形を整えている。第 16 図 6 は、最大長 35.2mm、重さ 7.8g を測る掻器で、石材は変質流紋岩である。表面に自然面を残す剥片を素材とする。表面の剥離は右方向から上方向に変わっている。左右縁辺に裏面からの打撃による剥離が連続している。7 は、最大長 41.6mm、重さ 17.0g を測る調整剥片で、石材はチャートである。自然面をわずかに残す厚手の剥片を使用し、右縁辺及び左側裏面に部分的な調整が見られる。調整の仕方、大きさから見て、手で持って使われたものと思われる。8 は、最大長 33.9mm、重さ 8.0g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。周縁部が折れ面で構成される厚手の剥片を用いている。左側縁には裏面からの剥離による調整が見られる。打点付近は折り取りにより欠失している。9 は、最大幅 31.3mm、重さ 5.6g を測る調整剥片で、石材は頁岩である。上部を欠損する厚手の不定形剥片下部である。右側縁に裏面からの調整によって内湾する刃部を作出している。左側裏面には比較的大きな剥離と小剥離が見られる。10 は、最大幅 18.1mm、重さ 0.9g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。剥離面を打面とする剥片を用い、右側縁及び上部に部分的な調整が見られる。左側縁及び下端部は折れ面となっている。11 は、最大長 26.9mm、重さ 2.1g を測る調整剥片で、石材はチャートである。自然面を打面とするやや縦長の剥片である。左側縁下部に部分的な裏面からの調整があり、右側縁には刃こぼれとみられる小剥離が

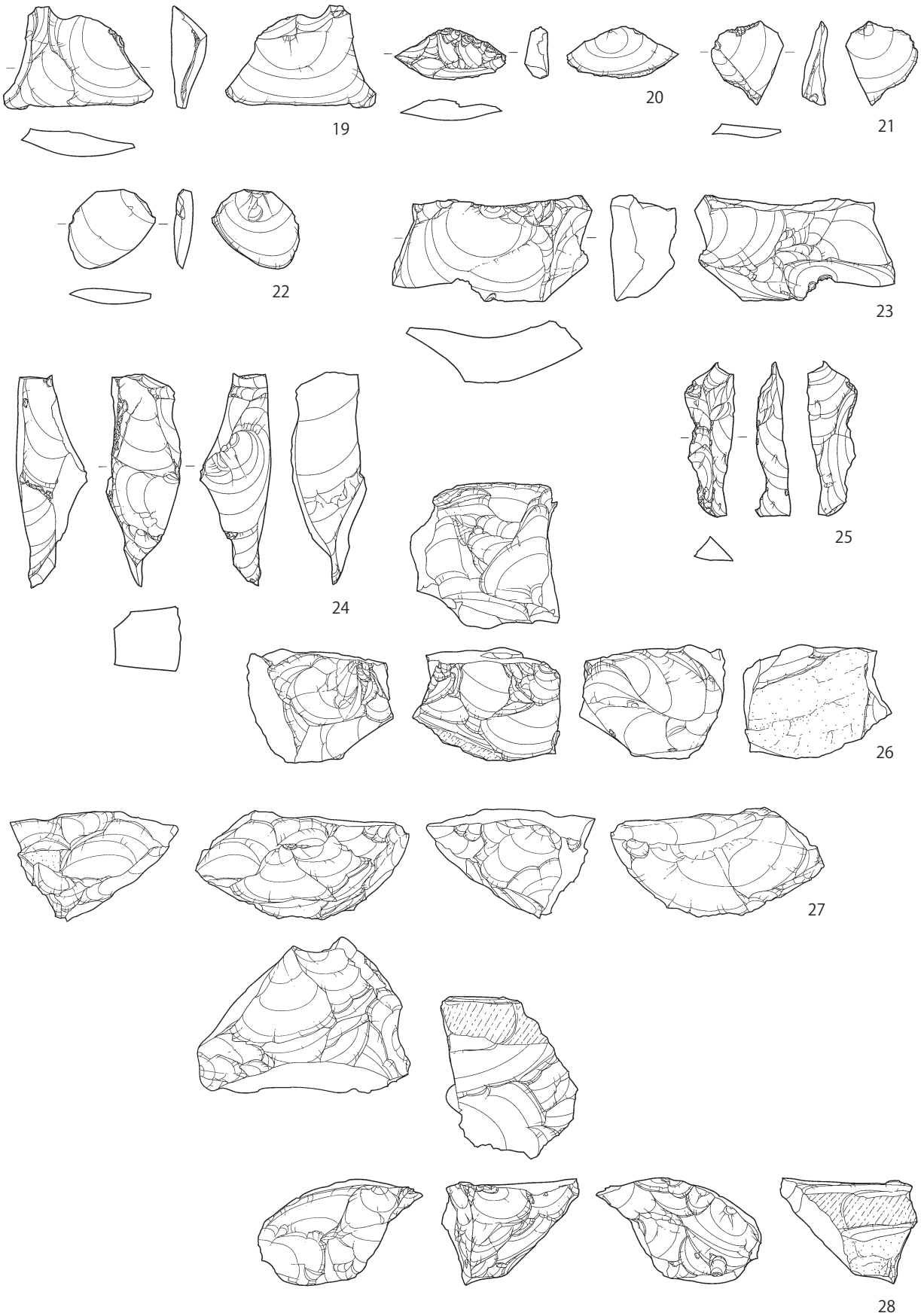


III 黄褐色ソフトローム
IV 赤褐色ハードローム　赤褐色スコリアを多く含む
V 暗褐色ハードローム（第1黒色帯）
VI 明褐色ローム　姶良パミス（AT）を含む
VII 暗褐色ローム（第2黒色帯上部）　橙色の大型スコリアを多く含む
VIII 黒褐色ローム（第2黒色帯中部）　橙色・黒色・灰色・黄褐色スコリアが凝集
IX 黒褐色ローム（第2黒色帯下部）
X 褐色ローム

第 15 図　旧石器時代遺物集中地点 C ブロック（1）

第 16 図　旧石器時代遺物集中地点 C ブロック（2）

観察できる。12 は、最大長 29.5mm、重さ 2.9g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。縦方向に割れたやや厚手の剥片を用い、左側縁に裏面からの調整が見られる。下端部縁辺は鋭く、ここを刃部として使われたとみられる。13 は、最大長 22.0mm、重さ 1.6g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。表面に自然面を残す横型の剥片が素材である。上部には折れ面、下部には表裏両面からの調整によって鋭い刃部を作出しており、楔のように使われたものとみられる。14 は、最大長 24.3mm、重さ 1.4g を測る調整剥片で、石材は珪化流紋岩である。打点付近を欠く細長の剥片である。右側下部は裏面からの剥離によって内湾し、微細な剥離が観察できる。下端部は尖り、鋭い縁辺を残している。15 は、最大幅 27.5mm、重さ 3.7g を測る調整剥片で、石材はチャートである。剥離面を打面とし、右側縁下部に自然面を残す剥片の、裏面左下部に連続的な調整が見られる。左側縁は鋭い縁辺となっており、表面には若干の小剥離が見られる。16 は、最大長 30.5mm、重さ 4.2g を測る調整剥片で、石材はチャートである。不定形剥片で、上部に突出部を造り出したような調整が見られるが、定型的ではない。太型錐の未製品であるとも考えられる。17 は、最大幅 34.6mm、重さ 8.9g を測る使用痕のある剥片で、石材は変質流紋岩である。上面と右側縁に自然面を残す厚手の剥片で、右側縁下部及び裏面にダメージが有る。裏面上部に二次加工、鋭い左側縁裏面には微細な剥離が連続して観察できる。18 は、最大長 24.8mm、重さ 3.4g を測る使用痕のある剥片で、石材はチャートである。剥離面を打面とする剥片である。裏面左側縁下部に小剥離の連続が見られる。ここを刃部として使用されたものとみられる。第 17 図 19 は、最大幅 31.5 mm、重さ 2.6g を測る調整剥片で、石材はチャートである。剥離面を打面とする台形状の剥片である。右縁辺の一部が折り取られ、一部に裏面からの小剥離が観察できる。他の箇所には二次調整は見られない。20 は、最大幅 23.6 mm、重さ 0.9g を測る剥片で、石材はチャートである。下端部に自然面を残す、翼状の小型剥片である。表面上部右側の連続剥離は二次調整とは思えない。左側縁部は尖頭状を呈し、鋭い縁辺を残している。21 は、最大長 17.9mm、重さ 0.9g を測る使用痕のある剥片で、石材はチャートである。剥離面を打面とする小剥片で、打点の左側表面細かな連続剥離が見られる。表面から見て右側縁は折れ面となっている。22 は、最大幅 18.7mm、重さ 1.1g を測る使用痕のある剥片で、石材はチャートである。小型の楕円形に近い形状の剥片である。明確な二次加工は見られないが、左側縁に若干の小剥離が観察できる。ここを刃部として使用された可能性がある。23 は、最大幅 42.2mm、重さ 10.5g を測る剥片で、石材はチャートである。表面に大きな剥離があり、横断面が反り上がって見える剥片である。下部凹部に部分的な小剥離が見られる他は明確な調整は観察できない。24 は、最大長 44.9mm、重さ 10.0g を測る剥片で、石材はチャートである。剥離面を打面とし、下端部が斜めに伸びた尖頭状を呈する剥片である。図の正面左上に細かな剥離が集中するが、握りやすくするために縁辺の鋭さを減じたものとみられる。25 は、最大長 32.8mm、重さ 1.6g を測る剥片で、石材は黒曜石である。打点付近を欠く、小型の縦長剥片で、左側縁に断続的・部分的な小剥離群が見られる。主剥離面が上部斜めのみであることから、錐の破損品とみることもできる。26 は、最大幅 31.3mm、重さ 24.7g を測る石核で、石材はチャートである。裏面の自然面を残し、剥離面を最終打面とする石核である。剥離作業は全体的に不規則で、定型的な剥片は取られていない。27 は、最大幅 48.8mm、重さ 37.5g を測る石核で、石材は無斑晶ガラス質安山岩である。単一の剥離面を打面とする石核で、左側にわずかながら自然面を残す。下部はやや尖り、側面形は逆三角形であるが、剥離作業は全体的に不規則である。28 は、最



第 17 図　旧石器時代遺物集中地点 C ブロック（3）

大厚 34.7mm、重さ 16.8g を測る石核で、石材はチャートである。剥離面を最終打面とする石核である。裏面下部には自然面も残し、左右両面の剥離は不規則である。定型的な剥片は取られていない。

D ブロック

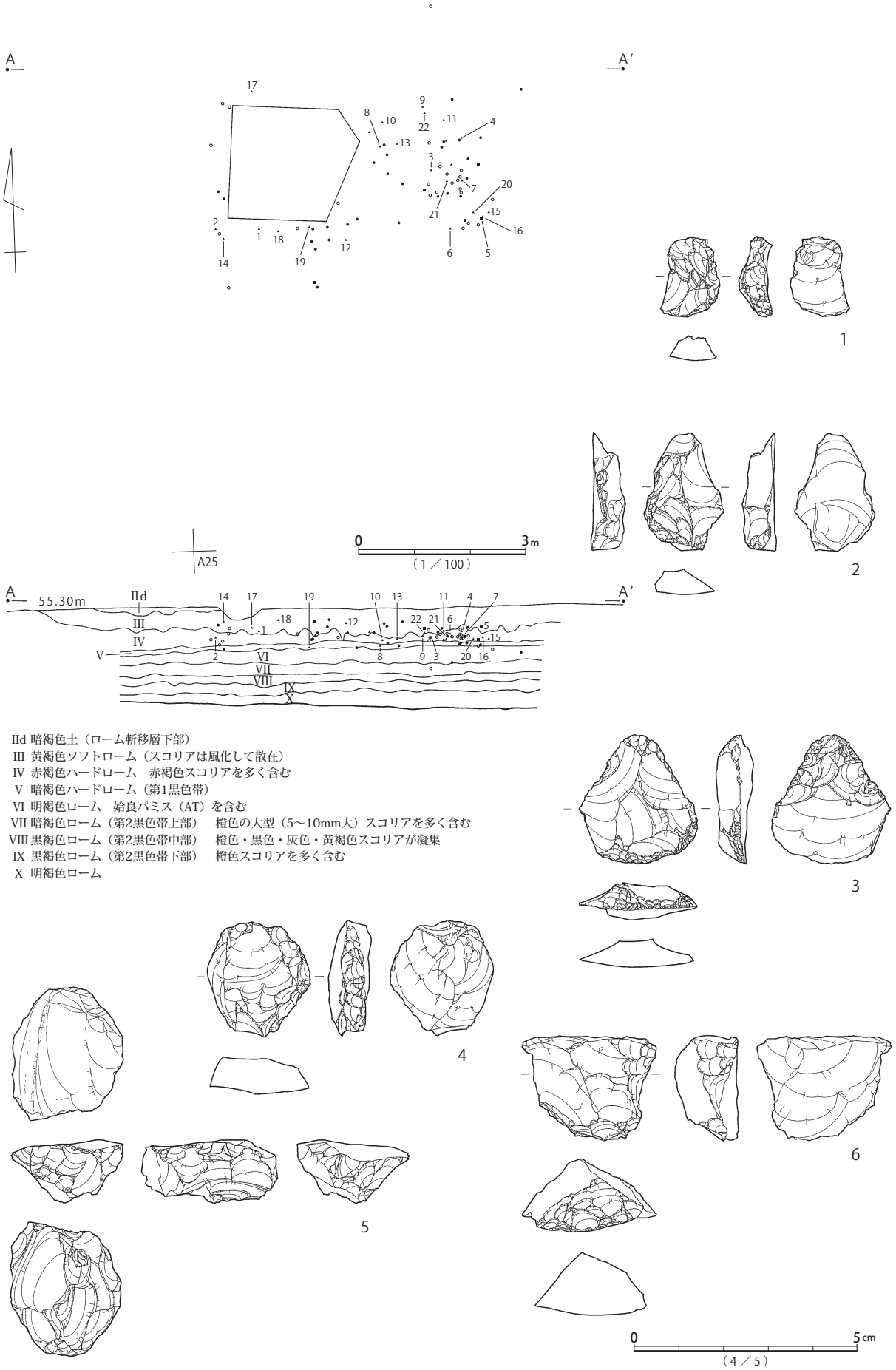
【検出位置】西側　A37 区

【分布範囲】長軸 5.60m、短軸 3.50m（第 18 図）

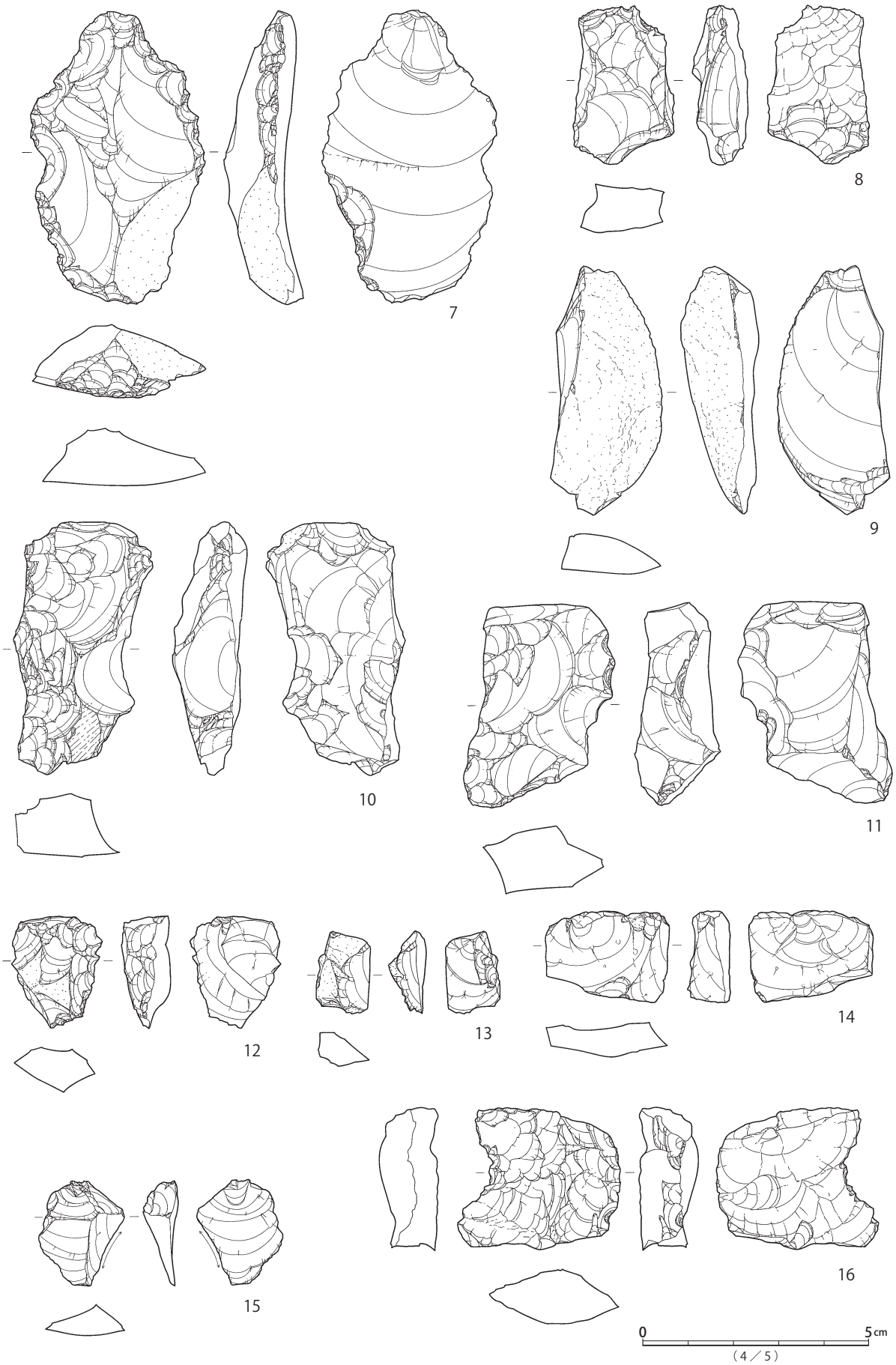
【検出層位】Ⅲ層下部からⅣ層を主体とする。

【出土遺物】石器は 58 点検出された。その内訳はナイフ形石器 1、削器 2、掻器 4、調整剥片 8、使用痕のある剥片 6、剥片 30、石核 7 点である。石器の石材には、黒曜石 22、チャート 12、ホルンフェルス 7、頁岩 6、玉髄 6、無斑晶ガラス質安山岩 3、珪化流紋岩 1、変質流紋岩 1 点がある。また、28 点、1,028g の礫が出土している。平均 36.7g の被熱した小型礫である。

【遺物説明】第 18 図 1 は、最大長 17.4mm、重さ 1.2g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。剥離面を打点とするやや厚手の剥片を素材とする。左側縁は鋭い縁辺をそのまま残し、右側縁には裏面からの連続調整が見られる。2 は、最大長 25.5mm、重さ 2.7g を測るナイフ形石器で、石材は頁岩である。やや厚手の不定形剥片を素材とする。端部左側に鋭い縁辺を残し、左側縁及び下部右側縁に裏面からの連続調整が見られる。よってナイフ形石器に含めた。3 は、最大長 27.9mm、重さ 4.2g を測る掻器で、石材は黒曜石である。不定形剥片を素材とし、打点付近両側に面的な調整を施し上部を細く整形し、下端部には裏面からの連続調整によって、鋭い刃部を作出している。上部を着柄して使われたとみられる。4 は、最大長 25.0mm、重さ 4.8g を測る削器で、石材は黒曜石である。やや厚手の剥片を素材とし、右側縁を中心に、裏面からの連続調整によって、中程が突出する形状の刃部を作り出している。5 は、最大厚 29.4mm、重さ 8.6g を測る石核で、石材は玉髄である。単一の剥離面を打面とする石核である。下端部には、その付近を打点とする大きめの剥離が見られる。正面からは逆三角形に見える形状で、正面上端部には微細な剥離が集中している。6 は、最大幅 28.8mm、重さ 8.4g を測る掻器で、石材は黒曜石である。剥離面を打面とするやや厚手の剥片を素材とし、右側縁及び下端部に、裏面からの連続調整がある。下端部の調整は入念で、先端部に微細剥離も見られるため、掻器とした。第 19 図 7 は、最大長 62.3mm、重さ 26.8g を測る掻器で、石材は珪化流紋岩である。剥離面を打面とするやや縦長の不定形剥片を素材とする。上部両側縁及び左側縁下部、また端部にも裏面からの連続調整が見られる。形状から、上部を基部とする掻器とした。8 は、最大長 33.6mm、重さ 9.0g を測る調整剥片で、石材はチャートである。左右両側縁及び下端部に折れ面が見られる厚手の剥片である。裏面下部には折れ面からの剥離により、面的な加工があり、こちら側を刃部として使ったものとみられる。9 は、最大長 52.6mm、重さ 18.9g を測る調整剥片で、石材は頁岩である。表面が自然面の楕円形剥片を用い、上部を斜めに折り取った後、上下に表面からの打撃による調整が見られる。右縁辺には、断続的に微細な剥離が見られる。10 は、最大長 54.0mm、重さ 22.6g を測る調整剥片で、石材はチャートである。左側を打面とする横型・厚手の剥片を素材とし、断面形は方形に近い。右側縁には、裏面からの打撃による比較的大きな剥離があり、内湾する鋭い縁辺を残している。11 は、最大長 43.2mm、重さ 21.0g を測る調整剥片で、石材は玉髄である。厚手の不定形剥片である。右側縁に部分的な調整が見られ、凹部が 4 箇所見られる。こちら側を刃部として使われたものとみられる。12 は、最大長 23.7mm、重さ 3.7g を測る削器で、石材は黒曜石であ



第18図　旧石器時代遺物集中地点Dブロック（1）



第 19 図　旧石器時代遺物集中地点 D ブロック（2）

る。表面に自然面を一部残すやや厚手の剥片を用い、右側縁及び下端部に裏面からの連続調整が見られる。これらの縁辺を刃部とする小型の削器とみられる。13 は、最大長 17.7mm、重さ 1.2g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。表面の一部に自然面を残す小型の剥片で、右縁辺は鋭いが、左側縁は表側からの調整が見られる。14 は、最大幅 26.5mm、重さ 4.9g を測る使用痕のある剥片で、石材は黒曜石である。剥離面を打点とするやや厚手の剥片である。右側縁が鋭く、裏面下部に微小剥離が見られる。ここを刃部として使われたものとみられる。15 は、最大長 22.3mm、重さ 1.5g を測る使用痕のある剥片で、石材は黒曜石である。端部がやや尖る形状の小剥片である。顕著な二次加工は見られないが、鋭い右側縁に使用痕とみられる微細な剥離及び光沢が確認できる。16 は、最大幅 34.6mm、重さ 12.0g を測る使用痕のある剥片で、石材はチャートである。剥離面を打面とする不定形剥片で、右側縁上部・下部及び左側縁中央部に二次加工の調整が見られる。抉れた左側縁には裏面に使用時の刃こぼれが観察できる。第 20 図 17 は、最大長 49.2 mm、重さ 5.3g を測る使用痕のある剥片で、石材は頁岩である。上部がやや広がる縦長の剥片である。両側縁及び下端部に不連続な小剥離、右側縁上部には微細な刃こぼれが観察できる。これらはそれぞれ使用痕とみられる。18 は、最大長 36.4mm、重さ 9.6g を測る使用痕のある剥片で、石材はチャートである。断面が方形を呈する厚手の小剥片で、表面上部の執拗な剥離集中は前段階のものとみられる。裏面左側縁に部分的な二次加工が見られる。19 は、最大長 23.8mm、重さ 1.7g を測る使用痕のある剥片で、石材は玉髄である。断面が五角形を呈する厚手の剥片で、右側縁及び下部に部分的な小剥離が見られる。刃部作出や器形調整とは思えないので、いずれも使用痕とみられる。20 は、最大長 40.1mm、重さ 15.7g を測る掻器で、石材は無斑晶ガラス質安山岩である。上部が折れ面となっており、下端部に裏面からの調整によって刃部を作出している。左側縁には刃こぼれとみられる小剥離が観察できる。21 は、最大長 43.3mm、重さ 23.3g を測る調整剥片で、石材は頁岩である。右側縁に自然面を残し、上面が折れ面となっている厚手の剥片である。主剥離面はかなり平坦で、大型の剥片を折り取った可能性がある。裏面下部に面的な調整が見られる。22 は、最大幅 23.2mm、重さ 2.2g を測る調整剥片で、石材は黒曜石である。右傾剥離軸の小剥片である。右側縁下部は鋭い縁辺を残すが、上部は表面からの調整によって平坦になっている。

E ブロック

【検出位置】西側　A25 区

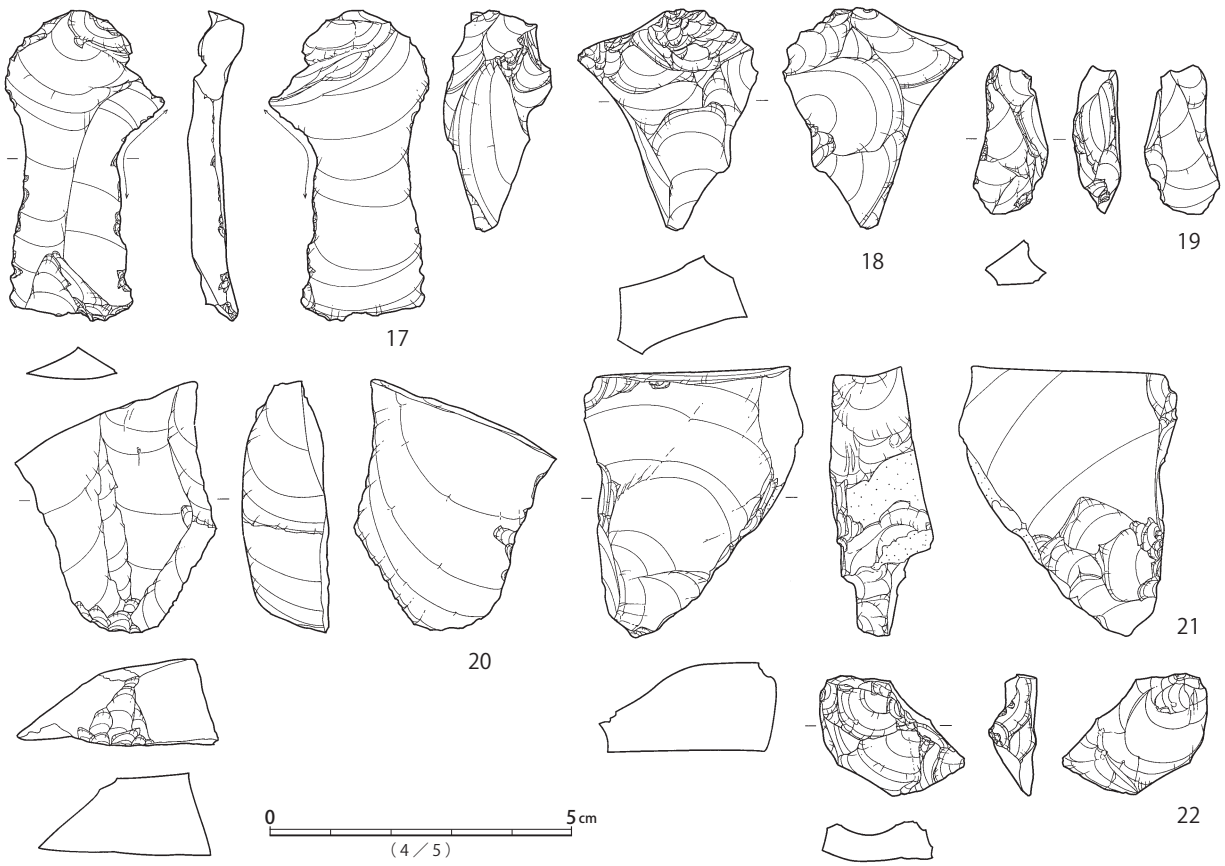
【分布範囲】長軸 3.60m、短軸 3.40m（第 20 図）

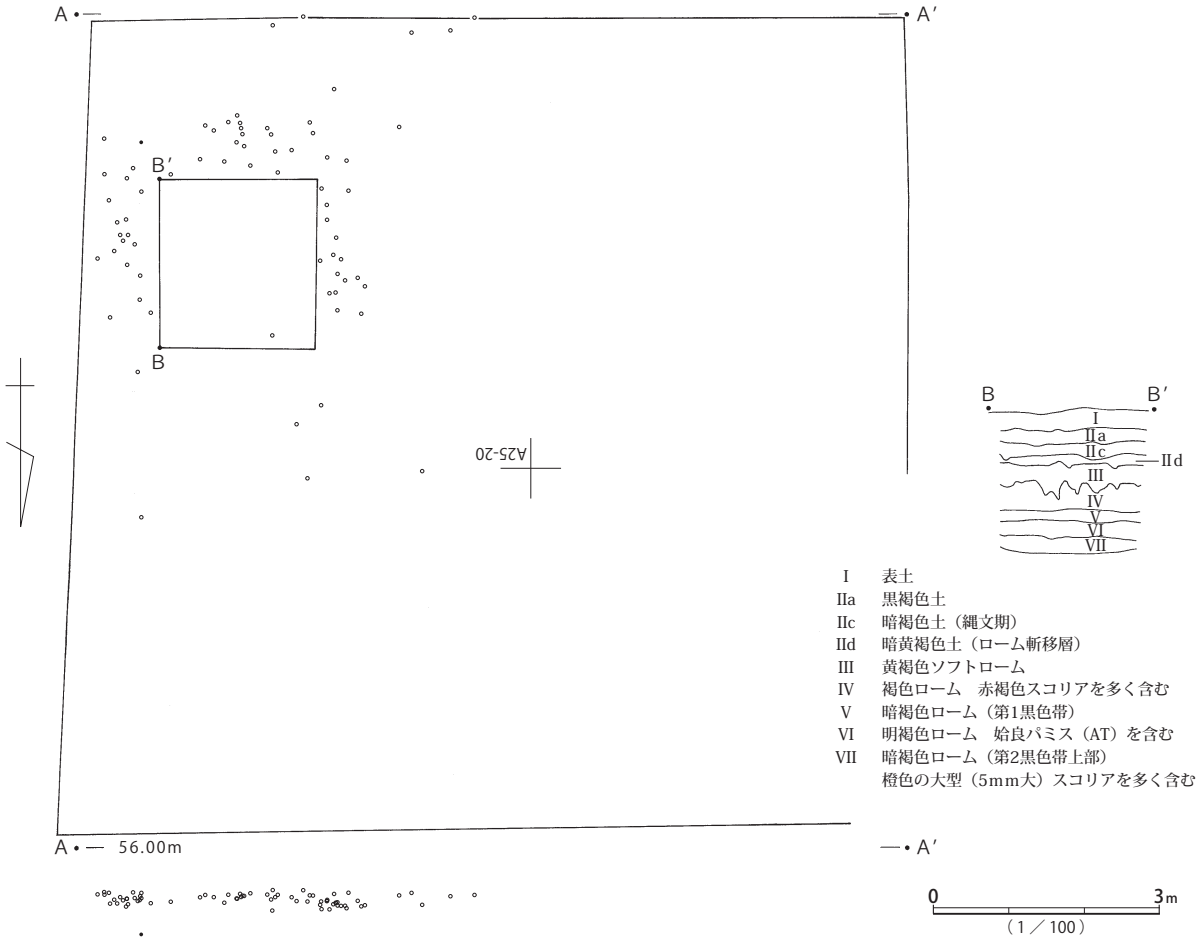
【検出層位】Ⅲ層下部を主体とする。

【出土遺物】石器としては、剥片が 1 点検出された。最大長 14.8mm、重さ 0.6g を測り、石材は頁岩である。また、81 点、1,327g の礫が出土している。平均 16.3g の小型礫であるが、そのほとんどに被熱した痕跡がある。礫群とみられる。

表 3　遺構出土礫集計 1

調査コード	遺構№	取り上方法	赤化		黒・灰化		無被熱		礫計		平均	サイズ区分
			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	重量（g）	
セ 436	A-1	点上げ、一括	4	319	0	0	26	972	30	1291	43.0	小
セ 436	A-2	点上げ	0	0	0	0	1	104	1	104	104.0	大
セ 437	B	点上げ	0	0	0	0	3	13	3	13	4.3	小
セ 437	C	点上げ、一括	37	1092	41	1053	13	37	91	2182	24.0	小
セ 437	D	点上げ、一括	17	491	11	537	0	0	28	1028	36.7	小
セ 437	E	点上げ	43	781	26	339	3	37	72	1157	16.1	小
セ 430	E	確認トレンチ	3	70	6	100	0	0	9	170	18.9	小





第 20 図　旧石器時代遺物集中地点 D ブロック（3）、旧石器時代遺物集中地点 E ブロック

表４　遺構出土石器属性表１

挿図№		調査コード	遺構№	取り上げ№	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
11	4	セ 436	A-1	60	ナイフ形石器		25.7	21.5	4.7	1.5	黒曜石	打点付近を欠くが、表面に一部自然面を残す不定形剥片を素材とし、左側縁下部及び右側縁上部に裏面からの連続調整が見られる。よって左側縁を刃部とするナイフとした。		
11	5	セ 436	A-1	59	ナイフ形石器		21.6	14.0	4.4	1.1	黒曜石	先端部を欠損している。薄手の剥片左側縁（素材剥片の打瘤付近）に裏面からの連続的調整によって背付けをしており、明確な基部調整は見られない。		
11	8	セ 436	A-1	8	ナイフ形石器		27.0	14.6	5.7	1.6	チャート	先端部を欠損しているが、左側縁に連続調整による背付けをしたナイフ形石器とみられる。下部にも鋭い縁辺を残していることから、こちらも刃部として使われた可能性がある。		
12	12	セ 436	A-1	29	ナイフ形石器		36.9	23.1	9.4	6.6	玉髄	表面下部に自然面が見られ、左側縁から下端部にかけて、裏面からの連続した調整が見られる。掻器のようにも見えるが、鋭い上部縁辺を刃部とするナイフ形石器と判断した。		
11	7	セ 436	A-1	7	楔形石器		25.1	14.5	9.0	2.8	チャート	自然面を残す剥片の上下に調整が集中し、縦断面が楔状を呈する。裏面下端部には連続的調整が見られ、鋭い刃部を形成している。		
11	1	セ 436	A-1	20	角錐状石器	完形	63.1	20.3	13.4	15.3	ホルンフェルス	石刃様剥片を素材とし、裏面からの調整によって基部から中央付近を整形し、上部左側には表裏両面からの調整が見られる。表面中央付近の稜線付近にはダメージがある。		
11	2	セ 436	A-1	58	RTF		32.1	15.5	12.7	6.1	無斑晶ガラス質安山岩	断面が方形を呈する厚手の剥片を素材としている。全体的に風化が進み、稜線は不明瞭だが、左側縁に連続した調整が見られ、尖頭を形成している。		
11	3	セ 436	A-1	72	RTF		23.1	9.2	3.9	0.6	黒曜石	自然面を残す剥片の端部を用い、左側は折れ面、右側縁上部及び下部には裏面からの連続調整が見られる。右側縁上部を刃部とし、微細剥離が見られるが、刃こぼれとみられる。		
11	6	セ 436	A-1	46	RTF		18.6	10.5	5.5	0.9	黒曜石	下部には折れ面が見られるが、石刃様の剥片である。裏面上部に主剥離面を切るような剥離が見られるが、他の箇所には見られない。		
12	9	セ 436	A-1	40	RTF		72.7	49.0	13.8	47.1	チャート	自然面を前面に残す大型の剥片である。二次調整は左側縁上部のみだが、同側縁は裏面に見られる大きめの剥離によって縁辺が抉れ、その周辺に刃こぼれとみられる小剥離がある。		
12	10	セ 436	A-1	11	RTF		39.9	24.7	10.5	6.5	黒曜石	剥離面を打面とする剥片を素材とし、右側縁中央付近に、裏面からの部分的な調整が見られる。端部には刃こぼれが見られ、ここを刃部として使われたとみられる。左上に新しい損傷あり。		

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
12	11	セ 436	A-1	36	RTF		45.7	16.9	14.2	11.7	黒曜石	やや厚手の剥片の両側を折り取り、上下に細部調整が見られる。下端部の調整によって突出部を作り出しているようにも見えるが、顕著ではない。		
		セ 436	A-1	42	RTF		52.1			22.1	頁岩			
12	13	セ 436	A-1	35	UF		22.3	38.4	8.4	3.2	黒曜石	剥離面を打面とする横長の剥片である。左側縁及び右側縁下部にわずかながら小剥離が見られる。		
12	15	セ 436	A-1	16	UF		19.4	32.8	12.6	4.1	頁岩（古期）	打点を欠くやや翼状の剥片である。右側縁上部に裏面からの小剥離があり、やや浅い抉りが見られる。他の箇所に二次加工は見られない。		
		セ 436	A-1	17	UF		41.3			13.7	玉髄			
12	14	セ 436	A-1	73	剥片		24.5	26.7	10.7	4.3	黒曜石	表面に自然面を残し、上部に執拗な打撃痕が見られる剥片である。小礫を打ち欠いた石核の破砕したものであると思われる。		
13	17	セ 436	A-1	62	剥片（接合）		79.6	31.6	22.9	29.0	黒曜石	左側に自然面を残すやや大型の剥片である。左側縁に２箇所の剥離が見られるが、いずれも剥離面が新しく、ダメージとみられる。意図的に４分割されたとみられるが、それぞれの剥片に明確な再調整は見られない。	8.0g	
		セ 436	A-1	63	剥片（接合）								3.8g	
		セ 436	A-1	64	剥片（接合）								4.6g	
		セ 436	A-1	69	剥片（接合）								12.6g	
		セ 436	A-1	3	剥片		13.8			0.3	黒曜石			
		セ 436	A-1	5	剥片		29.1			4.5	チャート			
		セ 436	A-1	6	剥片		18.2			0.7	頁岩			
		セ 436	A-1	10	剥片		27.1			2.4	菫青石ホルンフェルス			
		セ 436	A-1	13	剥片		56.5			19.5	菫青石ホルンフェルス			
		セ 436	A-1	14	剥片		25.5			1.8	玉髄			
		セ 436	A-1	18	剥片		14.7			1.1	ホルンフェルス			
		セ 436	A-1	19	剥片		23.1			1.2	菫青石ホルンフェルス			
		セ 436	A-1	21	剥片		24.8			1.2	頁岩（新第三紀）			
		セ 436	A-1	23	剥片		7.0			+	チャート	石材は顕微鏡観察を要する。		
		セ 436	A-1	24	剥片		31.4			4.0	チャート			
		セ 436	A-1	25	剥片		54.7			19.6	玉髄			
		セ 436	A-1	26	剥片		23.6			1.4	頁岩（新第三紀）			
		セ 436	A-1	27	剥片		22.9			3.8	チャート			
		セ 436	A-1	28	剥片		12.5			0.5	チャート			
		セ 436	A-1	28	剥片		12.0			0.3	黒曜石			
		セ 436	A-1	30	剥片		16.1			2.0	黒曜石			
		セ 436	A-1	31	剥片		11.4			0.8	黒曜石			
		セ 436	A-1	32	剥片		25.2			2.0	黒曜石			
		セ 436	A-1	33	剥片		12.0			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-1	34	剥片		7.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-1	45	剥片		37.3			9.0	玉髄			
		セ 436	A-1	47	剥片		16.7			0.6	頁岩			
		セ 436	A-1	49	剥片		18.5			0.7	頁岩			
		セ 436	A-1	50	剥片		12.2			0.4	頁岩（新第三紀）			２点
		セ 436	A-1	51	剥片		7.0			0.1	黒曜石			

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 436	A-1	52	剥片		6.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-1	53	剥片		9.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A-1	54	剥片		7.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-1	55	剥片		45.9			12.0	チャート			
		セ 436	A-1	56	剥片		22.1			6.4	チャート			
		セ 436	A-1	61	剥片		6.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-1	65	剥片		14.6			1.0	黒曜石			
		セ 436	A-1	66	剥片		10.8			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-1	67	剥片		10.0			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-1	68	剥片		10.8			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-1	70	剥片		9.4			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-1	71	剥片		16.2			0.7	黒曜石			
		セ 436	A-1	74	剥片		25.8			4.9	頁岩			
		セ 436	A-1	75	剥片		32.6			6.7	頁岩			
		セ 436	A-1	76	剥片		29.3			2.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A-1	77	剥片		25.3			3.3	頁岩			
		セ 430	A-1	2	剥片		32.3			6.6	玉髄		A20-1	
		セ 430	A-1	1	剥片		34.2			3.5	チャート		A20-2	
		セ 430	A-1	2	剥片		40.9			27.2	玉髄		A20-2	2 点
		セ 430	A-1	2	剥片		35.1			4.5	チャート		A20-2	
12	16	セ 436	A-1	4	石核	完形	56.7	42.6	39.4	105.8	チャート	左及び裏面に自然面を残し、剥離面を打面として作業が行われている。下部は節理面によって大きく抉れたようになっており、錐状の突出部が見られ、転用された可能性がある。		
		セ 436	A-1	44	石核		26.5			8.0	頁岩			
		セ 430	A-1	3	石核		63.3			34.9	頁岩（新第三紀）		A20-1	
		セ 430	A-1	5	石核		28.9			19.1	チャート		A20-2	
13	18	セ 436	A-2	2	剥片		11.8	29.2	5.6	1.2	頁岩	脆くなった頁岩で、稜線が不明瞭であるが、剥離面を打面とする横型剥片とみられる。二次加工・使用痕なども不明瞭である。		
		セ 436	A-2	1	剥片		21.0			1.2	無斑晶質安山岩			
		セ 436	A-2	3	剥片		26.2			1.5	無斑晶質安山岩			
		セ 436	A-2	5	剥片		21.0			2.5	頁岩			
13	19	セ 436	A-3	33	RTF		19.4	27.8	8.8	3.2	黒曜石	やや横長の剥片の下端部右側に部分的な調整が見られる。両縁辺には調整が見られず、器形の整形はされていない。裏面左側には先行する打撃の打瘤が見られる。		
13	21	セ 436	A-3	1	RTF		30.5	48.1	13.8	15.7	黒曜石	厚手の横型剥片で、左側縁は鋭い。下部に裏面からの調整が部分的に見られる。ここを刃部として使用された可能性がある。		
13	23	セ 436	A-3	19	RTF		13.9	20.4	5.1	0.8	黒曜石	小型の横型剥片である。右側縁に裏面からの少剥離の連続が見られる。下端部左側は鋭い縁辺を残す。		

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
13	24	セ 436	A-3	21	RTF		39.7	34.4	10.4	10.1	玉髄	点状打面で下部が右斜に抜けた剥片である。やや厚手の下部に左側からの連続的な調整が見られる。左側縁辺は鋭く、ここを刃部として使ったものとみられる。		
13	20	セ 436	A-3	37	剥片		23.6	16.2	3.5	1.1	玉髄	上下とも折れ面となっており、元々は一稜の薄手の石刃であった可能性がある。明確な調整は見られないが、両側縁は鋭い。		
13	22	セ 436	A-3	14	剥片		18.7	31.8	10.2	4.1	玉髄	下端部が鋭い曲線を描く剥片で、上部の剥離面は摘みやすい曲面となっている。明確な調整や使用痕は見られない。		
		セ 436	A-3	2	剥片		15.7			0.5	黒曜石			
		セ 436	A-3	3	剥片		21.7			1.8	黒曜石			
		セ 436	A-3	4	剥片		13.6			0.5	黒曜石			
		セ 436	A-3	5	剥片		11.1			0.4	黒曜石			
		セ 436	A-3	6	剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	7	剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	8	剥片		8.8			0.5	黒曜石			
		セ 436	A-3	9	剥片		9.3			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-3	10	剥片		12.0			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-3	11	剥片		24.2			1.8	黒曜石			
		セ 436	A-3	12	剥片		11.3			0.3	黒曜石			
		セ 436	A-3	13	剥片		9.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A-3	15	剥片		10.1			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-3	16	剥片		10.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	17	剥片		23.1			0.8	黒曜石			
		セ 436	A-3	18	剥片		12.0			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-3	20	剥片		11.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A-3	22	剥片		30.8			1.8	玉髄			
		セ 436	A-3	23	剥片		23.0			0.8	玉髄			
		セ 436	A-3	24	剥片		5.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	25	剥片		14.8			0.5	黒曜石			
		セ 436	A-3	26	剥片		13.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A-3	27	剥片		10.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A-3	28	剥片		10.4			0.4	黒曜石			
		セ 436	A-3	29	剥片		15.2			0.3	黒曜石			
		セ 436	A-3	30	剥片		12.2			0.2	黒曜石			
		セ 436	A-3	31	剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	32	剥片		13.9			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	34	剥片		9.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	35	剥片		14.5			0.4	黒曜石			
		セ 436	A-3	39	剥片		18.1			0.3	玉髄			
		セ 436	A-3	40	剥片		36.8			9.2	黒曜石			
		セ 436	A-3	41	剥片		7.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	42	剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	43	剥片		12.1			0.4	黒曜石			
		セ 436	A-3	44	剥片		7.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A-3	45	剥片		9.2			0.4	流紋岩			
		セ 436	A-3	46	剥片		8.1			0.4	流紋岩			5点
		セ 436	A-3	47	剥片		12.4			0.4	黒曜石			
		セ 436	A-3	48	剥片		5.0			0.1	黒曜石			2点

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 436	A-3	49	剥片		5.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	50	剥片		6.0			+	黒曜石			
		セ 436	A-3	36	石核		17.2			2.9	珪化岩			
		セ 436	A-3	38	石核		44.3			25.4	珪化流紋岩（玉髄部を含む）			2点
14	1	セ 437	B	39	ナイフ形石器		25.4	11.5	6.0	1.1	黒曜石	やや縦長の剥片上部を折り取り、尖頭部を作出している。左側縁上部は鋭い縁辺となっており、下部には部分的な調整が見られる。定型的ではないが、形状からナイフの一種とした。		
14	6	セ 437	B	3	RTF		33.6	19.9	13.3	7.1	黒曜石	上部は折れ面で、下部には表面からの調整が見られる。全体型が不明であるが、尖頭部を有する石器の欠損品である可能性も否定できない。		
14	2	セ 437	B	13	UF		15.2	29.9	5.3	1.8	黒曜石	上部が折れ面の打点部を欠く剥片である。左側縁表裏に部分的な小剥離が見られる。刃部調整とはみられないので、使用痕と思われる。		
14	3	セ 437	B	31	UF		45.3	24.7	14.0	11.1	黒曜石	剥離面を打点とするやや厚手の剥片である。右側縁及び下端部に部分的な小剥離、また随所に微細な剥離が見られる。いずれも使用痕とみられる。		
14	4	セ 437	B	27	剥片		23.1	26.3	15.2	5.9	黒曜石	上下とも折れ面であり、もともと厚手、一稜の石刃であったとみられる。裏面に僅かに小剥離の集中が見られるが、調整と言えるようなものではない。		
14	5	セ 437	B	14	剥片		21.0	16.1	5.5	1.5	黒曜石	下面が折れ面となっているやや縦長の剥片である。下端部に小剥離が見られるが、調整ではなく刃こぼれとみられる。		
14	7	セ 437	B	15	剥片		47.0	18.6	15.0	4.9	黒曜石	剥離軸が湾曲し、上部がねじれたような縦長剥片である。明確な二次加工は見られないが、大型石核の存在を窺わせる。		
14	8	セ 437	B	23	剥片		35.2	15.9	6.8	3.1	黒曜石	点状打面の縦長剥片で、明確な二次加工及び使用痕は見られない。よく整形された石核の存在が窺える。		
14	9	セ 437	B	24	剥片		35.0	18.5	5.1	2.5	黒曜石	剥離面を打面とする縦長の剥片である。左側縁下部及び下端部一部、また右側縁に刃こぼれとみられる小剥離が見られる。		
		セ 437	B	1	剥片		27.0			5.9	黒曜石			
		セ 437	B	2	剥片		14.3			1.1	黒曜石			2点
		セ 437	B	4	剥片		19.2			0.8	黒曜石			2点
		セ 437	B	5	剥片		32.9			2.4	黒曜石			2点
		セ 437	B	6	剥片		19.0			0.6	黒曜石			
		セ 437	B	7	剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 437	B	8	剥片		25.1			0.6	黒曜石			
		セ 437	B	9	剥片		22.9			0.8	黒曜石			
		セ 437	B	10	剥片		16.4			1.4	黒曜石			
		セ 437	B	11	剥片		10.2			0.2	黒曜石			
		セ 437	B	12	剥片		6.0			0.1	黒曜石			2点
		セ 437	B	16	剥片		9.0			0.2	黒曜石			2点
		セ 437	B	17	剥片		27.4			0.8	黒曜石			
		セ 437	B	18	剥片		14.8			0.4	黒曜石			
		セ 437	B	19	剥片		16.5			0.7	黒曜石			

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 437	B	20	剥片		29.9			1.3	黒曜石			
		セ 437	B	21	剥片		26.3			1.9	黒曜石			
		セ 437	B	22	剥片		9.1			0.1	黒曜石			
		セ 437	B	25	剥片		18.6			1.6	黒曜石			
		セ 437	B	26	剥片		7.7			0.1	黒曜石			
		セ 437	B	28	剥片		8.5			0.2	黒曜石			
		セ 437	B	29	剥片		10.3			0.2	黒曜石			2点
		セ 437	B	30	剥片		20.4			0.7	黒曜石			
		セ 437	B	32	剥片		10.5			0.5	黒曜石			
		セ 437	B	33	剥片		16.8			0.6	黒曜石			
		セ 437	B	34	剥片		10.0			0.4	黒曜石			
		セ 437	B	38	剥片		7.0			+	黒曜石			
		セ 437	B	40	剥片		19.5			0.8	黒曜石			
		セ 437	B	41	剥片		6.0			+	黒曜石			
		セ 437	B	42	剥片		16.0			0.5	黒曜石			
		セ 430	B	2	剥片		29.8			5	黒曜石		A56-3	2点
		セ 430	B	3	剥片		39.2			9.2	黒曜石		A56-3	
		セ 430	B	4	剥片		41.1			4.9	黒曜石		A56-3	
15	1	セ 437	C	88	ナイフ形石器	完形	58.4	22.2	9.9	8.5	ホルンフェルス	表面に自然面を残す縦長剥片を素材とし、薄くなっている端部一側縁を刃部としている。背付けは無く、打点近くの両側面を裏面からの連続調整によって整形し、基部を作り出している。		
15	2	セ 437	C	14	ナイフ形石器		38.0	13.4	8.0	3.3	チャート	斜軸の剥片を用い、打点付近を折り取った後、裏面からの調整によって背付けとし、残された鋭い左側縁を刃部としている。端部も裏面からの調整が連続し、基部を作り出している。		
15	3	セ 437	C	143	ナイフ形石器		34.0	15.5	7.0	1.8	チャート	鋭い縁辺を残した横型の剥片を素材としている。打点付近及びその反対側縁辺を裏面からの調整によって整形し、基部を作り出している。		
15	4	セ 437	C	63	ナイフ形石器	半欠	30.3	20.6	10.5	6.0	無斑晶ガラス質安山岩	横長の剥片を素材とし、端部の一部を刃部としている。下部が折れ面となっており、下部を欠損しているが、このまま使用されたともみられる。		
15	5	セ 437	C	51	ナイフ形石器	半欠	28.8	17.4	8.2	2.9	頁岩	横長の剥片を素材とし、端部を刃部としている。打点付近は調整によって失われ、左右縁辺には部分的な調整が見られ、全体形を整えている。		
16	6	セ 437	C	260	掻器	完形	35.2	27.5	8.0	7.8	変質流紋岩	表面に自然面を残す剥片を素材とする。表面の剥離は右方向から上方向に変わっている。左右縁辺に裏面からの打撃による剥離が連続している。		
16	7	セ 437	C	76	RTF		41.6	36.0	35.2	17.0	チャート	自然面をわずかに残す厚手の剥片を使用し、右縁辺及び左側裏面に部分的な調整が見られる。調整の仕方、大きさから見て、手で持って使われたものと思われる。		
16	8	セ 437	C	155	RTF		33.9	24.8	13.1	8.0	黒曜石	周縁部が折れ面で構成される厚手の剥片を用いている。左側縁には裏面からの剥離による調整が見られる。打点付近は折り取りにより欠失している。		

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)				
16	9	セ 437	C	194	RTF		21.5	31.3	8.5	5.6	頁岩	上部を欠損する厚手の不定形剥片下部である。右側縁に裏面からの調整によって内湾する刃部を作出している。左側裏面には比較的大きな剥離と小剥離が見られる。		
16	10	セ 437	C	161	RTF		12.8	18.1	4.5	0.9	黒曜石	剥離面を打面とする剥片を用い、右側縁及び上部に部分的な調整が見られる。左側縁及び下端部は折れ面となっている。		
16	11	セ 437	C	222	RTF		26.9	20.0	6.4	2.1	チャート	自然面を打面とするやや縦長の剥片である。左側縁下部に部分的な裏面からの調整があり、右側縁には刃こぼれとみられる小剥離が観察できる。		
16	12	セ 437	C	2	RTF		29.5	10.6	7.9	2.9	黒曜石	縦方向に割れたやや厚手の剥片を用い、左側縁に裏面からの調整が見られる。下端部縁辺は鋭く、ここを刃部として使われたとみられる。		
16	13	セ 437	C	254	RTF		22.0	11.9	6.4	1.6	黒曜石	表面に自然面を残す横型の剥片が素材である。上部には折れ面、下部には表裏両面からの調整によって鋭い刃部を作出しており、楔のように使われたものとみられる。		
16	14	セ 437	C	164	RTF		24.3	11.2	6.7	1.4	珪化流紋岩	打点付近を欠く細長の剥片である。右側下部は裏面からの剥離によって内湾し、微細な剥離が観察できる。下端部は尖り、鋭い縁辺を残している。		
16	15	セ 437	C	207	RTF		20.3	27.5	10.2	3.7	チャート	剥離面を打面とし、右側縁下部に自然面を残す剥片の、裏面左下部に連続的な調整が見られる。左側縁は鋭い縁辺となっており、表面には若干の小剥離が見られる。		
16	16	セ 437	C	213	RTF		30.5	20.5	11.2	4.2	チャート	不定形剥片で、上部に突出部を造り出したような調整が見られるが、定型的ではない。太型錐の未製品であるとも考えられる。		
17	19	セ 437	C	78	RTF		21.6	31.5	7.5	2.6	チャート	剥離面を打面とする台形状の剥片である。右縁辺の一部が折り取られ、一部に裏面からの小剥離が観察できる。他の箇所には二次調整は見られない。		
		セ 437	C	128	RTF		19.8			0.8	頁岩			
16	17	セ 437	C	212	UF		24.3	34.6	14.5	8.9	変質流紋岩	上面と右側縁に自然面を残す厚手の剥片で、右側縁下部及び裏面にダメージが有る。裏面上部に二次加工、鋭い左側縁裏面には微細な剥離が連続して観察できる。		
16	18	セ 437	C	71	UF		24.8	23.3	8.7	3.4	チャート	剥離面を打面とする剥片である。裏面左側縁下部に小剥離の連続が見られる。ここを刃部として使用されたものとみられる。		
17	21	セ 437	C	131	UF		17.9	15.2	5.4	0.9	チャート	剥離面を打面とする小剥片で、打点の左側表面細かな連続剥離が見られる。表面から見て右側縁は折れ面となっている。		
17	22	セ 437	C	44	UF		17.0	18.7	4.1	1.1	チャート	小型の楕円形に近い形状の剥片である。明確な二次加工は見られないが、左側縁に若干の小剥離が観察できる。ここを刃部として使用された可能性がある。		
17	20	セ 437	C	20	剥片		11.1	23.6	5.1	0.9	チャート	下端部に自然面を残す、翼状の小型剥片である。表面上部右側の連続剥離は二次調整とは思えない。左側縁部は尖頭状を呈し、鋭い縁辺を残している。		
17	23	セ 437	C	6	剥片		22.5	42.2	13.8	10.5	チャート	表面に大きな剥離があり、横断面が反り上がって見える剥片である。下部凹部に部分的な小剥離が見られる他は明確な調整は観察できない。		

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
17	24	セ 437	C	79	剥片		44.9	16.1	15.3	10.0	チャート	剥離面を打面とし、下端部が斜めに伸びた尖頭状を呈する剥片である。図の正面左上に細かな剥離が集中するが、握りやすくするために縁辺の鋭さを減じたものとみられる。		
17	25	セ 437	C	7	剥片		32.8	10.9	7.3	1.6	黒曜石	打点付近を欠く、小型の縦長剥片で、左側縁に断続的・部分的な小剥離群が見られる。主剥離面が上部斜めのみであることから、錐の破損品とみることもできる。		
		セ 437	C	3	剥片		33.2			6.8	チャート			
		セ 437	C	4	剥片		31.5			4.5	チャート			
		セ 437	C	8	剥片		34.0			6.4	チャート			
		セ 437	C	9	剥片		24.7			2.9	チャート			
		セ 437	C	10	剥片		31.3			1.8	チャート			
		セ 437	C	12	剥片		16.0			2.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	13	剥片		21.4			2.0	チャート			
		セ 437	C	15	剥片		23.5			3.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	16	剥片		15.7			0.8	チャート			
		セ 437	C	17	剥片		15.6			0.4	チャート			
		セ 437	C	18	剥片		29.4			5.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	19	剥片		27.2			2.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	21	剥片		20.7			0.6	チャート			
		セ 437	C	22	剥片		24.4			1.4	チャート			
		セ 437	C	23	剥片		19.7			1.7	チャート			
		セ 437	C	24	剥片		26.3			2.0	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	25	剥片		16.3			0.6	チャート			
		セ 437	C	26	剥片		30.4			2.4	チャート			
		セ 437	C	27	剥片		31.5			12.0	チャート			
		セ 437	C	28	剥片		18.7			0.7	チャート			
		セ 437	C	29	剥片		20.3			2.1	チャート			
		セ 437	C	31	剥片		17.7			1.0	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	33	剥片		17.7			1.2	チャート			
		セ 437	C	34	剥片		27.4			0.9	黒曜石			
		セ 437	C	35	剥片		23.1			2.2	黒曜石			
		セ 437	C	36	剥片		26.6			2.6	チャート			
		セ 437	C	38	剥片		16.0			2.4	チャート			
		セ 437	C	40	剥片		28.2			7.4	チャート			
		セ 437	C	41	剥片		18.1			1.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	42	剥片		22.9			1.5	チャート			
		セ 437	C	45	剥片		23.0			4.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	46	剥片（接合）		33.0			8.8	無斑晶ガラス質安山岩		接合	
		セ 437	C	47	剥片（接合）		25.4			2.3	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	48	剥片		12.1			0.4	チャート			
		セ 437	C	49	剥片		16.5			0.8	チャート			
		セ 437	C	50	剥片		14.1			0.5	チャート			
		セ 437	C	52	剥片		19.8			1.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	54	剥片		14.3			0.5	頁岩			
		セ 437	C	55	剥片		16.0			1.0	チャート			

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)				
		セ 437	C	56	剥片		27.2			8.0	チャート			
		セ 437	C	57	剥片		14.3			0.6	チャート			
		セ 437	C	58	剥片		15.7			0.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	59	剥片		23.2			1.7	チャート			
		セ 437	C	60	剥片		25.5			3.0	チャート			
		セ 437	C	61	剥片		19.0			1.5	チャート			
		セ 437	C	62	剥片		31.1			3.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	64	剥片		25.5			1.9	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	66	剥片		23.5			3.2	チャート			
		セ 437	C	67	剥片		22.9			2.2	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	68	剥片		13.5			0.5	チャート			
		セ 437	C	69	剥片		17.4			1.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	70	剥片		26.2			1.4	チャート			
		セ 437	C	72	剥片		20.7			1.5	チャート			
		セ 437	C	73	剥片		15.7			0.5	チャート			
		セ 437	C	74	剥片		17.3			2.0	チャート			
		セ 437	C	75	剥片		23.3			0.8	チャート			
		セ 437	C	77	剥片		17.9			0.9	チャート			
		セ 437	C	80	剥片		10.1			0.1	チャート			
		セ 437	C	81	剥片		19.3			1.3	チャート			
		セ 437	C	84	剥片		9.8			0.2	チャート			
		セ 437	C	85	剥片		19.1			1.0	チャート			
		セ 437	C	86	剥片		25.7			1.9	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	87	剥片		16.3			0.3	頁岩			
		セ 437	C	91	剥片		12.1			0.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	92	剥片		20.9			0.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	93	剥片		13.9			0.3	頁岩			
		セ 437	C	94	剥片		30.9			7.2	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	95	剥片		31.4			10.3	チャート			
		セ 437	C	96	剥片		14.1			0.5	チャート			
		セ 437	C	97	剥片		11.6			0.4	頁岩			
		セ 437	C	98	剥片		21.0			1.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	100	剥片		15.7			0.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	101	剥片		22.3			0.1	チャート			
		セ 437	C	102	剥片		15.8			1.2	チャート			
		セ 437	C	103	剥片		14.8			0.8	チャート			
		セ 437	C	104	剥片		12.4			0.3	チャート			
		セ 437	C	105	剥片		15.7			0.7	チャート			
		セ 437	C	106	剥片		6.0			0.1	黒曜石			
		セ 437	C	107	剥片		8.6			0.3	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	108	剥片		30.4	.		4.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	109	剥片		16.9			1.3	頁岩			
		セ 437	C	111	剥片		11.5			0.1	チャート			
		セ 437	C	112	剥片		22.2			1.4	チャート			
		セ 437	C	113	剥片		16.3			0.4	チャート			
		セ 437	C	114	剥片		13.1			0.3	チャート			
		セ 437	C	115	剥片		16.1			0.5	チャート			

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 437	C	116	剥片		17.0			0.7	チャート			
		セ 437	C	117	剥片		20.4			0.9	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	118	剥片		19.3			0.8	チャート			
		セ 437	C	119	剥片		10.6			0.2	チャート			
		セ 437	C	120	剥片		14.3			0.7	チャート			
		セ 437	C	121	剥片		26.7			4.5	変質流紋岩			
		セ 437	C	122	剥片		9.7			0.2	チャート			
		セ 437	C	123	剥片		21.8			3.5	チャート			
		セ 437	C	125	剥片		11.5			0.3	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	126	剥片		13.3			0.6	黒曜石			
		セ 437	C	127	剥片		9.0			0.2	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	129	剥片		26.4			2.1	チャート			
		セ 437	C	130	剥片		14.9			0.7	チャート			
		セ 437	C	133	剥片		22.3			0.5	チャート			
		セ 437	C	134	剥片		8.0			0.2	頁岩			
		セ 437	C	135	剥片		15.0			0.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	136	剥片		20.7			2.2	チャート			
		セ 437	C	137	剥片		24.2			4.9	チャート			
		セ 437	C	139	剥片		14.7			1.2	チャート			
		セ 437	C	141	剥片		17.2			0.6	チャート			
		セ 437	C	142	剥片		26.4			3.0	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	144	剥片		12.6			0.3	頁岩			
		セ 437	C	145	剥片		16.3			0.5	チャート			
		セ 437	C	146	剥片		20.0			0.2	チャート			
		セ 437	C	147	剥片		14.1			0.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	148	剥片		24.2			1.3	チャート			
		セ 437	C	149	剥片					0.1				
		セ 437	C	150	剥片		13.0			0.1	チャート			
		セ 437	C	151	剥片		22.6			1.6	チャート			
		セ 437	C	152	剥片		17.8			1.3	チャート			
		セ 437	C	153	剥片		16.7			0.9	チャート			
		セ 437	C	154	剥片		17.6			0.8	チャート			
		セ 437	C	156	剥片		24.1			4.2	チャート			
		セ 437	C	157	剥片		13.6			0.3	チャート			
		セ 437	C	158	剥片		14.3			0.7	チャート			
		セ 437	C	159	剥片		8.2			0.2	頁岩			
		セ 437	C	163	剥片		22.1			2.3	珪化流紋岩			
		セ 437	C	165	剥片		14.2			0.2	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	166	剥片		8.0			+	チャート			
		セ 437	C	167	剥片		19.1			0.9	黒曜石			
		セ 437	C	168	剥片		8.2			0.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	169	剥片		15.3			0.7	珪化流紋岩			
		セ 437	C	170	剥片		10.3			2.1	珪化流紋岩			
		セ 437	C	171	剥片		9.2			0.2	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	172	剥片		9.0			0.1	頁岩			
		セ 437	C	173	剥片		12.1			0.3	珪化流紋岩			
		セ 437	C	174	剥片		15.0			0.6	チャート			

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 437	C	175	剥片		25.0			3.5	チャート			
		セ 437	C	177	剥片		23.3			2.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	178	剥片		14.8			0.8	玉髄			
		セ 437	C	179	剥片		20.4			2.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	180	剥片		25.5			3.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	181	剥片		16.0			0.2	黒曜石			
		セ 437	C	182	剥片		11.5			0.4	ホルンフェルス			
		セ 437	C	183	剥片		17.9			0.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	184	剥片		8.6			0.2	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	186	剥片		15.1			0.4	頁岩			
		セ 437	C	188	剥片		9.8			0.3	黒曜石			
		セ 437	C	189	剥片		7.0			0.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	190	剥片		12.4			0.3	黒曜石			2点
		セ 437	C	191	剥片		14.1			1.4	チャート			
		セ 437	C	192	剥片		24.9			1.8	黒曜石			
		セ 437	C	193	剥片		12.0			0.2	チャート			
		セ 437	C	197	剥片		9.5			0.1	チャート			
		セ 437	C	198	剥片		11.0			0.4	チャート			
		セ 437	C	200	剥片		10.3			0.3	頁岩			
		セ 437	C	206	剥片		15.6			0.8	チャート			
		セ 437	C	214	剥片		15.6			0.4	チャート			
		セ 437	C	215	剥片		28.0			3.3	チャート			
		セ 437	C	216	剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 437	C	217	剥片		25.6			2.2	チャート			
		セ 437	C	218	剥片		22.8			0.9	珪化流紋岩			
		セ 437	C	219	剥片		24.5			2.4	黒曜石			
		セ 437	C	220	剥片		19.7			0.6	チャート			
		セ 437	C	223	剥片		27.5			2.7	黒曜石			
		セ 437	C	224	剥片		30.9			6.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	C	226	剥片		17.6			1.2	変質流紋岩			
		セ 437	C	230	剥片		9.8			+	頁岩			
		セ 437	C	231	剥片		8.0			0.1	黒曜石			
		セ 437	C	235	剥片		16.2			0.4	チャート			
		セ 437	C	240	剥片		5.0			+	黒曜石			
		セ 437	C	245	剥片		22.5			2.1	チャート			
		セ 437	C	246	剥片		23.4			1.5	チャート			
		セ 437	C	248	剥片		5.0			+	頁岩			
		セ 437	C	252	剥片		16.6			0.7	黒曜石			
		セ 437	C	253	剥片		8.5			0.1	黒曜石			
		セ 437	C	255	剥片		17.5			0.5	チャート			
		セ 437	C	258	剥片		17.8			0.8	チャート			
		セ 437	C	259	剥片		20.4			1.0	チャート			
		セ 437	C	261	剥片		16.3			0.1	珪化岩			
		セ 437	C	262	剥片		18.5			1.0	変質流紋岩			
		セ 437	C	263	剥片		12.0			0.4	チャート			
		セ 437	C	264	剥片		13.6			0.9	チャート			
		セ 437	C	265	剥片		22.0			3.4	無斑晶ガラス質安山岩			

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 437	C	266	剥片		8.7			+	チャート			
		セ 437	C	267	剥片		22.8			5.7	黒曜石			4点
		セ 430	C	7	剥片		33.2			8.3	無斑晶ガラス質安山岩		A36-2	
17	26	セ 437	C	39	石核		24.3	31.3	30.9	24.7	チャート	裏面の自然面を残し、剥離面を最終打面とする石核である。剥離作業は全体的に不規則で、定型的な剥片は取られていない。		
17	27	セ 437	C	234	石核		25.4	48.8	38.6	37.5	無斑晶ガラス質安山岩	単一の剥離面を打面とする石核で、左側に僅かながら自然面を残す。下部はやや尖り、側面形は逆三角形であるが、剥離作業は全体的に不規則である。		
17	28	セ 437	C	37	石核		22.5	29.0	34.7	16.8	チャート	剥離面を最終打面とする石核である。裏面下部には自然面も残し、左右両面の剥離は不規則である。定型的な剥片は取られていない。		
		セ 437	C	176	石核		28.1			18.2	頁岩			
		セ 430	C	8	石核		51.0			40.2	チャート		A36-2	
		セ 430	C	10	原石		17.7			2.2	石英	石材は成分分析による検討を要する	A36-2	
18	2	セ 437	D	21	ナイフ形石器		25.5	17.5	7.3	2.7	頁岩	やや厚手の不定形剥片を素材とする。端部左側に鋭い縁辺を残し、左側縁及び下部右側縁に裏面からの連続調整が見られる。よってナイフ形石器に含めた。		
18	3	セ 437	D	70	掻器		27.9	25.4	8.4	4.2	黒曜石	不定形剥片を素材とし、打点付近両側に面的な調整を施し上部を細く整形し、下端部には裏面からの連続調整によって、鋭い刃部を作出している。上部を着柄して使われたとみられる。		
18	4	セ 437	D	71	削器		25.0	22.1	9.4	4.8	黒曜石	やや厚手の剥片を素材とし、右側縁を中心に、裏面からの連続調整によって、中程が突出する形状の刃部を作り出している。		
18	6	セ 437	D	38	掻器	（刃部）	22.7	28.8	13.8	8.4	黒曜石	剥離面を打面とするやや厚手の剥片を素材とし、右側縁及び下端部に、裏面からの連続調整がある。下端部の調整は入念で、先端部に微細剥離も見られるため、掻器とした。		
19	7	セ 437	D	75	掻器	完形	62.3	37.3	16.9	26.8	珪化流紋岩	剥離面を打面とするやや縦長の不定形剥片を素材とする。上部両側縁及び左側縁下部、また端部にも裏面からの連続調整が見られる。形状から、上部を基部とする掻器とした。		
20	20	セ 437	D	44	掻器		40.1	32.3	14.0	15.7	無斑晶ガラス質安山岩	上部が折れ面となっており、下端部に裏面からの調整によって刃部を作出している。左側縁には刃こぼれとみられる小剥離が観察できる。		
19	12	セ 437	D	7	削器		23.7	19.2	10.6	3.7	黒曜石	表面に自然面を一部残すやや厚手の剥片を用い、右側縁及び下端部に裏面からの連続調整が見られる。これらの縁辺を刃部とする小型の削器とみられる。		
18	1	セ 437	D	14	RTF		17.4	12.8	7.3	1.2	黒曜石	剥離面を打点とするやや厚手の剥片を素材とする。左側縁は鋭い縁辺をそのまま残し、右側縁には裏面からの連続調整が見られる。		

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
19	8	セ 437	D	30	RTF		33.6	21.7	11.6	9.0	チャート	左右両側縁及び下端部に折れ面が見られる厚手の剥片である。裏面下部には折れ面からの剥離により、面的な加工があり、こちら側を刃部として使ったものとみられる。		
19	9	セ 437	D	63	RTF		52.6	23.9	16.6	18.9	頁岩	表面が自然面の楕円形剥片を用い、上部を斜めに折り取った後、上下に表面からの打撃による調整が見られる。右縁辺には、断続的に微細な剥離が見られる。		
19	10	セ 437	D	25	RTF		54.0	30.0	15.6	22.6	チャート	左側を打面とする横型・厚手の剥片を素材とし、断面形は方形に近い。右側縁には、裏面からの打撃による比較的大きな剥離があり、内湾する鋭い縁辺を残している。		
19	11	セ 437	D	64	RTF		43.2	32.7	18.5	21.0	玉髄	厚手の不定形剥片である。右側縁に部分的な調整が見られ、凹部が 4 箇所見られる。こちら側を刃部として使われたものとみられる。		
19	13	セ 437	D	24	RTF		17.7	11.7	7.9	1.2	黒曜石	表面の一部に自然面を残す小型の剥片で、右縁辺は鋭いが、左側縁は表側からの調整が見られる。		
20	21	セ 437	D	59	RTF		43.3	34.7	16.6	23.3	頁岩	右側縁に自然面を残し、上面が折れ面となっている厚手の剥片である。主剥離面はかなり平坦で、大型の剥片を折り取った可能性がある。裏面下部に面的な調整が見られる。		
20	22	セ 437	D	65	RTF		19.1	23.2	7.8	2.2	黒曜石	右傾剥離軸の小剥片である。右側縁下部は鋭い縁辺を残すが、上部は表面からの調整によって平坦になっている。		
19	14	セ 437	D	5	UF		19.6	26.5	9.2	4.9	黒曜石	剥離面を打点とするやや厚手の剥片である。右側縁が鋭く、裏面下部に微小剥離が見られる。ここを刃部として使われたものとみられる。		
19	15	セ 437	D	43	UF		22.3	18.3	7.3	1.5	黒曜石	端部がやや尖る形状の小剥片である。顕著な二次加工は見られないが、鋭い右側縁に使用痕とみられる微細な剥離及び光沢が確認できる。		
19	16	セ 437	D	73	UF		30.0	34.6	12.3	12.0	チャート	剥離面を打面とする不定形剥片で、右側縁上部・下部及び左側縁中央部に二次加工の調整が見られる。抉れた左側縁には裏面に使用時の刃こぼれが観察できる。		
20	17	セ 437	D	9	UF		49.2	25.3	8.7	5.3	頁岩	上部がやや広がる縦長の剥片である。両側縁及び下端部に不連続な小剥離、右側縁上部には微細な刃こぼれが観察できる。これらはそれぞれ使用痕とみられる。		
20	18	セ 437	D	3	UF		36.4	28.9	18.0	9.6	チャート	断面が方形を呈する厚手の小剥片で、表面上部の執拗な剥離集中は前段階のものとみられる。裏面左側縁に部分的な二次加工が見られる。		
20	19	セ 437	D	32	UF		23.8	11.9	7.5	1.7	玉髄	断面が五角形を呈する厚手の剥片で、右側縁及び下部に部分的な小剥離が見られる。刃部作出や器形調整とは思えないので、いずれも使用痕とみられる。		
		セ 437	D	4	剥片		12.0			0.2	黒曜石			

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 437	D	6	剥片		23.7			1.0	ホルンフェルス			
		セ 437	D	8	剥片		16.3			3.9	チャート			
		セ 437	D	10	剥片		13.1			0.4	黒曜石			
		セ 437	D	11	剥片		12.7			0.3	黒曜石			
		セ 437	D	13	剥片		19.5			2.0	チャート			
		セ 437	D	15	剥片		23.6			3.1	チャート			
		セ 437	D	16	剥片		14.3			0.3	チャート			
		セ 437	D	17	剥片		22.8			2.1	ホルンフェルス			
		セ 437	D	20	剥片		31.8			1.8	頁岩			
		セ 437	D	22	剥片		18.2			2.7	黒曜石			
		セ 437	D	23	剥片		20.5			1.7	頁岩			
		セ 437	D	28	剥片		10.7			0.3	チャート			
		セ 437	D	31	剥片		10.5			1.0	玉髄			
		セ 437	D	33	剥片		10.0			0.2	黒曜石			
		セ 437	D	34	剥片		21.9			2.8	ホルンフェルス			
		セ 437	D	36	剥片		24.9			1.1	黒曜石			2点
		セ 437	D	45	剥片		16.1			0.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	D	46	剥片		14.5			0.3	玉髄			
		セ 437	D	47	剥片		21.8			1.3	ホルンフェルス			
		セ 437	D	49	剥片		15.0			0.4	黒曜石			
		セ 437	D	56	剥片		25.3			5.3	黒曜石			
		セ 437	D	66	剥片		23.2			4.3	ホルンフェルス			
		セ 437	D	67	剥片		16.2			2.3	黒曜石			
		セ 437	D	76	剥片		13.3			0.3	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	D	77	剥片		15.1			0.5	黒曜石			
		セ 437	D	78	剥片		19.3			1.7	黒曜石			
		セ 437	D	80	剥片		22.1			2.1	黒曜石			
		セ 437	D	82	剥片		10.2			0.6	チャート			
		セ 437	D	83	剥片		21.7			1.9	黒曜石			
18	5	セ 437	D	40	石核		14.0	24.0	29.4	8.6	玉髄	単一の剥離面を打面とする石核。下端部には、その付近を打点とする大きめの剥離が見られる。正面からは逆三角形に見える形状で、正面上端部には微細な剥離が集中している。		
		セ 437	D	41	石核		62.5			343.4	ホルンフェルス			
		セ 437	D	42	石核		32.2			13.6	チャート			
		セ 437	D	55	石核		48.0			23.0	変質流紋岩			
		セ 437	D	61	石核		25.3			15.9	チャート			
		セ 430	D	8	石核		69.5			46	ホルンフェルス		A37-2	
		セ 430	D	9	石核		33.5			24	玉髄		A37-2	
		セ 437	E	103	剥片		14.8			0.6	頁岩			

第２節　竪穴建物

竪穴建物は、遺跡東側の調査区において計５棟検出されている。検出位置は近接している。これらの遺構及び、第３節・第４節に述べる土坑・炉穴、その他の遺構の属性、出土土器・礫の集計を表２、５、７に、石器の属性を表８に示した。個別土器の属性については、表６として別添 DVD に収録した。

１号遺構

【検出位置】東側　A50 区

【規模他】長軸 2.94m、短軸 2.58m、深さ 40cm。形状は円形を呈する。炉は中央部やや南よりに１箇所ある。柱穴は無い（第 21 図）。

【覆土】焼土や焼土粒、ローム粒・ロームブロックが混じる暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。覆土はレンズ状に堆積しており、竪穴建物廃絶後に自然に埋没したものとみられる。

【出土遺物】遺物は、竪穴の中央部に、覆土の上層から下層にわたって広く分布する。50 点、931g の礫が出土している。平均 18.6g の被熱した小型礫である。石器は、９点出土している。内訳は、石鏃２点、敲石・磨石１点、剥片６点である。土器は、95 点、1,221g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末のものである。このうち前期後葉の浮島・興津式が全体の 74％を占め主体をなす。諸磯式は８％ほどの比率で見られた。

【遺物説明】第 21 図１は撚糸文系土器の胴部、２～５は条痕文系土器の胴部である。６～ 17 は浮島・興津式の口縁部及び胴部である。波状貝殻文、三角文、垂直刺突貝殻などが見られる。18～20 は諸磯 b・c 式の胴部である。集合沈線文、貼付文などが見られる。21 は結節縄文が見られるもので前期末のものであろう。22・23 は、遺構確認面より上位の遺物包含層中から出土したものである。覆土上層のものである可能性があるため掲載した。24 は、最大長 20.2mm、重さ 0.6g を測る無斑晶ガラス質安山岩製の石鏃である。凹基無茎鏃で、左側脚部を欠く。25 は、最大長 20.2mm、重さ 0.6g を測る無斑晶ガラス質安山岩製の石鏃である。凹基無茎鏃であるが、細身で抉り部も浅い。26 は、最大長 86mm、重さ 427g を測る溶結凝灰岩製の敲石・磨石である。表裏面に敲打痕と摩耗痕が見られる。

２号遺構

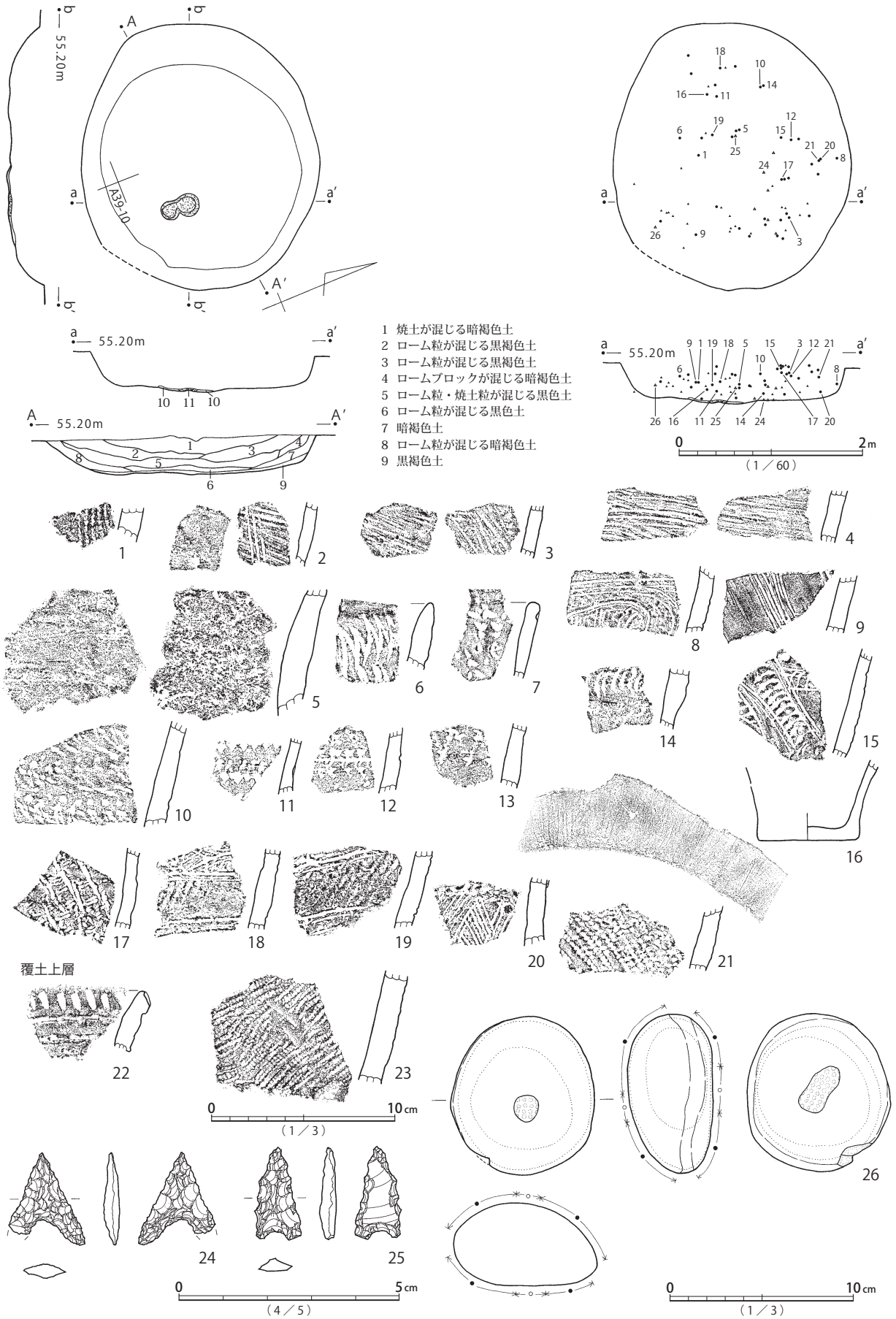
【検出位置】東側　A50 区

【規模他】長軸 2.35m、短軸 2.26m、深さ 27cm。形状は円形を呈する。炉は中央部やや南よりに１箇所ある。柱穴は無い（第 22 図）。

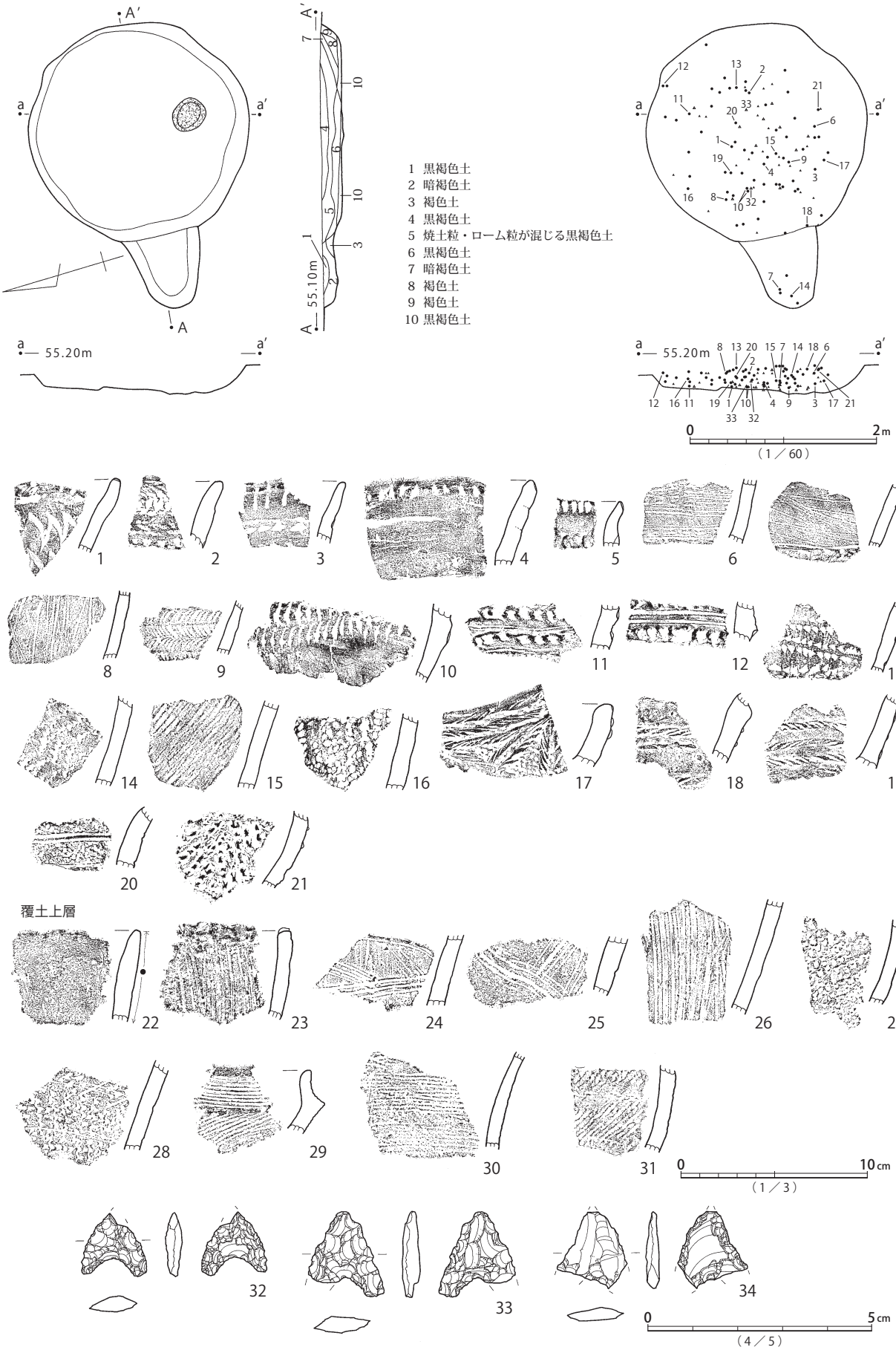
【覆土】黒褐土・暗褐色土・褐色土などを主体とし、一部に焼土粒・ローム粒が混じる土層もある。覆土はレンズ状に堆積しており、竪穴建物廃絶後に自然に埋没したものとみられる。

【出土遺物】遺物は、竪穴の中央部に、覆土の上層から下層にわたって広く分布する。39 点、486g の礫が出土している。平均 12.5g ほどの被熱した小型礫である。石器は、17 点出土している。内訳は、石鏃３点、剥片 14 点である。土器は、106 点、1,258g 出土している。内訳は、前期後葉の浮島・興津式が全体の 90％を占め主体をなす。諸磯式は９％ほどの比率で見られた。

【遺物説明】第 22 図１～ 16 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。波状貝殻文、幅広の変形爪形文、三角文、凹凸文などが見られる。17 ～ 21 は諸磯 b・c 式の口縁部及び胴部である。浮線文、結節浮線文などが見られる。22 ～ 31 は、遺構確認面より上位の遺物包含層中から出土したもので


55.20m
A39-10
1 焼土が混じる暗褐色土
2 ローム粒が混じる黒褐色土
3 ローム粒が混じる黒褐色土
4 ロームブロックが混じる暗褐色土
5 ローム粒・焼土粒が混じる黒色土
6 ローム粒が混じる黒色土
7 暗褐色土
8 ローム粒が混じる暗褐色土
9 黒褐色土
0 2m
（1／60）
覆土上層
0 10cm
（1／3）
0 5cm
（4／5）
0 10cm
（1／3）

第21図　1号遺構・遺物


A′
A
a
a′
55.20m
55.10m
1 黒褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土
4 黒褐色土
5 焼土粒・ローム粒が混じる黒褐色土
6 黒褐色土
7 暗褐色土
8 褐色土
9 褐色土
10 黒褐色土
0 2m
（1／60）
覆土上層
0 10cm
（1／3）
0 5cm
（4／5）

第 22 図　2 号遺構・遺物

ある。覆土上層のものである可能性があるため掲載した。32 は、最大長 13.8mm、重さ 0.4g を測る黒曜石製の石鏃である。凹基無茎鏃で、先端部を欠く。33 は、最大長 18.5mm、重さ 0.8g を測る無斑晶ガラス質安山岩製の石鏃である。凹基無茎鏃で、左側脚部を欠く。34 は、最大長 16.5mm、重さ 0.6g を測る黒曜石製の石鏃である。先端部、左右の脚部を欠く凹基無茎鏃であろう。

3 号遺構

【検出位置】東側　A50・A51 区

【規模他】長軸 2.26m、短軸 2.25m、深さ 21cm。円形を呈する。炉及び柱穴は検出できなかった（第 23 図上）。

【覆土】黒褐色土・暗褐色土・褐色土がレンズ状に堆積しており、竪穴建物廃絶後に自然に埋没したものとみられる。

【出土遺物】遺物は、竪穴の中央部付近に散布しており、分布状態は密ではない。覆土の中部から下部を中心に検出された。2 点、49g の被熱した小型礫が出土している。石器は、石鏃が 2 点出土している。土器は、37 点、527g 出土している。内訳は、前期後葉、前期末のものである。このうち前期後葉の浮島・興津式が全体の 96％を占め主体をなす。

【遺物説明】第 23 図 1 ～ 7 は、浮島・興津式の口縁部、胴部、底部である。波状貝殻文、垂直刺突貝殻文などが見られる。8 は、結節縄文が見られるもので前期末のものであろう。9 ～ 11 は、遺構確認面より上位の遺物包含層中から出土したものである。覆土上層のものである可能性があるため掲載した。11 は、撚糸側面圧痕の見られるもので、前期末のものであろう。12 は、最大長 17.3mm、重さ 0.7g を測る無斑晶ガラス質安山岩製の凹基無茎石鏃である。13 は、最大長 18.2mm、重さ 0.6g を測る黒曜石製の石鏃である。凹基無茎鏃で、先端部を欠く。

4 号遺構

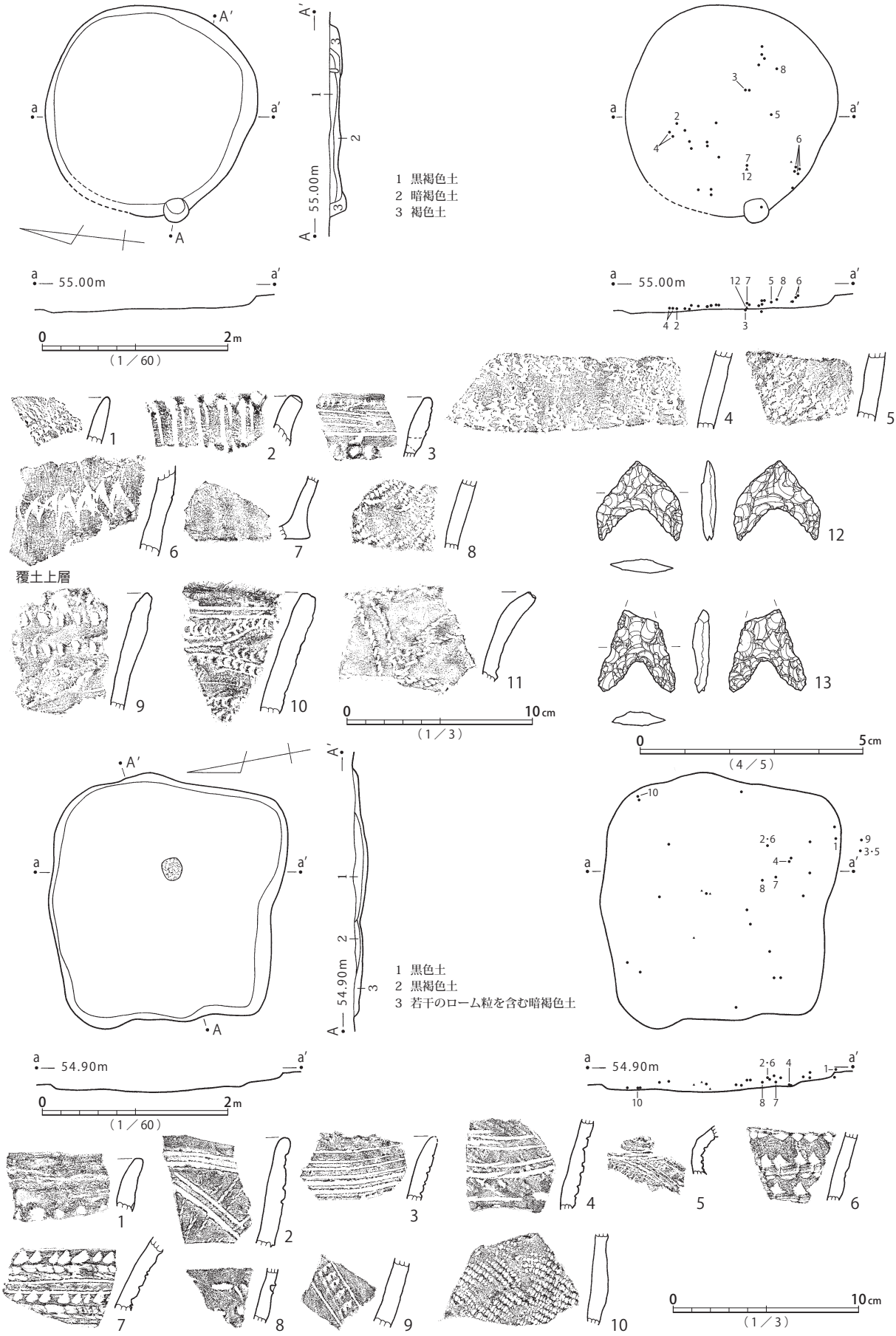
【検出位置】東側　A50 区

【規模他】長軸 2.75m、短軸 2.57m、深さ 21cm。形状は隅丸方形を呈する。炉は中央部やや東よりに 1 箇所ある。柱穴は無い（第 23 図下）。

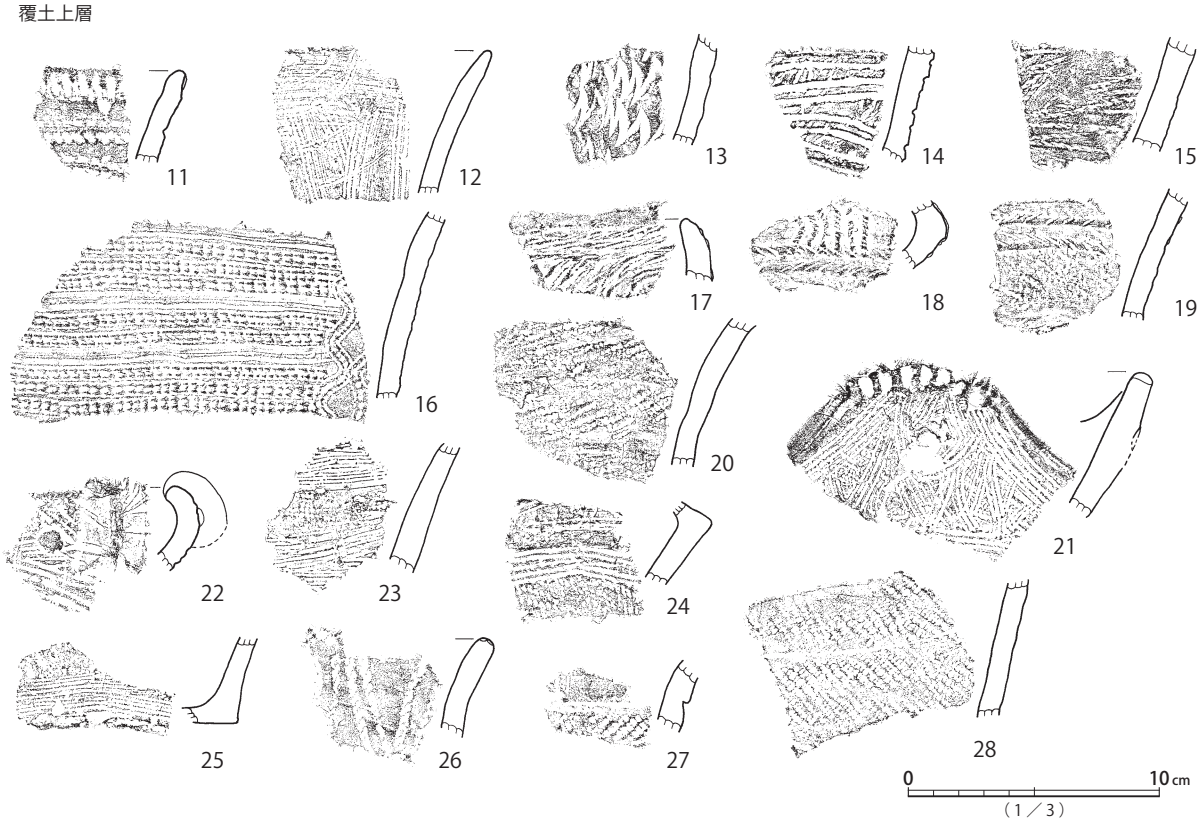
【覆土】黒色土・黒褐色土・暗褐色土がレンズ状に堆積しており、竪穴建物廃絶後に自然に埋没したものとみられる。

【出土遺物】遺物は、竪穴の全体に散布し、分布状態は密ではない。覆土の上層から下層にわたって広く分布する。4 点、109g の礫が出土している。平均 27.3g の被熱した小型礫である。土器は、34 点、522g 出土している。内訳は、ほとんどが前期後葉の浮島・興津式からなる。

【遺物説明】第 23 図 1 ～ 9 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。平行沈線文、三角文、磨消貝殻文などが見られる。第 24 図 11 ～ 28 は、遺構確認面より上位の遺物包含層中から出土したものである。覆土上層のものである可能性があるため掲載した。11 ～ 16 は浮島・興津式の口縁部及び胴部で、平行沈線文、波状貝殻文、垂直刺突貝殻文などが見られる。17 ～ 25 は、諸磯 b・c 式の口縁部及び胴部・底部で、浮線文、貼付文、集合沈線文などが見られる。26 は、撚糸側面圧痕の見られるもので、前期末のものであろう。



第 23 図　3 号遺構・遺物、4 号遺構・遺物（1）



第 24 図　4 号遺構・遺物（2）

5 号遺構

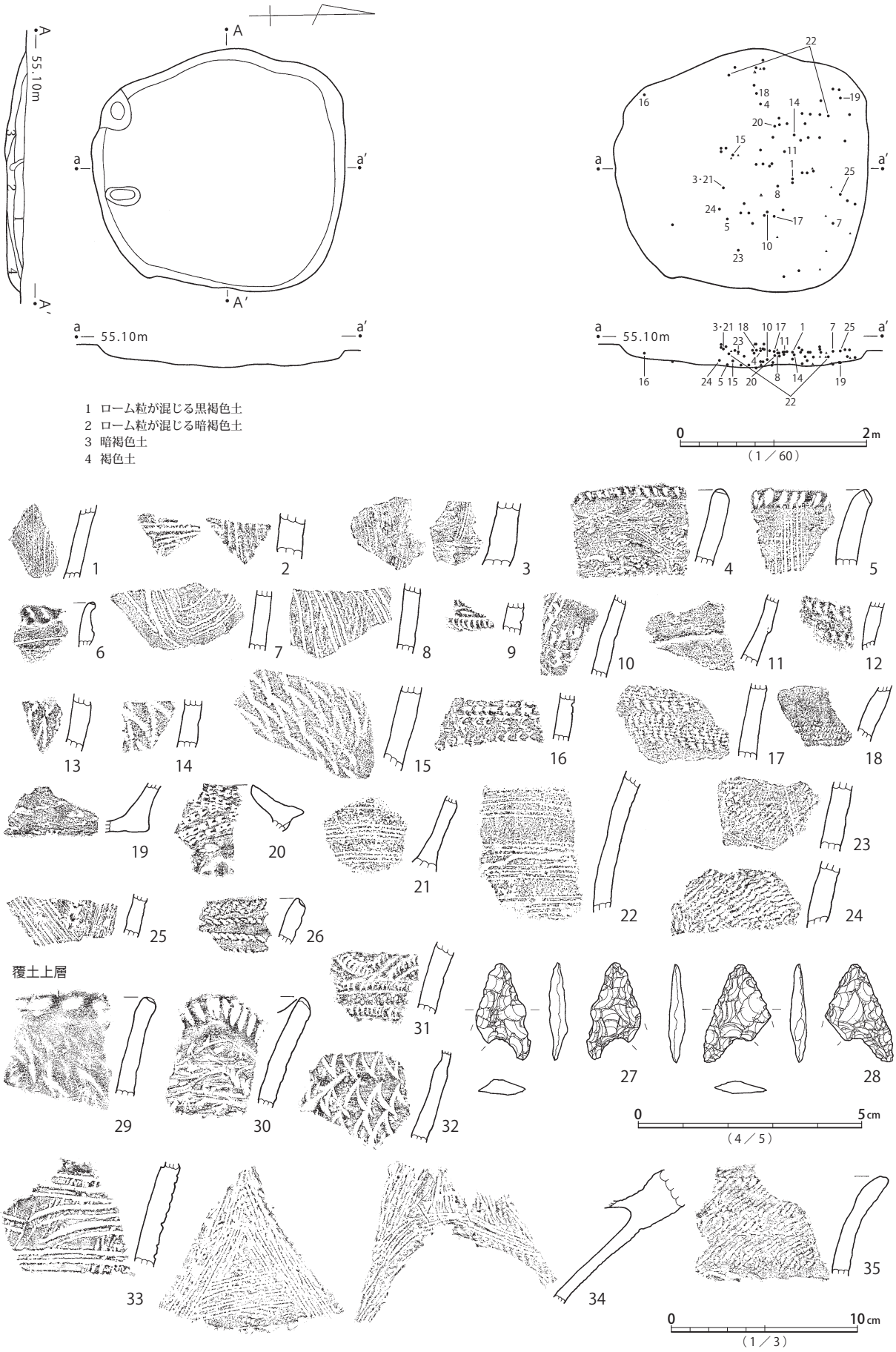
【検出位置】東側　A51・A40 区

【規模他】長軸 2.71m、短軸 2.58m、深さ 25cm。形状は隅丸方形を呈する。炉及び柱穴は検出できなかった（第 25 図）。

【覆土】黒褐色土・暗褐色土・褐色土がレンズ状に堆積しており、竪穴建物廃絶後に自然に埋没したものとみられる。

【出土遺物】遺物は、竪穴の北側にややまとまって分布するが、あまり密な状態ではない。覆土の上層から下層にわたって広く分布する。23 点、960g の礫が出土している。平均 41.7g の被熱した小～中型礫である。石器は、9 点出土している。内訳は、石鏃 2 点、剥片 7 点である。土器は、110 点、1,255g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末のものである。このうち前期後葉の浮島・興津式が全体の 82％を占め主体をなす。諸磯式は 13％ほどの比率で見られた。

【遺物説明】第 25 図 1 は、撚糸文系土器の胴部である。2・3 は、条痕文系土器の胴部である。内外面に貝殻条痕文、繊維条痕文が見られる。4 ～ 19 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部・底部である。平行沈線文、櫛歯文、輪積文、波状貝殻文などが見られる。20 ～ 25 は、諸磯 b・c 式の口縁部及び胴部で、爪形文、集合沈線文、結節浮線文などが見られる。26 は、撚糸側面圧痕が見られるもので、前期末のものであろう。27 は、最大長 20.9mm、重さ 0.6g を測る頁岩製の石鏃である。左側脚部を欠く凹基無茎鏃である。28 は、最大長 21.1mm、重さ 0.7g を測る頁岩製の石鏃である。右側脚部を欠く凹基無茎鏃である。29 ～ 35 は、遺構確認面より上位の遺物包含層中から出土したものである。覆土上層のものである可能性があるため掲載した。浮島式、諸磯 c 式、前期末のものなどが見られる。


A
A′
55.10m
a
a′
1 ローム粒が混じる黒褐色土
2 ローム粒が混じる暗褐色土
3 暗褐色土
4 褐色土
0 2m
（1／60）
覆土上層
0 5cm
（4／5）
0 10cm
（1／3）

第25図　5号遺構・遺物

第３節　土坑及び炉穴

土坑 64 基と炉穴 25 基、掘り込みを持たない焼土 1 基が検出されている。このうち土坑の時期は、早期、前期を主体とする縄文時代のものが 48 基と主体をなすが、時期不明のものを含め、奈良・平安時代以降のものとみられるものも 16 基ある。

6 号遺構

【検出位置】西側　A63 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.80m、短軸 1.30m、深さ 100cm。形状は楕円形を呈する（第 26 図）。

【覆土】最上層に木炭、焼土粒・塊を含む土層があり、以下はローム粒やブロックを含む土層となる。

【出土遺物】土器は、2 点、39g 出土している。縄文後期中葉とみられるものである。このうちの 1 点は覆土の最上層から出土している。

【遺物説明】粗い縄文を施すもので、加曽利Ｂ式の粗製土器とみられる（第 26 図 1・2）。出土遺物がわずかなので、遺構の時期は明確でない。

7 号遺構

【検出位置】西側　A56 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.39m、短軸 0.79m、深さ 36cm。形状は楕円形を呈する（第 26 図）。

【覆土】ローム粒やブロックを含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、覆土中層より黒曜石製の剥片 2 点が出土しているのみである。土器の出土はない。

8 号遺構

【検出位置】西側　A64 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 3.23m、短軸 0.95m、深さ 40cm。形状は長楕円形を呈する（第 26 図）。

【覆土】上、中層に木炭片を含む土層や焼土の塊が認められた。

【出土遺物】遺物は、遺構の中央部に分布し、覆土の上・中層から疎らに散布する状況である。26 点、344g の礫が出土している。平均 13.2g の被熱した小型礫である。土器は、2 点、11g 出土している。縄文早期撚糸文系のものと、土師器片である（第 26 図 1・2）。出土遺物がわずかなので、遺構の時期は明確でないが、遺構の形状、焼土や炭化物、焼礫の存在からみて、炉穴又は集石遺構の可能性がある。

9 号遺構

【検出位置】西側　A64 区

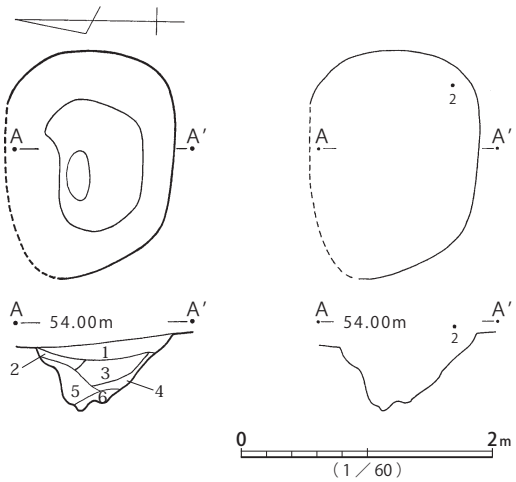
【種別】土坑

【規模他】長軸 1.51m、短軸 0.80m、深さ 27cm。形状は楕円形を呈する。焼土は 1 箇所（第 26 図）。

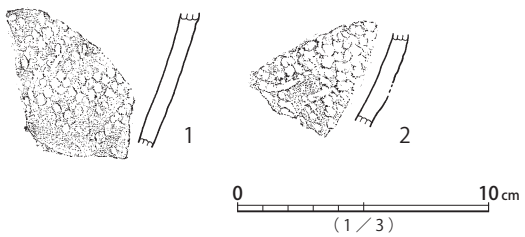
【覆土】上層に焼土塊 1 箇所、固結火山灰土塊が認められる。

【出土遺物】2 点、3g の被熱した小型礫が出土しているほかは、土器等の出土はないが、覆土の特徴などから奈良・平安時代以降のものと推定される。

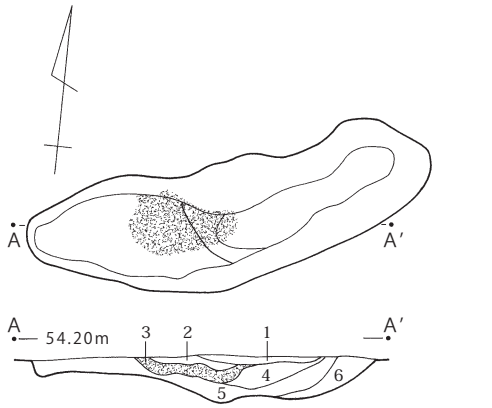
6号



1 木炭、焼土粒・塊が混じる暗褐色土
2 ローム粒が混じる暗褐色土
3 ロームブロックが混じる暗褐色土
4 ロームブロック・ローム粒が混じる褐色土
5 ローム粒が混じる暗褐色土
6 暗褐色土

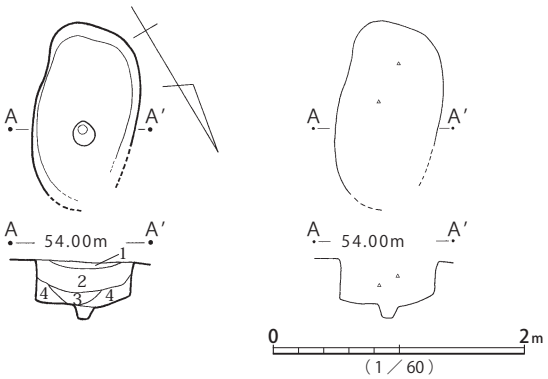


8号

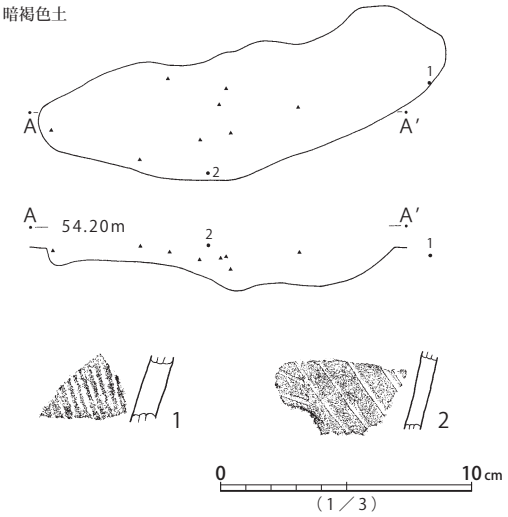


1 黒灰色土
2 木炭片が混じる黒色土
3 焼土
4 褐色土
5 暗褐色土
6 暗褐色土

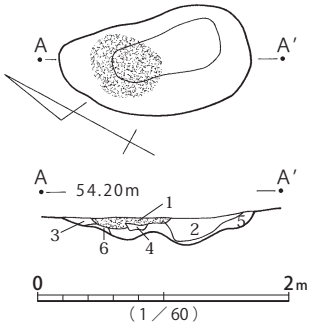
7号



1 ローム粒が混じる黒褐色土
2 ローム粒・ロームブロックが混じる黒褐色土
3 ローム粒が混じる暗褐色土
4 ロームが混じる暗褐色土

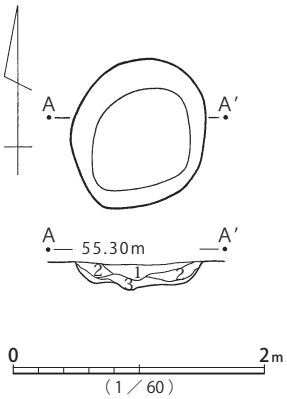


9号



1 焼土
2 ローム・固結火山灰土塊が混じる暗灰褐色土
3 灰褐色土
4 ロームブロック
5 暗灰褐色土
6 ロームブロック

10号



1 黒褐色土
2 ローム粒が混じる暗褐色土
3 褐色土

第26図　6号遺構・遺物、7号遺構、8号遺構・遺物、9号遺構、10号遺構

10 号遺構

【検出位置】西側　A22 区　96 号遺構（塚）の下層

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.14m、短軸 1.10m、深さ 22cm。形状は円形を呈する（第 26 図）。

【覆土】黒色土、ローム粒を含む暗褐色土、褐色土からなる。

【出土遺物】時期不明の縄文土器 1 点、6g が出土しているのみである。

11 号遺構

【検出位置】西側　A36 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 2.72m、短軸 1.36m、深さ 41cm。形状は不整形を呈する（第 27 図）。

【覆土】上部に焼土 3 箇所が検出された。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に、覆土の上層から下層まで広く分布する。3 点・21g の被熱した小型礫と 1 点・47g の被熱の痕跡のない中型礫が出土している。石器は、黒曜石製・頁岩製の剥片が各 1 点出土している。土器は、72 点、662g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系のものであるが、このうち 93％が条痕文系のもので主体となる。

【遺物説明】第 27 図 1 は、撚糸文系土器の胴部破片、2 ～ 11 は条痕文系土器の口縁部及び胴部の破片である。

12 号遺構

【検出位置】西側　A24 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 2.25m、短軸 0.86m、深さ 35cm。形状は楕円形を呈する（第 27 図）。

【覆土】ローム粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土しておらず、時期は不明である。

13 号遺構

【検出位置】西側　A24 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 1.75m、短軸 1.35m、深さ 57cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 27 図）。

【覆土】焼土粒が混じる土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、覆土の上部から下部まで疎らな状態で出土した。 1 点、33g の被熱した小型礫が出土している。土器は、11 点、75g 出土している。内訳は、縄文早期条痕文系、後期中葉などであるが、このうち 90％が条痕文系のもので主体となる。

【遺物説明】第 27 図 1 は縄文早期条痕文系土器の胴部破片で、内外面に繊維条痕が認められる。2 は、縄文後期中葉加曽利 B 式土器の胴部破片とみられる。

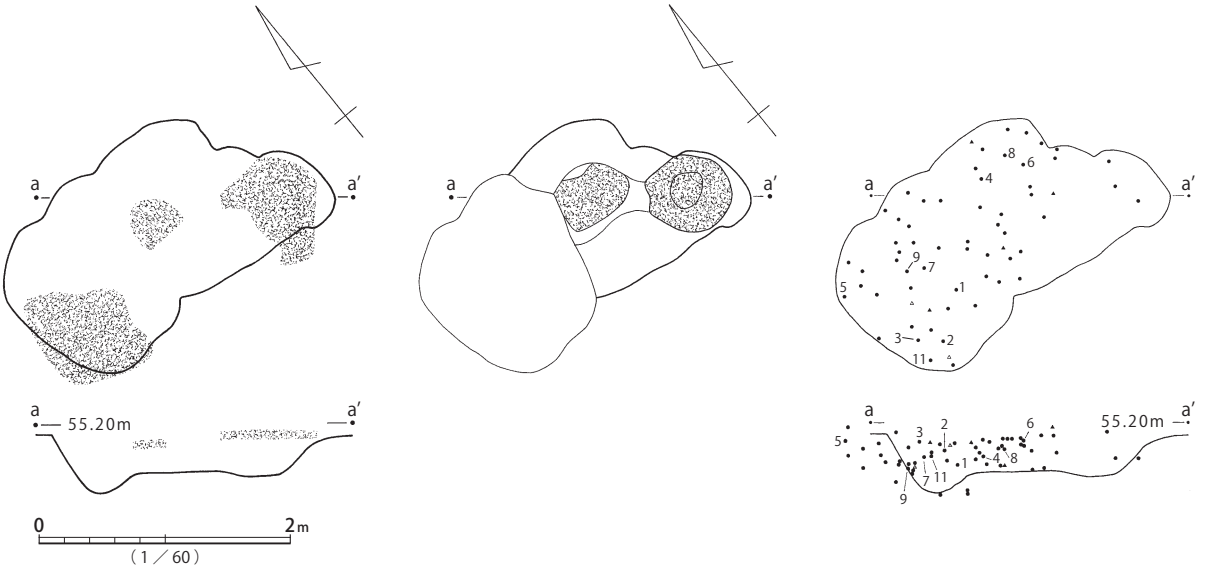
14 号遺構

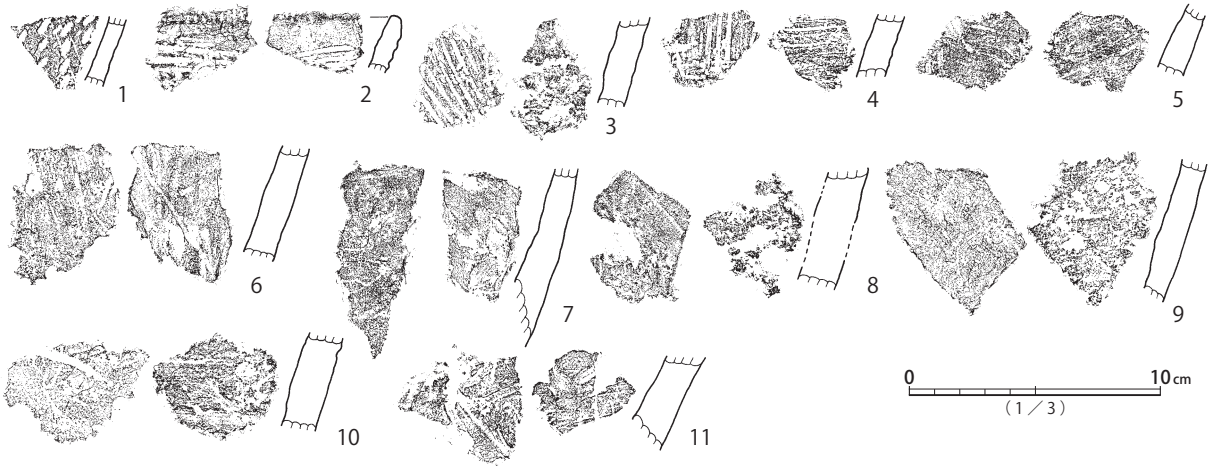
【検出位置】東側　A38 区

【種別】炉穴

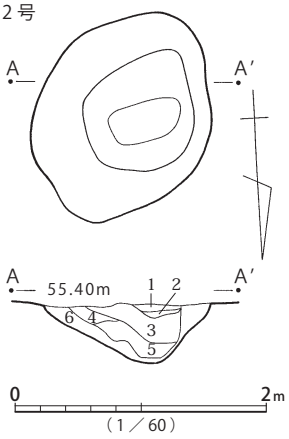
【規模他】長軸 1.38m、短軸 1.28m、深さ 33cm。形状は楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 28 図）。

11号



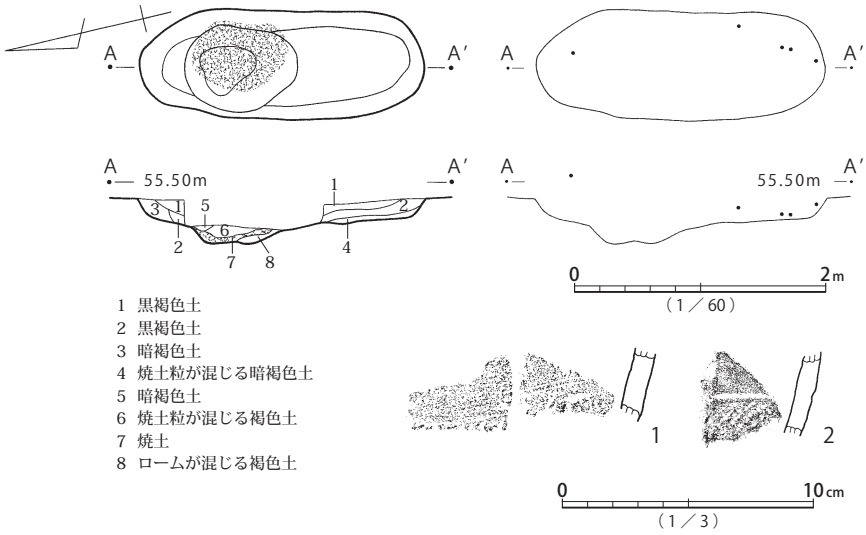


12号



1 黒灰色土
2 ロームが混じる黒灰色土
3 黒灰色土が混じる暗褐色土
4 ロームが混じる黒色土
5 ロームが多く混じる黒色土
6 ロームが多い褐色土

13号



1 黒褐色土
2 黒褐色土
3 暗褐色土
4 焼土粒が混じる暗褐色土
5 暗褐色土
6 焼土粒が混じる褐色土
7 焼土
8 ロームが混じる褐色土

第27図　11号遺構・遺物、12号遺構、13号遺構・遺物

100 号遺構との重複により一部を欠く。
【覆土】焼土粒を含む土層を主体とする。
【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していない。

15 号遺構

【検出位置】東側　A38 区
【種別】炉穴
【規模他】長軸 0.67m、短軸 0.58m、深さ 17cm。形状は円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 28 図）。100 号遺構との重複により一部を欠く。
【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していない。

16 号遺構

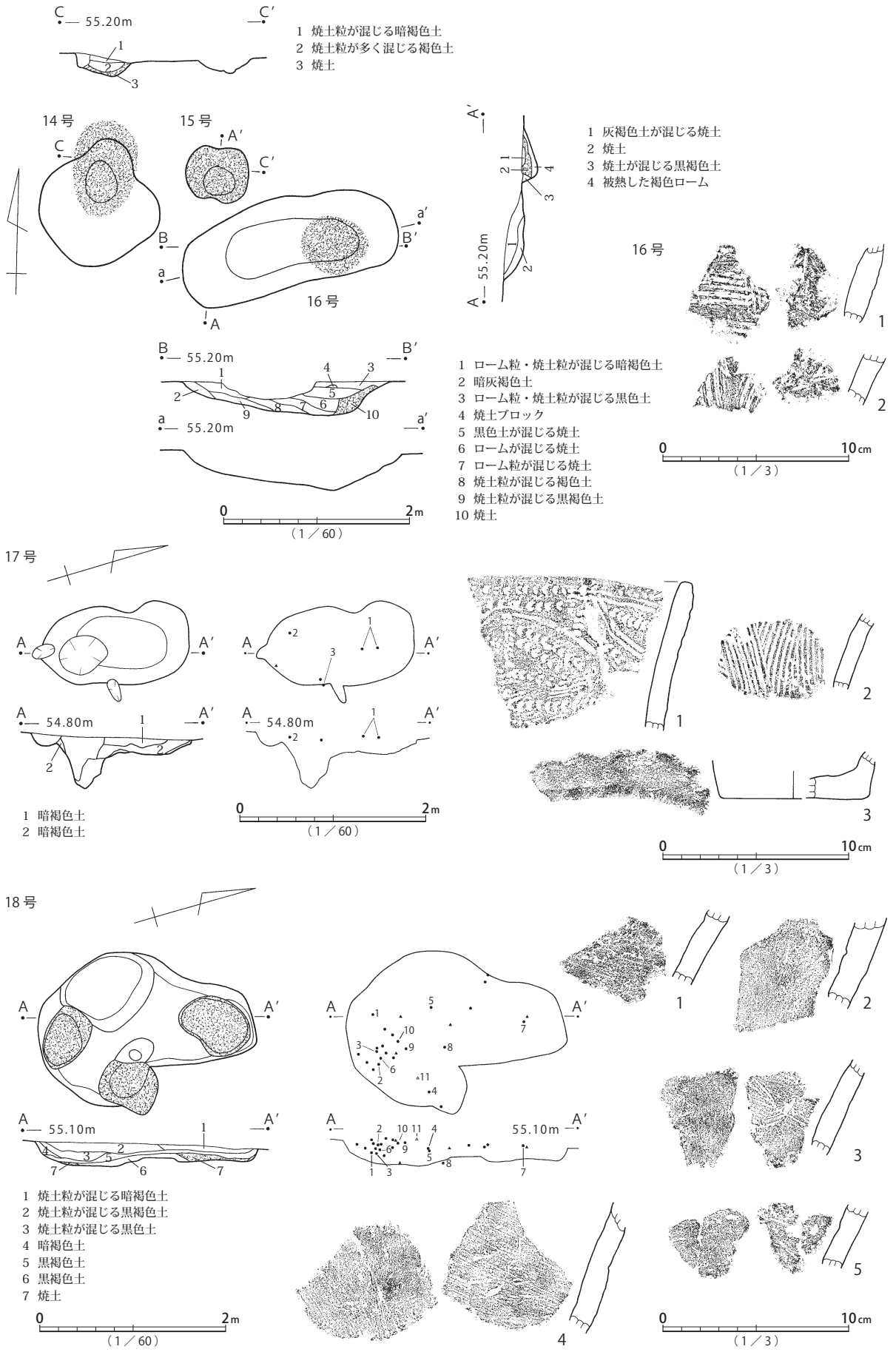
【検出位置】東側　A38 区
【種別】炉穴
【規模他】長軸 2.34m、短軸 0.94m、深さ 38cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 28 図）。100 号遺構との重複により一部を欠く。
【覆土】焼土粒やローム粒を含む土層を主体とする。
【出土遺物】土器は、15 点、129g の土器が出土している。その全てが、縄文早期条痕文系のものである。
【遺物説明】第 28 図 1・2 は貝殻条痕文をもつ深鉢形土器の胴部破片である。14・15 号遺構からは、溝状遺構との重複もあって遺物の出土がないが、いずれも焼土が残っていることから 16 号遺構と同時期に作られた炉穴状の遺構であったと推定される。

17 号遺構

【検出位置】東側　A50 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.59m、短軸 0.82m、深さ 28cm。形状は楕円形を呈する（第 28 図）。
【覆土】含有物の少ない暗褐色土からなる。
【出土遺物】遺物は、遺構の中部に疎らに分布する。2 点、206g の被熱した小型・大型礫が出土している。土器は、10 点、233g 出土している。内訳は、時期の明確なものでは縄文前期後葉のものがほとんどである。浮島・興津式、諸磯式をみる。
【遺物説明】第 28 図 1 は、浮島式の口縁部で、横位・斜位の連続する竹管文、沈線文が施される。2 は、諸磯 c 式の胴部破片で集合沈線文が施される。3 は底部破片である。

18 号遺構

【検出位置】東側　A50 区
【種別】炉穴
【規模他】長軸 2.32m、短軸 1.73m、深さ 29cm。形状は不整形を呈する。燃焼面は 3 箇所（第 28 図）。
【覆土】焼土粒が混じる土層を主体とする。
【出土遺物】遺物は、遺構の南寄りに、覆土の上部から下部まで広く分布し、比較的密な状態で検出されている。6 点、118g の礫が出土している。平均 19.7g の被熱した小型礫である。石器は、楔形石器が 1 点出土している。土器は、57 点、780g 出土している。内訳は、縄文早期条痕文系、前期後



第28図　14・15・16号遺構・遺物、17号遺構・遺物、18号遺構・遺物（1）

葉などである。このうち時期の明確なものでは条痕文系のものが 26％で主体となる。

【遺物説明】第 28 図 1・2 は、無文土器の胴部破片である。器壁は厚く、胎土に砂礫を多く含む。時期は明確でない。3 ～ 5 は条痕文系土器の胴部破片である。第 29 図 6 ～ 10 は前期後葉浮島・興津式の口縁部及び胴部破片である。6 には横位の細い竹管文が施され、内外面には赤彩が見られる。11 は、最大長 34.2mm、重さ 12.7g を測る楔形石器である。表裏両面とも上下からの調整によって整形され、下端部に鋭い刃部を作り出している。石材はチャートである。

19 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 0.96m、短軸 0.64m、深さ 15cm。形状は楕円形を呈する（第 29 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の北よりに散布する状態であった。8 点、110g の土器が出土している。時期が明確なものでは、縄文前期後葉のものがある。

【遺物説明】第 29 図 1・2 は、浮島式の胴部破片とみられる。

20 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

【種別】炉穴？

【規模他】長軸 1.66m、短軸 1.22m、深さ 18cm。形状は楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 29 図）。

【覆土】焼土粒を含む土層などからなる。

【出土遺物】遺物は、覆土中層と遺構の南側から出土している。21 点、33g の礫が出土している。平均 1.6g の被熱した小型礫である。石器は、石核が 1 点出土している。土器は、2 点、53g 出土している。

【遺物説明】第 29 図 1 は、前期後葉諸磯式とみられる胴部破片である。2 は、縦位の隆帯が施されたものであるが時期は明確でない。いずれも遺構の南側に近接した箇所からの出土で、遺構の時期を示すものではない。3 は、最大長 53mm、重さ 70g を測る無斑晶ガラス質安山岩製の石核である。遺構の形状や焼土痕などからみて、炉穴の残骸の可能性がある。

21 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

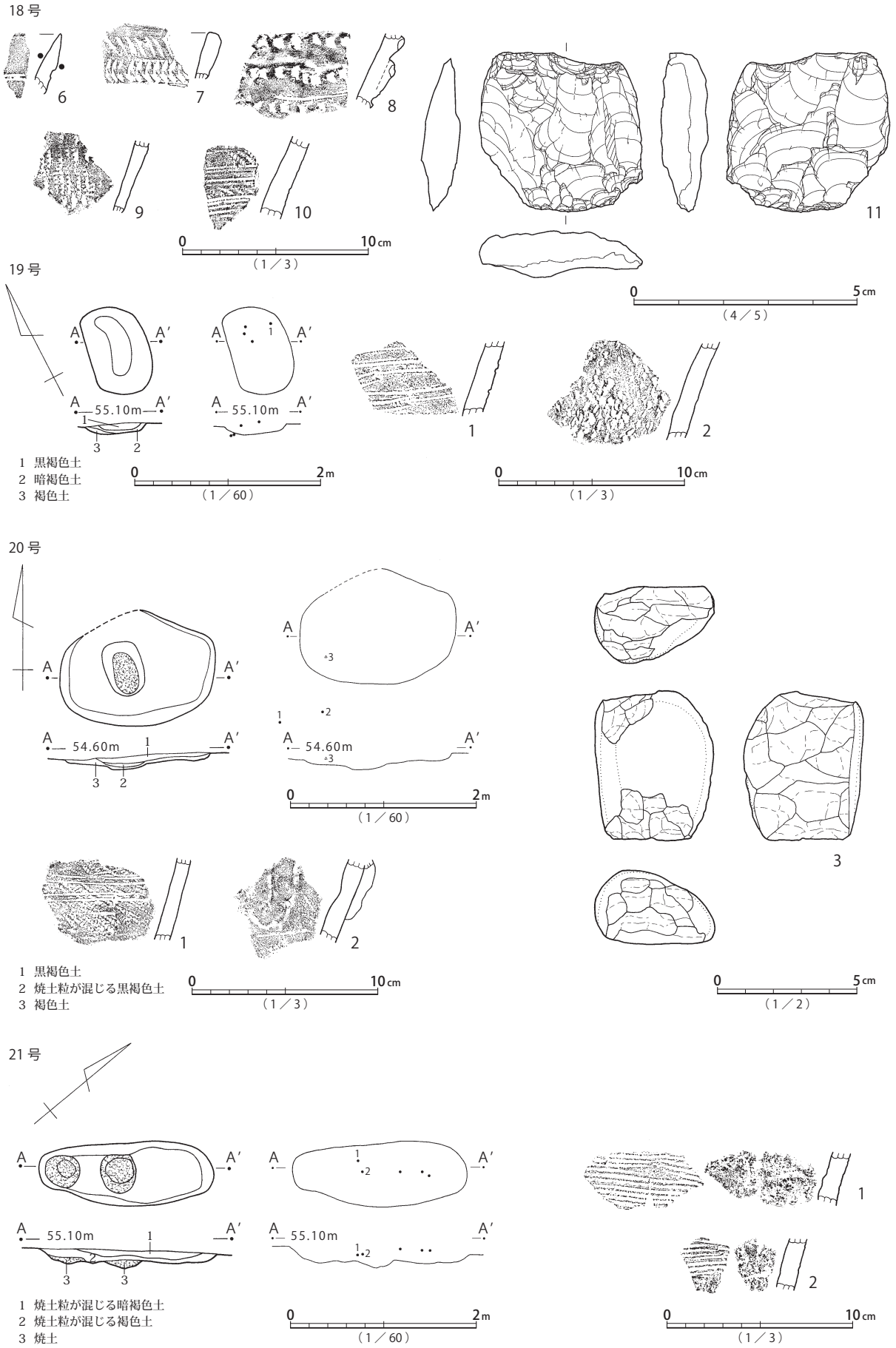
【種別】炉穴

【規模他】長軸 1.86m、短軸 0.70m、深さ 20cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 2 箇所（第 2 図）。

【覆土】焼土粒を含む土層などからなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の中央部の覆土の中層から検出されている。土器は、5 点、70g 出土している。時期の不明確なもの以外は、全て縄文早期条痕文系のものであった。

【遺物説明】第 29 図 1・2 は、条痕文系土器の胴部破片で、外面に明瞭な貝殻条痕が施される。



第29図　18号遺構・遺物（2）、19号遺構・遺物、20号遺構・遺物、21号遺構・遺物

22 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.23m、短軸 0.73m、深さ 17cm。形状は楕円形を呈する（第 30 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土上層･下層からわずかに検出されている。土器は、4 点、44g 出土している。時期が明確なものでは、縄文前期後葉のものがある。

【遺物説明】第 30 図 1・2 は、いずれも前期後葉のもので、1 は浮島式、2 は諸磯 b 式とみられる。

23 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.51m、短軸 1.09m、深さ 24cm。形状は楕円形を呈する（第 30 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土上層からわずかに検出されている。8 点、78g の礫が出土している。平均 9.8g の被熱した小型礫である。土器は、3 点、24g 出土している。縄文早期後葉と前期後葉のものである。

【遺物説明】第 30 図 1 は、条痕文系土器の胴部で外面に貝殻条痕文が見られる。2 は、浮島式の胴部破片で、斜位の撚糸文が施される。

24 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.13m、短軸 0.70m、深さ 15cm。形状は楕円形を呈する（第 30 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土の上層・中層からややまとまって検出されている。11 点、237g の礫が出土している。平均 21.5g の被熱した小型礫である。土器は、4 点、345g 出土している。内訳は、縄文早期条痕文系、前期後葉である。

【遺物説明】第 30 図 1 は、条痕文系土器の胴部、2 は浮島式の口縁部、3 は横位に垂直刺突貝殻文が施された興津式の胴部破片である。

25 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.68m、短軸 1.00m、深さ 23cm。形状は楕円形を呈する（第 30 図）。

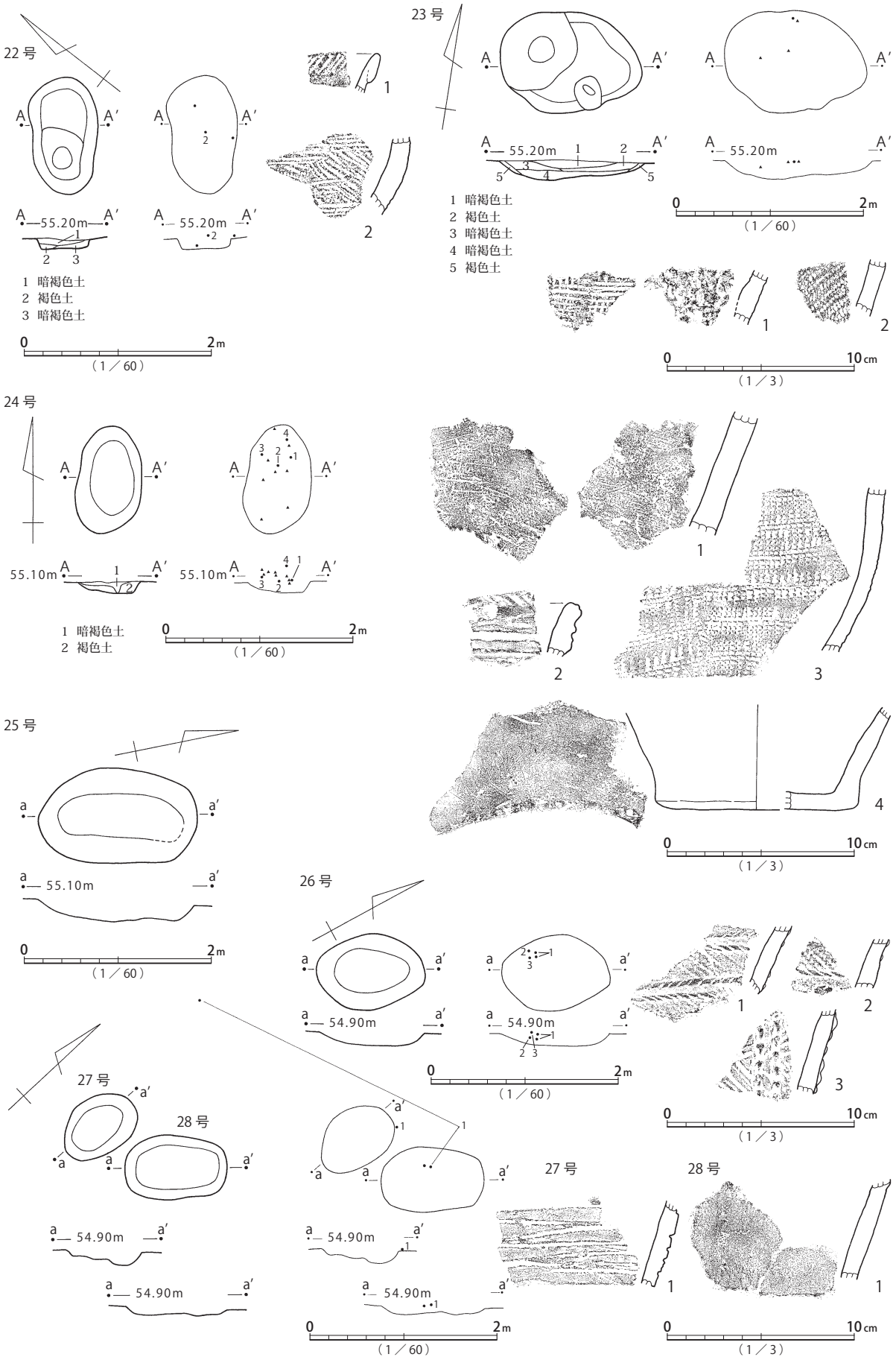
【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土しておらず、時期は不明である。

26 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.14m、短軸 0.80m、深さ 12cm。形状は楕円形を呈する（第 30 図）。



第30図　22号遺構・遺物、23号遺構・遺物、24号遺構・遺物、25号遺構、26号遺構・遺物、27・28号遺構・遺物

【出土遺物】遺物は、覆土の上層・中層からわずかに検出されている。1 点、7g の被熱した小型礫が出土している。土器は、3 点、42g 出土している。いずれも縄文前期後葉のものである。
【遺物説明】第 30 図 1・2 は、横位の浮線文が施される諸磯 b 式の胴部、3 は集合沈線上に縦位の結節浮線文が施される諸磯 c 式の胴部である。

27 号遺構

【検出位置】東側　A51 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 0.85m、短軸 0.60m、深さ 10cm。形状は楕円形を呈する（第 30 図）。
【出土遺物】遺物は、遺構の覆土上層からわずかに検出されている。1 点、38g の被熱した小型礫が出土している。土器は、1 点、34g 出土している。縄文前期後葉のものである。
【遺物説明】第 30 図 1 は、横位の平行沈線文が施された浮島式胴部である。

28 号遺構

【検出位置】東側　A51 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.07m、短軸 0.68m、深さ 9cm。形状は楕円形を呈する（第 30 図）。
【出土遺物】遺物は、遺構の覆土中層からわずかに検出されている。土器は、3 点、52g 出土している。いずれも無文の土器で時期は明確でない（第 30 図 1）。1 は、覆土中のものと、遺構から西に 3m ほど離れた遺物包含層中のものが接合した。

29 号遺構

【検出位置】東側　A52 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.40m、短軸 1.18m、深さ 26cm。形状は楕円形を呈する（第 31 図）。
【覆土】上部に焼土ブロックや焼土粒、ローム粒を含む層が見られる。
【出土遺物】2 点、24g の被熱した小型礫が出土している。土器は、8 点、74g 出土している。時期が明確なものでは、縄文前期後葉のものがある。
【遺物説明】第 31 図 1 は、波状貝殻文が施された胴部破片で、浮島式とみられる。遺構検出面は、上位の黒褐色土中であることから、縄文時代より新しい時期のものであろう。

30 号遺構

【検出位置】東側　A52 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.94m、短軸 1.25m、深さ 20cm。形状は楕円形を呈する（第 31 図）。
【覆土】ローム粒やロームブロックを含む土層を主体とする。また、一部粘土も混入する。
【出土遺物】遺物は、3 点、158g の被熱した中型礫が出土しているが、土器の出土はないため時期は不明である。

31 号遺構

【検出位置】東側　A39 区
【種別】土坑

【規模他】長軸 1.33m、短軸 1.04m、深さ 15cm。形状は楕円形を呈する（第 31 図）。
【覆土】上部に焼土粒を多く含む層が見られる。
【出土遺物】58 点、529g の礫が出土している。平均 9.1g の被熱した小型礫である。土器は、4 点、16g 出土している。時期が明確なものでは、縄文早期後葉のものがある。
【遺物説明】第 31 図 1 は、表裏面に繊維条痕文が見られる口縁部片である。遺構検出面は、上位の黒褐色土中であることから、縄文時代より新しい時期のものであろう。

32 号遺構

【検出位置】東側　A39 区
【種別】炉穴
【規模他】長軸 2.07m、短軸 0.70m、深さ 27cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 31 図）。
【覆土】含有物の少ない土層からなる。
【出土遺物】遺物は、遺構のやや東よりで覆土の上部・中部から検出されている。15 点、376g の礫が出土している。平均 25.1g の被熱した小型礫である。石器は、敲石・磨石が 1 点出土している。土器は、11 点、173g 出土しているが、このうちのほとんどが縄文早期条痕文系のものである。
【遺物説明】第 31 図 1・2 は、条痕文系土器の胴部である。3 は、横位の竹管文が施された口縁部で、浮島式とみられる。4 は、最大長 92mm、261g を測るデイサイト製の敲石・磨石である。表裏面に敲打痕と摩耗痕がある。

33 号遺構

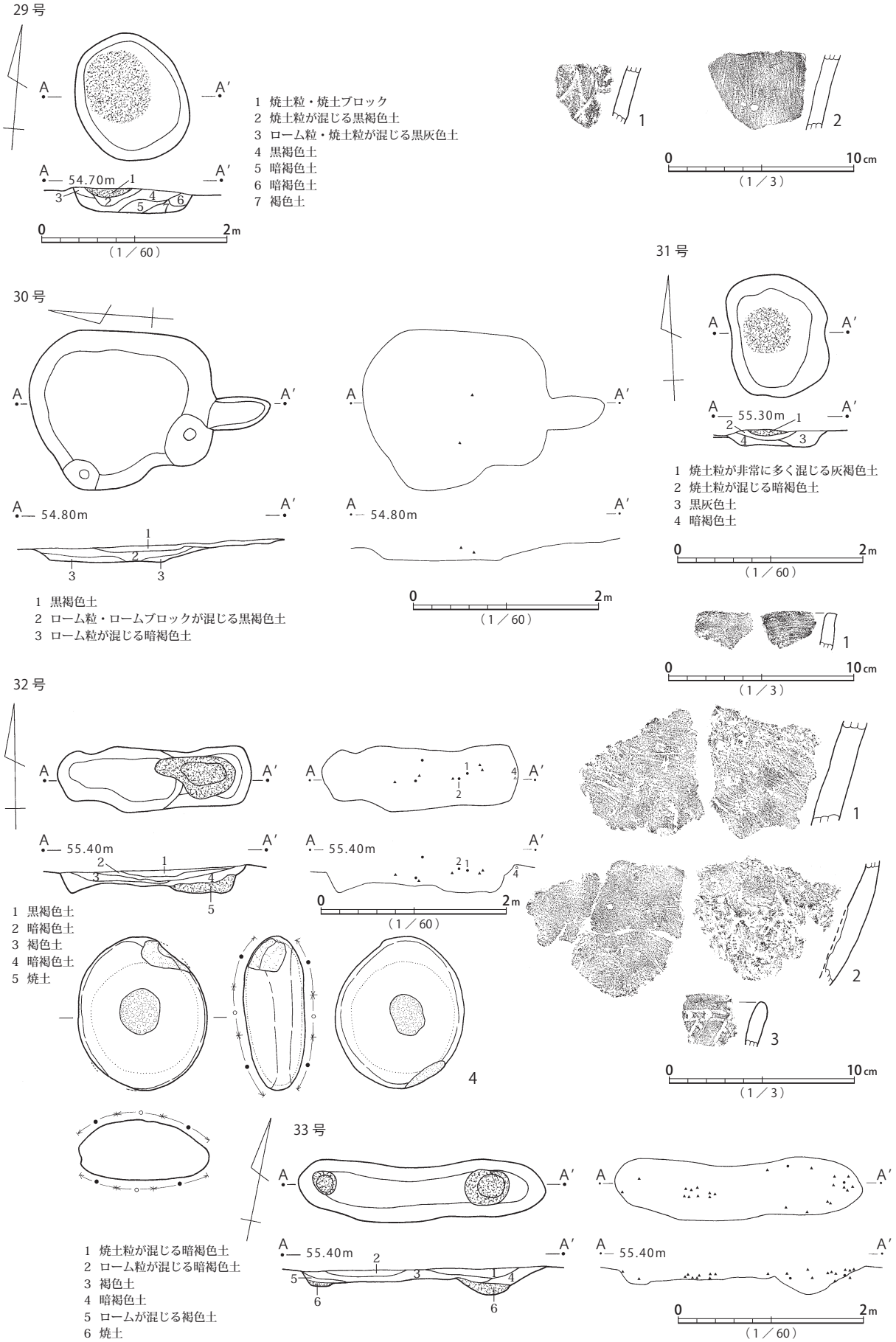
【検出位置】東側　A39 区
【種別】炉穴
【規模他】長軸 2.63m、短軸 0.61m、深さ 29cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 2 箇所（第 31 図）。
【覆土】焼土粒やローム粒を含む土層を主体とする。
【出土遺物】遺物は、覆土の中部・下部からややまとまって検出されている。100 点、1,189g の礫が出土している。平均 11.9g の被熱した小型礫である。石器は、黒曜石製の剥片が 1 点出土している。土器は、3 点、9g 出土している。このうちの 1 点は縄文早期条痕文系のものであるが、図示できない程度の小片であった。

34 号遺構

【検出位置】東側　A39 区
【種別】炉穴？
【規模他】長軸 1.73m、短軸 0.52m、深さ 9 cm。形状は長楕円形か。燃焼面は 2 箇所（第 32 図）。炉穴の燃焼部のみが残存した可能性がある。
【覆土】焼土粒を含む土層
【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していない。

35 号遺構

【検出位置】東側　A39 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.13m、短軸 0.80m、深さ 16cm。形状は楕円形を呈する。焼土は 1 箇所（第 32 図）。



第31図　29号遺構・遺物、30号遺構、31号遺構・遺物、32号遺構・遺物、33号遺構

【覆土】焼土や焼土粒を含む土層を主体とする

【出土遺物】遺物は、覆土の中部・下部からわずかに検出されている。2 点、133g の被熱した中型礫が出土している。石器は、黒曜石製の剥片が 1 点出土している。土器は、2 点、13g 出土しているが、このうち 1 点は前期後葉のものである。斜位の撚糸文が施された胴部破片である（第 32 図 1）。

36 号遺構

【検出位置】東側　A39 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.58m、短軸 0.82m、深さ 23cm。形状は長楕円形を呈する。焼土は 1 箇所（第 32 図）。

【覆土】焼土やローム粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、覆土の下部からわずかに検出されている。5 点、78g の礫が出土している。平均 15.6g の被熱した小型礫である。土器は、4 点、64g 出土している。内訳は、縄文早期条痕文系、前期後葉のものなどである。

【遺物説明】第 32 図 1 は、外面に貝殻条痕文、口唇部に刺突文が施される条痕文系土器、2 は斜位・横位の平行沈線文が施された浮島式の胴部片である。

37 号遺構

【検出位置】東側　A39 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.13m、短軸 0.89m、深さ 19cm。形状は楕円形を呈する（第 32 図）。

【覆土】ローム粒を含む黒色土と褐色土からなる。

【出土遺物】遺物は、3 点、35g の被熱した小型礫が検出されているのみであるが、遺構検出面がローム漸移層であることから、縄文期のものと判断した。

38 号遺構

【検出位置】東側　A39 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 0.58m、短軸 0.55m、深さ 12cm。形状は円形を呈する（第 32 図）。

【覆土】焼土を主体とする。

【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していないため、時期は不明である。

39 号遺構

【検出位置】東側　A39 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.60m、短軸 0.94m、深さ 16cm。形状は楕円形を呈する（第 32 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土の上部・下部からわずかに検出されている。6 点、121g の礫が出土している。平均 20.2g の被熱した小型礫である。土器は、1 点、9g の土器が出土しているが、小片のため時期は不明確である。

40 号遺構

【検出位置】東側　A40 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 1.52m、短軸 0.72m、深さ 29cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 32 図）。

【覆土】焼土粒を含む土層などを主体とする。

【出土遺物】5 点・154g の礫が出土している。平均 30.8g の被熱した小型礫である。土器は、2 点、3g 出土しているが、小片のため時期は不明確である。

41 号遺構

【検出位置】東側　A40 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.37m、短軸 0.84m、深さ 15cm。形状は楕円形を呈する（第 32 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土の上部・中部からややまとまって検出されている。7 点、74g の礫が出土している。平均 10.6g の被熱した小型礫である。土器は、5 点、59g 出土している。主体は縄文早期条痕文系のものである。

【遺物説明】第 32 図 1 は撚糸文系土器の胴部、2 ～ 4 は条痕文系土器の胴部、5 は刺突文が施されたもので前期後葉のものとみられる。

42 号遺構

【検出位置】東側　A40 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.12m、短軸 0.85m、深さ 14cm。形状は楕円形を呈する（第 32 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土の上部・下部からわずかに検出されている。4 点、92g の礫が出土している。平均 23g の被熱した小型礫である。土器は、6 点、36g 出土している。時期の明確なものでは、縄文早期撚糸文系のものが見られる（第 32 図 1）。

43 号遺構

【検出位置】東側　A51 区

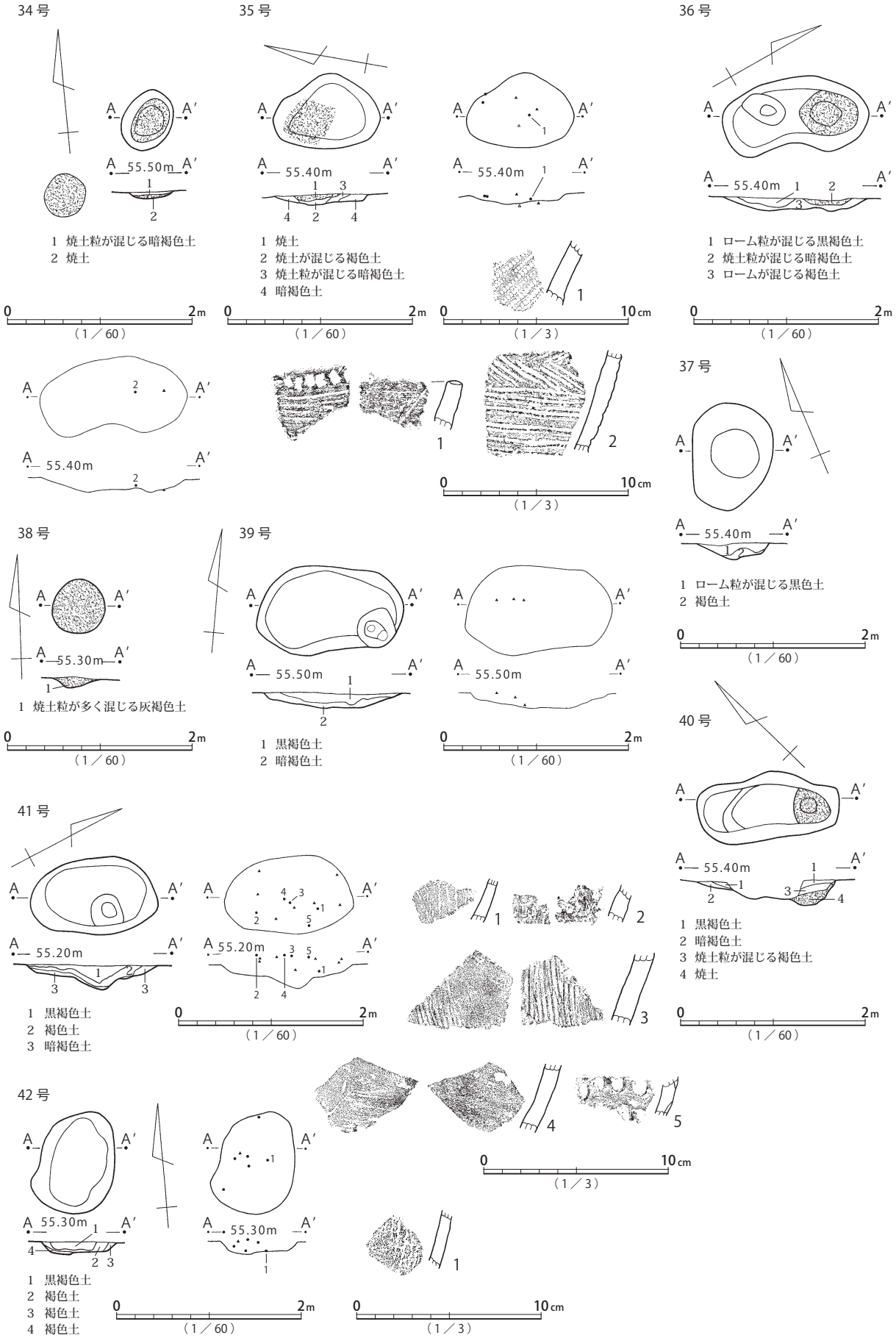
【種別】土坑

【規模他】長軸 2.45m、短軸 1.09m、深さ 15cm。形状は長楕円形を呈する（第 33 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に広がって、覆土の上部・中部にややまとまって検出されている。27 点、446g の礫が出土している。平均 16.5g の被熱した小型礫である。石器は、ホルンフェルス製の剥片が 1 点出土している。土器は、7 点、146g 出土しているが、主体は縄文前期後葉のものである。

【遺物説明】第 33 図 1 ～ 4 は、いずれも浮島・興津式の口縁部及び胴部破片で、変形爪形文・波条貝殻文・垂直刺突貝殻文などが施されている。



第32図　34号遺構、35号遺構・遺物、36号遺構・遺物、37号遺構、38号遺構、39号遺構、40号遺構、41号遺構・遺物、42号遺構・遺物

44 号遺構

【検出位置】東側　A40 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 2.24m、短軸 1.35m、深さ 13cm。形状は楕円形を呈する（第 33 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構のやや南寄りに分布し、覆土の中部・下部にややまとまって検出されている。32 点、467g の礫が出土している。平均 14.6g の被熱した小型礫である。土器は、6 点、50g 出土しているが、主体は縄文早期条痕文系のものである。

【遺物説明】第 33 図 1 は、条痕文系土器の胴部片である。

45 号遺構

【検出位置】東側　A40 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 2.52m、短軸 0.94m、深さ 26cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 33 図）。

【覆土】焼土粒やローム粒などを多く含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に広がって、覆土の中部・下部にまとまって検出されている。154 点、1,759g の礫が出土している。平均 11.4g の被熱した小型礫がほとんどである。石器は、磨石が 1 点出土している。土器は、61 点、1,043g 出土しており、そのほぼ全てが縄文早期条痕文系のものである。

【遺物説明】第 33 図 1・3 は、外内面に貝殻条痕文が施された口縁部・胴部、2 は繊維条痕文が施された口縁部である。第 34 図 4 は、口径 19.4cm・残存器高 16.2cm を測る深鉢形土器で、外内面に横位・斜位方向の貝殻条痕文が、口唇部には刺突文が施される。数片の破片が、燃焼面のある側と無い側に別れて検出された。5 は、最大長 61.0mm、重さ 200g を測る溶結凝灰岩製の磨石である。

46 号遺構

【検出位置】東側　A40 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.66m、短軸 0.93m、深さ 26cm。形状は楕円形を呈する（第 34 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に広がって、覆土の上部・中部にややまとまって検出されている。24 点、450g の礫が出土している。平均 18.8g の被熱した小型礫である。土器は、6 点、82g 出土しているが、主体は縄文早期条痕文系のものである。

【遺物説明】第 34 図 1・2 は、繊維条痕文が施された口縁部・胴部片である。3 は、地縄文上に横位の集合沈線文が施される諸磯 b 式の胴部とみられる。

47 号遺構

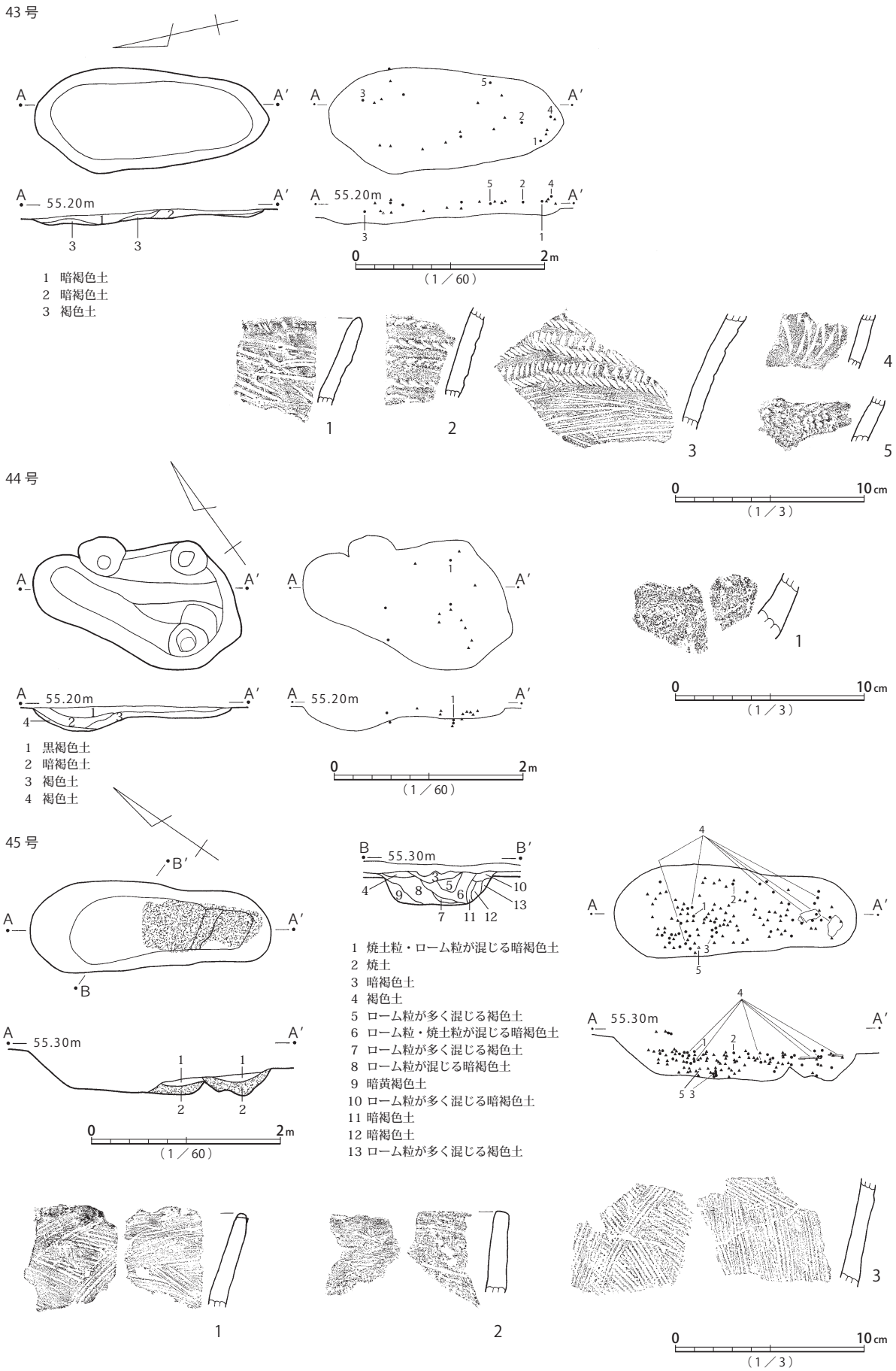
【検出位置】東側　A40 区

【種別】土坑

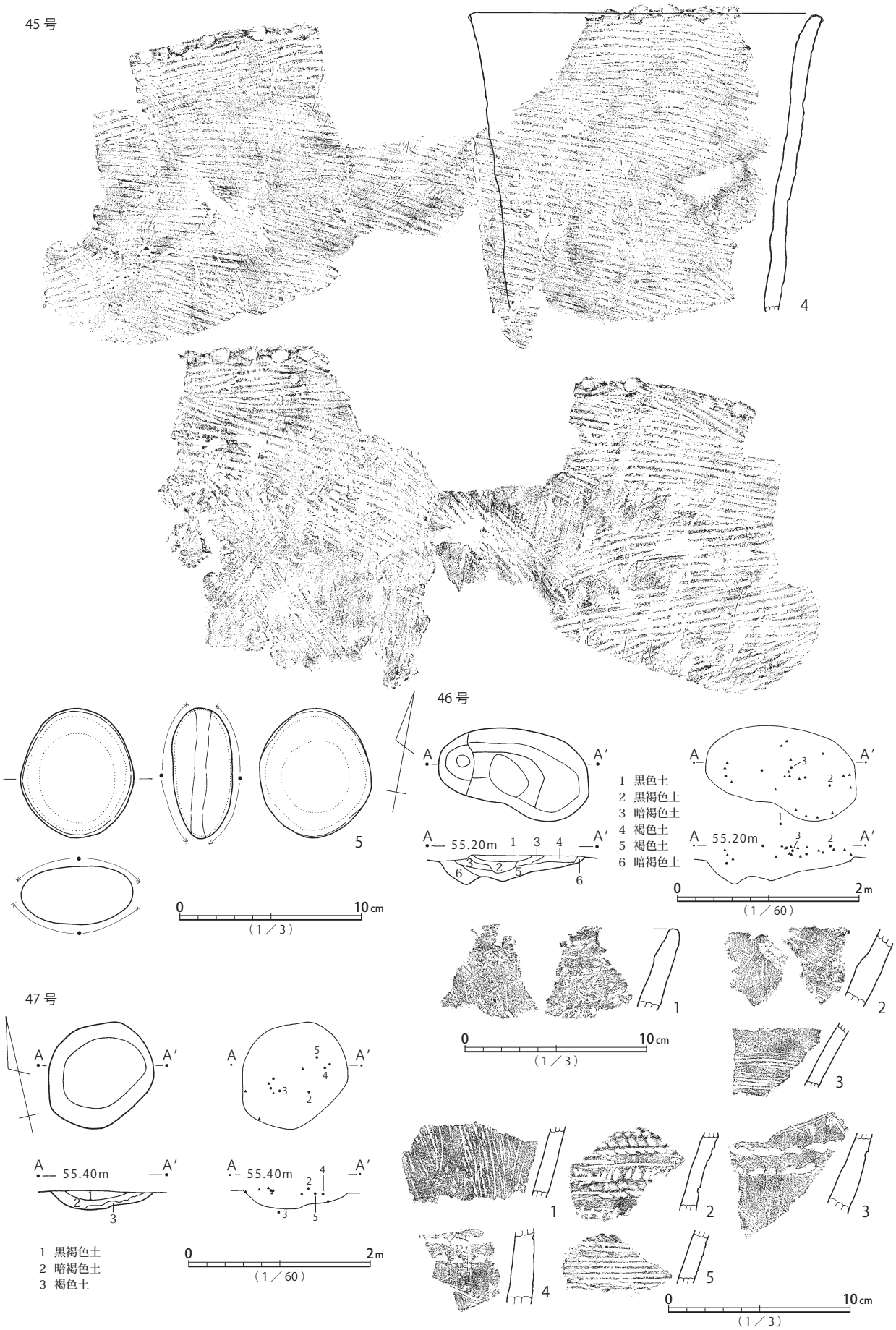
【規模他】長軸 1.24m、短軸 1.06m、深さ 20cm。形状は円形を呈する（第 34 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の中央部に分布し、覆土の上部にややまとまって検出されている。5 点、



第 33 図　43 号遺構・遺物、44 号遺構・遺物、45 号遺構・遺物（1）



第 34 図　45 号遺構・遺物（2）、46 号遺構・遺物、47 号遺構・遺物

76g の礫が出土している。平均 15.2g の被熱した小型礫である。土器は、13 点、193g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉などであるが、このうち主体となるのは前期後葉のものであった。

【遺物説明】第 34 図 1 は、撚糸文系土器の胴部、2 ～ 4 は変形爪形文が施された浮島・興津式の胴部、5 は横位の集合沈線文が施された諸磯 c 式の胴部片とみられる。

48 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 2.12m、短軸 1.40m、深さ 30cm。形状は不整形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 35 図）。

【覆土】焼土を含む土層などを主体とする。

【出土遺物】遺物は、遺構の中央部付近に分布し、覆土の中部・下部にややまとまって検出されている。34 点、529g の礫が出土している。平均 15.6g の被熱した小型礫である。土器は、22 点、138g 出土しており、そのほぼ全てが縄文早期条痕文系のものである。

【遺物説明】第 35 図 1 は、撚糸文系土器の口縁部である。2 ～ 10 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部の破片で、外内面には貝殻条痕文や繊維条痕文が施される。

49 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.18m、短軸 0.50m、深さ 13cm。形状は長楕円形を呈する（第 35 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の中央部付近に分布し、覆土の上部・下部から検出されている。5 点、173g の礫が出土している。平均 34.6g の被熱した小型礫である。土器は、2 点、38g 出土している。縄文早期撚糸文系、条痕文系のものである（第 35 図 1・2）。

50 号遺構

【検出位置】東側　A41・A52 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.56m、短軸 1.26m、深さ 20cm。形状は楕円形を呈する（第 35 図）。

【覆土】含有物の少ない土層とローム粒を多く含む土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の中央部付近に分布し、覆土の上部・中部からややまとまって検出されている。40 点、786g の礫が出土している。平均 19.7g の被熱した小型礫である。土器の出土はない。

51 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】炉穴？

【規模他】長軸 1.62m、短軸 0.75m、深さ 12cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 35 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】2 点、153g の被熱した小型・大型礫が出土しているが、土器の出土はない。

52 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.85m、短軸 0.74m、深さ 26cm。形状は長楕円形を呈する（第 35 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に分布し、覆土の上部・中部にややまとまって検出されている。16 点、396g の礫が出土している。平均 24.8g の被熱した小型礫である。土器は、2 点、20g 出土しているが時期は明確でない。

【遺物説明】第 35 図 1 は、無文土器の口縁部片である。時期は定かでない。

53 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.07m、短軸 1.03m、深さ 25cm。形状は円形を呈する（第 35 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺構の中央部付近に分布し、覆土の上部・中部からややまとまって検出されている。18 点、603g の礫が出土している。平均 33.5g の被熱した小型礫である。土器は、2 点、7g 出土しているが、このうち時期の明らかなのは、縄文前期後葉のものである（第 35 図 1）。

54 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.61m、短軸 1.06m、深さ 18cm。形状は楕円形を呈する（第 35 図）。

【覆土】ローム粒を含む土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土の上部・中部からわずかに検出されている。2 点、71g の被熱した小型礫が出土している。土器は、2 点、6g 出土しているが、小片のため時期は明確でない。

55 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.35m、短軸 1.38m、深さ 33cm。形状は楕円形？を呈する。南側は、101 号との重複により欠く。焼土は 1 箇所（第 36 図）。

【覆土】ローム粒やロームブロックを含む土層を主体とする。最上層に焼土塊がある。

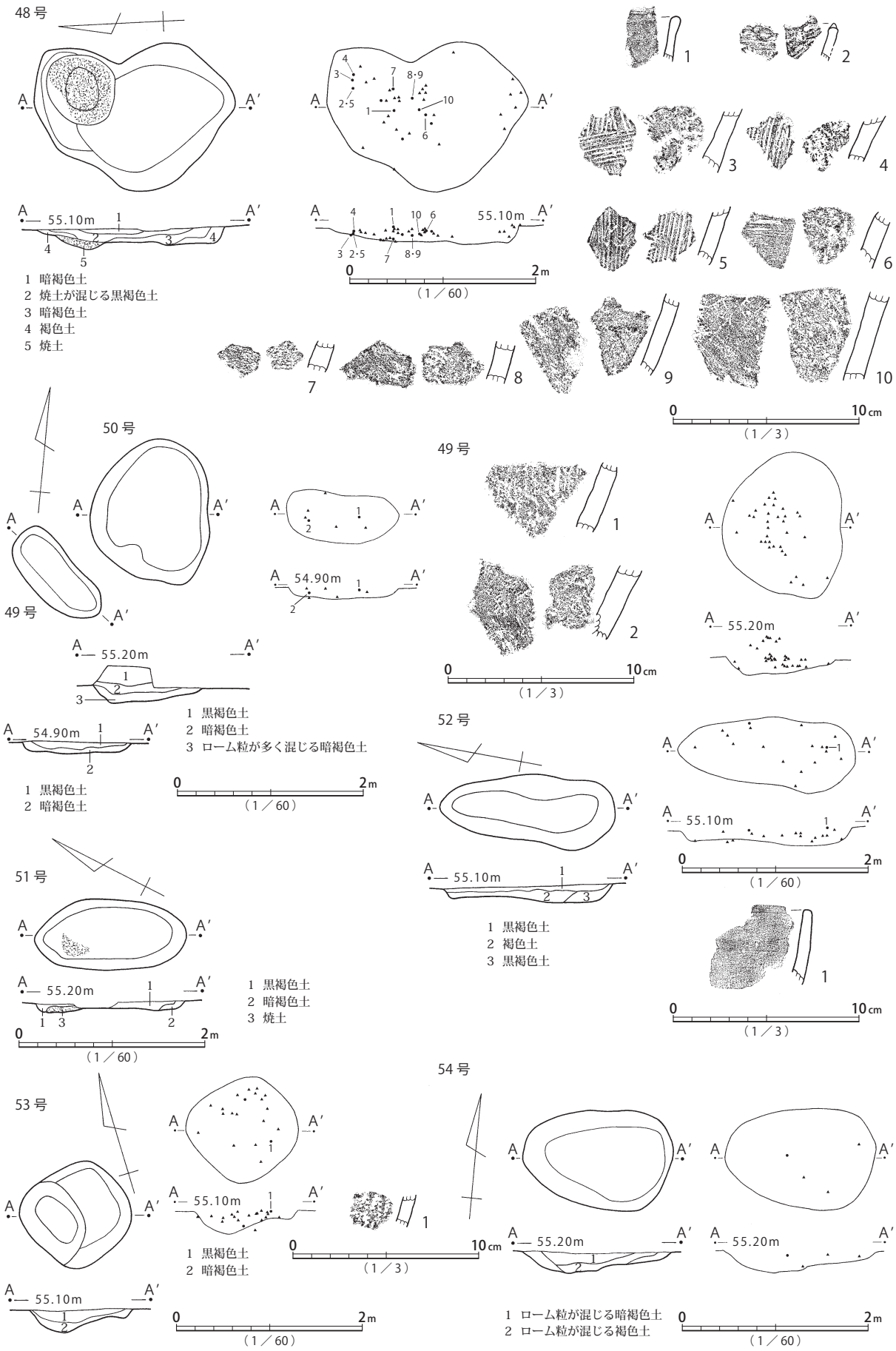
【出土遺物】1 点、26g の被熱した小型礫が出土している。土器は、1 点、7g 出土している。縄文早期条痕文系土器の口縁部片である（第 36 図 1）。発掘調査の所見による検出面などからみて、縄文期より新しい時期と判断した。

56 号遺構

【検出位置】東側　A41 区

【種別】炉穴？

【規模他】長軸 0.86m、短軸 0.78m、深さ 15cm。形状は円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 36 図）。



第35図　48号遺構・遺物、49・50号遺構・遺物、51号遺構、52号遺構・遺物、53号遺構・遺物、54号遺構

【覆土】焼土粒を含む土層からなる。
【出土遺物】遺物は、覆土の上部からわずかに検出されている。土器は、3 点、29g 出土している。縄文早期撚糸文系、条痕文系のものである（第 36 図 1・2）。

57 号遺構

【検出位置】東側　A41 区
【種別】炉穴？
【規模他】長軸 0.57m、短軸 0.47m、深さ 6cm。形状は円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 36 図）。
【覆土】焼土を含む土層からなる。
【出土遺物】覆土の下部から、1 点、3g の土器が出土しているが、小片のため時期は明確でない。

58 号遺構

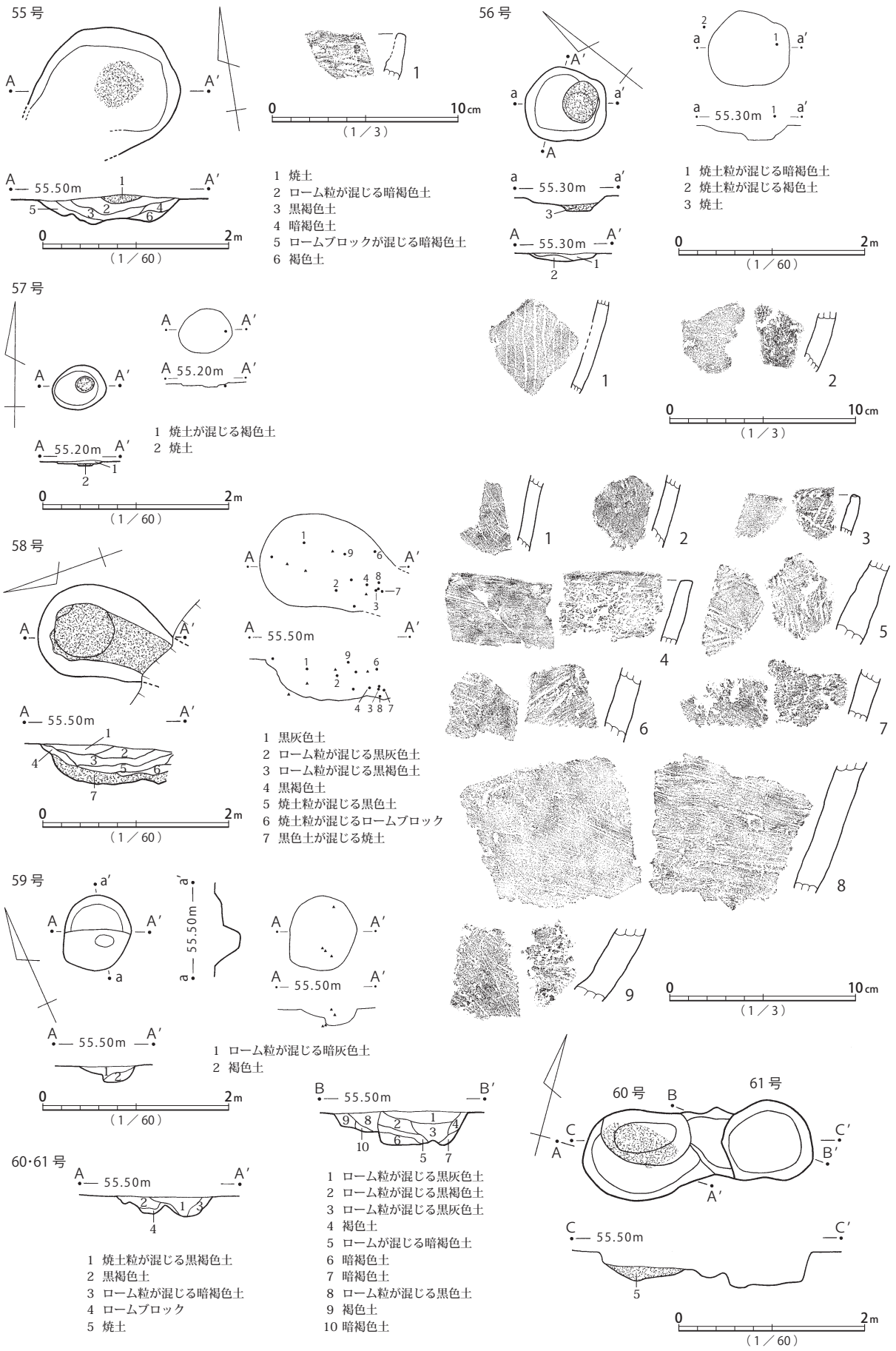
【検出位置】東側　A27 区
【種別】炉穴
【規模他】長軸 1.41m、短軸 1.05m、深さ 49cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 36 図）。
【覆土】ローム粒や焼土粒を含む土層を主体とする。
【出土遺物】遺物は、遺構の全体に分布し、覆土の上部・下部から疎らに検出されている。15 点、226g の礫が出土している。平均 15.1g の被熱した小型礫である。土器は、13 点、247g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系などからなるが、主体は条痕文系のものである。
【遺物説明】第 36 図 1・2 は、撚糸文系土器の胴部、3 ～ 9 は条痕文系土器の口縁部及び胴部片である。外内面には、貝殻条痕文又は繊維条痕文が施される。

59 号遺構

【検出位置】東側　A27・A39 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 0.79m、短軸 0.71m、深さ 27cm。形状は円形を呈する（第 36 図）。
【覆土】ローム粒を含む土層などからなる。
【出土遺物】遺物は、覆土の上部・下部からわずかに検出されている。5 点、85g の礫が出土している。平均 17g の被熱した小型礫である。土器の出土はないが、遺構検出面がローム漸移層であることからみて、縄文期のものと判断した。

60 号遺構

【検出位置】東側　A27 区
【種別】炉穴
【規模他】長軸 1.27m、短軸 1.02m、深さ 30cm。形状は楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 36 図）。
【覆土】焼土粒やローム粒を含む土層を主体とする。
【出土遺物】遺物は、遺構の全体に分布し、覆土の上部から下部まで広い範囲で検出されている。29 点、362g の礫が出土している。平均 12.5g の被熱した小型礫である。土器は、8 点、37g 出土しており、縄文早期撚糸文系、条痕文系が見られるが、主体は条痕文系のものである（第 37 図 1 ～ 5）。



第 36 図　55 号遺構・遺物、56 号遺構・遺物、57 号遺構、58 号遺構・遺物、59 号遺構、60・61 号遺構・遺物（1）

61 号遺構

【検出位置】東側　A27 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.37m、短軸 0.89m、深さ 37cm。形状は楕円形を呈する（第 36 図）。

【覆土】ローム粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に分布し、覆土の上部から下部まで広い範囲で検出されている。50 点、458g の礫が出土している。平均 9.2g の被熱した小型礫である。石器は、チャート製の剥片が 1 点出土している。土器は、25 点、255g 出土しており、そのほとんどが縄文早期条痕文系のものである（第 37 図 6 ～ 12）。

62 号遺構

【検出位置】東側　A27 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 1.13m、短軸 0.71m、深さ 15cm。形状は楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 37 図）。

【覆土】焼土粒を含む土層などからなる。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に広がり、覆土の中部・下部にややまとまって検出されている。17 点、103g の礫が出土している。平均 6.1g の被熱した小型礫である。石器は、チャート製の剥片が 1 点出土している。土器は、6 点、156g 出土しており、そのほとんどが縄文早期条痕文系のものである。

【遺物説明】第 37 図 1 は、早期条痕文系土器の口縁部である。外面にやや斜位の貝殻条痕文、内面に横位の繊維条痕文、口唇部に絡条体圧痕が見られる。

63 号遺構

【検出位置】東側　A27 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.07m、短軸 0.77m、深さ 25cm。形状は楕円形を呈する（第 37 図）。

【覆土】ローム粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、遺構の中央部に分布し、覆土の上部・中部にわずかに検出されている。10 点、124g の礫が出土している。平均 12.4g の被熱した小型礫である。土器は、1 点、4g 出土している。縄文早期撚糸文系土器の胴部片である（第 37 図 1）。

64 号遺構

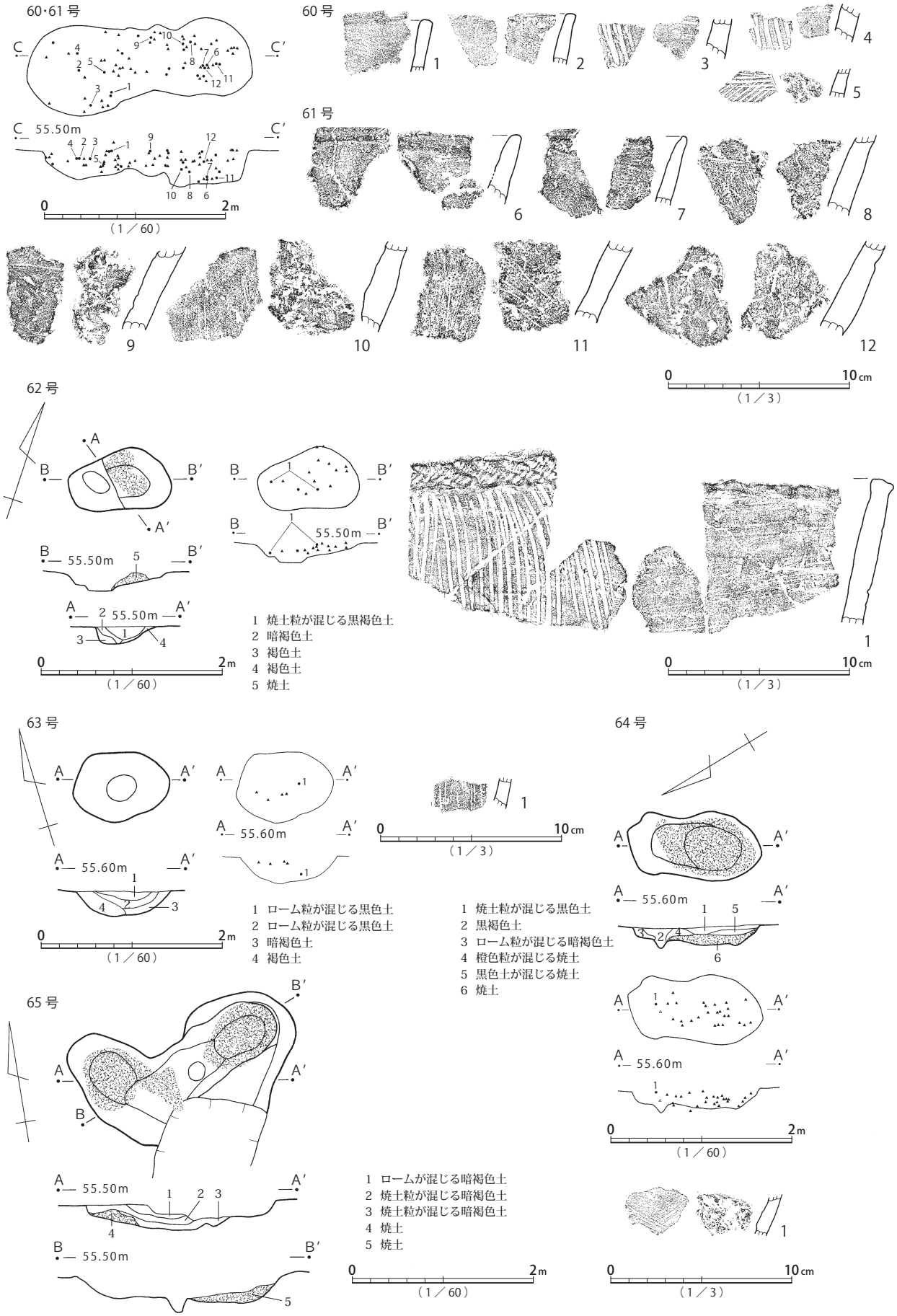
【検出位置】東側　A27 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 1.49m、短軸 0.76m、深さ 21cm。形状は楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 37 図）。

【覆土】焼土粒やローム粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に分布し、覆土の上部から下部まで広い範囲で検出されている。35 点、553g の礫が出土している。平均 15.8g の被熱した小型礫である。石器は、黒曜石製の剥片が 1 点出土している。土器の出土は、2 点、9g のみであるが、このうち時期の分かるのは縄文早期条痕文系土器の胴部破片である（第 37 図 1）。



第 37 図　60・61 号遺構・遺物（2）、62 号遺構・遺物、63 号遺構・遺物、64 号遺構・遺物、65 号遺構・遺物（1）

65 号遺構

【検出位置】東側　A27 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 2.34m、短軸 1.44m、深さ 32cm。形状は不整形を呈する。燃焼面は 2 箇所（第 37 図）。

【覆土】焼土粒やローム粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、遺構の全体に分布し、覆土の上部から下部まで広い範囲で検出されている。65 点、696g の礫が出土している。平均 10.7g の被熱した小型礫である。土器は、25 点、422g 出土している。縄文早期撚糸文系、条痕文系などが見られるが、主体は条痕文系のものである。

【遺物説明】第 38 図 1・2 は撚糸文系土器の胴部、3 ～ 5 は条痕文系土器の胴部である。3 には、絡条体圧痕のある縦位隆帯が施される。

66 号遺構

【検出位置】東側　A27 区

【種別】炉穴

【規模他】長軸 1.43m、短軸 1.25m、深さ 28cm。形状は長楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 38 図）。

【覆土】焼土粒やローム粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、遺構の東側にややまとまって分布し、覆土の上部・下部から検出されている。15 点、186g の礫が出土している。平均 12.4g の被熱した小型礫である。土器は、6 点、133g 出土している。縄文早期撚糸文系、条痕文系が見られるが、主体は条痕文系のものである。

【遺物説明】第 38 図 1・2 は撚糸文系土器の胴部、3・4 は条痕文系土器の口縁部及び胴部である。

67 号遺構

【検出位置】東側　A27 区

【種別】炉穴？

【規模他】長軸 0.69m、短軸 0.55m、深さ 15cm。形状は円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 38 図）。

【覆土】焼土粒を含む土層からなる。

【出土遺物】1 点、4g の土器が出土しているにすぎない。小片のため時期は明確でない。遺構周囲からは、広い範囲で焼礫が出土している。

68 号遺構

【検出位置】東側　A28 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.01m、短軸 0.79m、深さ 18cm。形状は円形を呈する（第 38 図）。

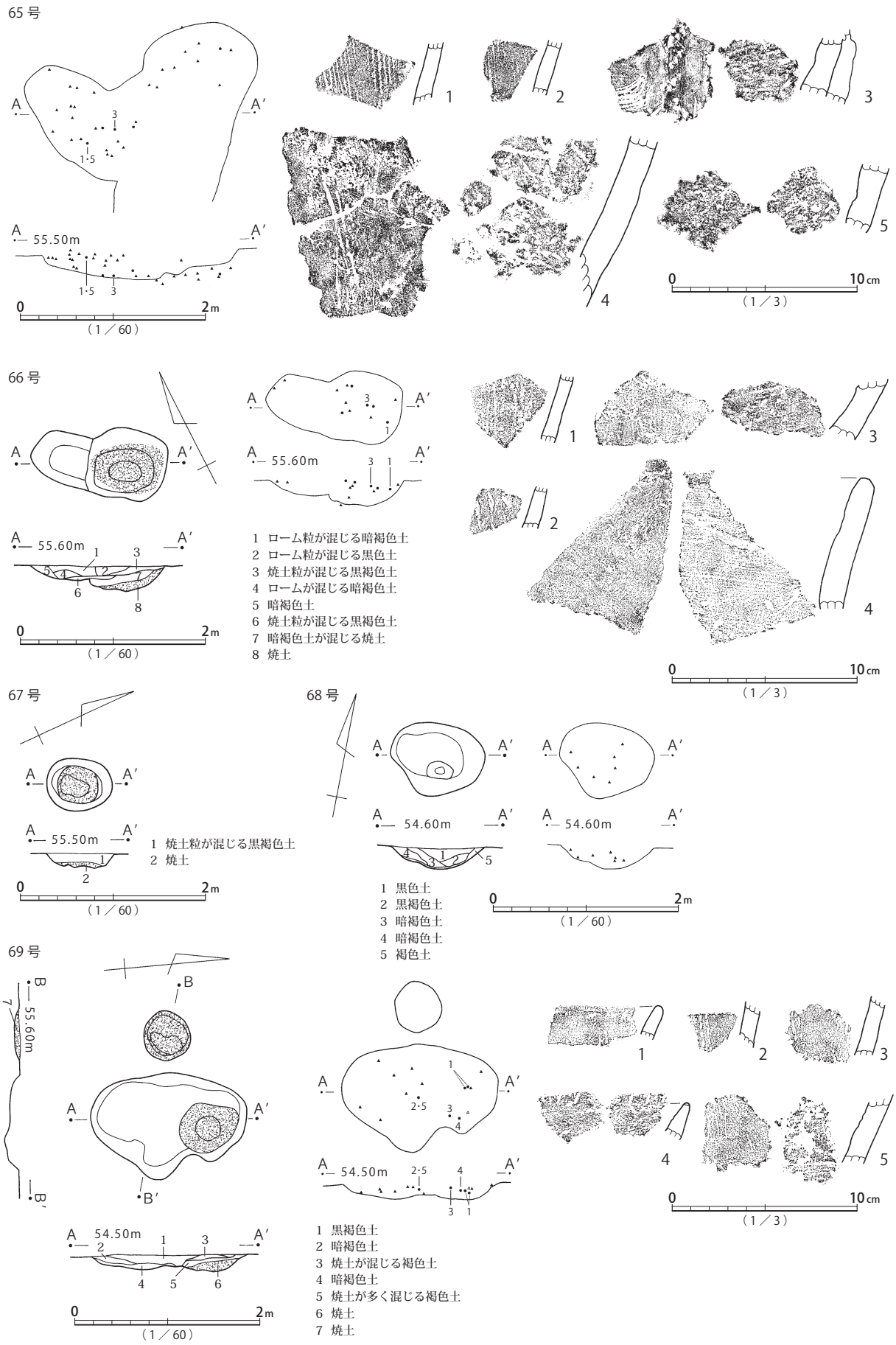
【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土の上部・下部からわずかに検出されている。7 点、78g の礫が出土している。平均 11.1g の被熱した小型礫である。土器の出土はないが、遺構検出面がローム漸移層であることからみて、縄文期のものと判断した。

69 号遺構

【検出位置】東側　A28 区

【種別】炉穴



第 38 図　65 号遺構・遺物（2）、66 号遺構・遺物、67 号遺構、68 号遺構、69 号遺構・遺物

【規模他】長軸 1.78m、短軸 1.65m、深さ 18cm。形状は不整形を呈する。燃焼面は 2 箇所（第 38 図）。
【覆土】焼土粒を含む土層などからなる。
【出土遺物】遺物は、遺構の全体に疎らに分布し、覆土の中部にややまとまって検出されている。10 点、261g の礫が出土している。平均 26.1g の被熱した小型礫である。土器は、5 点、51g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系のものである。
【遺物説明】第 38 図 1 は撚糸文系土器の口縁部、2・3 は胴部、4 は条痕文系土器の口縁部、5 は胴部である。

70 号遺構

【検出位置】東側　A28 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.03m、短軸 0.96m、深さ 14cm。形状は円形を呈する（第 39 図）。
【覆土】含有物の少ない土層からなる。
【出土遺物】遺物は、覆土の上部・下部からわずかに検出されている。3 点、33g の被熱した小型礫が出土している。土器の出土はないが、遺構検出面がローム漸移層であることからみて、縄文期のものと判断した。

71 号遺構

【検出位置】東側　A28 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 0.94m、短軸 0.83m、深さ 12cm。形状は円形を呈する（第 39 図）。
【覆土】ロームを含む土層などからなる。
【出土遺物】遺物は、覆土の上部・中部からわずかに検出されている。2 点、65g の被熱した小型・中型礫が出土している。土器は、2 点、23g 出土している。
【遺物説明】第 39 図 1 は、無文の土器の口縁部である。2 は、斜位の撚糸文が施される土器で浮島式のものとみられる。

72 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.66m、短軸 0.92m、深さ 26cm。形状は長楕円形を呈する（第 39 図）。
【覆土】含有物の少ない土層からなる。
【出土遺物】遺物は、覆土の下部からわずかに検出されている。2 点、20g の土器が出土している。
【遺物説明】第 39 図 1 は縄文早期撚糸文系土器の口縁部、2 は無文土器の胴部である。

73 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.59m、短軸 0.96m、深さ 32cm。形状は楕円形を呈する（第 39 図）。
【覆土】木炭粒や粘土を含む土層などからなる。覆土中から数片の人骨とみられる焼骨が検出されている。

【出土遺物】土器は、2 点、36g 出土している。
【遺物説明】第 39 図 1 は、覆土中より出土した須恵器坏の破片、2 は遺構北壁際より出土した縄文早期条痕文系土器の胴部片である。人骨片などからみて、奈良・平安時代の火葬墓であろう。

74 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 2.02m、短軸 1.42m、深さ 61cm。形状は楕円形を呈する（第 39 図）。
【覆土】ロームブロック・ローム粒を含む土層などからなる。
【出土遺物】15 点、262g の礫が出土している。平均 17.5g のほとんどが被熱した小型礫である。土器の出土はない。発掘調査の所見による検出面などからみて、縄文期より新しい時期と判断した。

75 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 2.76m、短軸 1.18m、深さ 31cm。形状は不整形を呈する（第 39 図）。74 号遺構との重複により、遺構中央部を欠く。
【覆土】ロームブロック・ローム粒を含む土層などからなる。
【出土遺物】15 点、325g の礫が出土している。平均 21.7g の被熱した小型礫である。土器は、6 点、97g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系などであるが、主体は撚糸文系のものである。
【遺物説明】第 39 図 1 ～ 3 は、撚糸文系土器の胴部である。4 は、条痕文系土器の胴部である。

76 号遺構

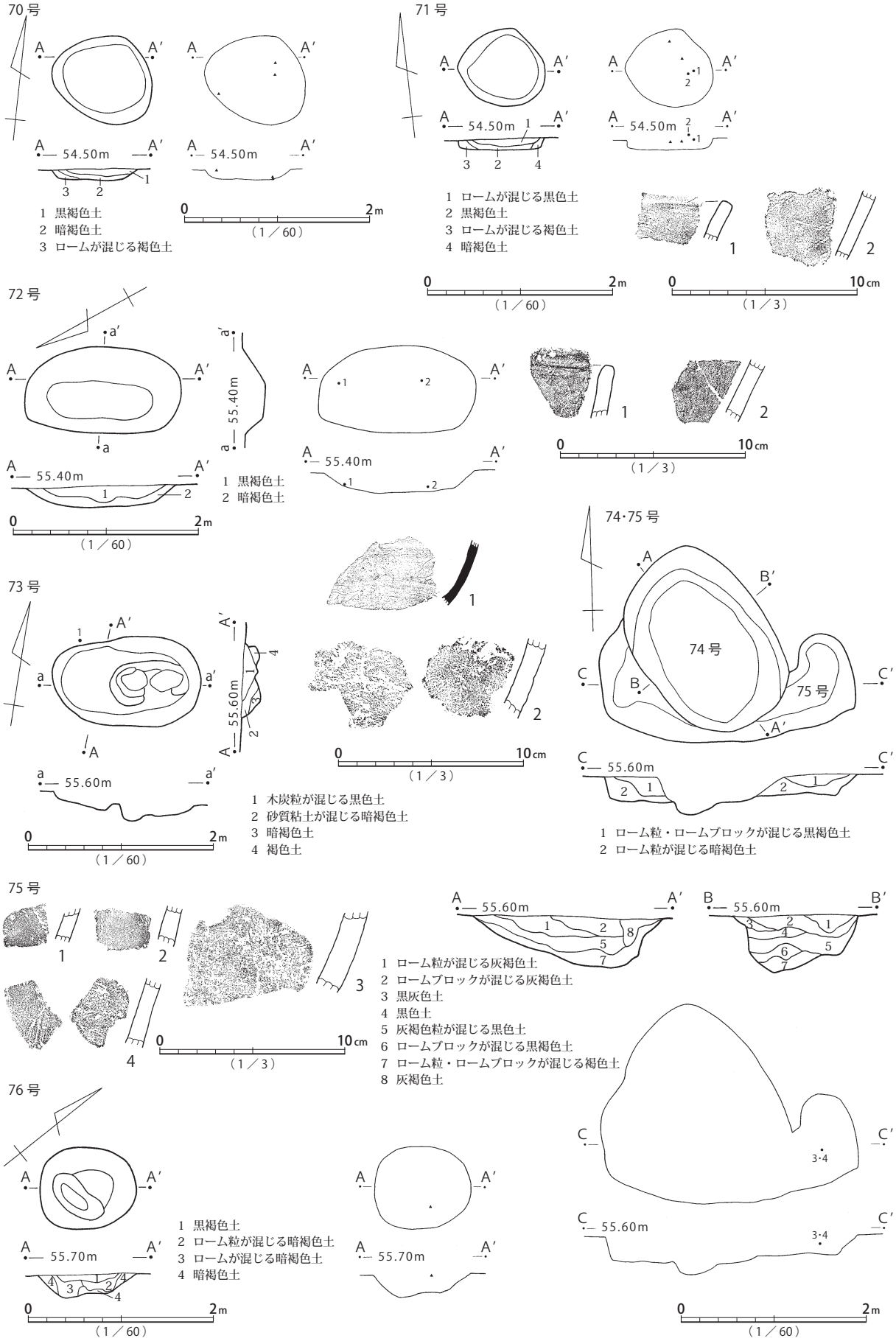
【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.05m、短軸 0.88m、深さ 29cm。形状は円形を呈する（第 39 図）。
【覆土】ローム・ローム粒を含む土層などからなる。
【出土遺物】覆土の上部から 1 点、27g の被熱した小型礫が出土している。土器の出土はないが、遺構検出面がローム漸移層であることからみて、縄文期のものと判断した。

77 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 2.90m、短軸 1.01m、深さ 28cm。形状は長楕円形を呈する（第 40 図）。
【覆土】黄褐色粒・赤褐色粒を含む土層を主体とする。
【出土遺物】遺物は、覆土の上部・下部からわずかに検出されている。4 点、125g の礫が出土している。被熱した小型礫と被熱の痕跡のない中型礫である。土器は、4 点、47g 出土している。このうち 3 点は縄文早期条痕文系のものである（第 40 図 1）。

78 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑



第39図　70号遺構、71号遺構・遺物、72号遺構・遺物、73号遺構・遺物、74・75号遺構・遺物、76号遺構

【規模他】長軸 1.33m、短軸 1.30m、深さ 21cm。形状は楕円形を呈する（第 40 図）。
【覆土】黄褐色粒・赤褐色粒を含む土層を主体とする。
【出土遺物】遺物は、遺構の中央部に分布し、覆土の上部から下部まで広がって検出されている。9 点、111g の礫が出土している。平均 12.3g の被熱した小型礫である。石器は、黒曜石製の剥片が 1 点出土している。土器は、38 点、278g 出土している。このうちのほとんどが、縄文早期条痕文系のものである。
【遺物説明】第 40 図 1 ～ 3 は、条痕文系土器の口縁部、4 ～ 8 は胴部破片である。

79 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 0.90m、短軸 0.82m、深さ 25cm。形状は円形を呈する（第 40 図）。
【覆土】木炭や木炭粒を含む土層からなる。
【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していない。発掘調査の所見による検出面などからみて、縄文期より新しい時期と判断した。

80 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.62m、短軸 0.95m、深さ 13cm。形状は楕円形を呈する（第 40 図）。
【覆土】含有物の少ない土層からなる。
【出土遺物】遺物は、覆土の上部・中部からわずかに検出されている。5 点、41g の礫が出土している。平均 8.2g の被熱した小型礫である。土器は、1 点、8g 出土している。縄文早期条痕文系土器の胴部片である（第 40 図 1）。

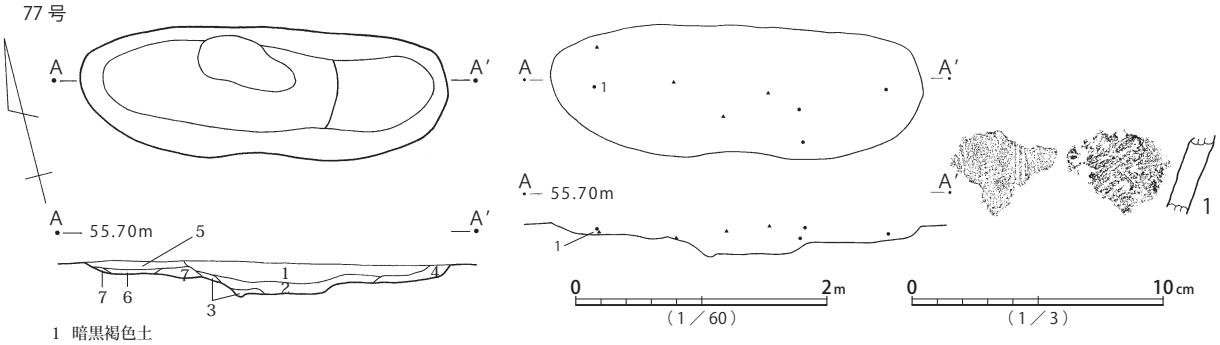
81 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 1.19m、短軸 0.82m、深さ 27cm。形状は楕円形を呈する（第 40 図）。
【覆土】含有物の少ない土層からなる。
【出土遺物】遺物は、遺構の中央に疎らに分布し、覆土の中部にややまとまって検出されている。5 点、25g の礫が出土している。平均 5 g の被熱した小型礫である。土器は、3 点、11g 出土している。いずれも縄文早期条痕文系土器の胴部片である（第 40 図 1）。

82 号遺構

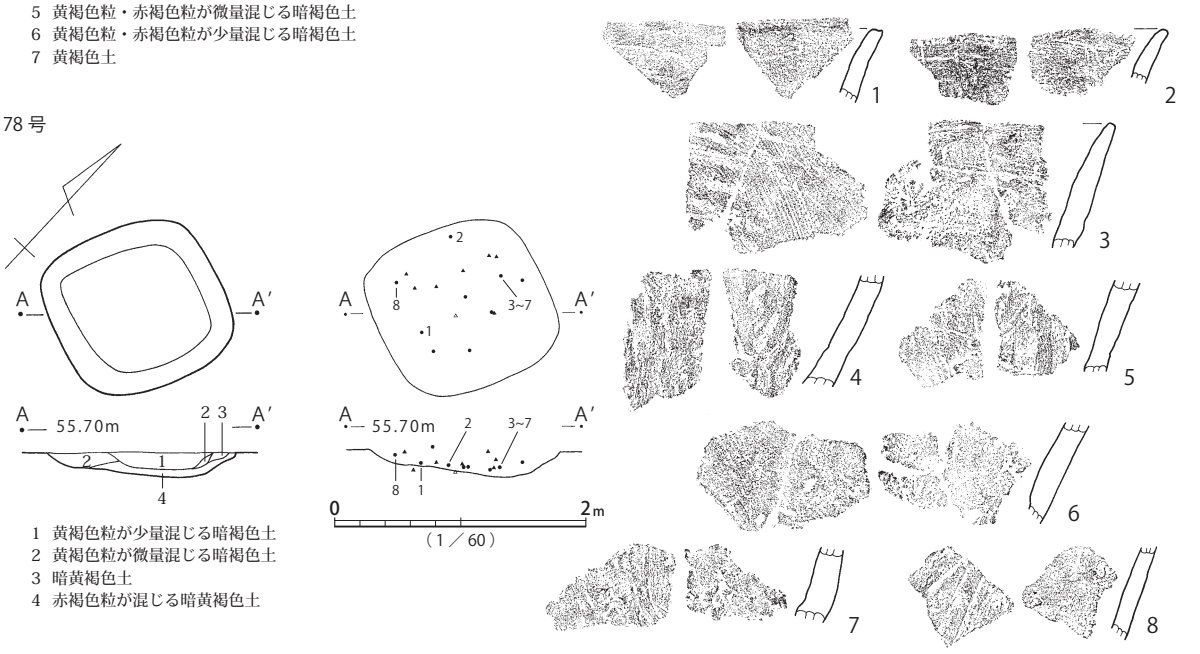
【検出位置】東側　A30 区
【種別】土坑
【規模他】長軸 0.88m、短軸 0.86m、深さ 31cm。形状は円形を呈する（第 40 図）。
【覆土】ローム粒やロームブロックを含む土層を主体とする。
【出土遺物】4 点、228g の礫が出土している。平均 57g の被熱した小型礫である。土器の出土はないが、発掘調査の所見による検出面などからみて、縄文期のものと判断した。

77 号



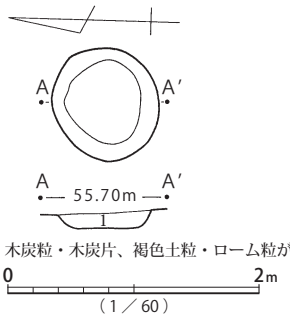
1 暗黒褐色土
2 黄褐色粒が多く混じる暗黒褐色土
3 暗黄褐色土
4 黒褐色土が少量混じる暗黄褐色土
5 黄褐色粒・赤褐色粒が微量混じる暗褐色土
6 黄褐色粒・赤褐色粒が少量混じる暗褐色土
7 黄褐色土

78 号



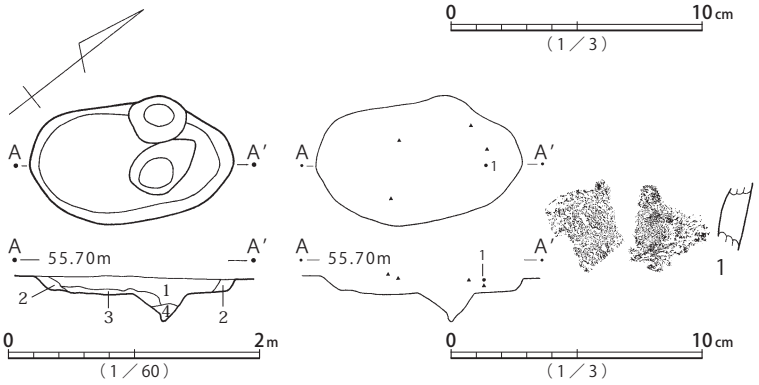
1 黄褐色粒が少量混じる暗褐色土
2 黄褐色粒が微量混じる暗褐色土
3 暗黄褐色土
4 赤褐色粒が混じる暗黄褐色土

79 号



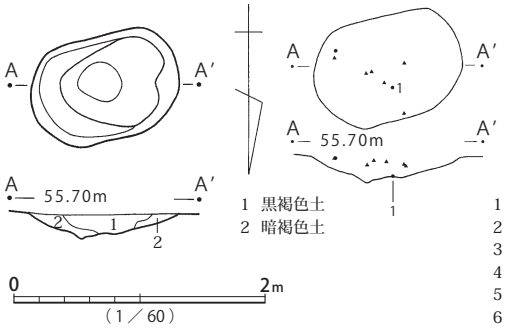
1 木炭粒・木炭片、褐色土粒・ローム粒が混じる黒褐色土

80 号

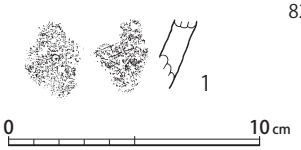


1 黒褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土
4 褐色土

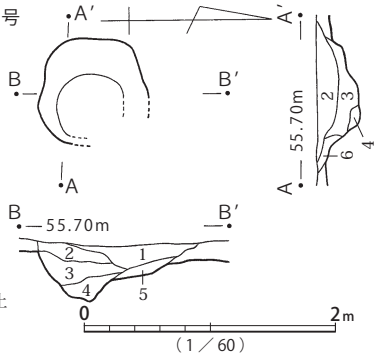
81 号



1 黒褐色土
2 暗褐色土



82 号



1 ローム粒が混じる褐色土
2 暗褐色土
3 ローム粒が混じる黒褐色土
4 ロームブロック・ローム粒が混じる暗褐色土
5 ローム粒が混じる暗褐色土
6 黒褐色土

第40図　77号遺構・遺物、78号遺構・遺物、79号遺構、80号遺構・遺物、81号遺構・遺物、82号遺構

83 号遺構

【検出位置】東側　A30 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.87m、短軸 1.50m、深さ 32cm。形状は楕円形を呈する（第 41 図）。

【覆土】焼土粒や炭化物粒を含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、覆土の中部からわずかに検出されている。2 点、17g の被熱した小型礫が出土している。土器は、時期不明の縄文土器 1 点、8g が出土している（第 41 図 1）。

84 号遺構

【検出位置】東側　A14 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.17m、短軸 0.82m、深さ 30cm。形状は楕円形を呈する（第 41 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】2 点、29g の被熱した小型礫が出土している。土器は、2 点、14g 出土している。いずれも縄文早期条痕文系土器の胴部片である（第 41 図 1）。

85 号遺構

【検出位置】東側　A14 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 0.90m、短軸 0.80m、深さ 34cm。形状は円形を呈する（第 41 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】1 点、9g の被熱した小型礫が出土している。土器は、時期不明の縄文土器 1 点、1g が出土している。

86 号遺構

【検出位置】東側　A14 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.39m、短軸 0.95m、深さ 30cm。形状は楕円形を呈する（第 41 図）。

【出土遺物】土器は、1 点、21g 出土している。縄文早期条痕文系土器の胴部破片である（第 41 図 1）。発掘調査の所見による検出面などからみて、縄文期より新しい時期と判断した。

87 号遺構

【検出位置】東側　A14 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 0.99m、短軸 0.76m、深さ 23cm。形状は楕円形を呈する（第 41 図）。

【覆土】ローム粒を含む土層などからなる。

【出土遺物】土器は、3 点、33g 出土している。縄文早期条痕文系土器の口縁部及び胴部破片である（第 41 図 1・2）。

88 号遺構

【検出位置】東側　A14 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.10m、短軸 0.85m、深さ 32cm。形状は楕円形を呈する（第 41 図）。

【覆土】ロームを含む土層などからなる。

【出土遺物】土器は、2 点、13g 出土している。いずれも、縄文早期条痕文系土器の胴部破片である（第 41 図 1）。

89 号遺構

【検出位置】東側　A15 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.34m、短軸 0.79m、深さ 20cm。形状は楕円形を呈する（第 41 図）。

【覆土】含有物の少ない土層からなる。

【出土遺物】遺物は、覆土の上部・中部からわずかに検出されている。2 点、44g の被熱した小型礫が出土している。土器は、1 点、8g 出土している。縄文早期条痕文系土器の胴部破片である（第 41 図 1）。

90 号遺構

【検出位置】東側　A16 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.62m、短軸 0.98m、深さ 14cm。形状は楕円形を呈する（第 41 図）。

【覆土】上部に固結火山灰土塊を含む。

【出土遺物】1 点、14g の被熱した小型礫が出土している。土器は、1 点、1g 出土している。

91 号遺構

【検出位置】東側　A16 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.08m、短軸 0.84m、深さ 14cm。形状は楕円形を呈する（第 42 図）。

【覆土】焼土、焼土粒やローム粒を含む土層からなる。

【出土遺物】10 点、25g の被熱した小型礫が出土している。土器は、4 点、13g 出土している。土師器片などである。

92 号遺構

【検出位置】東側　A66 区

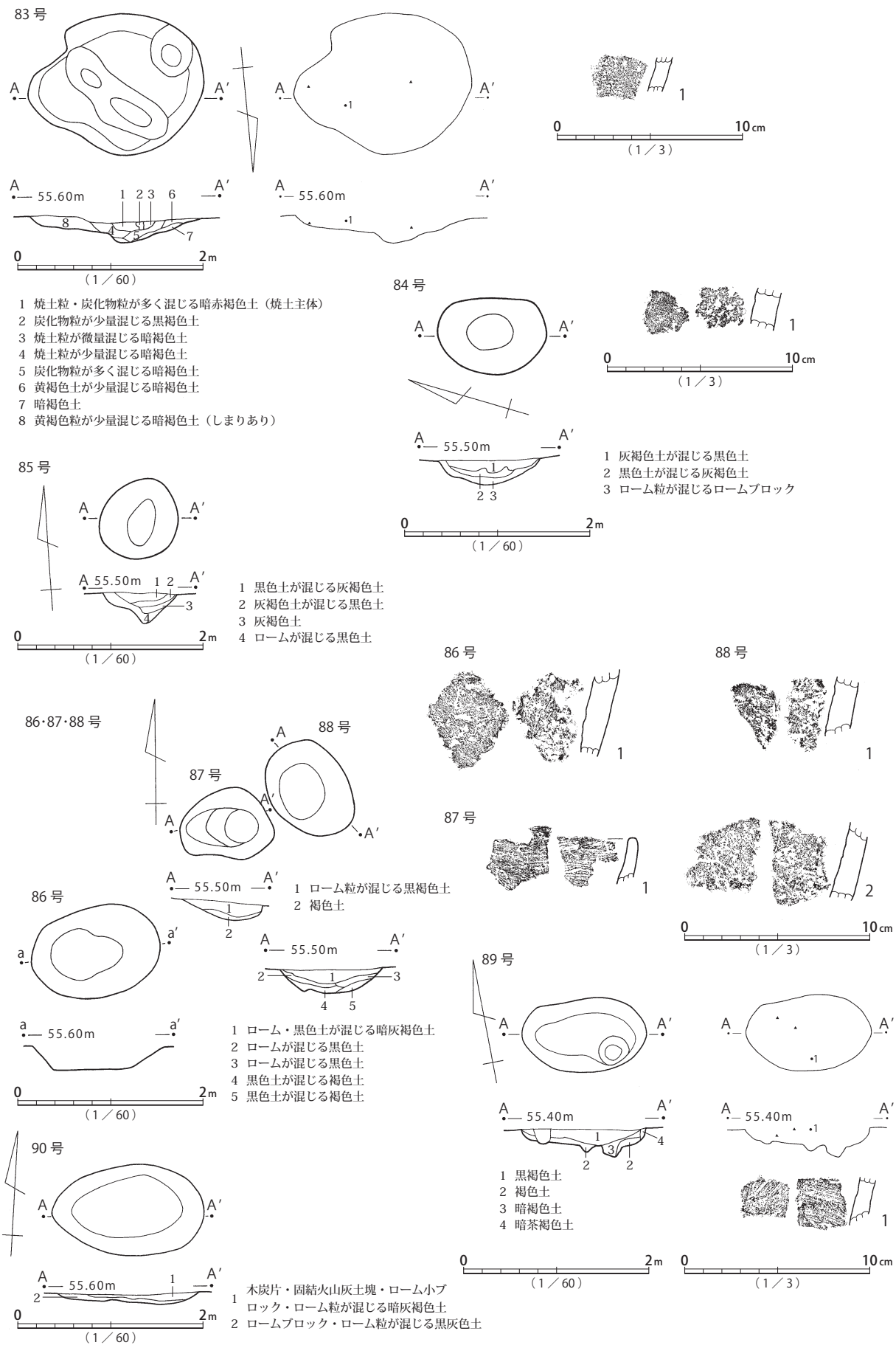
【種別】焼土

【規模他】長軸 1.17m、短軸 0.95m、深さ 50cm。焼土が不整形に分布する（第 42 図）。

【覆土】焼土、焼土粒を含む土層などからなる。

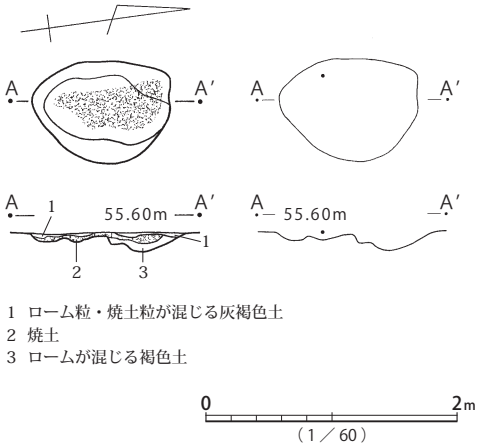
【出土遺物】遺物は、焼土塊の周辺から検出されているが、垂直位置はこれより下方である。8 点、146g の礫が出土している。平均 18.3g の被熱した小型礫である。土器は、19 点、356g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉などであるが、条痕文系のものを主体とする。

【遺物説明】第 42 図 1 ～ 3 は、撚糸文系土器の胴部である。4 ～ 8 は条痕文系土器の口縁部及び胴



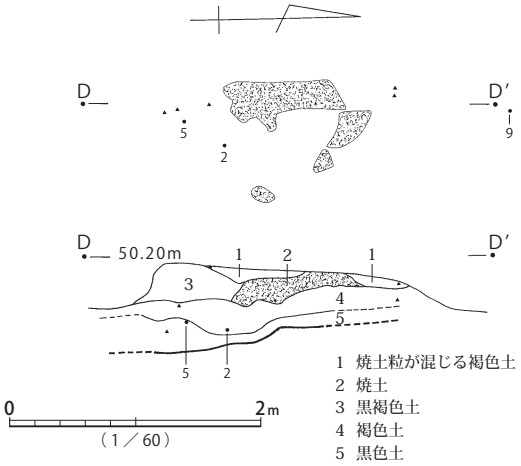
第41図　83号遺構・遺物、84号遺構・遺物、85号遺構、86・87・88号遺構・遺物、89号遺構・遺物、90号遺構

91 号

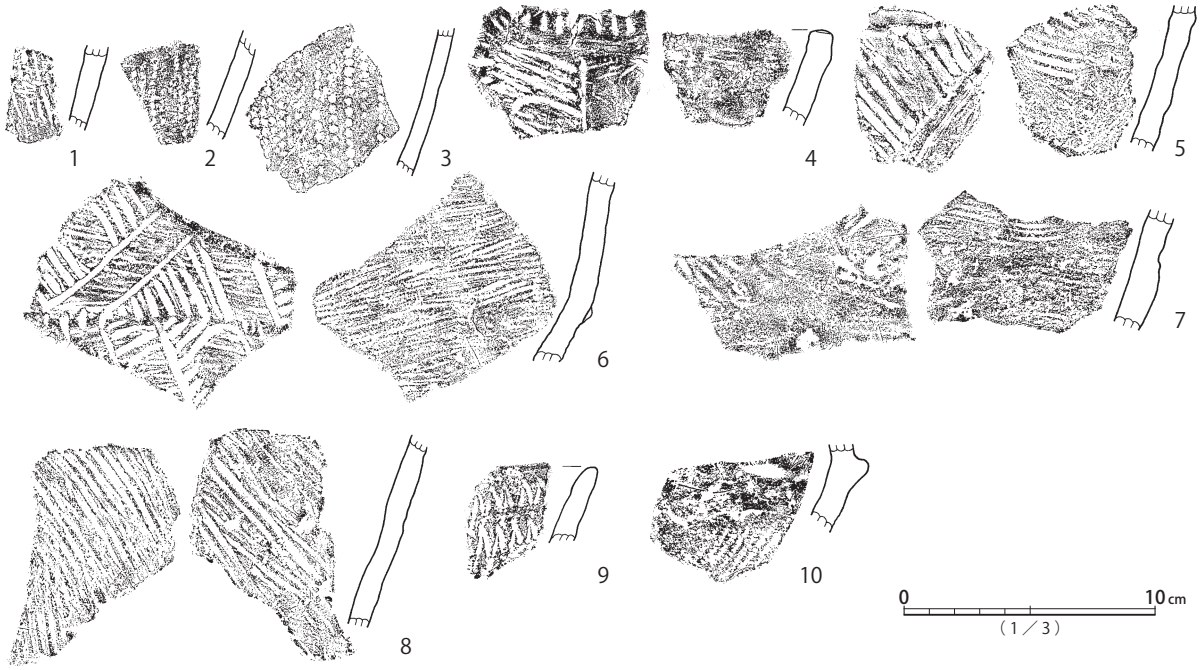


1 ローム粒・焼土粒が混じる灰褐色土
2 焼土
3 ロームが混じる褐色土

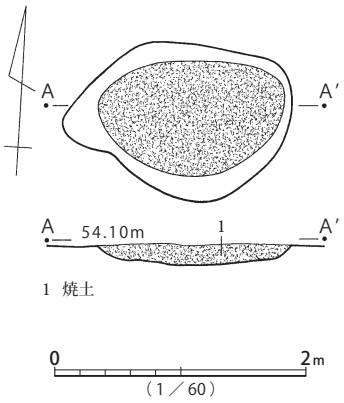
92 号



1 焼土粒が混じる褐色土
2 焼土
3 黒褐色土
4 褐色土
5 黒色土

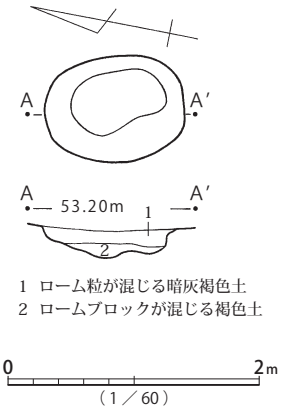


93 号



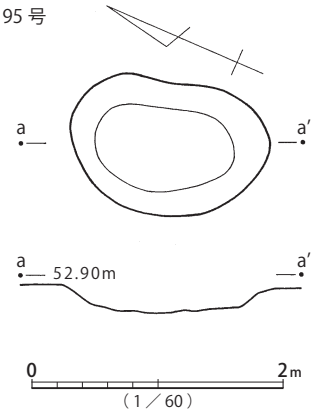
1 焼土

94 号



1 ローム粒が混じる暗灰褐色土
2 ロームブロックが混じる褐色土

95 号



第42図　91号遺構、92号遺構・遺物、93号遺構、94号遺構、95号遺構

部である。内外面に貝殻条痕文が施される。5 では微隆帯区画内に条線文が、6 では沈線区画内に条線文が施される。野島式と見られる。9 は、波条貝殻文を施す口縁部片で、浮島式と見られる。出土遺物は全て縄文時代のものであるが、焼土塊より下位の土層中のものを主とすることから、焼土の形成時期はこれらより新しいものと見られる。

93 号遺構

【検出位置】東側　A53 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.80m、短軸 1.24m、深さ 15cm。形状は楕円形を呈する。燃焼面は 1 箇所（第 42 図）。

【覆土】焼土を主体とする。

【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していない。

94 号遺構

【検出位置】東側　A53 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.08m、短軸 0.85m、深さ 31cm。形状は楕円形を呈する（第 42 図）。

【覆土】ローム粒・ロームブロックを含む土層などからなる。

【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していない。

95 号遺構

【検出位置】東側　A53 区

【種別】土坑

【規模他】長軸 1.56m、短軸 1.04m、深さ 25cm。形状は楕円形を呈する。（第 42 図）。

【出土遺物】遺物は、土器、石器、礫ともに全く出土していない。

第 4 節　その他の遺構

その他の遺構としては、塚、方形周溝墓、掘立柱建物跡、溝などがある。古墳時代前期、奈良・平安時代以降、近世のものとみられる。

96 号遺構

【検出位置】西側　A34・A22 区

【種別】塚

【規模他】長軸 7.30m、短軸 7.00m、高さ 1.90m（第 43 図）。盛土下に方形の土坑や焼土跡が検出された（第 44 図）。塚の構築前に行われた儀式等の痕跡と見られる。

【覆土】含有物の少ない土層を主体とする。下部に固結火山灰土塊を含む土層が見られる。

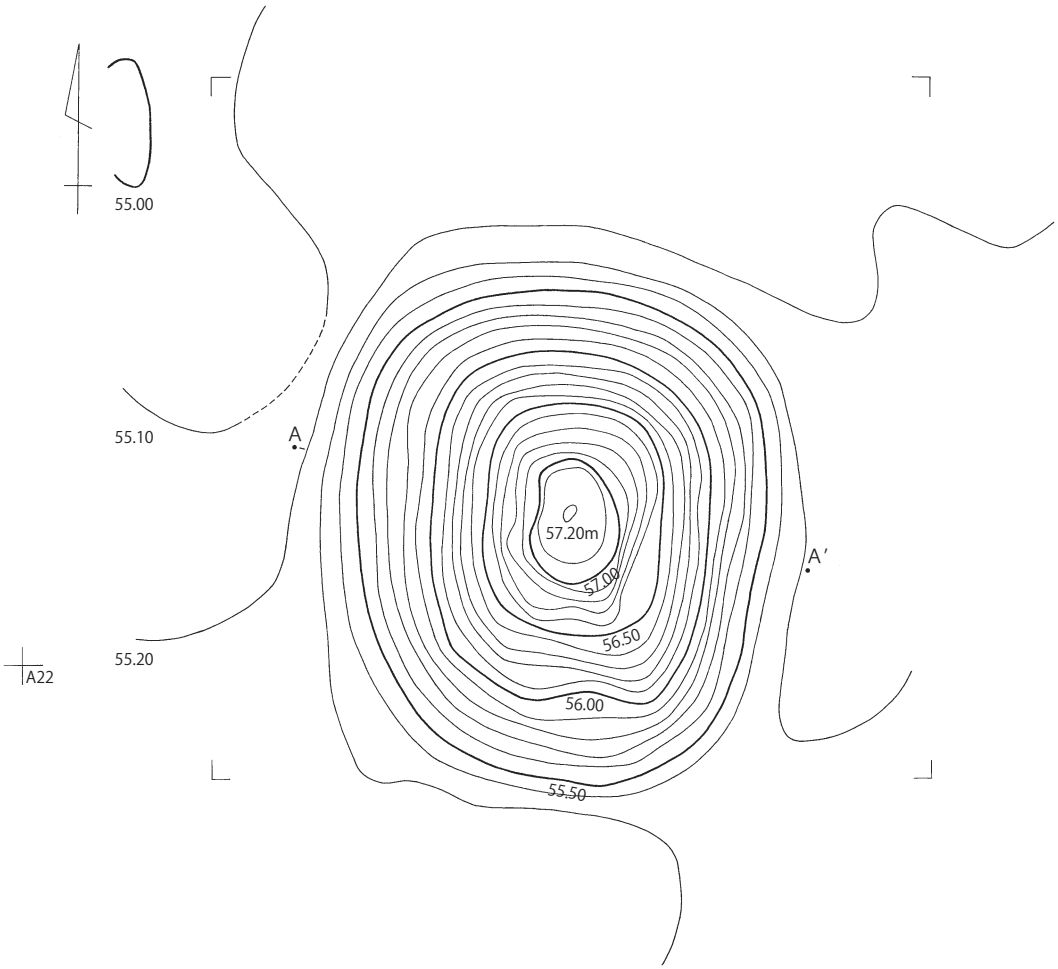
【出土遺物】砥石が 1 点出土している。流紋岩製で最大長は 46mm、重さ 42g を測る。側面に研磨痕が認められる（第 43 図 1）。盛土中からは遺物の出土はほとんどなかったが、盛土除去後の下層からは土器等が多く出土した。これらについては、遺物包含層中（A34 区）のものとして次章で扱う。

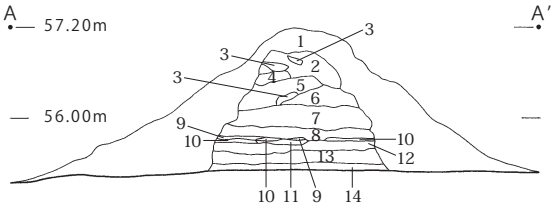
97 号遺構

【検出位置】西側　A36・A37 区

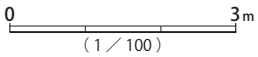
【種別】方形周溝墓

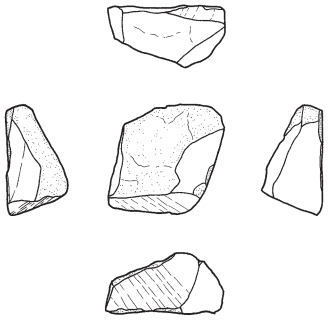
96 号

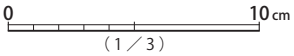




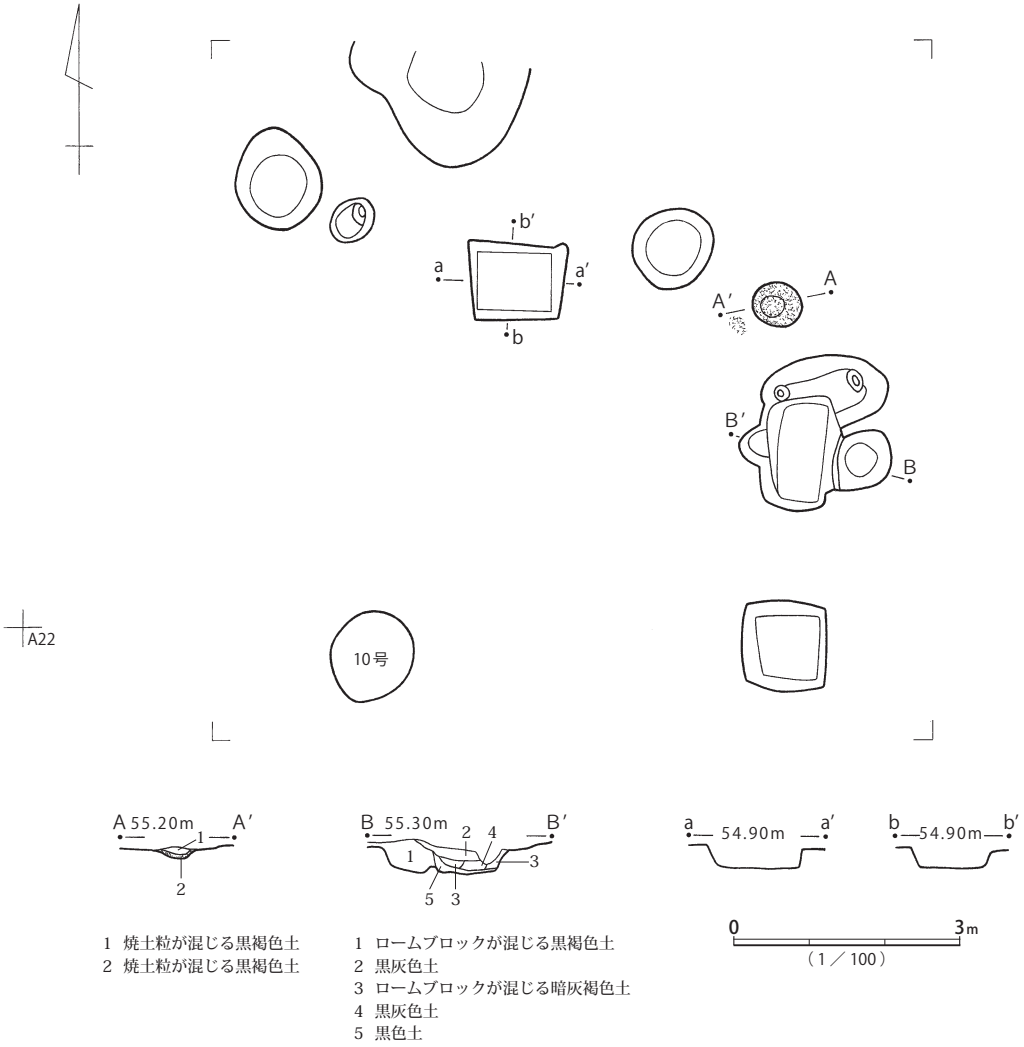
1 灰褐色土
2 黒褐色土
3 褐色土
4 暗褐色土
5 黒灰色土
6 黒褐色土
7 斑状に灰褐色土が混じる黒褐色土
8 黒灰色土
9 黒色土
10 黄褐色粒子が混じる褐色土
11 黒色土
12 固結火山灰土塊が混じる黒色土
13 褐色粒子が混じる暗褐色土
14 暗褐色土







第 43 図　96 号遺構（1）・遺物



第 44 図　96 号遺構（2）

【規模他】長軸 8.38m、短軸 7.50m、溝の深さ 40cm（第 45 図）。

【覆土】周溝の覆土は、ローム粒やロームを含む土層を主体とする。

【出土遺物】遺物は、周溝内から出土したもののみである。土器は、24 点、377g 出土している。このうち遺構の時期を示すとみられるのは、北東部のコーナー近くで出土した 1 のみである。これ以外は、下層に存在する縄文時代の包含層由来の遺物であった。

【遺物説明】第 45 図 1 は、底径 30mm・現存器高 80mm を測る古墳時代前期の壺形土器である。2 は縄文早期条痕文系土器の胴部、3 は加曽利 B 式の鉢形土器の口縁部、4 は後期安行式の深鉢形土器の胴部、5 は晩期安行式粗製深鉢形土器の口縁部である。

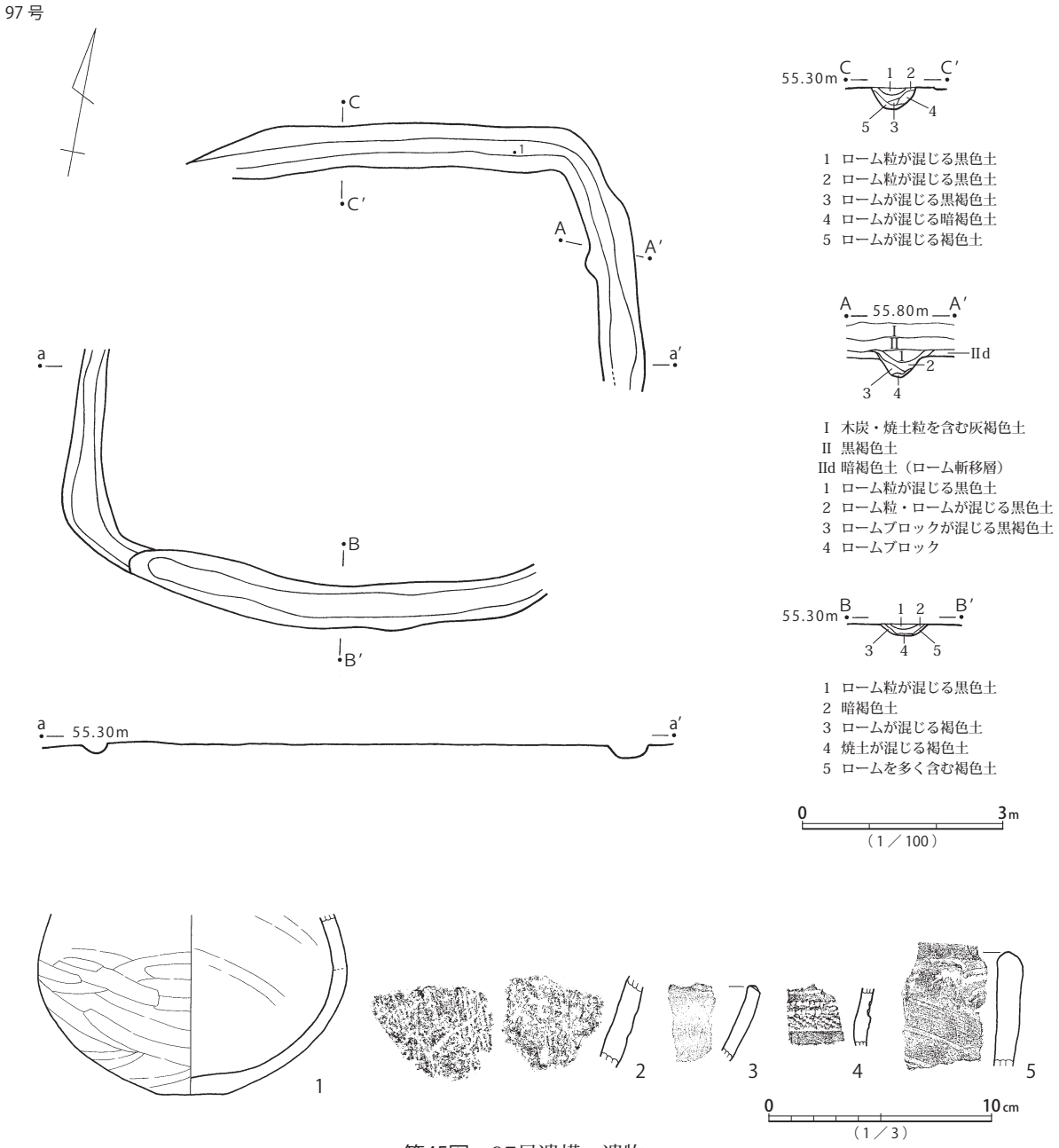
98 号遺構

【検出位置】西側　A24 区

【種別】掘立柱建物

【規模他】長軸（東西）10.70m、短軸（南北）7.20m、柱穴の深さ 24cm（第 46 図）。柱間は、東西 5 間、南北 3 間を基本とし、これ以外に南西側と南東側に数箇所の柱を有す。柱間は概ね 2m の間隔をもつ。南北軸は東に 10 度振れる。

【覆土】縄文時代後期に形成されたと見られる褐色土（新期テフラ）の上部に位置する土層（Ⅱ a1・

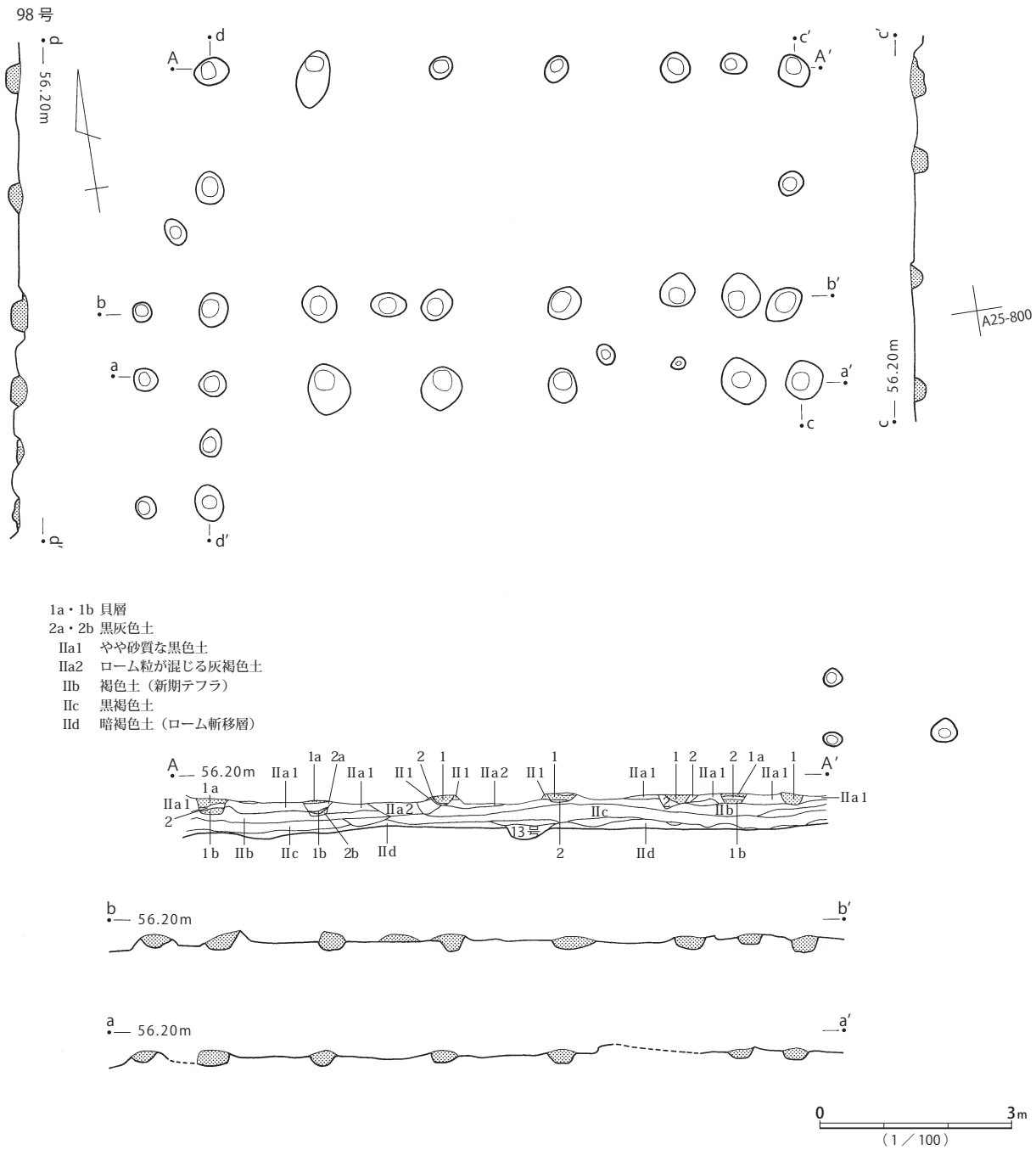


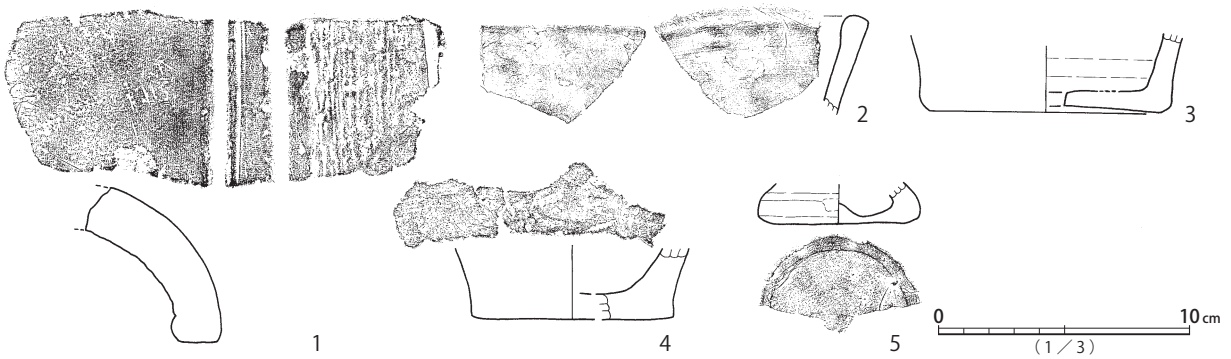
第45図　97号遺構・遺物

Ⅱ a2）を基盤とする。34 箇所の柱据え付け穴には、貝層が認められた。

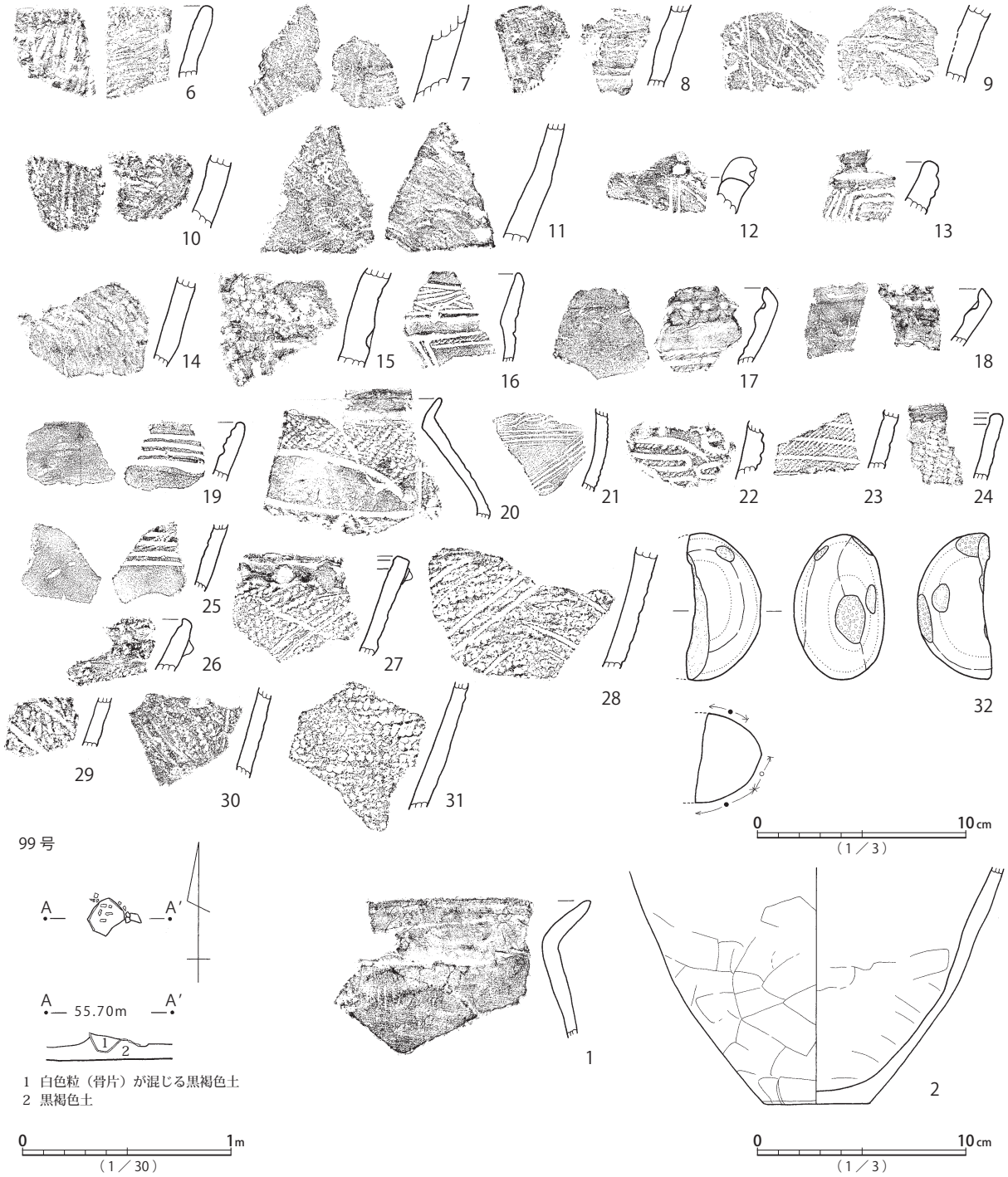
【出土遺物】遺物は、柱穴周囲と柱据え付け穴内の貝層中から検出されている。69 点、1,229g の礫が出土している。平均 17.8g のほとんどが被熱した小型礫である。石器は、3 点出土している。内訳は、敲石・磨石 1 点、黒曜石製・チャート製の剥片各 1 点である。土器は、178 点、1,841g 出土している。内訳は、遺構の時期に関わる古代以降の数点以外は、貝層中から出土した縄文後期を主体とするものである。

【遺物説明】第 46 図 1 は、内面に布目をもつ丸瓦である。2・3 は中・近世とみられる須恵器様の土器の口縁部と底部である。4・5 は中・近世とみられる土器の底部である。第 47 図 6 ～ 31 は縄文土器である。6 ～ 11 は、縄文早期条痕文系土器の口縁部及び胴部、12 ～ 15 は堀之内 1 式、16 ～ 31 は加曽利 B 式の口縁部及び胴部である。32 は、最大長 69mm、重さ 132g を測る凝灰角礫岩製の敲石・磨





第 46 図　98 号遺構・遺物（1）



第 47 図　98 号遺構・遺物（2）、99 号遺構・遺物

石である。貝層中からは、縄文後期前葉から中葉の土器しか出土しておらず、掘立柱建物の柱据え付けに利用された貝殻が、縄文後期の貝塚からもたらされたものであることを示しているとみられる。

出土遺物からは、遺構の時期の決め手がないものの、後述する溝（104 号遺構）と関連する施設であった可能性もある。

99 号遺構

【検出位置】東側　A28 区

【種別】埋設土器

【規模他】掘り込み等は認められなかった（第 47 図）。土器は、基盤層の黒褐色土中に設置され、土器内覆土中から微量の焼骨が検出されている。人骨の可能性がある。
【遺物説明】第 47 図 1・2 は、同一個体と見られるが直接接合しなかった。底径 50mm・現存器高 112mm を測る甕形の土師器である。

100 号遺構

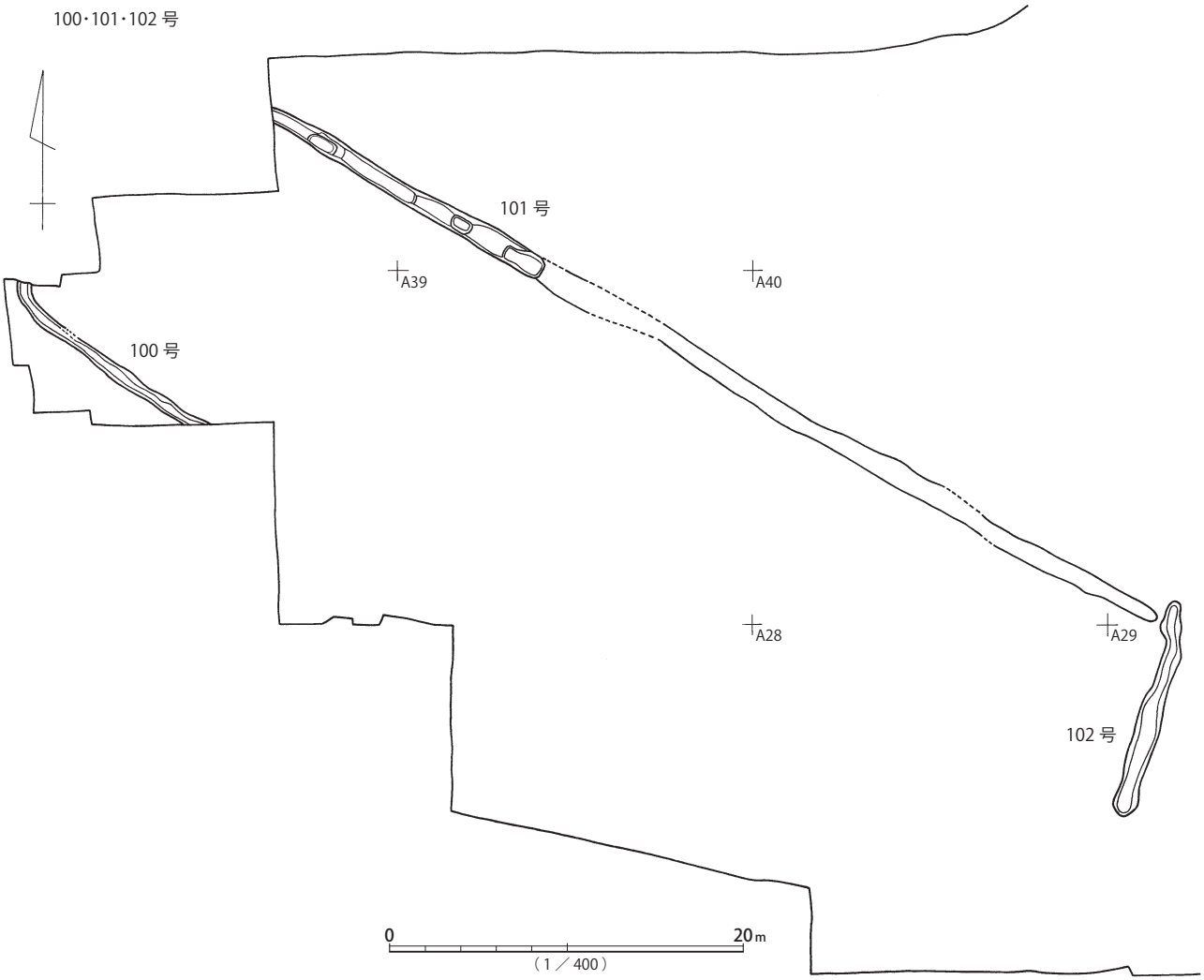
【検出位置】東側　A37・A38 区
【種別】溝
【規模他】長さ 13.50m、幅 0.90m、深さ 10cm（第 48 図）。北西から南東方向へ向かう。101 号遺構と同じ向きで、両者の距離は 18m ほどある。
【出土遺物】下層の縄文時代遺物包含層由来とみられる遺物が出土している。178g の被熱した大型礫が 1 点出土している。石器は、磨石が 1 点出土している。土器は、16 点、171g 出土している。内訳は、縄文早期条痕文系、前期後葉などである。
【遺物説明】第 48 図 1 ～ 3 は、条痕文系土器の胴部である。4 は波状貝殻文を施す土器で、浮島式と見られる。第 49 図 28 は、最大長 54mm、重さ 81g を測る輝石安山岩製の磨石である。

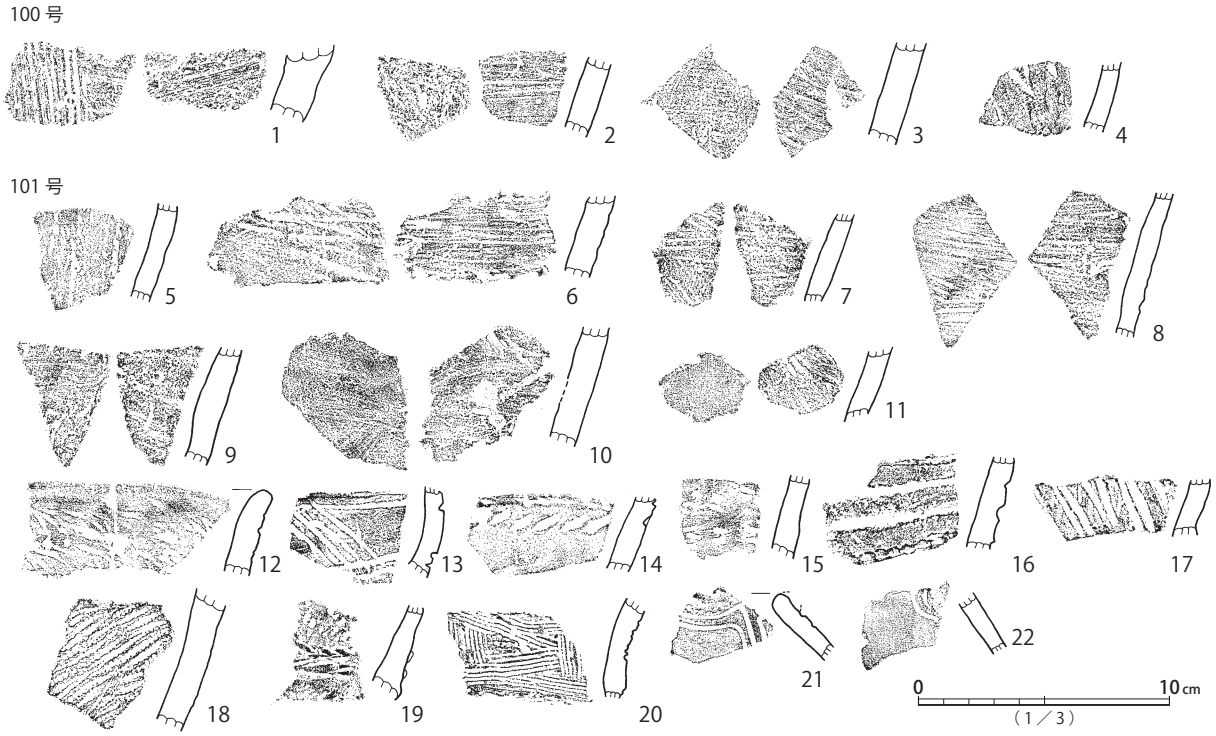
101 号遺構

【検出位置】東側　A49・A50・A39・A40・A41 区
【種別】溝
【規模他】長さ 55.50m、幅 1.48m、深さ 20cm（第 48 図）。南東端部で 102 号遺構と接する。
【出土遺物】下層の縄文時代遺物包含層由来とみられる遺物が出土している。85 点、2,186g の礫が出土している。平均 25.7g の被熱した小型礫である。石器は、黒曜石製の剥片が 2 点出土している。土器は、70 点、989g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、後期中葉などである。
【遺物説明】第 48 図 5 は、撚糸文系土器の胴部である。6 ～ 11 は、条痕文系土器の胴部である。12 ～ 18 は浮島式の口縁部及び胴部である。19 は浮線文が見られる諸磯 b 式の胴部、20 は集合沈線文の見られる諸磯 c 式の胴部である。21・22 は堀之内 2 式の注口土器の胴部である。第 49 図 23 は、加曽利 B 式の粗製深鉢形土器の胴部である。

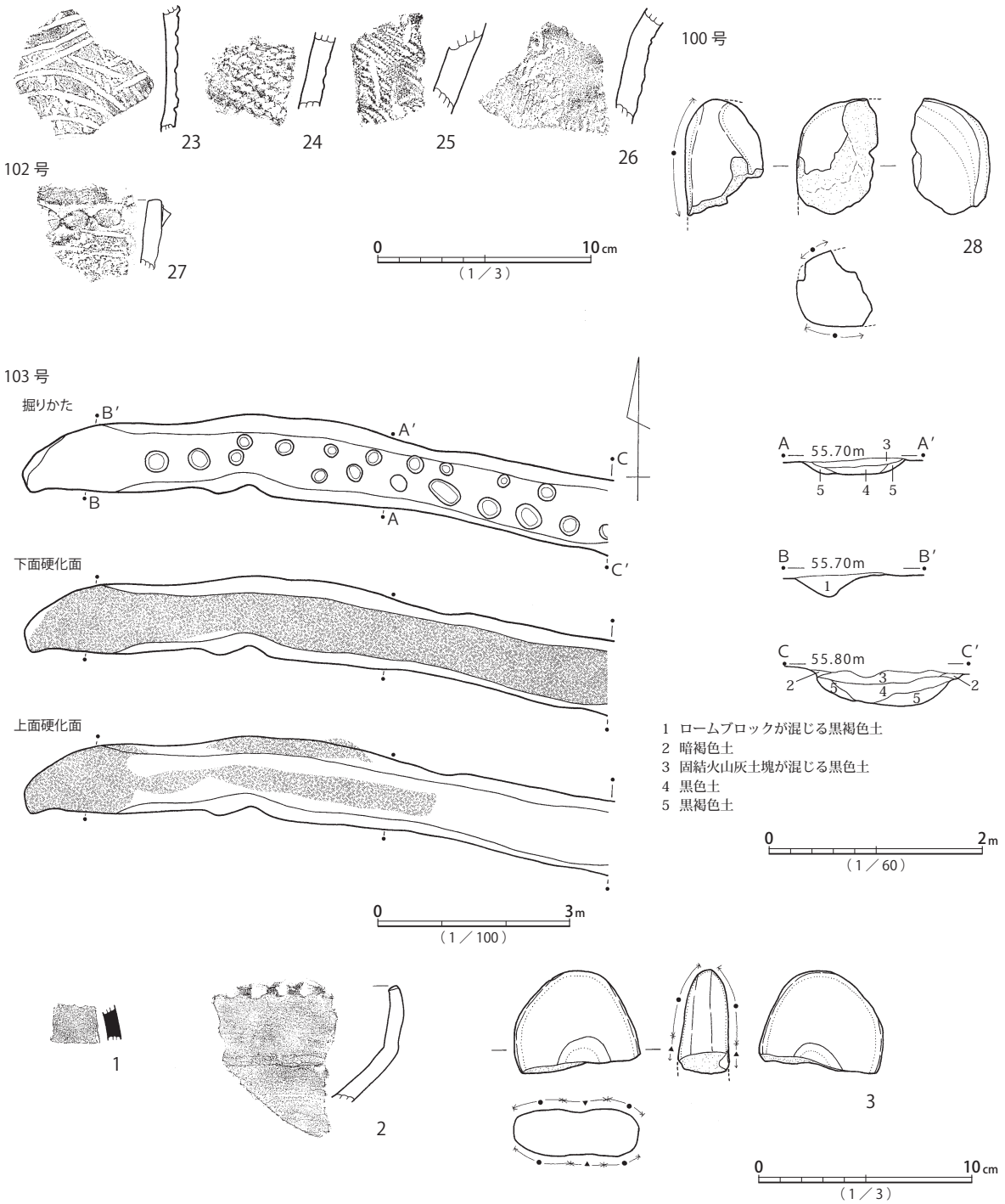
102 号遺構

【検出位置】東側　A29 区
【種別】溝
【規模他】長さ 12.50m、幅 1.40m、深さ 22cm（第 48 図）。101 ～ 102 号遺構は、現耕作境界溝の地番範囲と合致することから、近世以降のものである可能性が高い。
【出土遺物】下層の縄文時代遺物包含層由来とみられる遺物が出土している。13 点、323g の礫が出土している。平均 24.8g の被熱した小型礫である。土器は、7 点、47g 出土している。内訳は、縄文早期条痕文系、前期後葉、後期中葉などである。
【遺物説明】第 49 図 27 は、加曽利 B 式の紐線文をもつ粗製深鉢形土器の口縁部である。





第 48 図　100・101・102 号遺構・遺物（1）



第 49 図　100・101・102 号遺構・遺物（2）、103 号遺構・遺物

103 号遺構

【検出位置】東側　A16 区

【種別】溝

【規模他】長さ 9.14m、幅 1.28m、深さ 22cm（第 49 図）。溝の覆土中に硬化面が二面ある。道路として使用されたものとみられる。

【覆土】固結火山灰土塊を含む土層が見られる。

【出土遺物】10 点、217g の礫が出土している。平均 21.7g の被熱した小型礫である。石器は、凹石が 1 点出土している。土器は、10 点、79g 出土している。

【遺物説明】第 49 図 1 は、須恵器の破片である。2 は加曽利 B 式鉢形土器の口縁部である。3 は、最大幅 58mm、重さ 70g を測る凝灰岩製の凹石である。

104 号遺構

【検出位置】東側　A70・A66・A60・A53・A42・A30・A31・A17・A18 区

【種別】溝

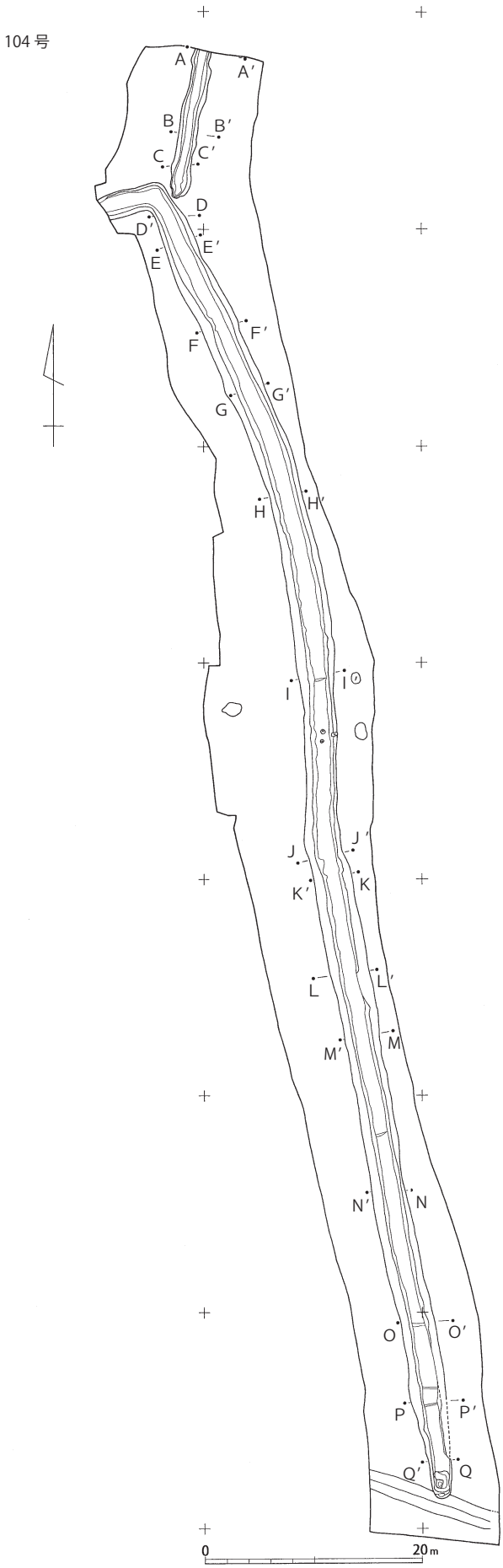
【規模他】長さ 124.20m、幅 3.50m、深さ 92cm。北端部で西側に方向を変える。また、別の溝がここから北側に展開する。長さ 13.80m、幅 1.80m、深さ 84cm（第 50 図）。断面形は台形状を呈する。

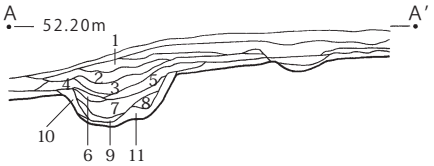
【覆土】ローム粒・ロームブロックを含む土層を主体とする。上部に固結火山灰土塊を含む土層が見られる（第 50 ～ 52 図）。

【出土遺物】遺物は、覆土中から散発的に出土し、土量の多さに比べると少ない。342 点、8,441g の礫が出土している。平均 24.7g のほとんどが被熱した小型礫である。石器は、黒曜石製の剥片が 1 点出土している。土器は、94 点、1,664g 出土している。内訳は、縄文早期撚糸文系、沈線文系、条痕文系、前期後葉、前期末、後期中葉などである。遺跡内の縄文時代遺物包含層由来のものとみられる。

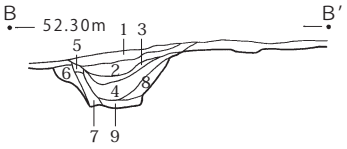
【遺物説明】覆土の様相から、溝が作られたのは奈良・平安時代以降とみられるが、時期決定できる遺物は少なかった。第 53 図 1 ～ 6 は土師器の杯や甕の口縁部及び胴部片、7 は灰釉陶器の頸部破片、8 は擂鉢の破片を砥石に転用したもので、上端部と右縁辺部が研磨されている。9 ～ 13 は、縄文早期撚糸文系土器の口縁部及び胴部、14 は沈線文系土器の胴部、15 ～ 19 は条痕文系土器の口縁部及び胴部、20 ～ 22 は浮島式の口縁部及び胴部、23・24 は諸磯式の口縁部及び胴部、25 ～ 27 は十三菩提式の口縁部及び胴部、28 は前期末に位置付けられるもの、29 は加曽利 B 式の浅鉢形土器口縁部、30 は加曽利 B 式の粗製土器胴部である。31 は、時期の明確でない土器の底部である。また、32 ～ 43 には、覆土中ではないが、溝周辺のグリッド中から出土した土器を掲載した。32 は灰釉陶器の底部、33 は中・近世土器の底部、34 は土師器甕の口縁部である。35 ～ 43 の縄文土器は、溝覆土内から出土したものとほぼ同一時期のものである。43 は、堀之内 1 式の胴部破片で、地文の単節縄文上に蕨状文が施される。

本遺構と同様の長大な溝は、海保広作遺跡より北に位置する海保西竹谷遺跡、海保小谷作遺跡においても検出されている。いずれも幅、深さともに規模が似ており、台地の縁などに築かれている点などにも共通点が見られる。広域にわたって同様の意図をもって築かれたことが想定される。本溝の用途・性格については、遺構覆土に特徴的に検出された固結火山灰土塊の分析結果を踏まえて第 4 章で述べる。

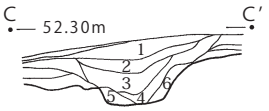




1 暗灰褐色土
2 固結火山灰土塊が混じる黒褐色土
3 ローム粒が混じる暗褐色土
4 ローム粒が混じる褐色土
5 焼土粒・木炭粒が混じる褐色土
6 ローム粒が混じる褐色土
7 焼土粒・ローム粒・木炭粒が混じる暗灰褐色土
8 ローム粒が混じる褐色土
9 暗褐色土
10 褐色土
11 ロームが混じる褐色土



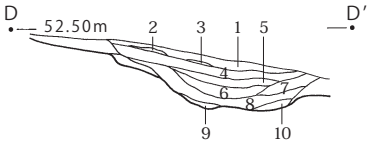
1 固結火山灰土塊が混じる黒褐色土
2 暗褐色土
3 ローム粒が混じる褐色土
4 ロームブロックが混じる褐色土
5 褐色土
6 褐色土
7 ローム粒が混じる褐色土
8 褐色土
9 ロームブロック・ロームが混じる褐色土



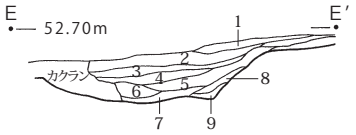
1 固結火山灰土塊・ローム粒が混じる暗褐色土
2 ローム粒が混じる灰褐色土
3 ロームブロックが混じる灰褐色土
4 ロームブロックが混じる褐色土
5 ロームブロック・ロームが混じる褐色土
6 黄褐色ローム・ロームブロック

0 3m
（1／100）

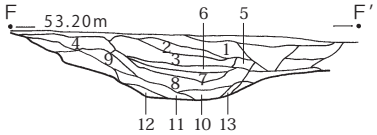
第 50 図　104 号遺構（1）



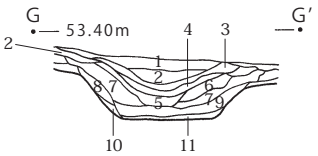
1 富士宝永テフラを含む褐色土
2 褐色土
3 固結火山灰土塊が混じる暗灰褐色土
4 ローム粒が混じる黒灰色土
5 ローム粒が混じる暗褐色土
6 ロームが混じる褐色土
7 ローム粒が混じる褐色土
8 ローム粒が混じる褐色土
9 ロームブロックが混じる褐色土
10 ロームブロックが混じる褐色土



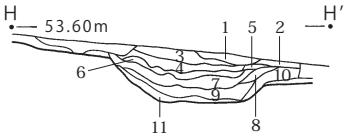
1 褐色土
2 固結火山灰土塊が混じる暗灰褐色土
3 黒褐色土
4 ローム粒が混じる暗褐色土
5 ローム粒が混じる暗褐色土
6 暗褐色土
7 ロームが混じる暗褐色土
8 ロームが混じる褐色土
9 ローム粒が混じる褐色土



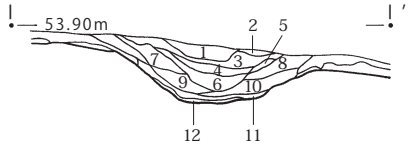
1 明褐色土
2 固結火山灰土塊が混じる灰褐色土
3 ローム粒が混じる黒色土
4 暗灰褐色土
5 暗灰褐色土
6 暗褐色土
7 ローム粒が混じる褐色土
8 ローム粒が混じる褐色土
9 ロームが多い褐色土
10 ローム粒が混じる褐色土
11 ローム粒が混じる褐色土
12 ロームブロックが混じる褐色土
13 暗褐色土



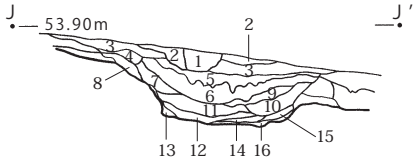
1 ローム粒が混じる暗灰褐色土
2 ローム粒・黒色粒が混じる灰褐色土
3 黒色土
4 ローム粒が混じる黒色土
5 ロームが混じる暗褐色土
6 ロームが混じる褐色土
7 ロームが混じる褐色土
8 ロームが混じる暗褐色土
9 ローム・ロームブロックが混じる褐色土
10 褐色土
11 ロームが混じる褐色土



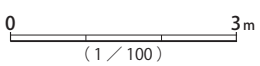
1 固結火山灰土塊が混じる暗灰褐色土
2 灰褐色土
3 固結火山灰土塊が混じる暗褐色土
4 固結火山灰土塊が混じる黒色土
5 固結火山灰土塊・ローム粒が混じる暗褐色土
6 固結火山灰土塊・ローム粒が混じる暗褐色土
7 ローム・ローム粒が混じる暗褐色土
8 ローム・ローム粒が混じる褐色土
9 ロームが混じる暗褐色土
10 ロームが混じる褐色土
11 ロームが混じる褐色土



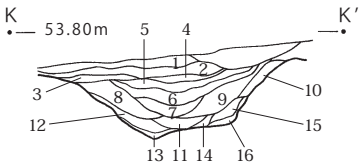
1 暗灰褐色土
2 暗褐色土
3 若干の固結火山灰土塊が混じる黒色土
4 ローム粒が混じる黒褐色土
5 黒褐色土
6 ローム粒が混じる黒褐色土
7 ローム・ローム粒が混じる暗褐色土
8 ローム粒が混じる暗褐色土
9 ローム粒が多く混じる褐色土
10 ローム粒が混じる暗褐色土
11 ローム粒が混じる暗褐色土
12 ロームが混じる暗褐色土



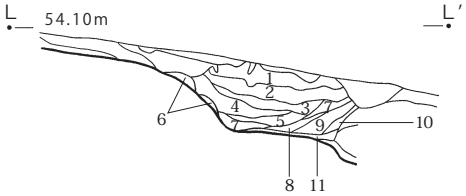
1 暗灰褐色土
2 灰褐色土
3 若干の固結火山灰土塊が混じる黒色土
4 黒褐色土
5 ロームが混じる黒褐色土
6 ローム粒・ローム小ブロックが混じる黒褐色土
7 ロームが混じる暗褐色土
8 ロームが多く混じる褐色土
9 暗褐色土
10 ローム粒が混じる暗褐色土
11 ローム粒が混じる黒色土
12 ローム・ローム粒が混じる暗褐色土
13 ロームブロックが混じる褐色土
14 ローム粒が混じる黒褐色土
15 ローム粒が混じる暗褐色土
16 ローム・ロームブロックが混じる褐色土



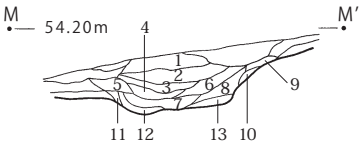
第51図　104号遺構（2）



1 灰褐色土
2 固結火山灰土塊が混じる灰褐色土
3 黒褐色土
4 ロームが混じる黒色土
5 黒色土
6 ローム粒が若干混じる黒褐色土
7 暗褐色土
8 ローム・ローム粒が混じる暗褐色土
9 ローム粒・ロームブロックが混じる暗褐色土
10 褐色土
11 ロームブロック・ローム粒が混じる褐色土
12 ローム粒が多く混じる褐色土
13 ロームブロック
14 褐色土
15 ローム粒・ロームが多く混じる褐色土
16 ロームブロックが多く混じる黄褐色土

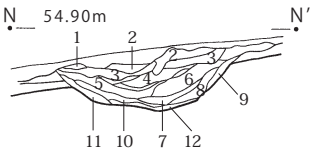


1 固結火山灰土塊が混じる暗灰褐色土
2 黒色土
3 黒褐色土
4 ロームが多く混じる褐色土
5 暗褐色土
6 褐色土
7 暗褐色土
8 暗褐色土
9 ロームが多く混じる褐色土
10 褐色土
11 ローム・ロームブロック

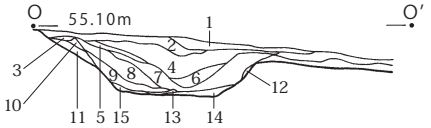


1 固結火山灰土塊が混じる暗灰褐色土
2 黒色土
3 黒褐色土
4 暗褐色土
5 暗褐色土
6 ローム粒が混じる暗褐色土
7 ローム粒が混じる暗褐色土
8 ロームブロックが混じる暗褐色土
9 褐色土（崩壊ローム）
10 ロームが多い褐色土
11 褐色土
12 ロームブロックが多く混じる褐色土
13 暗褐色土

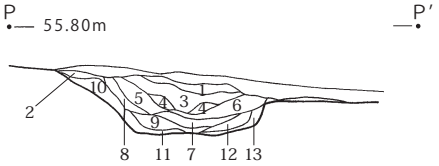
0 3m
（1／100）



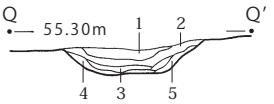
1 硬化した黒色土
2 固結火山灰土塊が混じる暗灰褐色土
3 固結火山灰土塊が混じる黒褐色土
4 固結火山灰土塊が混じる黒色土
5 ローム粒が混じる暗褐色土
6 ローム粒が混じる暗褐色土
7 小ロームブロックが混じる暗褐色土
8 小ロームブロックが混じる暗褐色土
9 ロームが多い褐色土
10 黒色粒・ローム粒が混じる暗褐色土
11 ロームが混じる暗褐色土
12 ロームブロックが混じる褐色土



1 灰褐色土
2 固結火山灰土塊が混じる黒色土
3 硬化した黒褐色土ブロックが混じる暗褐色土
4 褐色スコリアが混じる黒褐色土
5 ローム粒が混じる暗褐色土
6 ローム粒が混じる黒褐色土
7 ローム粒が混じる暗褐色土
8 やや多くのローム粒が混じる暗褐色土
9 ローム粒が混じる褐色土
10 暗褐色土
11 ロームが混じる褐色土
12 褐色土
13 ローム粒が混じる褐色土
14 ロームブロックが混じる褐色土
15 ロームブロック

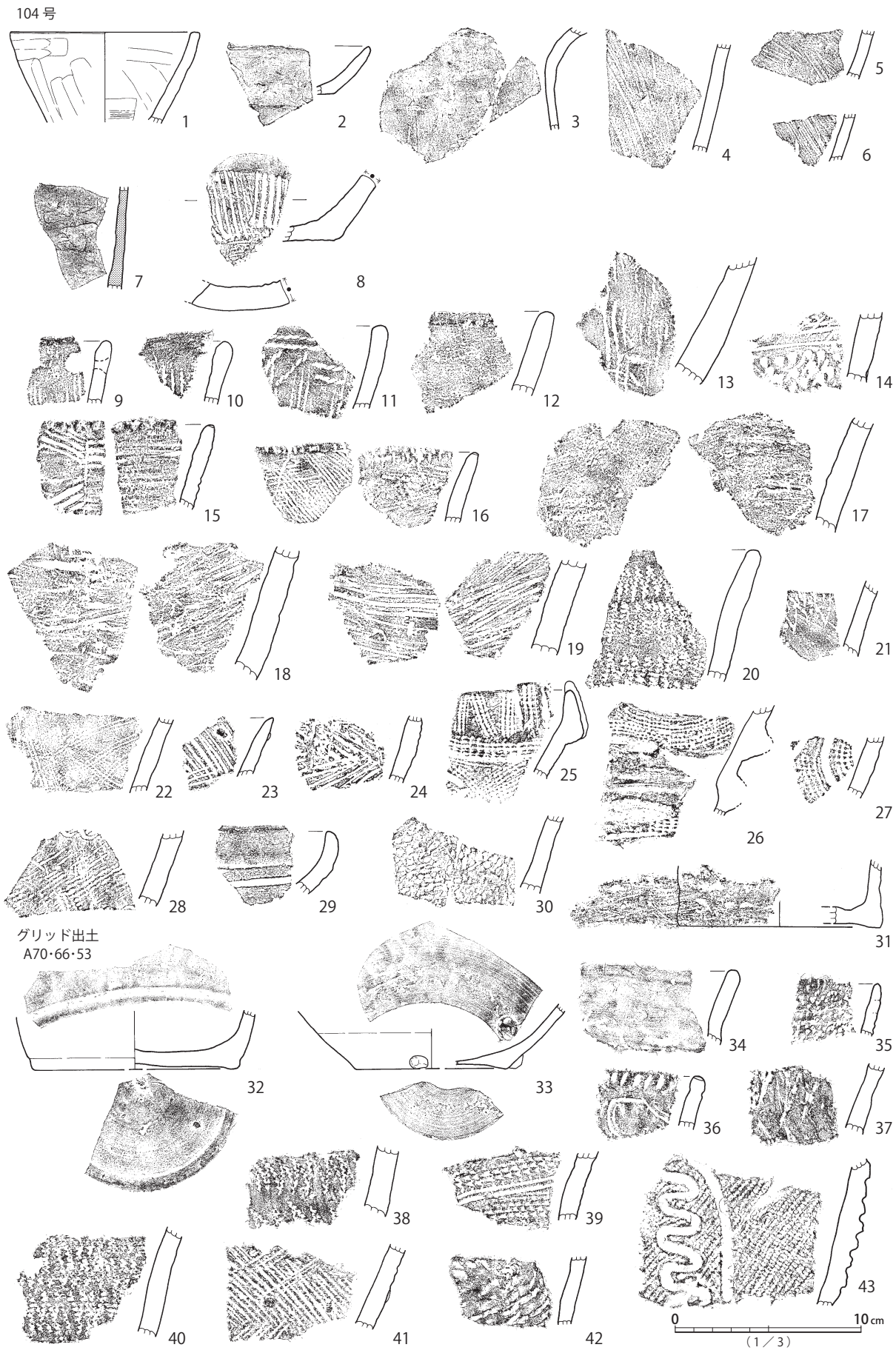


1 固結火山灰土塊・橙色スコリアが混じる黒色土
2 暗褐色土
3 黒色土
4 黒褐色土
5 ロームが多い暗褐色土
6 暗褐色土
7 ロームが混じる黒褐色土
8 暗褐色土
9 ロームが多い暗褐色土
10 ロームが混じる褐色土
11 ロームが多い褐色土
12 ロームが多い暗褐色土
13 ロームが多い褐色土



1 ロームが混じる灰褐色土
2 ローム粒・黒色粒が混じる暗褐色土
3 ローム粒が混じる暗褐色土
4 小ロームブロックが混じる暗褐色土
5 ローム粒が混じる暗褐色土

第52図　104号遺構（3）



第53図　104号遺構・遺物

表 5　遺構出土土器集計

遺構No.	取り上げ方法	合計		撚糸文系		沈線文系		条痕文系		羽状縄文系		浮島・興津		諸磯		十三菩提		前期末		加曽利E		称名寺		堀之内１		堀之内２		加曽利B		曽谷		安行		安行（晩期）		晩期末		不　明		土師		須恵		中世		近世	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
1	点上げ、一括	95	1,221	3	16	0	0	7	161	0	0	80	906	4	106	0	0	1	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	点上げ、一括	106	1,258	0	0	0	0	0	0	0	0	100	1,137	5	116	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	点上げ、一括	37	527	0	0	0	0	0	0	0	0	36	506	0	0	0	0	1	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	点上げ、一括	34	522	0	0	0	0	0	0	0	0	33	483	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	点上げ、一括	110	1,255	1	10	0	0	3	35	0	0	99	1,036	6	162	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	点上げ、一括	2	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	点上げ、一括	2	11	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	13	0	0	0	0	0	0	0	0
9		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	一括	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	点上げ、一括	72	662	1	7	0	0	61	620	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	20	0	0	0	0	0	0	7	15	7	30	0	0	0	0	0	0	0	0
12		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	点上げ、一括	11	75	0	0	0	0	10	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
14		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	一括	15	129	0	0	0	0	15	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	点上げ	10	233	0	0	0	0	0	0	0	0	5	140	1	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	点上げ、一括	57	780	0	0	0	0	16	207	0	0	7	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	471	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	点上げ、一括	8	110	0	0	0	0	0	0	0	0	2	67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	点上げ	2	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	点上げ	5	70	0	0	0	0	4	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	点上げ、一括	4	44	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	一括	3	24	0	0	0	0	2	15	0	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	点上げ	4	345	0	0	0	0	1	70	0	0	3	275	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	点上げ	3	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	点上げ	1	34	0	0	0	0	0	0	0	0	1	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	点上げ	3	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29	一括	8	74	0	0	0	0	0	0	0	0	2	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31	一括	4	16	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	点上げ、一括	11	173	0	0	0	0	8	147	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	点上げ、一括	3	9	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	点上げ	2	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
36	点上げ、一括	4	64	0	0	0	0	3	24	0	0	1	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
37		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	一括	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	一括	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	点上げ	5	59	1	6	0	0	3	46	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
42	点上げ	6	36	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
43	点上げ	7	146	0	0	0	0	1	16	0	0	5	127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44	点上げ、一括	6	50	0	0	0	0	2	33	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45	点上げ、一括	61	1,043	0	0	0	0	60	1,038	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
46	点上げ	6	82	0	0	0	0	2	39	0	0	0	0	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
47	点上げ、一括	13	193	2	45	0	0	2	13	0	0	4	91	1	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
48	点上げ、一括	22	138	1	3	0	0	20	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
49	点上げ	2	38	1	20	0	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
52	点上げ	2	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

遺構No.	取り上げ方法	合計		撚糸文系		沈線文系		条痕文系		羽状縄文系		浮島・興津		諸磯		十三菩提		前期末		加曽利E		称名寺		堀之内１		堀之内２		加曽利B		曽谷		安行		安行（晩期）		晩期末		不　明		土師		須恵		中世		近世	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
53	点上げ	2	7	1	4	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
54	点上げ	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0
55	一括	1	7	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
56	点上げ	3	29	1	15	0	0	2	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
57	点上げ	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
58	点上げ、一括	13	247	2	19	0	0	7	214	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0
59		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60	点上げ、一括	8	37	1	11	0	0	5	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
61	点上げ、一括	25	255	0	0	0	0	17	240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	15	0	0	0	0	0	0	0	0
62	点上げ、一括	6	156	0	0	0	0	3	138	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	18	0	0	0	0	0	0	0	0
63	点上げ	1	4	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
64	点上げ、一括	2	9	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
65	点上げ、一括	25	422	3	28	0	0	20	388	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0
66	点上げ	6	133	2	16	0	0	4	117	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
67	一括	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
68		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
69	点上げ	5	51	3	29	0	0	2	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
71	点上げ	2	23	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0
72	点上げ	2	20	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0
73	一括	2	36	0	0	0	0	1	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	0	0	0	0
74		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75	点上げ、一括	6	97	3	69	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	17	0	0	0	0	0	0	0	0
76		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
77	点上げ	4	47	0	0	0	0	3	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0
78	点上げ、一括	38	278	0	0	0	0	33	236	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	42	0	0	0	0	0	0	0	0
79		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80	点上げ	1	8	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
81	点上げ	3	11	0	0	0	0	3	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
82		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
83	点上げ	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0
84	一括	2	14	0	0	0	0	2	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85	一括	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
86	一括	1	21	0	0	0	0	1	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87	一括	3	33	0	0	0	0	3	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
88	一括	2	13	0	0	0	0	2	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
89	点上げ	1	8	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90	一括	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
91	点上げ、一括	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	0	0	0	0	1	4
92	点上げ	19	356	4	53	0	0	8	220	0	0	1	13	0	0	0	0	0	0	1	29	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	4	35	0	0	0	0	0	0	0	0
93		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
94		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
96		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
97	点上げ、一括	24	377	0	0	0	0	18	144	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	0	2	36	0	0	0	0	1	10	1	175	0	0	0	0	0	0
98	一括	178	1,841	0	0	0	0	29	347	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20	10	180	1	16	26	410	0	0	0	0	0	0	0	0	82	583	0	0	0	0	27	248	2	37
99	点上げ、一括	6	409	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	409	0	0	0	0	0	0
100	一括	16	171	0	0	0	0	9	128	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	32	0	0	0	0	0	0	0	0
101	一括	70	989	5	58	0	0	13	164	0	0	37	501	2	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	17	1	24	0	0	0	0	0	0	0	0	10	187	0	0	0	0	0	0	0	0
102	一括	7	47	0	0	0	0	1	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	15	0	0	0	0	0	0	0	0	4	20	0	0	0	0	0	0	0	0
103	点上げ	10	79	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	30	0	0	0	0	0	0	0	0	7	40	0	0	1	4	0	0	0	0
104	一括	94	1,664	5	139	1	28	18	401	0	0	4	107	2	33	3	102	1	37	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	24	454	34	331	1	16	0	0	0	0

表 7　遺構出土礫集計 2

調査コード	遺構No.	取り上方法	赤化		黒・灰化		無被熱		礫計		平均	サイズ区分
			点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	重量（g）	
セ 436	1	点上げ、一括	23	505	27	426	0	0	50	931	18.6	小
セ 436	2	点上げ、一括	20	205	24	281	0	0	39	486	12.5	小
セ 436	3	点上げ	1	47	1	2	0	0	2	49	24.5	小
セ 436	4	点上げ	2	86	2	23	0	0	4	109	27.3	小
セ 436	5	点上げ、一括	30	535	39	425	0	0	23	960	41.7	小
セ 437	8	点上げ、一括	12	159	14	185	0	0	26	344	13.2	小
セ 437	9	一括	1	1	1	2	0	0	2	3	1.5	小
セ 437	11	点上げ	3	21	0	0	1	47	4	68	17.0	小
セ 437	13	点上げ	1	33	0	0	0	0	1	33	33.0	小
セ 436	17	点上げ	1	5	1	201	0	0	2	206	103.0	大
セ 436	18	点上げ	2	28	4	90	0	0	6	118	19.7	小
セ 436	20	一括	16	29	5	4	0	0	21	33	1.6	小
セ 436	23	一括	2	11	6	67	0	0	8	78	9.8	小
セ 436	24	点上げ	5	74	6	163	0	0	11	237	21.5	小
セ 436	26	一括	0	0	1	7	0	0	1	7	7.0	小
セ 436	27	一括	1	38	0	0	0	0	1	38	38.0	小
セ 436	29	一括	1	6	1	18	0	0	2	24	12.0	小
セ 436	30	点上げ	2	105	1	53	0	0	3	158	52.7	中
セ 436	31	一括	14	189	44	340	0	0	58	529	9.1	小
セ 436	32	点上げ、一括	5	192	10	184	0	0	15	376	25.1	小
セ 436	33	点上げ、一括	32	456	68	733	0	0	100	1189	11.9	小
セ 436	35	点上げ	1	63	1	70	0	0	2	133	66.5	中
セ 436	36	点上げ、一括	2	41	3	37	0	0	5	78	15.6	小
セ 436	37	一括	3	35	0	0	0	0	3	35	11.7	小
セ 436	39	点上げ、一括	1	15	5	106	0	0	6	121	20.2	小
セ 436	40	一括	2	65	3	89	0	0	5	154	30.8	小
セ 436	41	点上げ	2	22	5	52	0	0	7	74	10.6	小
セ 436	42	点上げ、一括	2	65	2	27	0	0	4	92	23.0	小
セ 436	43	点上げ、一括	7	107	20	339	0	0	27	446	16.5	小
セ 436	44	点上げ、一括	13	272	19	195	0	0	32	467	14.6	小
セ 436	45	点上げ、一括	52	745	100	986	2	28	154	1759	11.4	小
セ 436	46	点上げ、一括	15	280	9	170	0	0	24	450	18.8	小
セ 436	47	点上げ	4	63	1	13	0	0	5	76	15.2	小
セ 436	48	点上げ、一括	17	297	17	232	0	0	34	529	15.6	小
セ 436	49	点上げ	3	100	2	73	0	0	5	173	34.6	小
セ 436	50	点上げ、一括	19	444	21	342	0	0	40	786	19.7	小
セ 436	51	点上げ	1	116	1	37	0	0	2	153	76.5	中
セ 436	52	点上げ	6	142	10	254	0	0	16	396	24.8	小
セ 436	53	点上げ	10	351	8	252	0	0	18	603	33.5	小
セ 436	54	点上げ	2	71	0	0	0	0	2	71	35.5	小
セ 436	55	点上げ	1	26	0	0	0	0	1	26	26.0	小
セ 436	58	点上げ、一括	2	47	13	179	0	0	15	226	15.1	小
セ 436	59	点上げ	3	57	2	28	0	0	5	85	17.0	小
セ 436	60	点上げ、一括	18	249	11	113	0	0	29	362	12.5	小
セ 436	61	点上げ、一括	16	209	34	249	0	0	50	458	9.2	小
セ 436	62	点上げ、一括	6	37	11	66	0	0	17	103	6.1	小
セ 436	63	点上げ、一括	3	56	7	68	0	0	10	124	12.4	小
セ 436	64	点上げ、一括	22	438	13	115	0	0	35	553	15.8	小
セ 436	65	点上げ、一括	22	272	43	424	0	0	65	696	10.7	小
セ 436	66	点上げ、一括	8	134	7	52	0	0	15	186	12.4	小
セ 436	68	点上げ	4	59	3	19	0	0	7	78	11.1	小
セ 436	69	点上げ	4	81	6	180	0	0	10	261	26.1	小
セ 436	70	点上げ	2	27	1	6	0	0	3	33	11.0	小
セ 436	71	点上げ	1	53	1	12	0	0	2	65	32.5	小
セ 436	74	一括	13	222	1	11	1	29	15	262	17.5	小
セ 436	75	一括	5	119	10	206	0	0	15	325	21.7	小
セ 436	76	一括	1	27	0	0	0	0	1	27	27.0	小
セ 436	77	点上げ	1	15	2	70	1	40	4	125	31.3	小
セ 436	78	点上げ、一括	4	63	5	48	0	0	9	111	12.3	小
セ 436	80	点上げ	3	19	2	22	0	0	5	41	8.2	小
セ 436	81	点上げ	3	15	1	9	1	1	5	25	5.0	小
セ 436	82	一括	1	40	3	188	0	0	4	228	57.0	中
セ 436	83	点上げ	0	0	2	17	0	0	2	17	8.5	小
セ 436	84	一括	0	0	2	29	0	0	2	29	14.5	小
セ 436	85	点上げ	0	0	1	9	0	0	1	9	9.0	小
セ 436	89	点上げ	1	38	1	6	0	0	2	44	22.0	小
セ 436	90	点上げ	0	0	1	14	0	0	1	14	14.0	小
セ 436	91	一括	10	25	0	0	0	0	10	25	2.5	小
セ 437	92	点上げ	6	93	2	53	0	0	8	146	18.3	小
セ 437	98	一括	17	375	50	825	2	29	69	1229	17.8	小
セ 436	100	一括	0	0	1	178	0	0	1	178	178.0	大
セ 436	101	一括	27	1166	58	1020	0	0	85	2186	25.7	小
セ 436	102	一括	5	118	8	205	0	0	13	323	24.8	小
セ 436	103	点上げ、一括	6	143	4	74	0	0	10	217	21.7	小
セ 437	104	一括	120	3296	221	5117	1	28	342	8441	24.7	小

表 8　遺構出土石器属性表 2

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
21	24	セ 436	1	48	石鏃	一部欠	20.2	16.8	3.6	0.6	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。左脚部欠損。先端部は鋭く尖り、脚部がやや長い。左側縁は中央部でややくびれている。抉れ部もやや非対称だが、やや深めである。		
21	25	セ 436	1	62	石鏃	完形	20.2	10.1	3.7	0.6	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。細身で、抉れ部もごく浅く、脚部の調整も粗く、非対称である。裏面には素材の主剥離面を大きく残し、調整は全周に及ばない。		
21	26	セ 436	1	4	敲石・磨石	一部欠	86	77	45	427	溶結凝灰岩（奥日光）			
		セ 436	1	49	剥片		19.0			0.9	チャート			
		セ 436	1	50	剥片		13.8			0.7	チャート			
		セ 436	1	64	剥片		17.8			1.0	頁岩			
		セ 436	1	67	剥片		18.8			1.3	頁岩			
		セ 436	1	71	剥片		20.5			2.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	1	90	剥片		24.2			5.7	チャート			5 点
22	32	セ 436	2	110	石鏃	一部欠	13.8	14.1	3.6	0.4	黒曜石	凹基無茎石鏃。先端部を欠く。胴部は短く、両側縁が外湾する。脚部は左右非対称で、右側の先端は欠損の可能性もある。		
22	33	セ 436	2	9	石鏃	一部欠	18.5	16.3	4.1	0.8	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。左脚部欠損。先端部は鋭さを欠き、全体的に非対称。脚部は左右の幅が違い、先端部が平坦である。調整もやや粗い。		
22	34	セ 436	2	138	石鏃	一部欠	16.5	15	2.9	0.6	黒曜石	先端部、左右の脚部を欠くが、抉れ部とみられる調整が見られることから、欠損部の多い凹基無茎石鏃とみられる。表裏両面に素材の剥離面を残す。		
		セ 436	2	1	剥片		8.1			1.2	頁岩			
		セ 436	2	56	剥片		14.0			0.5	黒曜石			2 点
		セ 436	2	105	剥片		18.1			0.7	チャート			
		セ 436	2	108	剥片		10.2			0.1	黒曜石			
		セ 436	2	117	剥片		7.4			0.1	黒曜石			
		セ 436	2	118	剥片		19.8			0.8	チャート			
		セ 436	2	124	剥片		34.4			5.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	2	125	剥片		24.8			2.9	無斑晶質安山岩			
		セ 436	2	126	剥片		22.6			1.9	チャート			
		セ 436	2	130	剥片		1.6			0.3	チャート			
		セ 436	2	131	剥片		11.0			0.2	黒曜石			
		セ 436	2	133	剥片		20.1			2.9	チャート			3 点
		セ 436	2	133	剥片		11.9			1.2	黒曜石			2 点
		セ 436	2	133	剥片		13.0			0.2	頁岩			
23	12	セ 436	3	30	石鏃	完形	17.3	18.7	2.9	0.7	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。非常に小型で、胴部は非常に短く、ブーメランのような形状を呈する。調整は全面的に入念であり、規則的な剥離が行われている。		
23	13	セ 436	3	35	石鏃	一部欠	18.2	16.6	3.8	0.6	黒曜石	凹基無茎石鏃。先端部を欠く。脚部がやや外側に開くような形状を呈し、抉れ部分の調整は細かい。右脚部がやや反り上がり、素材剥片の特徴を残している。		

挿図No.		調査コード	遺構No.	取り上げNo.	器種	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
							最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）				
		セ 436	5	2	剥片		31.5			4.5	チャート			2点
		セ 436	5	2	剥片		25.4			2.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	5	3	剥片		29.4			1.9	頁岩			
		セ 436	5	3	剥片		30.9			2.4	溶結凝灰岩（奥日光）			
		セ 436	5	3	剥片		21.4			1.0	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	5	3	剥片		21.0			1.4	黒曜石			2点
25	27	セ 436	5	3	石鏃	一部欠	20.9	11.8	4.1	0.6	頁岩	凹基無茎石鏃。左脚部欠損。裏面に素材の剥離面を一部残し、全体型は非対称。脚部が表側にやや反り上がる形状を呈する。調整はやや粗い。		
25	28	セ 436	5	3	石鏃	一部欠	21.1	14.6	3.6	0.7	頁岩	凹基無茎石鏃。右脚部を欠損。脚部付け根辺りがやや膨らむ形状を呈し、残存部を見る限り、先端付近の調整は細かい。		
		セ 436	5	71	剥片		16.8			1.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	7	1	剥片		22.1			1.0	黒曜石			
		セ 437	7	2	剥片		15.7			0.4	黒曜石			
		セ 437	11	62	剥片		22.3			1.2	頁岩			
		セ 437	11	68	剥片		10.9			0.3	黒曜石			
29	11	セ 436	18	2	楔形石器	完形	34.2	35.3	10.2	12.7	チャート	表裏両面とも上下からの調整によって整形され、下端部に鋭い刃部を作り出している。縦断面は楔状を呈する。		
29	3	セ 436	20	5	石核		53	43	26	70	無斑晶ガラス質安山岩			
31	4	セ 436	32	9	敲石・磨石	一部欠	92	69	33	261	デイサイト			
		セ 436	33	1	剥片		18.6			1.9	黒曜石			2点
		セ 436	35	44	剥片		16.7			1.1	黒曜石			
		セ 436	43	38	剥片		22.1			2.7	ホルンフェルス			
34	5	セ 436	45	63	磨石	完形	61	61	33	200	溶結凝灰岩（奥日光）			
		セ 436	61	31	剥片		15.1			0.9	チャート			
		セ 436	62	21	剥片		10.4			0.2	チャート			
		セ 436	64	8	剥片		19.9			1.1	黒曜石			
		セ 436	78	14	剥片		15.3			0.9	黒曜石			
43	1	セ 436	96	3	砥石	破片	46	44	24	42	流紋岩（新第三紀）			
		セ 437	98	2	剥片		33.8			7.2	チャート			
		セ 437	98	2	剥片		10.8			0.2	黒曜石			
47	32	セ 437	98	2	敲石・磨石	半欠	69	42	35	132	凝灰角礫岩			
49	28	セ 436	100	2	磨石	破片	54	38	36	81	輝石安山岩（新第三紀）			
		セ 436	101	5	剥片		24.5			2.8	黒曜石			
		セ 436	101	1606	剥片		20.1			0.4	黒曜石			
49	3	セ 436	103	11	凹石	半欠	48	58	25	70	凝灰岩（新第三紀）			

第３章　遺物包含層

第１節　遺物包含層の概要

海保広作遺跡では、遺構確認面であるソフトローム層（Ⅲ層）上面に、7 枚の土層が確認された。このうち、縄文時代に形成されたとみられる土層は、ⅡｂからⅡｅ層までで、それぞれ縄文後・晩期（Ⅱｂ)、縄文前期（Ⅱｃ・Ⅱｄ)、縄文早期（Ⅱｅ）の遺物包含層と捉えることができる。それぞれの土層厚は、概ね 10 ～ 20cm ほどである（第 54 図)。これらは、全てが遺跡全体で見られるわけではなく、縄文後・晩期の遺物包含層は、西側の A64・65・57・58 区のみ、縄文前期の遺物包含層は、東側の A50 から A29 あたり、縄文早期の遺物包含層は、希薄ながら調査区の東側を中心に広く分布している。

第２節　土器と礫

１　遺跡東側地点

【遺物出土状況】

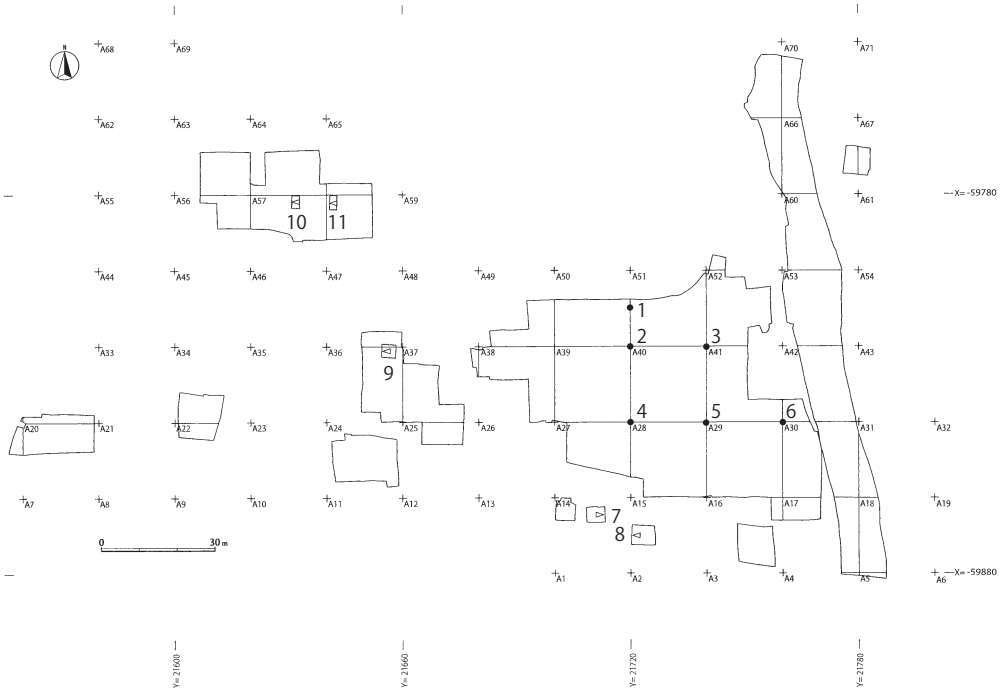
遺跡東側地点は、この遺跡内で最も多数の遺物が出土した。遺物包含層を確認した時点では、下部にある遺構の時期や内容がわからなかったため、その関係を後で復元できるよう、20m 四方の大グリッド内を 50cm 四方 1,600 箇所の小グリッドに分割して遺物を回収した。そして整理作業の段階で、これらを 4m 四方 25 箇所の中グリッドに再編し土器・礫等内容物の集計を試みた（第 56 ～ 58 図・59 図、表 9・11)。なお、個々の土器の属性については、表 10 として DVD 内にデータを収録した。また、当該区域の遺構と包含層の関係を見るために、早期と前期の遺構を抽出して図化した（第 55 図)。これらによると、縄文早期撚糸文系の時期は、明確な遺構は皆無であるが遺物包含層は希薄ながらほぼ全体に広がり、条痕文系の時期には炉穴・土坑などの遺構が A49 から A17 区、さらにこの西側・南側にも広がり、包含層も同様に広い分布を示す。前期後葉の時期の遺構は、A49 から A17 区の北側に偏って分布するが、遺物包含層もこの範囲を中心に濃密な分布を示しさらに周辺に拡散している様子を見ることができる。本遺跡では遺構・包含層ともに主体とはならないが、諸磯式の分布も概ね浮島･興津式の分布と同様の傾向が見られる。また、後続する前期末とみられる時期の土器の分布も、前期後葉の分布と重なり、A49 から A17 区の北側に限られる。遺物包含層における縄文後期の土器の分布の中心は遺跡の西側の一画に偏っているが、加曽利Ｂ式期のものに限っては、A49 から A17 区にもわずかに見られる。ただし集中箇所は認められず散在的な在り方を呈する。

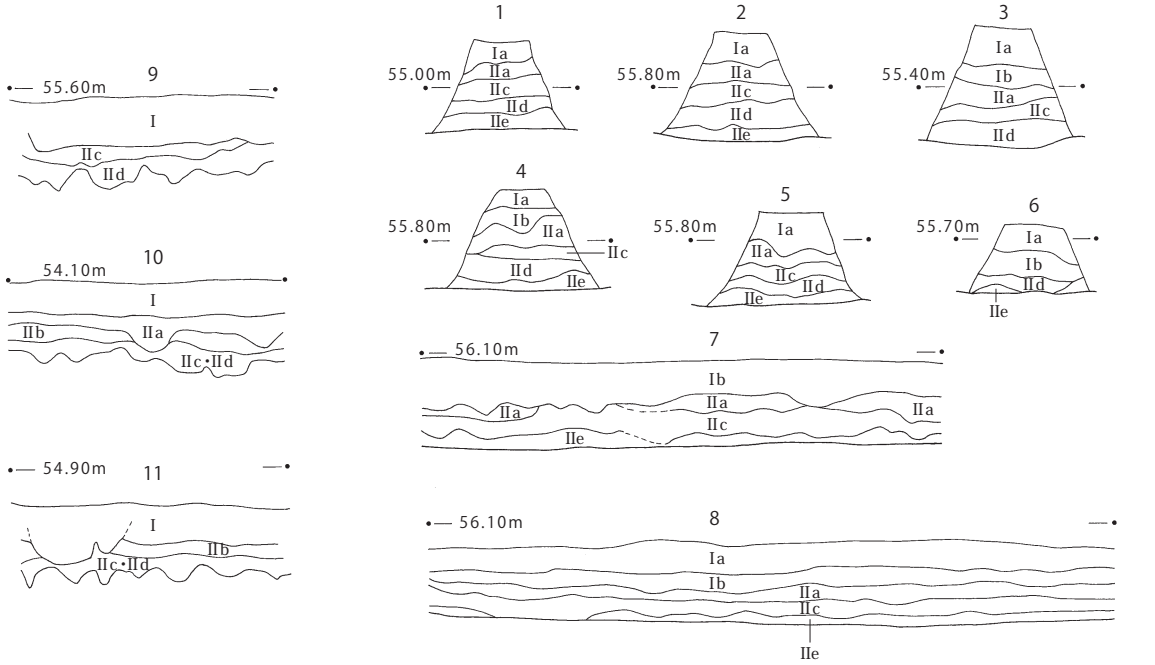
【遺物説明】

Ａ 49 区

12 点、255g の被熱した小礫、596g の土器が出土した。土器の内訳は、早期条痕文系、前期後葉、前期末で、前期後葉の浮島・興津式が全体の 40.9％で主体となる。

第 60 図 1 は、条痕文系土器の口縁部、2 ～ 5 は浮島・興津式の口縁部及び胴部である。凹凸文、平行沈線文、波状貝殻文などが施される。

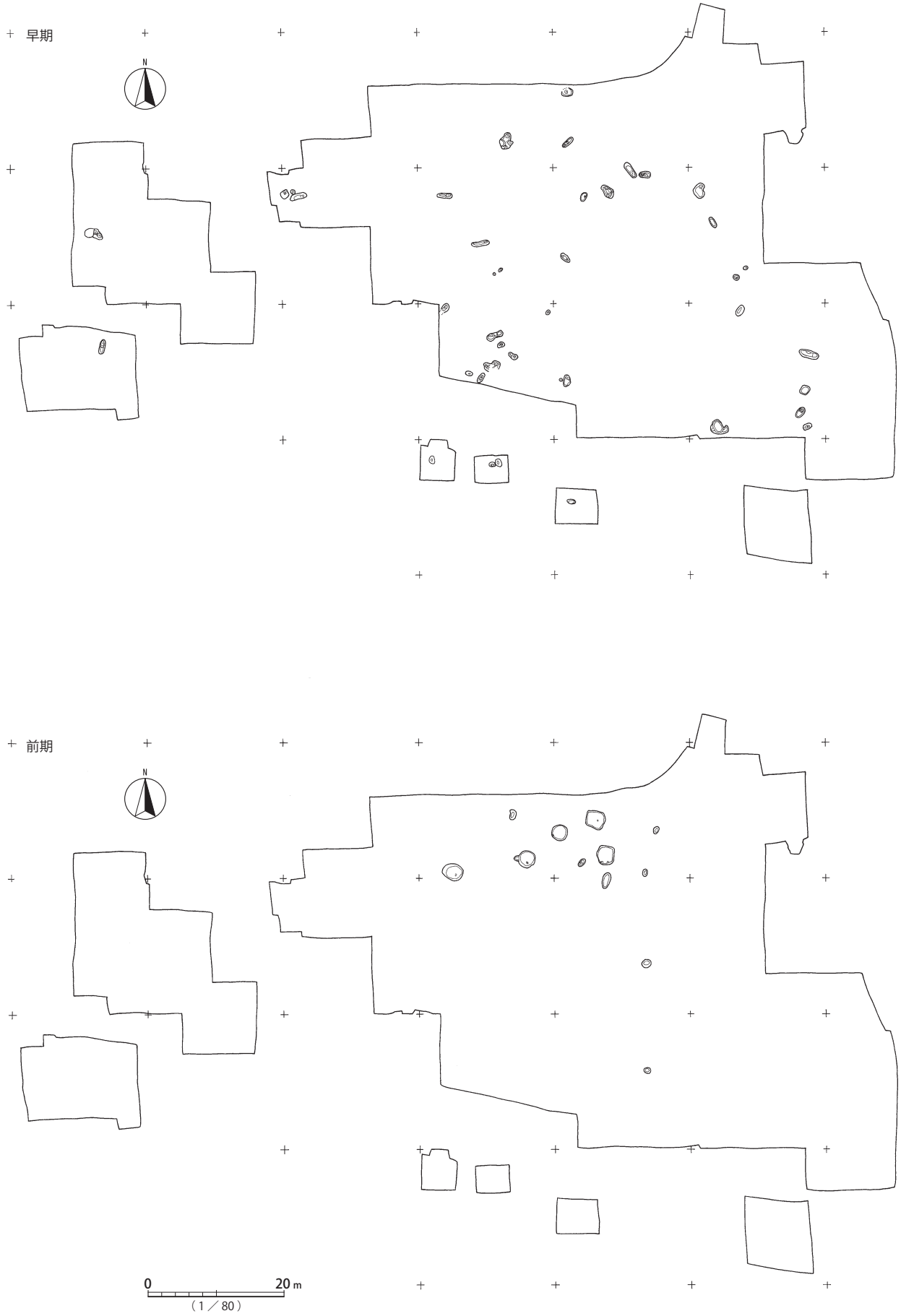




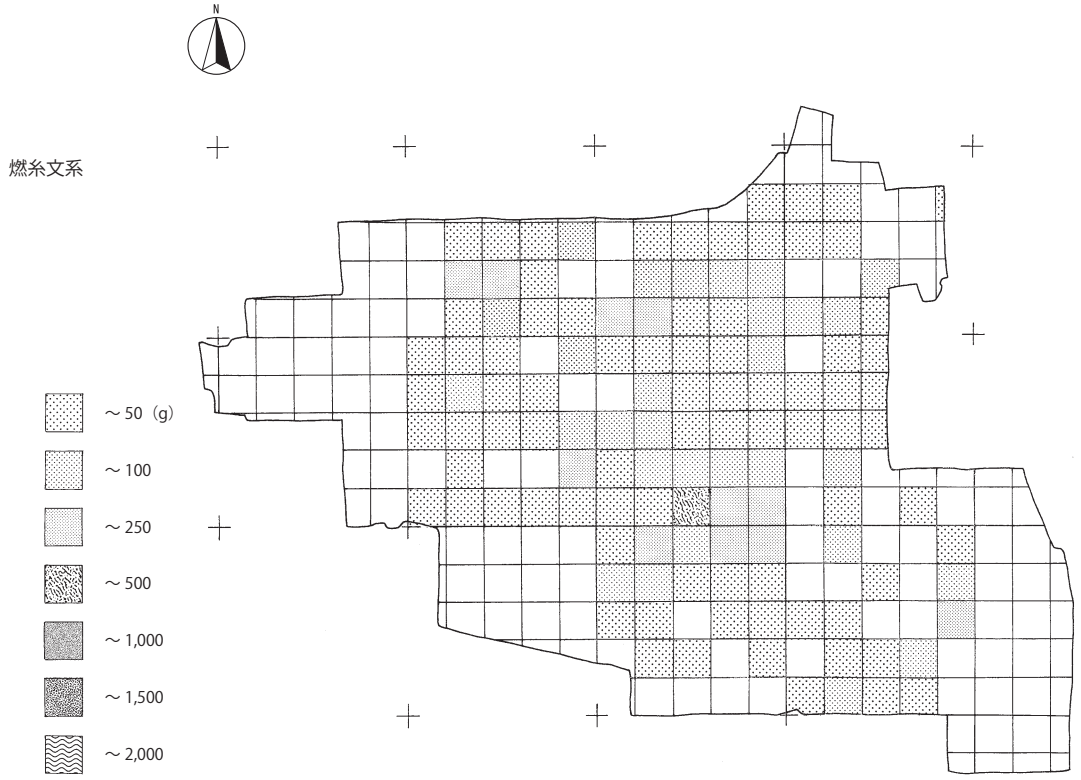
Ia 灰褐色土（表土・耕作土）
Ib 暗灰褐色土（旧耕作土）
IIa 黒色土　古代末
IIb 暗褐色土（橙色焼土粒を含む）縄文後・晩期
IIc 黒褐色土　縄文前期
IId 暗褐色土
IIe 褐色土・ローム漸移層　縄文早期

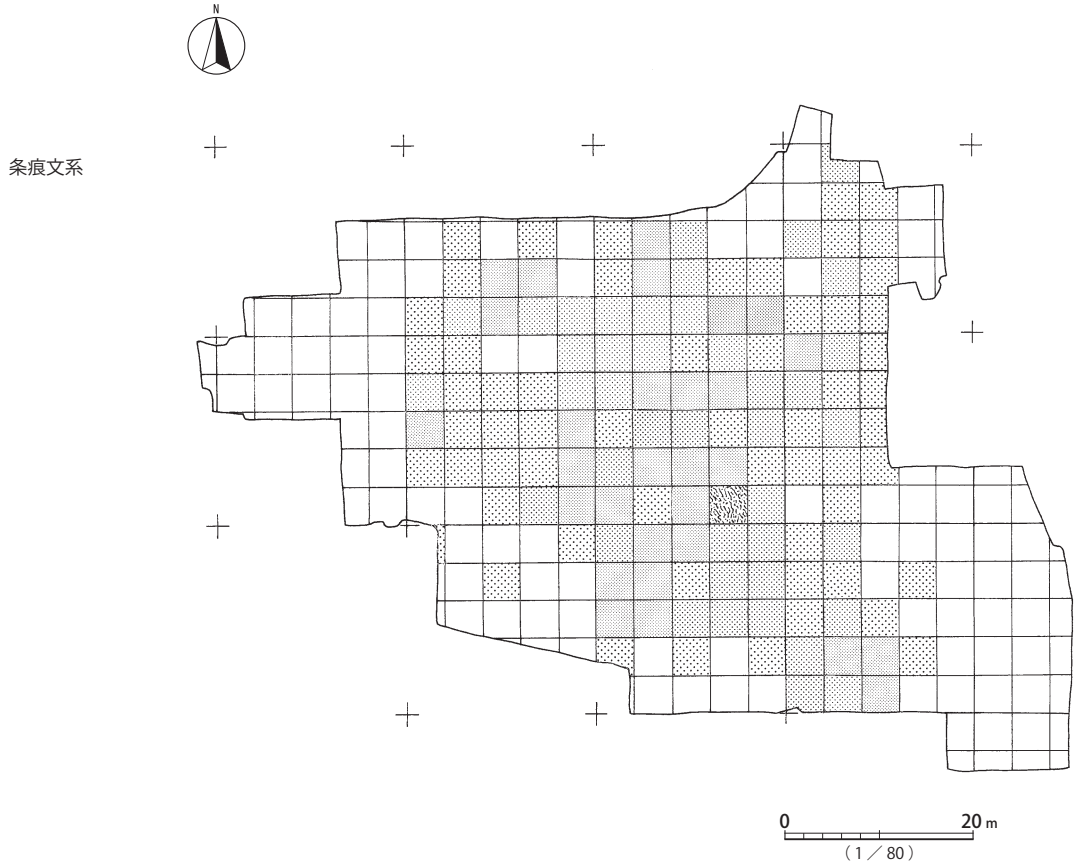
0　2m
（1／60）

第54図　遺物包含層土層断面



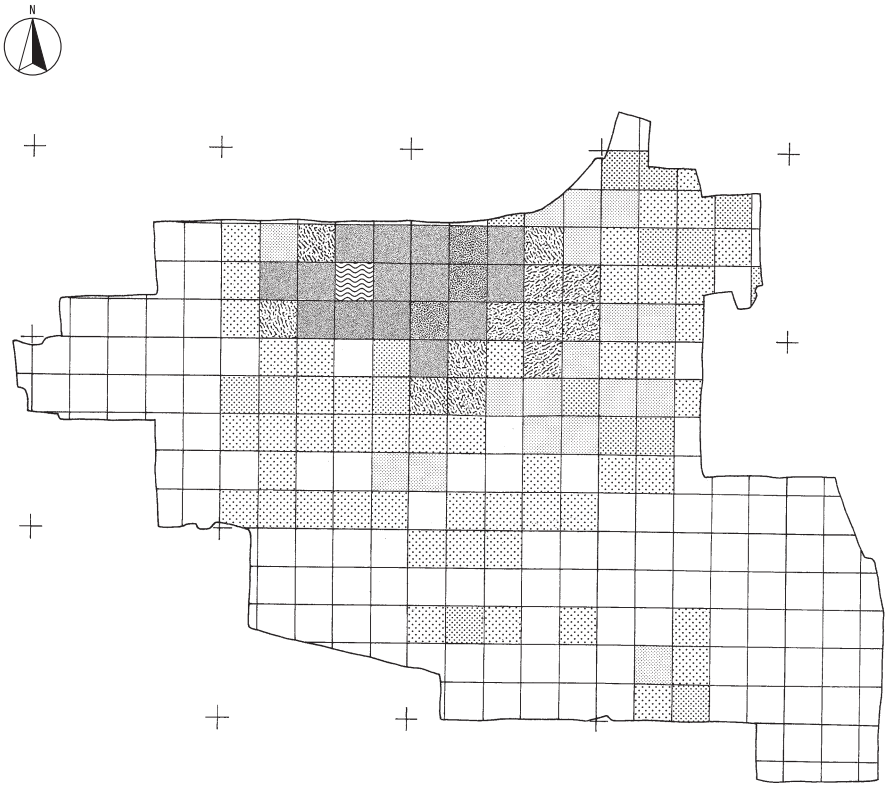
第 55 図　時期別遺構分布図（早期、前期）



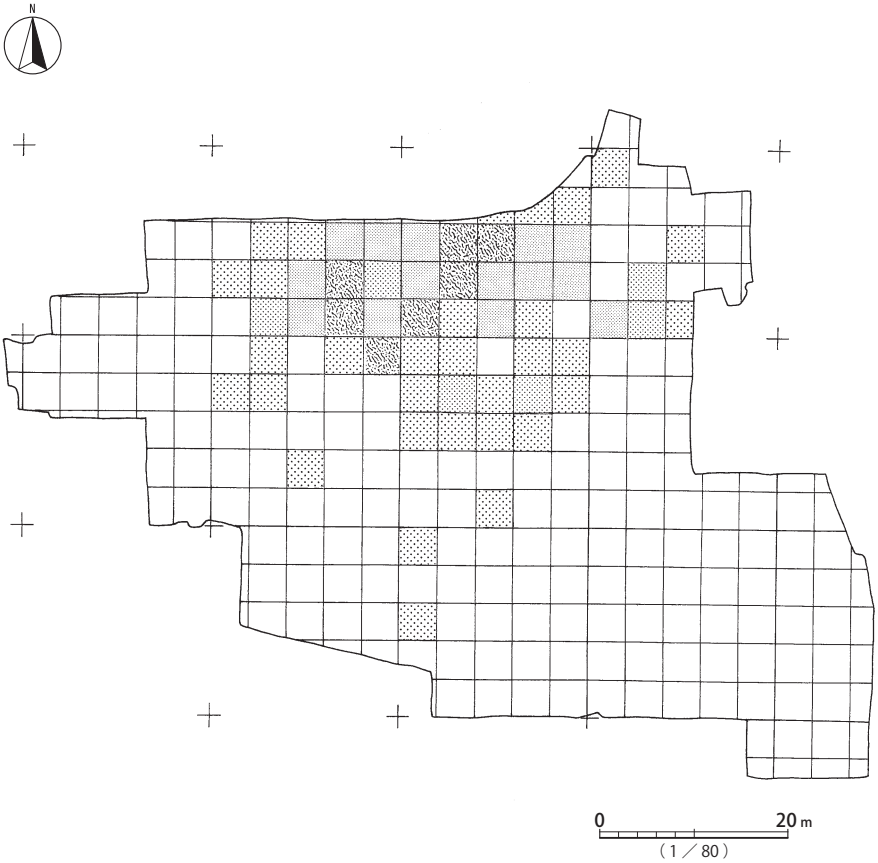


第 56 図　時期別包含層出土土器分布図 1（撚糸文系、条痕文系）

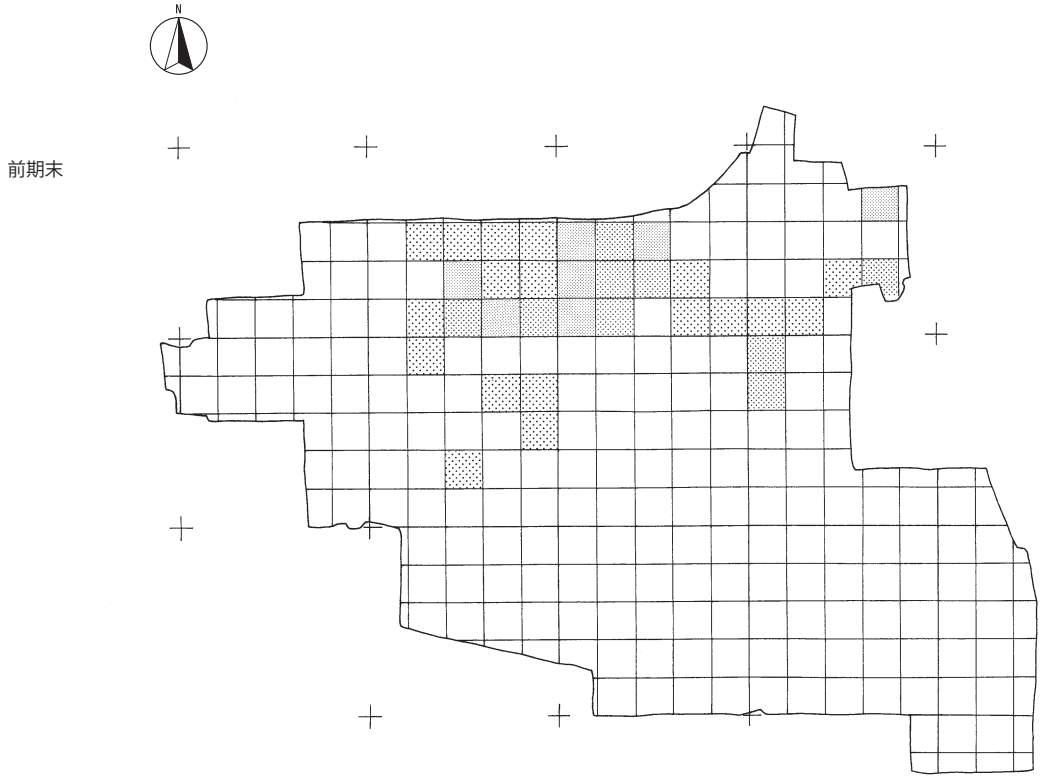
浮島・興津

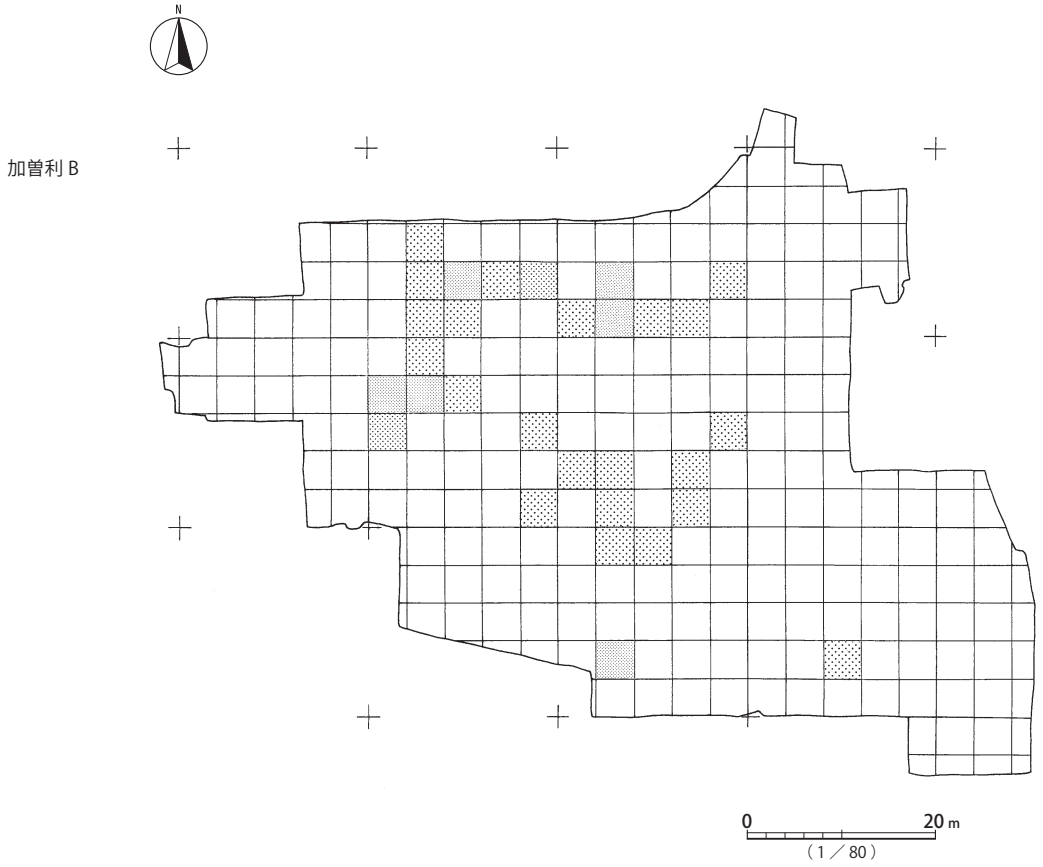


諸磯

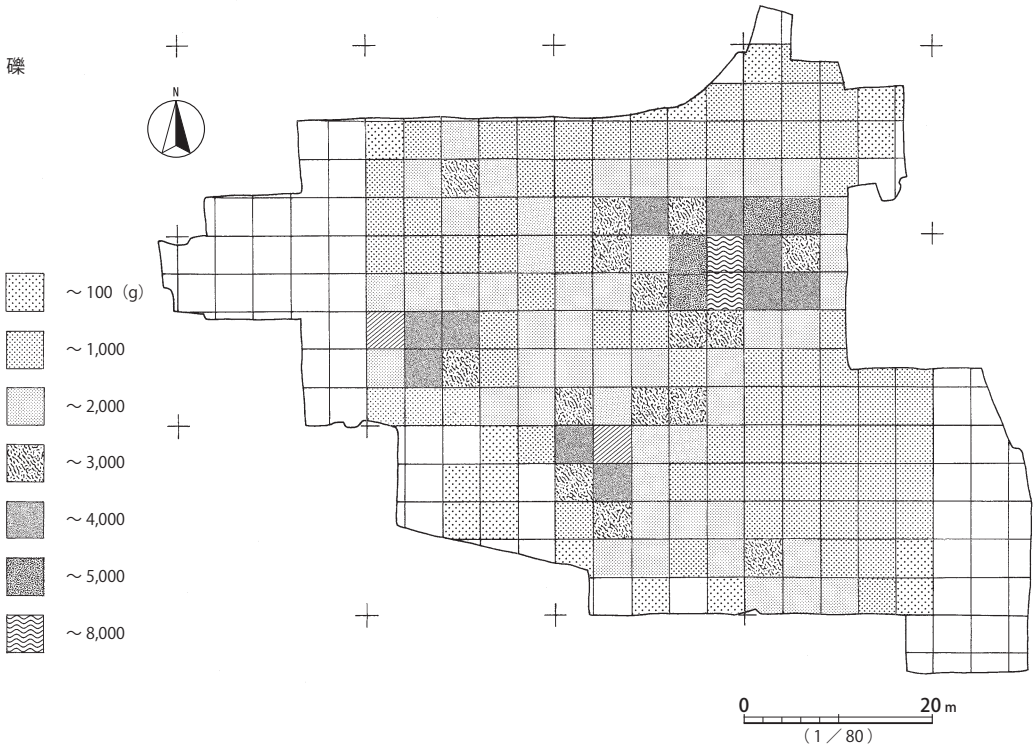


第 57 図　時期別包含層出土土器分布図 2（浮島・興津、諸磯）





第 58 図　時期別包含層出土土器分布図 3（前期末、加曽利 B）



第59図　遺物包含層出土礫分布図

A 50 区

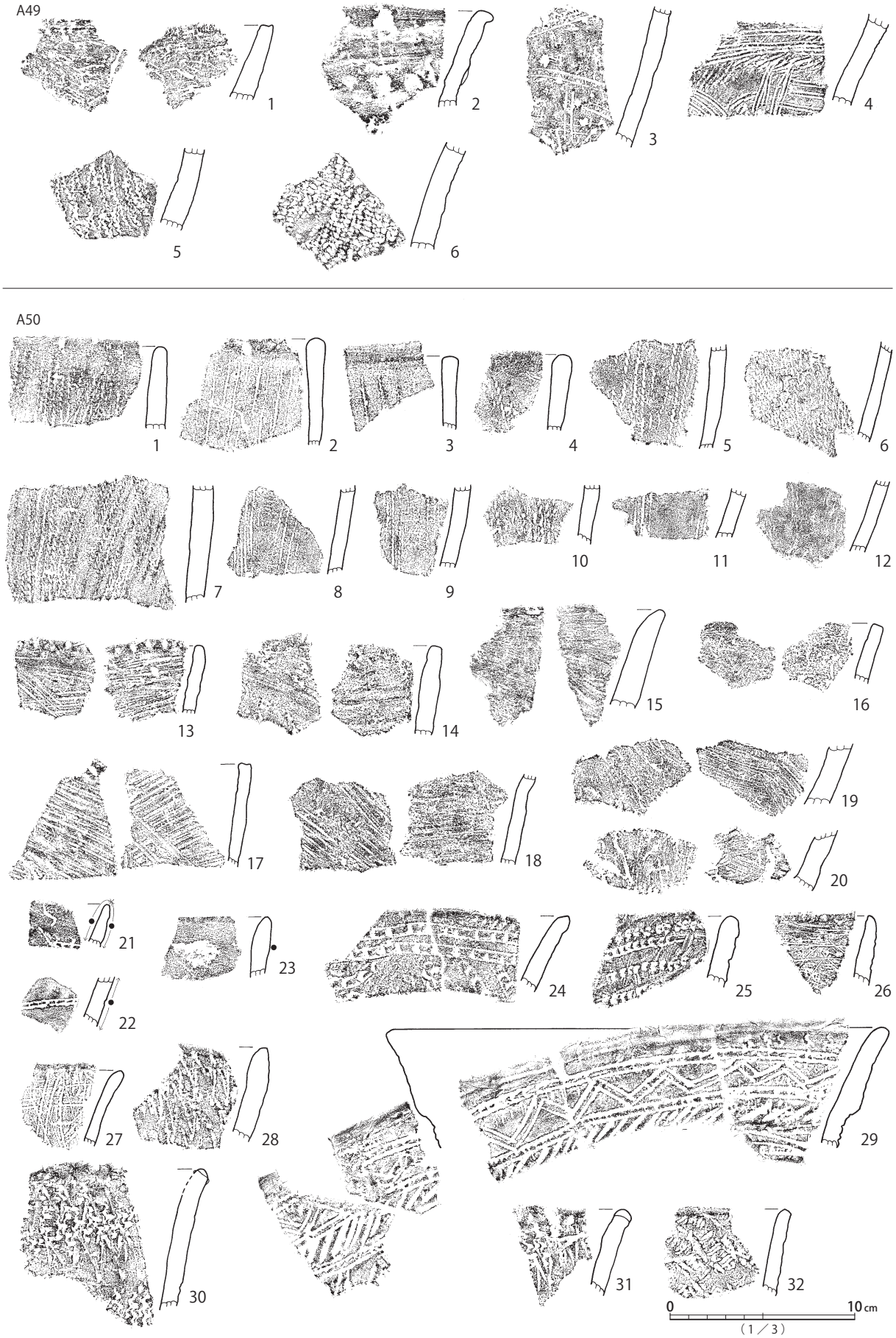
548 点、14,670g のほとんどが被熱した小礫、23,735g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末、後期中葉で、前期後葉の浮島・興津式が全体の 38.8％で主体となる。また諸磯式も 7.2％の比率で見られる。

第 60 図 1 ～ 12 は、撚糸文系の口縁部及び胴部である。13 ～ 20 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部である。第 60 図 21 ～ 32、第 61 図 33 ～ 74 は、浮島・興津式の口縁部、第 61 図 75 ～ 85、第 62 図 86 ～ 133、第 63 図 134 ～ 145 は、浮島・興津式の胴部である。第 60 図 21 ～ 23 は、外面又は内外面に赤彩が施される土器で、横位の細い竹管文をみる。文様は、平行沈線文･変形爪形文･三角文･凹凸文･輪積文･波状貝殻文･垂直刺突貝殻文などバラエティに富む。地文としては、撚糸文･付加条などが見られる。第 63 図 146 ～ 173 は､諸磯 b 式･c 式の口縁部及び胴部､174 は底部である。竹管文・浮線文・集合沈線文・貼付文・結節浮線文などが見られる。第 63 図 175 ～ 186、第 64 図 187 ～ 190 は、前期末に位置づけられるものである。撚糸側面圧痕文・結節縄文などが施される。190 は、横位の鋸歯状文が施され、東北地方の影響を受けたものとみられる。206 ～ 211 は、加曽利 B 式の口縁部及び胴部である。

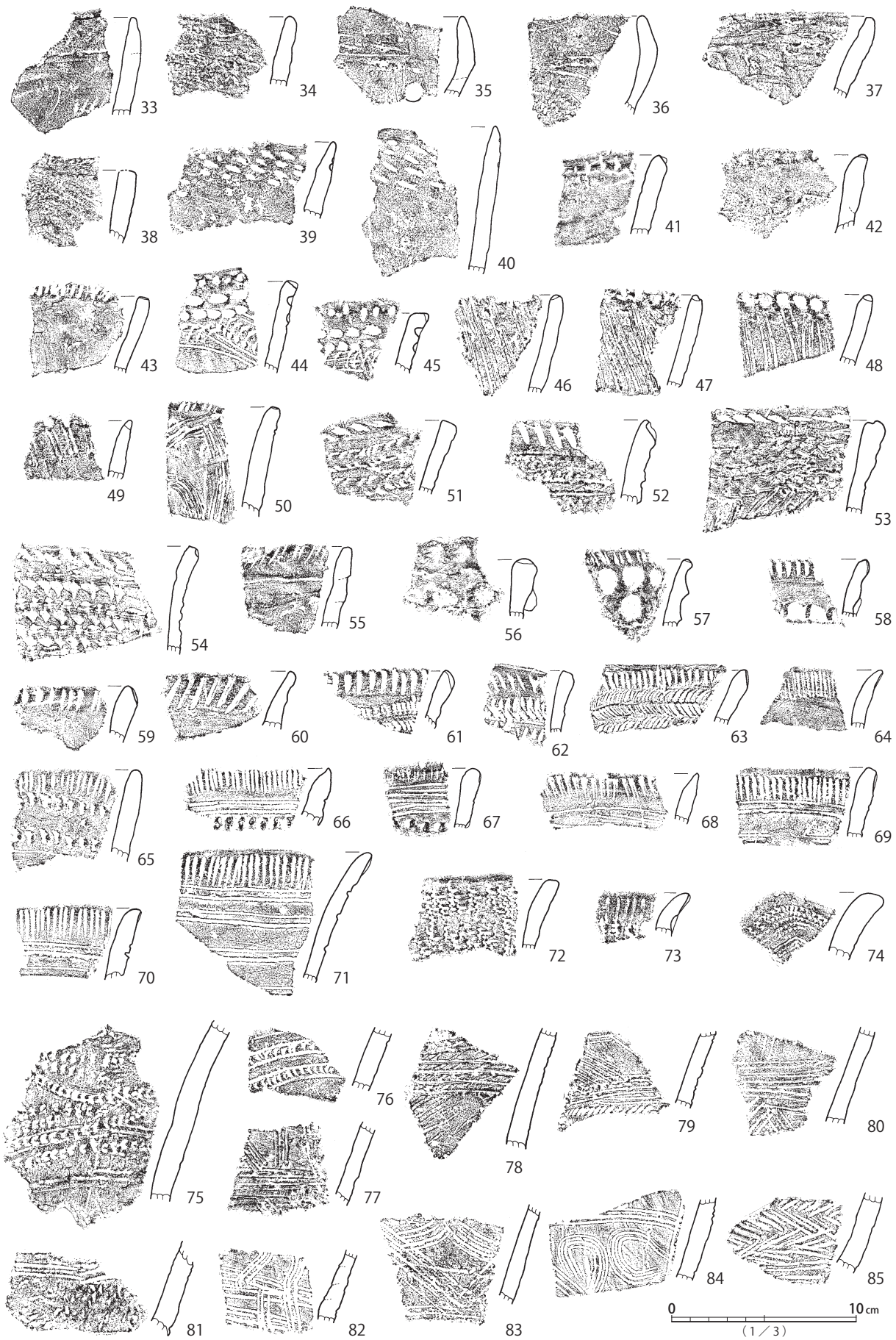
A 51 区

1,327 点、24,990g のほとんどが被熱した小礫、27,168g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末、後期前葉、後期中葉で、前期後葉の浮島・興津式が全体の 35.5％で主体となる。また諸磯式も 8.1％の比率で見られる。

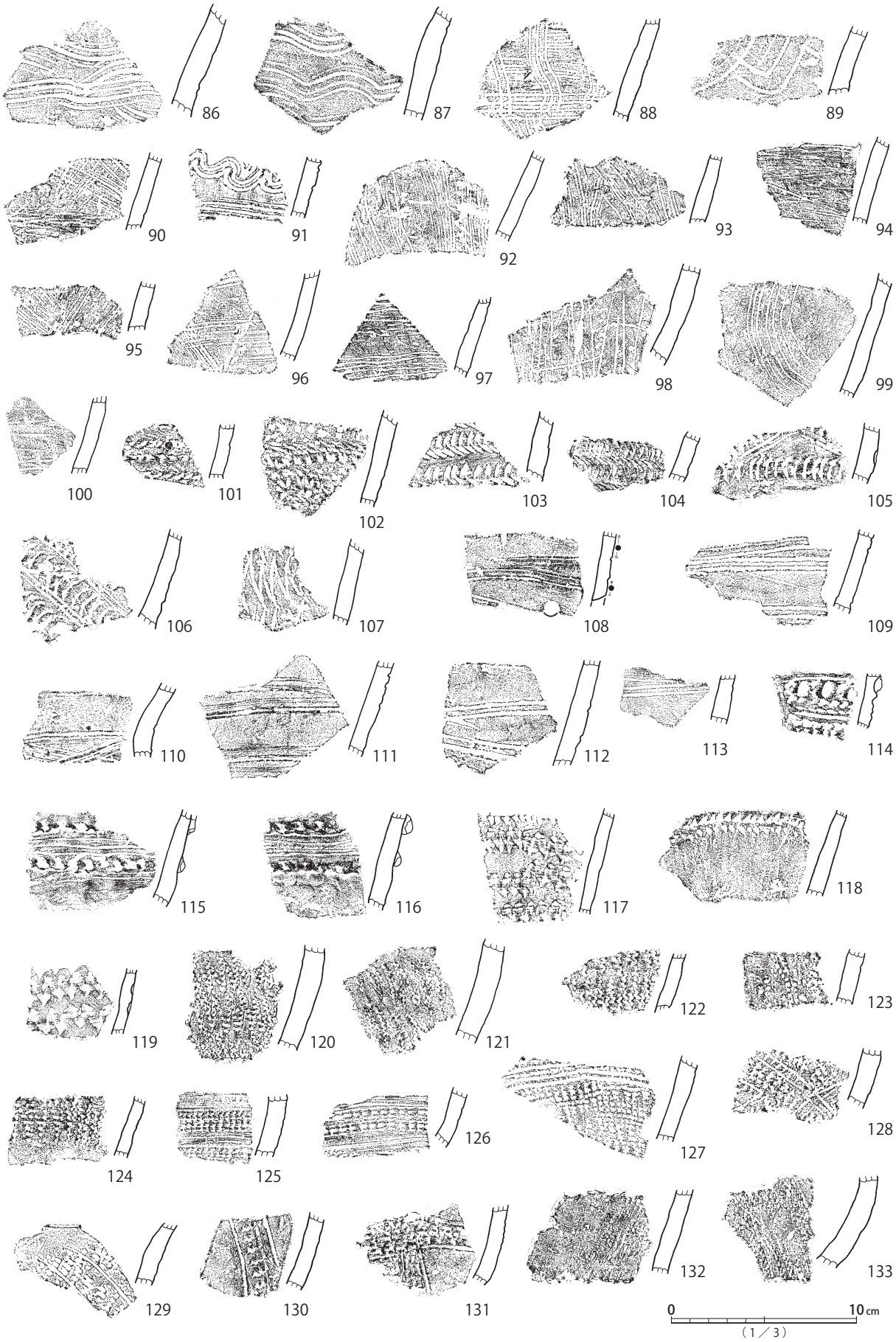
第 65 図 1 ～ 9 は、撚糸文系土器の口縁部・胴部及び底部である。10 ～ 15・17 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部、16 は平底の底部である。18 ～ 47、第 66 図 48 ～ 78 は、浮島・興津式の口



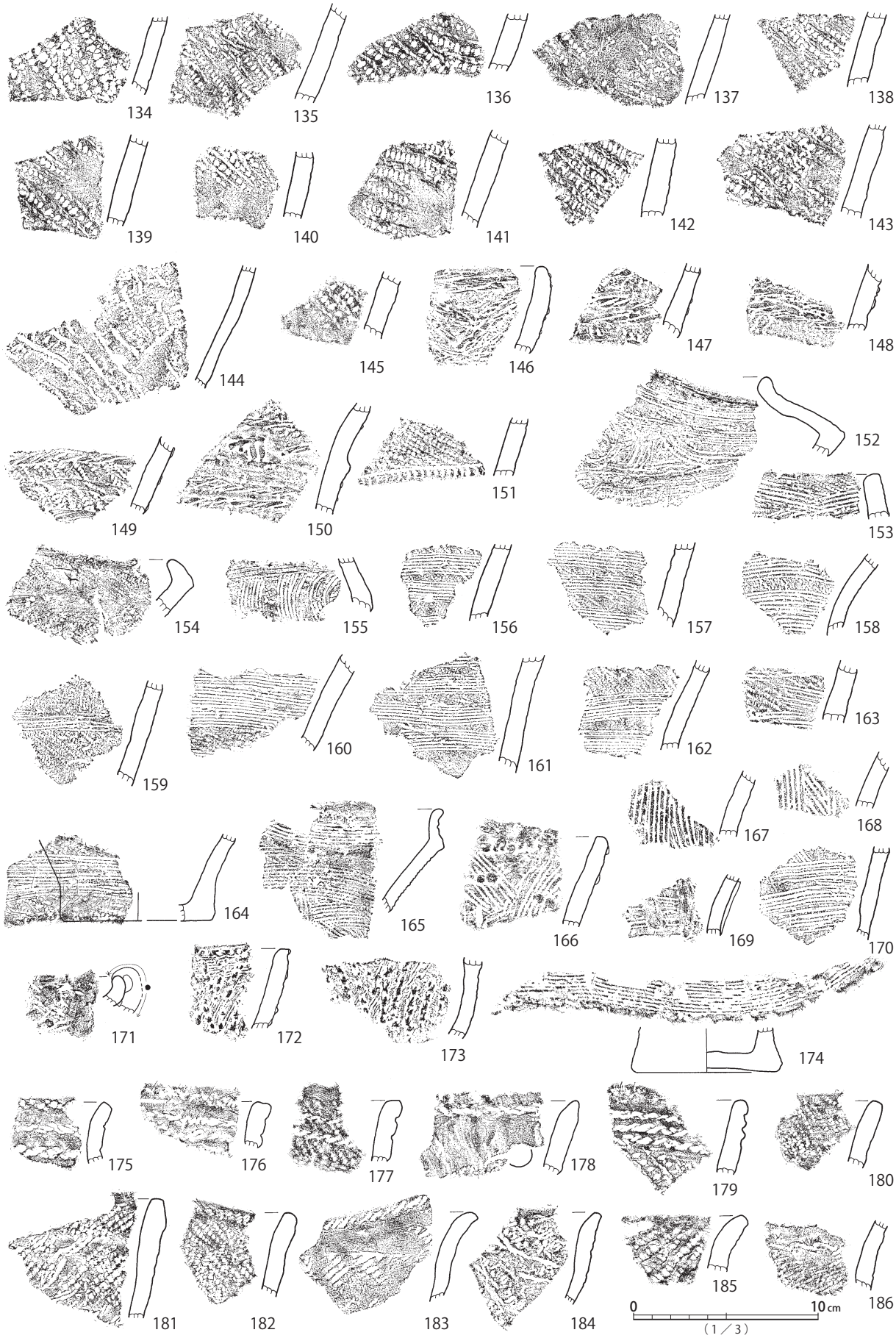
第60図　A49区出土土器、A50区出土土器（1）



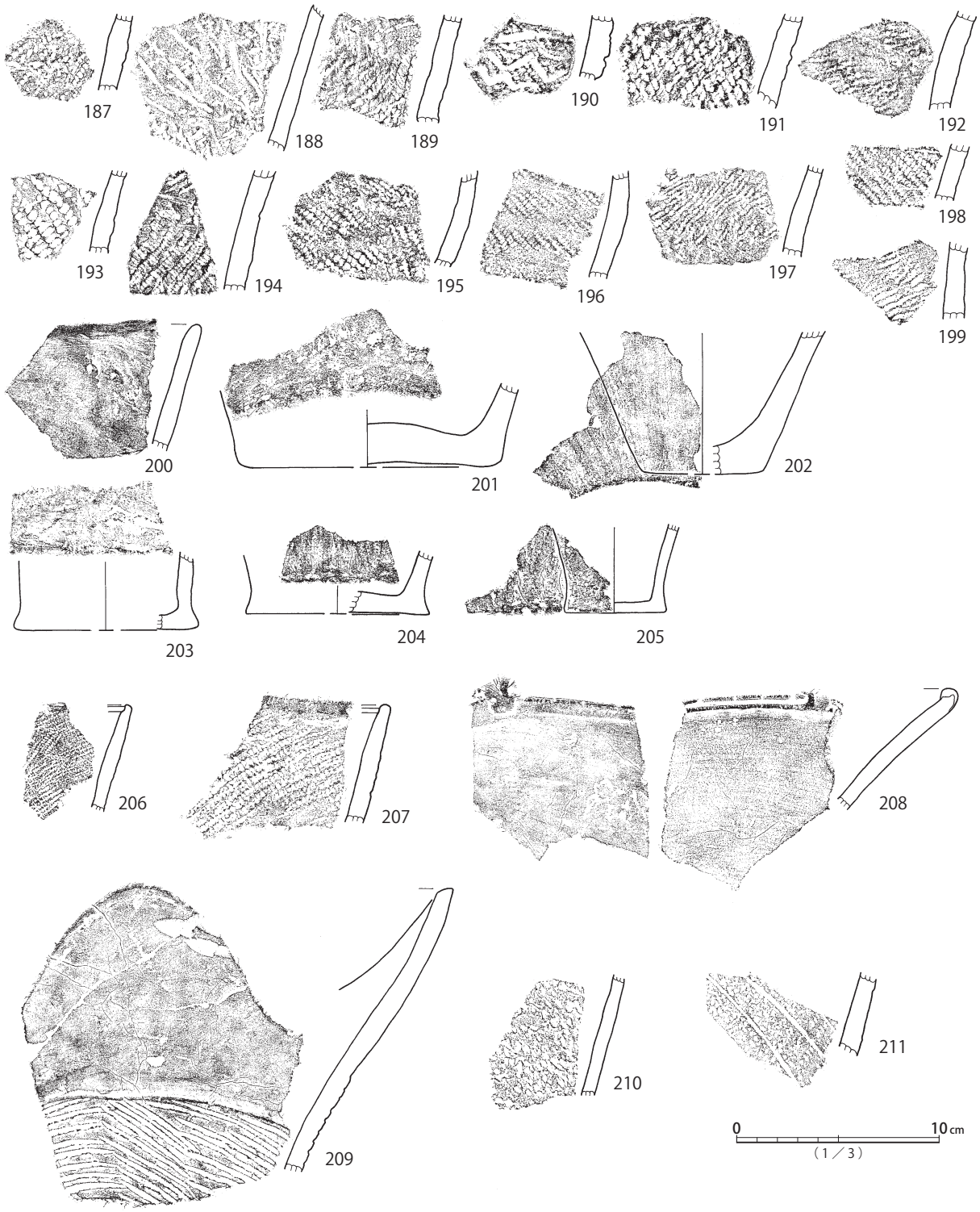
第61図　A50区出土土器（2）



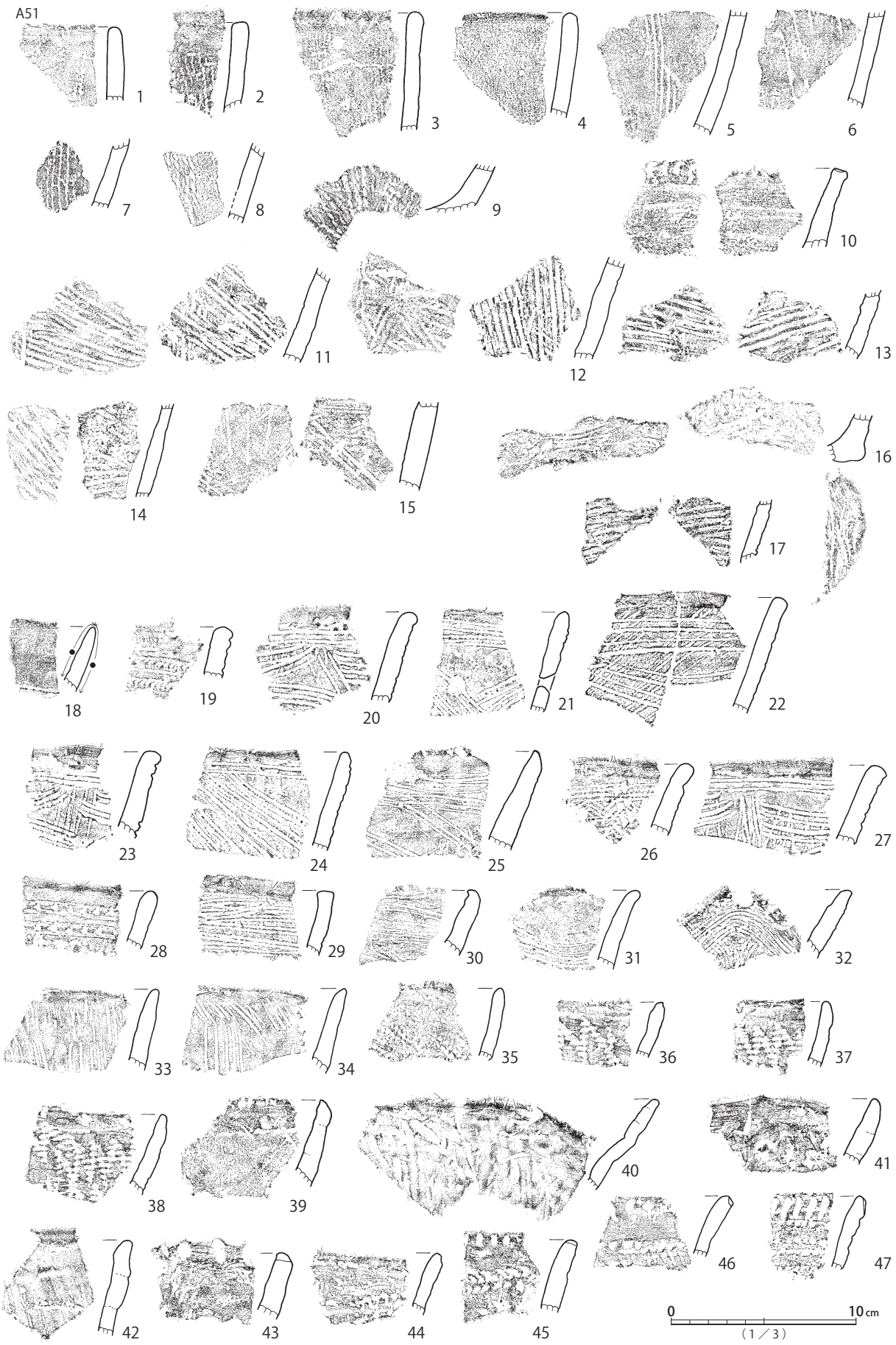
第62図　A50区出土土器（3）



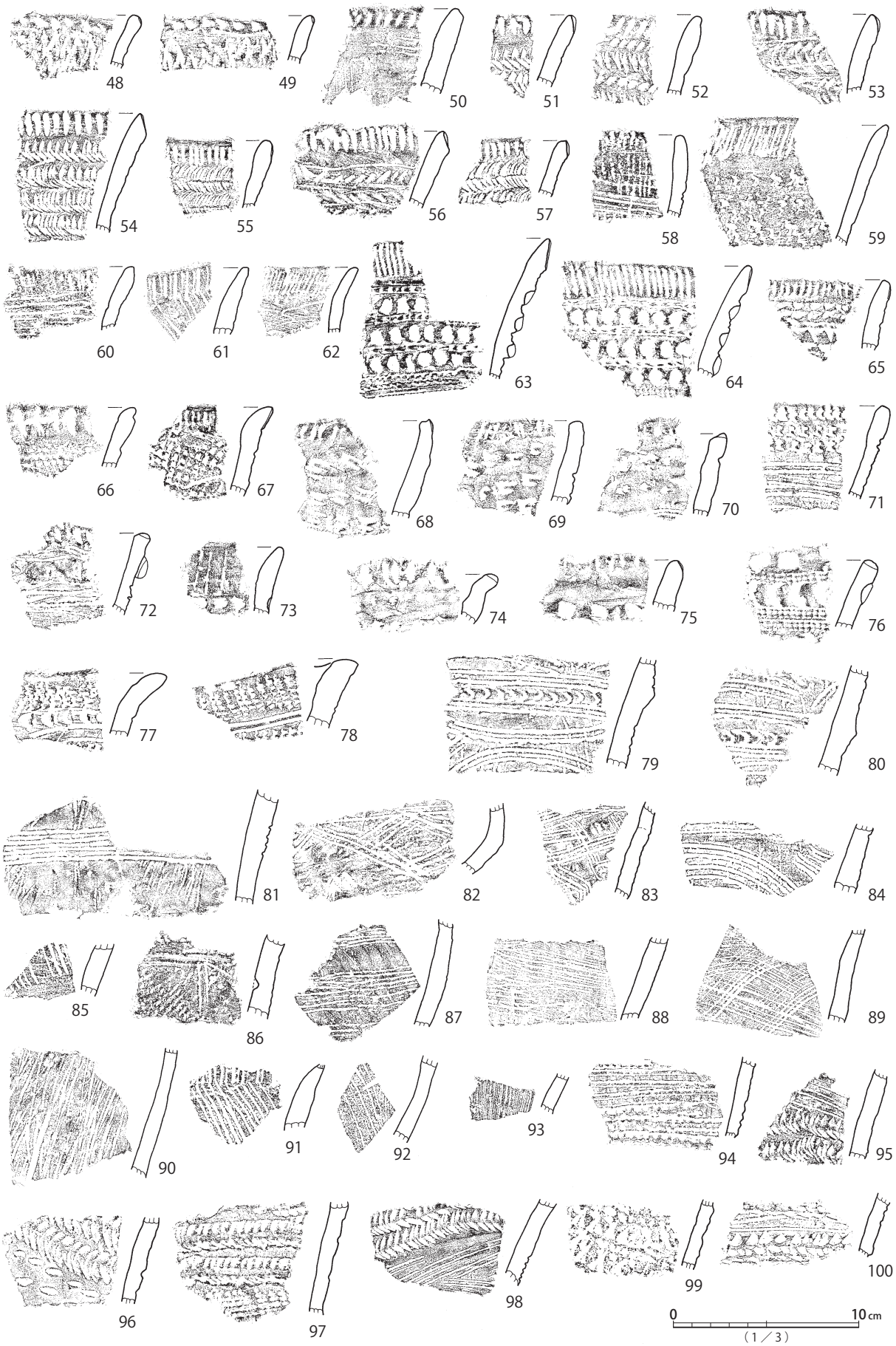
第 63 図　A50 区出土土器（4）



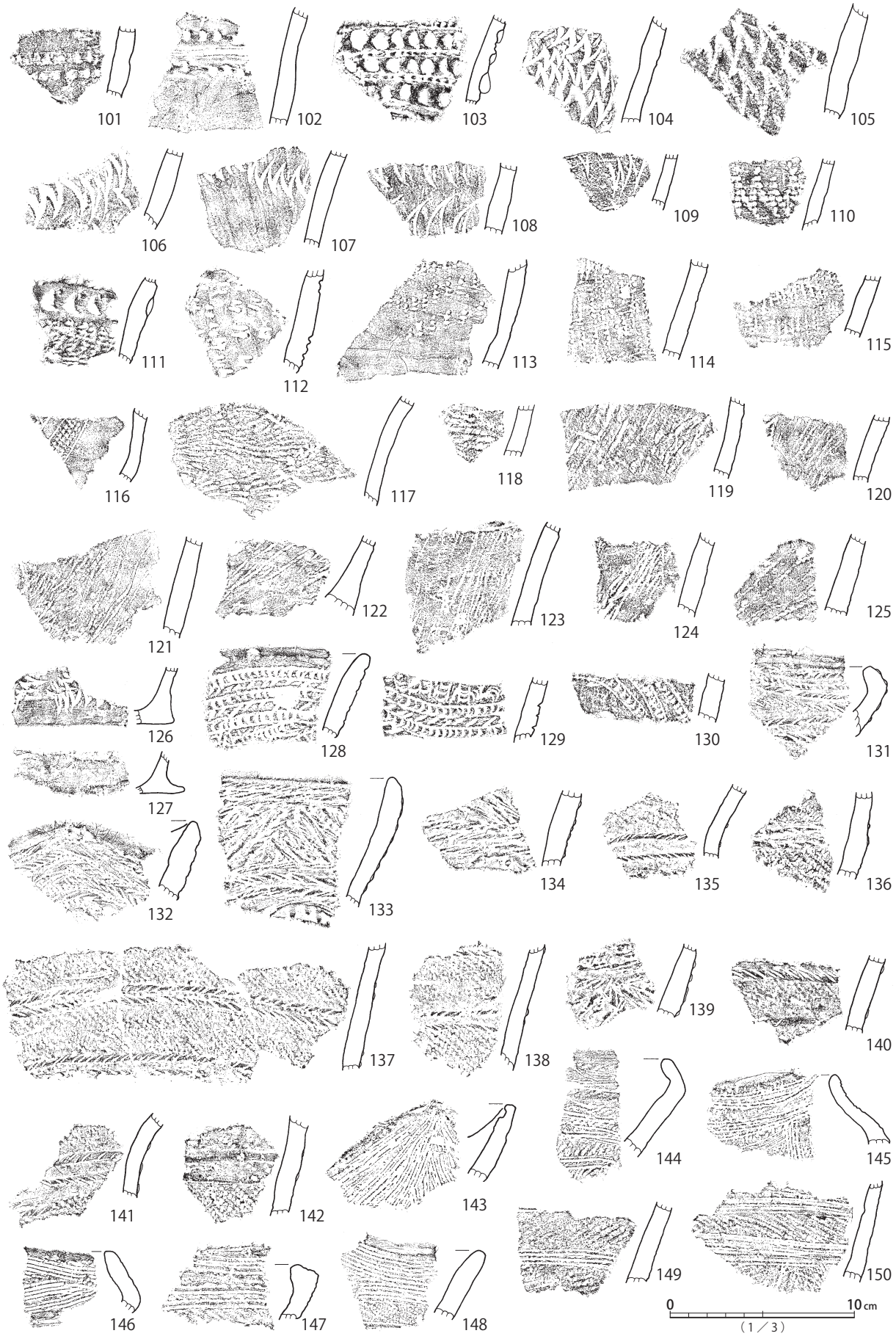
第64図　A50区出土土器（5）



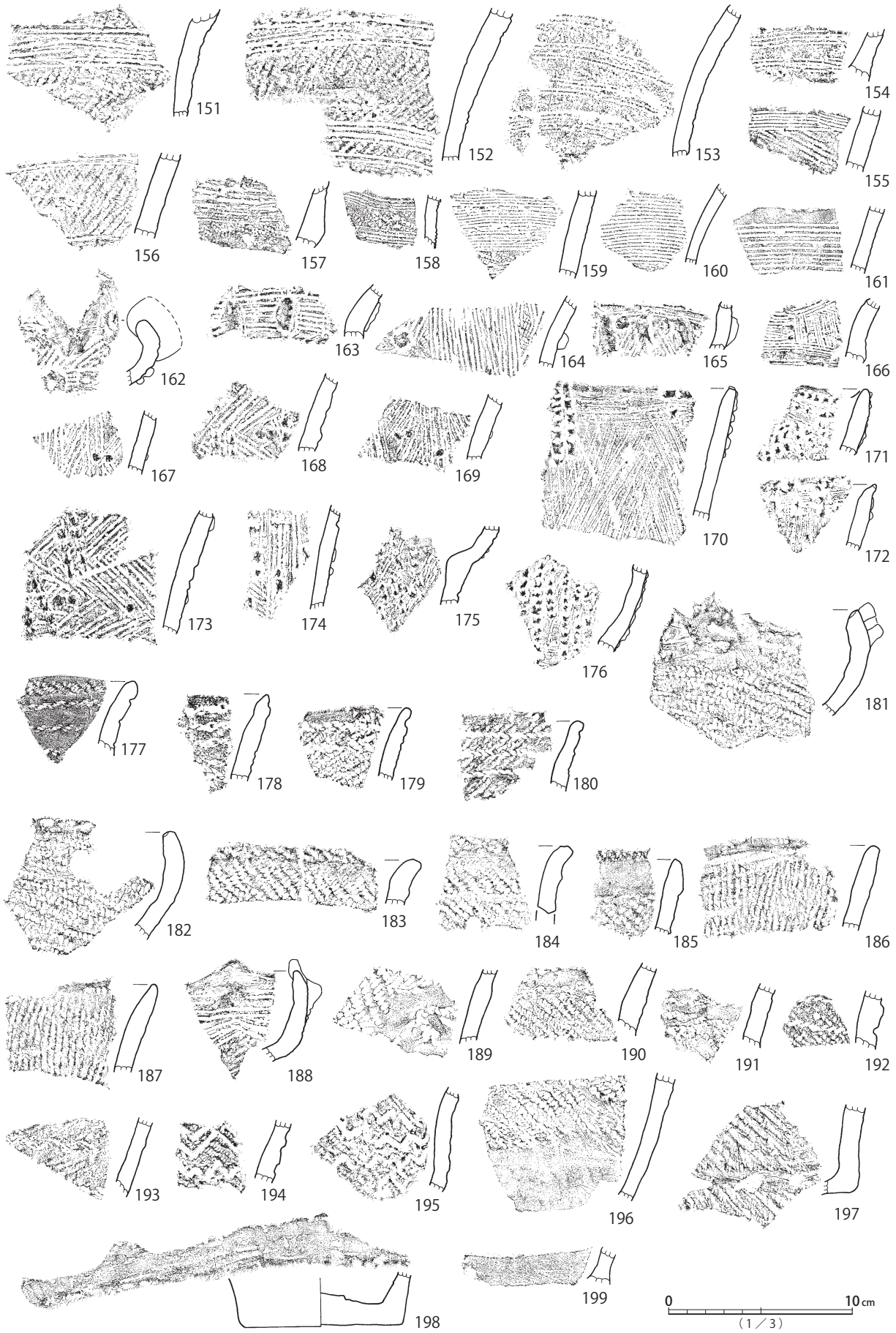
第65図　A51区出土土器（1）



第66図　A51区出土土器（2）



第67図　A51区出土土器（3）



第68図　A51区出土土器（4）

縁部、79 ～ 100、第 67 図 101 ～ 125 は浮島・興津式の胴部、126・127 は底部である。第 65 図 18 は内外面に赤彩が施される土器で、図中下部には細い竹管文が施されるものとみられる。文様は、平行沈線文・変形爪形文・三角文・凹凸文・輪積文・波状貝殻文・垂直刺突貝殻文などバラエティに富む。地文としては、撚糸文が見られる。第 67 図 128 ～ 150、第 68 図 151 ～ 176 は、諸磯 b 式・c 式の口縁部及び胴部である。竹管文・浮線文・集合沈線文・貼付文・結節浮線文などが見られる。177 ～ 195 は、前期末に位置づけられるものである。撚糸側面圧痕文・結節縄文などが施される。190 は、横位の鋸歯状文が施され、東北地方の影響を受けたものとみられる。第 69 図 200 ～ 203 は、加曽利 B 式の口縁部である。203 は紐線文をもつ粗製土器である。

A 52 区

826 点、17,728g のほとんどが被熱した小礫、4,131g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末で、前期後葉の浮島・興津式が全体の 28.2％で主体となる。また諸磯式も 11.4％の比率で見られる。

第 69 図 1 ～ 5 は、撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。6 は、条痕文系土器の胴部である。外内面に貝殻状痕が施される。8 ～ 18 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。平行沈線文・凹凸文・波状貝殻文・垂直刺突貝殻文などが見られる。19 ～ 24、第 70 図 25 は、諸磯 b 式・c 式の胴部である。浮線文・貼付文・結節浮線文などが見られる。26 ～ 30 は、前期末に位置づけられるものである。撚糸側面圧痕文・結節縄文などが施される。

A 38 区

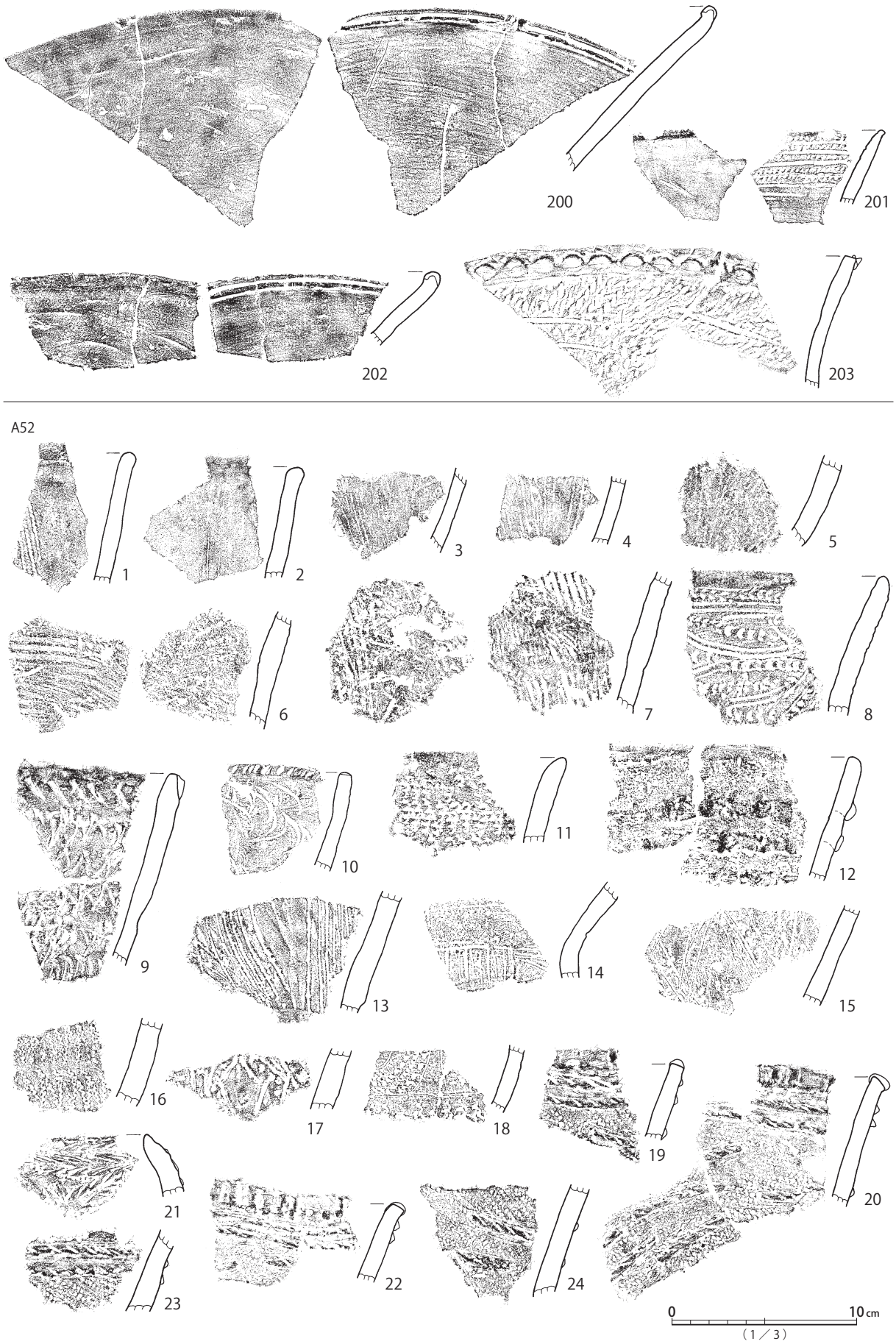
537 点、8,134g のほとんどが被熱した小礫、3,171g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、後期前葉、後期中葉で、早期条痕文系が 38.7％で主体となる。また前期後葉の浮島・興津式も 12.4％の比率で見られる。

第 70 図 1 ～ 3 は、撚糸文系の口縁部である。4 ～ 11 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部である。12 ～ 18 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。櫛歯文・有節平行線文・垂直刺突貝殻文・波状貝殻文などが見られる。19 ～ 21 は、諸磯 c 式の口縁部及び胴部である。第 71 図 25 は、堀之内 2 式の口縁部である。26 ～ 31 は、加曽利 B 式の口縁部及び胴部である。31 は、台付土器の台部とみられる。

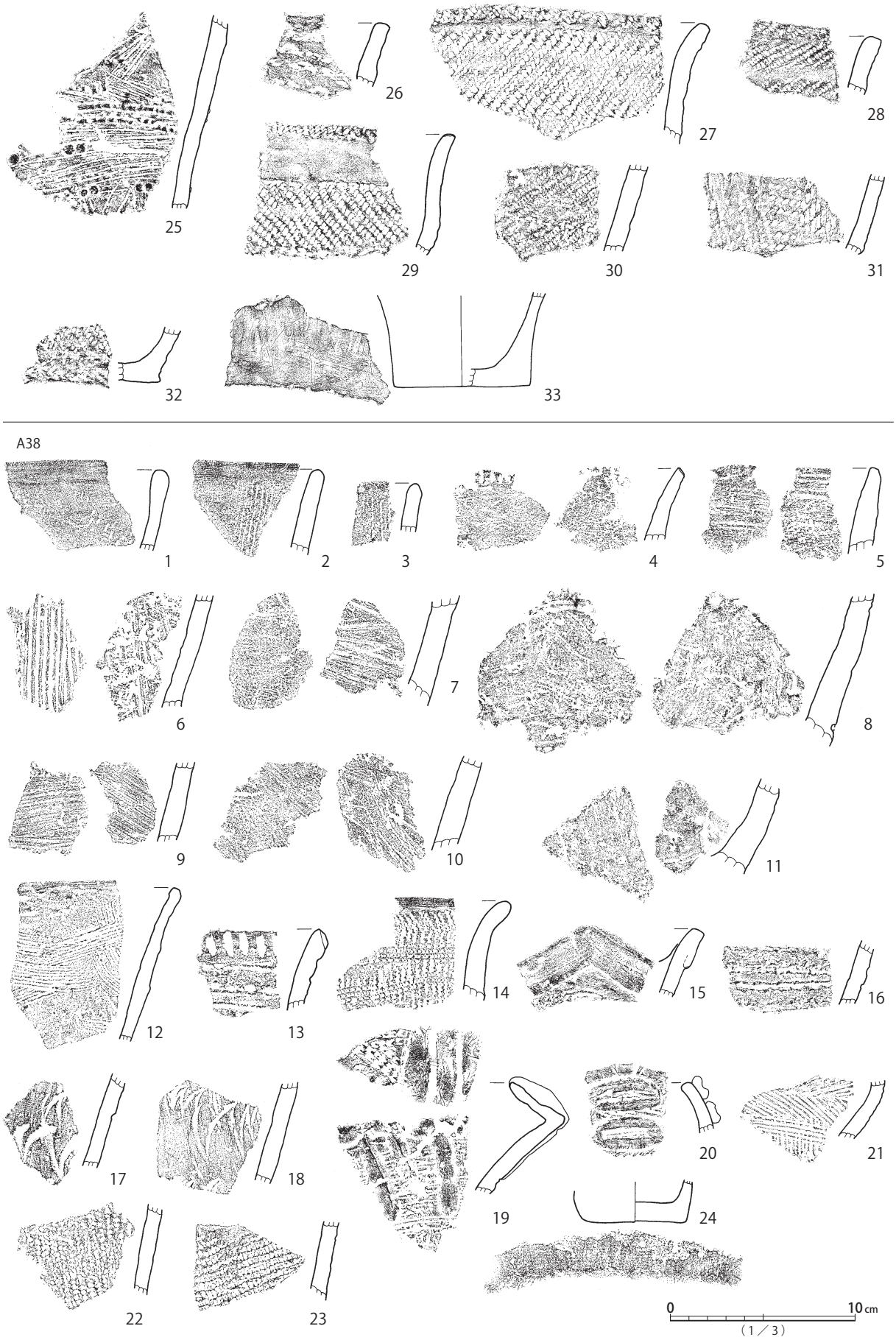
A 39 区

2,868 点、43,398g のほとんどが被熱した小礫、6,691g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末、後期前葉、後期中葉で、早期条痕文系が 18.6％、前期後葉の浮島・興津式が全体の 17.1％で主体となる。

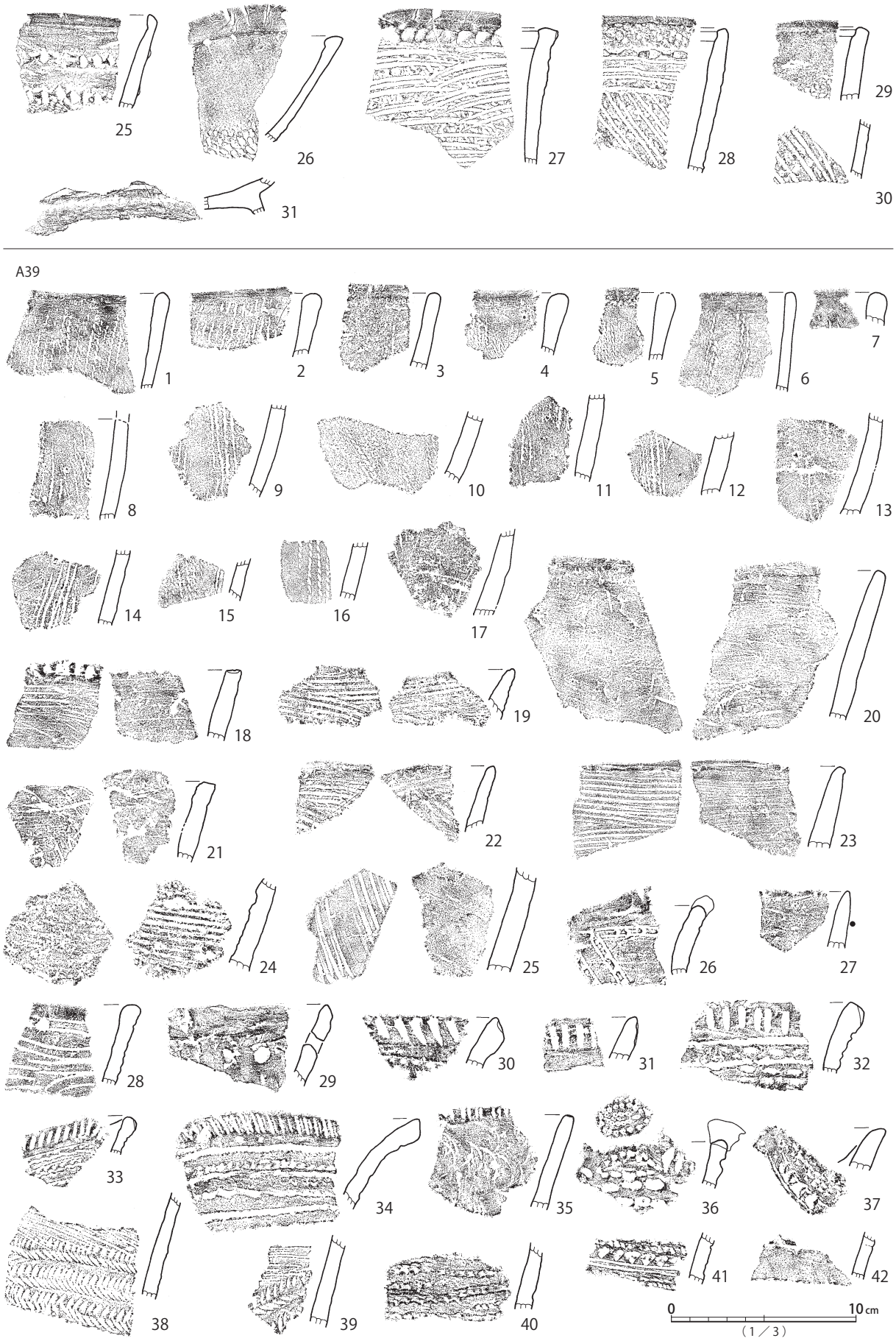
第 71 図 1 ～ 17 は、撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。18 ～ 25 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部である。26 ～ 42、第 72 図 43 ～ 60 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。文様は、平行沈線文・有節平行線文・変形爪形文・三角文・凹凸文・輪積文・波状貝殻文・垂直刺突貝殻文などバラエティに富む。61 ～ 73 は、諸磯 b 式・c 式の口縁部及び胴部である。浮線文・集合沈線文・貼付文・結節浮線文などが見られる。74 ～ 76 は、十三菩提式の底部及び胴部である。74 は、推定底径 14.5cm を測る。結節浮線文と深く幅広の沈線文が見られる。77 ～ 82 は、前期末に位置づけられるものである。撚糸側面圧痕文・結節縄文などが施される。89・90 は、堀之内 2 式の口縁部である。



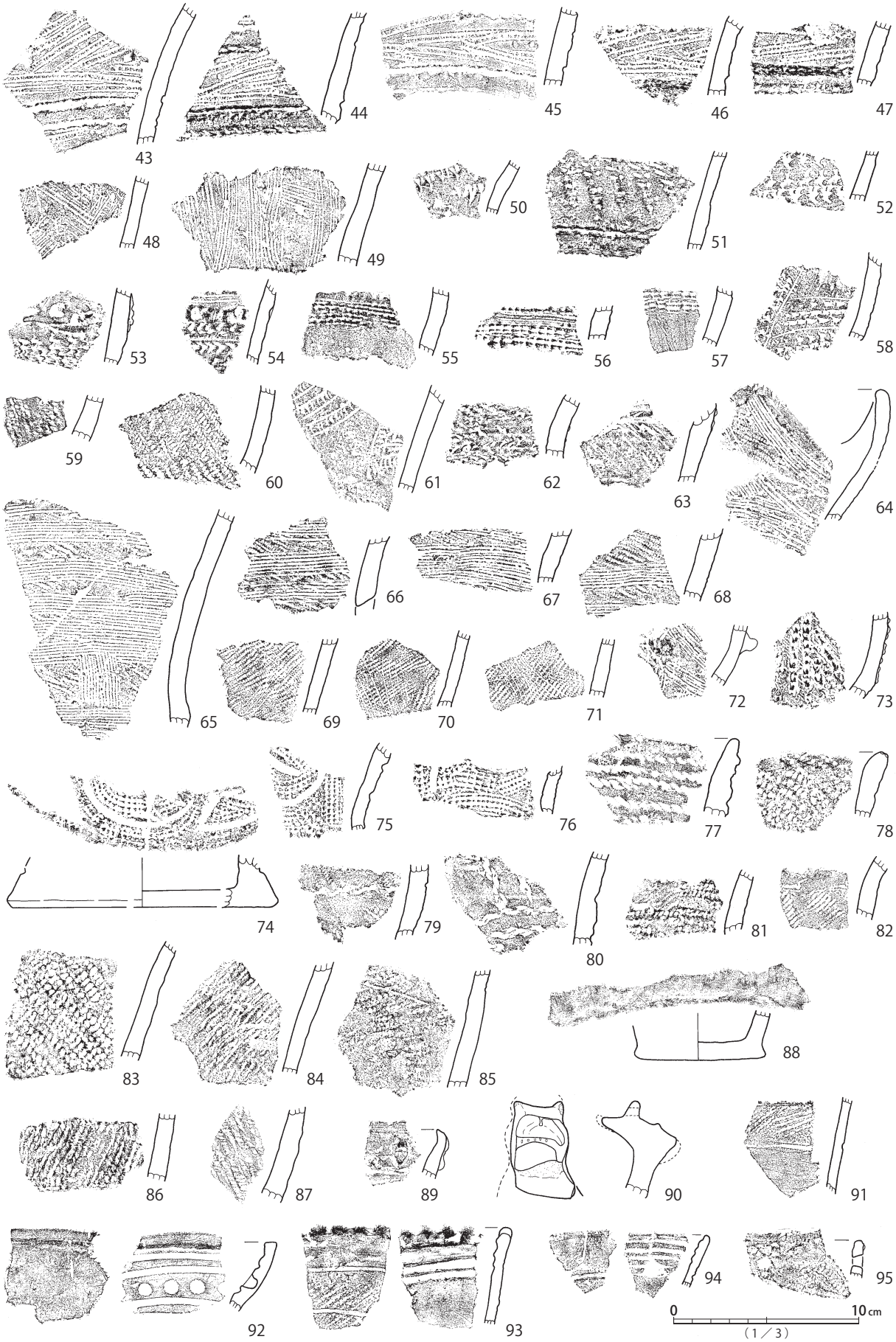
第69図　A51区出土土器（5）、A52区出土土器（1）



第70図　A52区出土土器（2）、A38区出土土器（1）



第71図　A38区出土土器（2）、A39区出土土器（1）



第72図　A39区出土土器（2）

91 ～ 95、第 73 図 96 ～ 105 は、加曽利 B 式の口縁部及び胴部である。

A 40 区

3,745 点、69,614g のほとんどが被熱した小礫、10,727g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、後期前葉、後期中葉で、前期後葉の浮島・興津式が全体の 27.0％で主体となり、早期条痕文系が 19.2％、撚糸文系が 13.4％でこれに次ぐ。

第 73 図 1 ～ 24 は、撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。25 ～ 37、第 74 図 38 ～ 42 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部である。43 ～ 90、第 75 図 91 ～ 94 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。43 は、口縁上半外面に赤彩が見られる。文様は、平行沈線文・有節平行線文・変形爪形文・三角文・輪積文・波状貝殻文・垂直刺突貝殻文などバラエティに富む。95 ～ 106 は、諸磯 b 式・c 式の口縁部及び胴部、107 は底部である。浮線文･集合沈線文･結節浮線文などが見られる。113 は、堀之内 1 式の口縁部、114・115 は堀之内 2 式の胴部及び口縁部、116 ～ 118 は加曽利 B 式の口縁部及び胴部である。114 は注口土器とみられる。

A 41・42 区

1,242 点、27,259g のほとんどが被熱した小礫、2,718g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末で、前期後葉の浮島・興津式が全体の 23.5％で主体となり、早期条痕文系が 18.6％、撚糸文系が 9.1％でこれに次ぐ。

第 75 図 1 ～ 6 は、撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。7 ～ 10、第 76 図 11 ～ 16 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部である。17 ～ 27 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。29・30 は、前期末に位置づけられるものである。撚糸側面圧痕文・結節縄文などが施される。

A 27 区

802 点、16,716g のほとんどが被熱した小礫、2,085g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、後期中葉で、早期条痕文系が全体の 61.3％で主体となり、撚糸文系が 16.5％でこれに次ぐ。

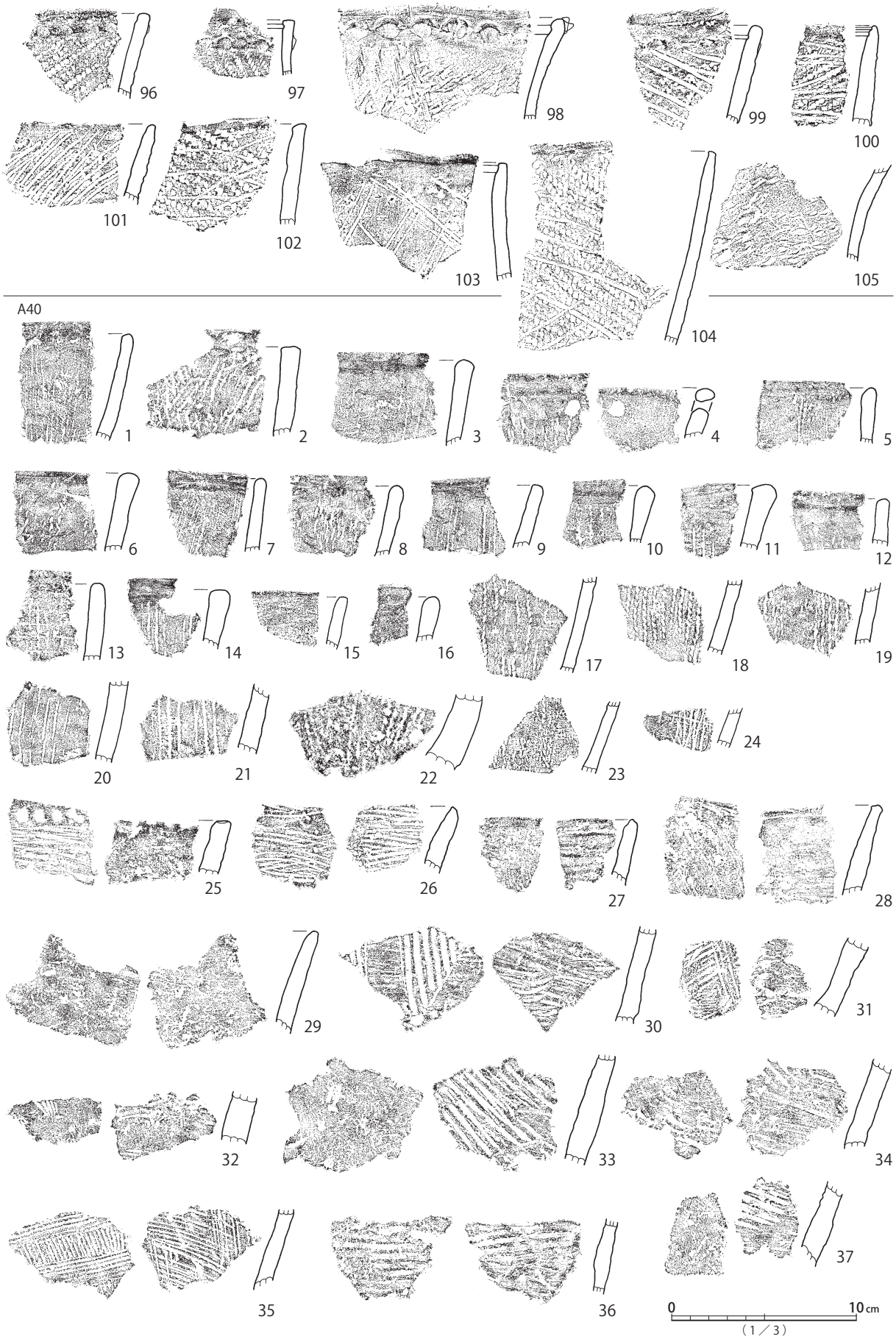
第 76 図 1 ～ 8 は、撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。9 ～ 21 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部である。22・23 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。24 は、諸磯 b 式の胴部である。25 は、加曽利 B 式の鉢形土器の口縁部である。

A 28 区

2,221 点、48,925g のほとんどが被熱した小礫、3,598g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、後期中葉で、早期条痕文系が全体の 45.1％で主体となり、撚糸文系が 24.1％でこれに次ぐ。

第 77 図 1 ～ 21 は、撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。22 ～ 45 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部である。46 ～ 54 は、浮島・興津式の胴部である。55・56 は、諸磯式の口縁部及び胴部である。第 78 図 57 ～ 60 は、加曽利 B 式深鉢形粗製土器の口縁部及び胴部である。61 以下は同区の下層から出土したものを示した。61 ～ 71 は撚糸文系土器の口縁部及び胴部、72 ～ 75 は条痕文系土器の胴部、76 は前期末に位置づけられる土器の口縁部、77 は加曽利 B 式深鉢形粗製土器の胴部である。

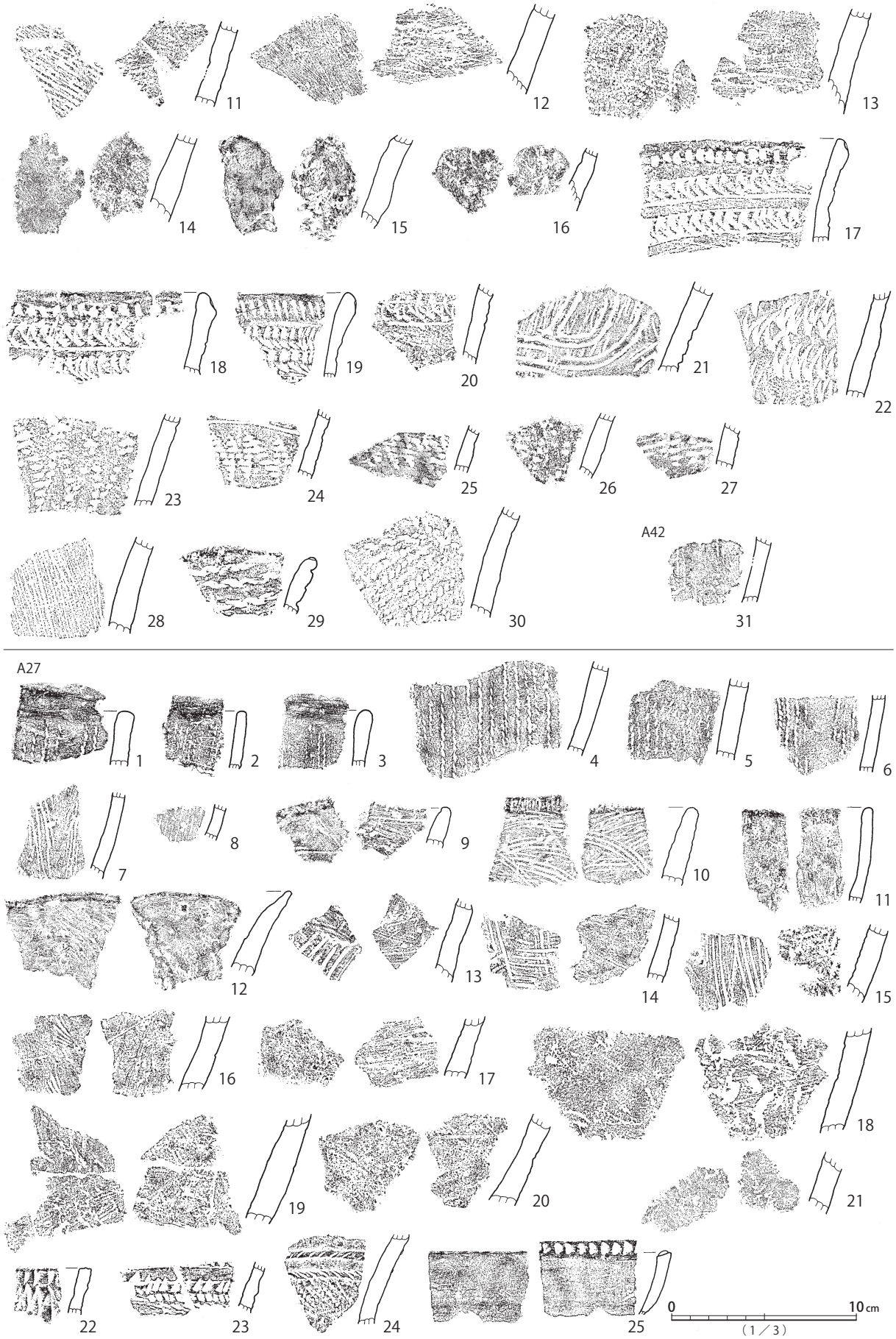
A 29 区



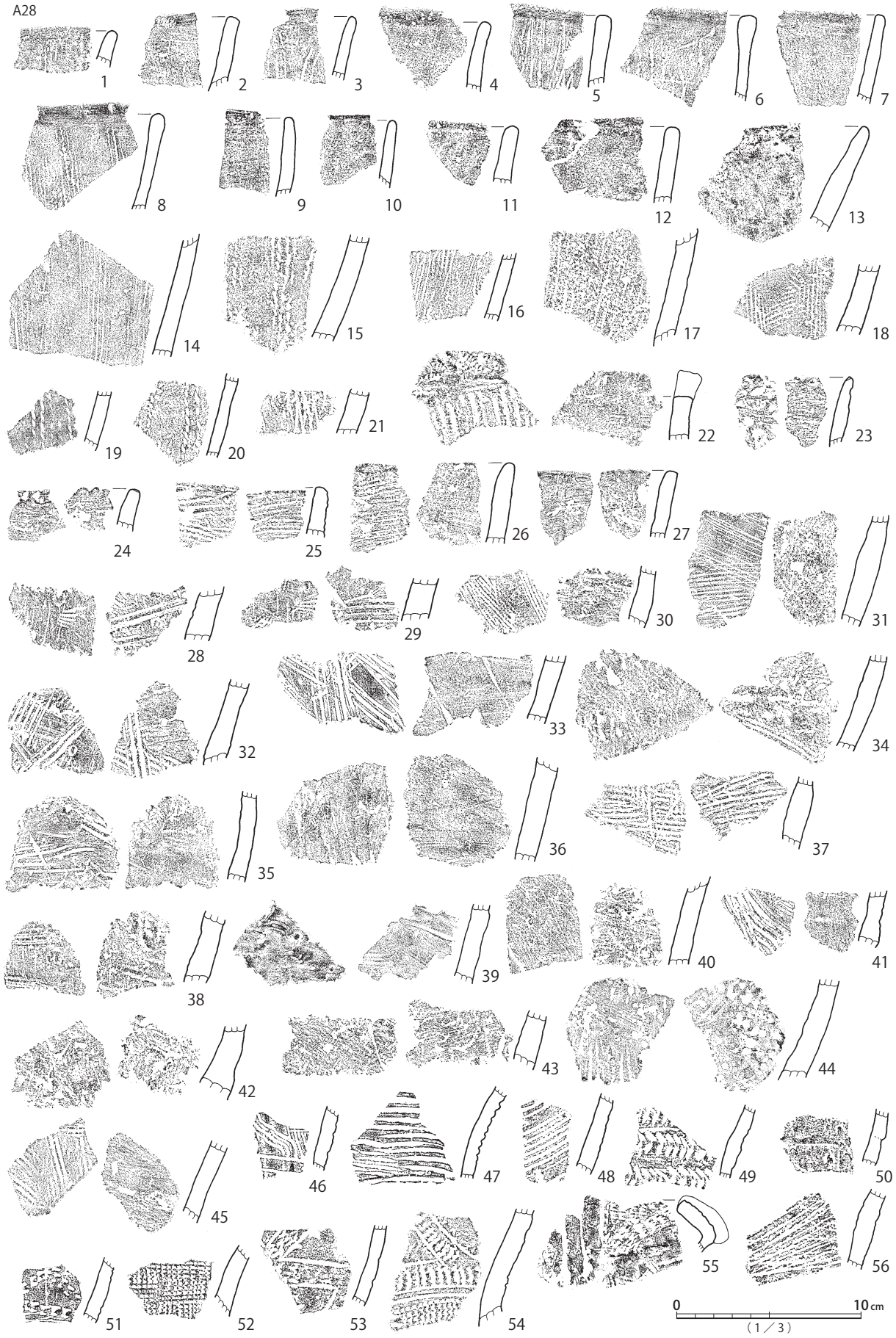
第 73 図　A39 区出土土器（3）、A40 区出土土器（1）

第74図　A40区出土土器（2）

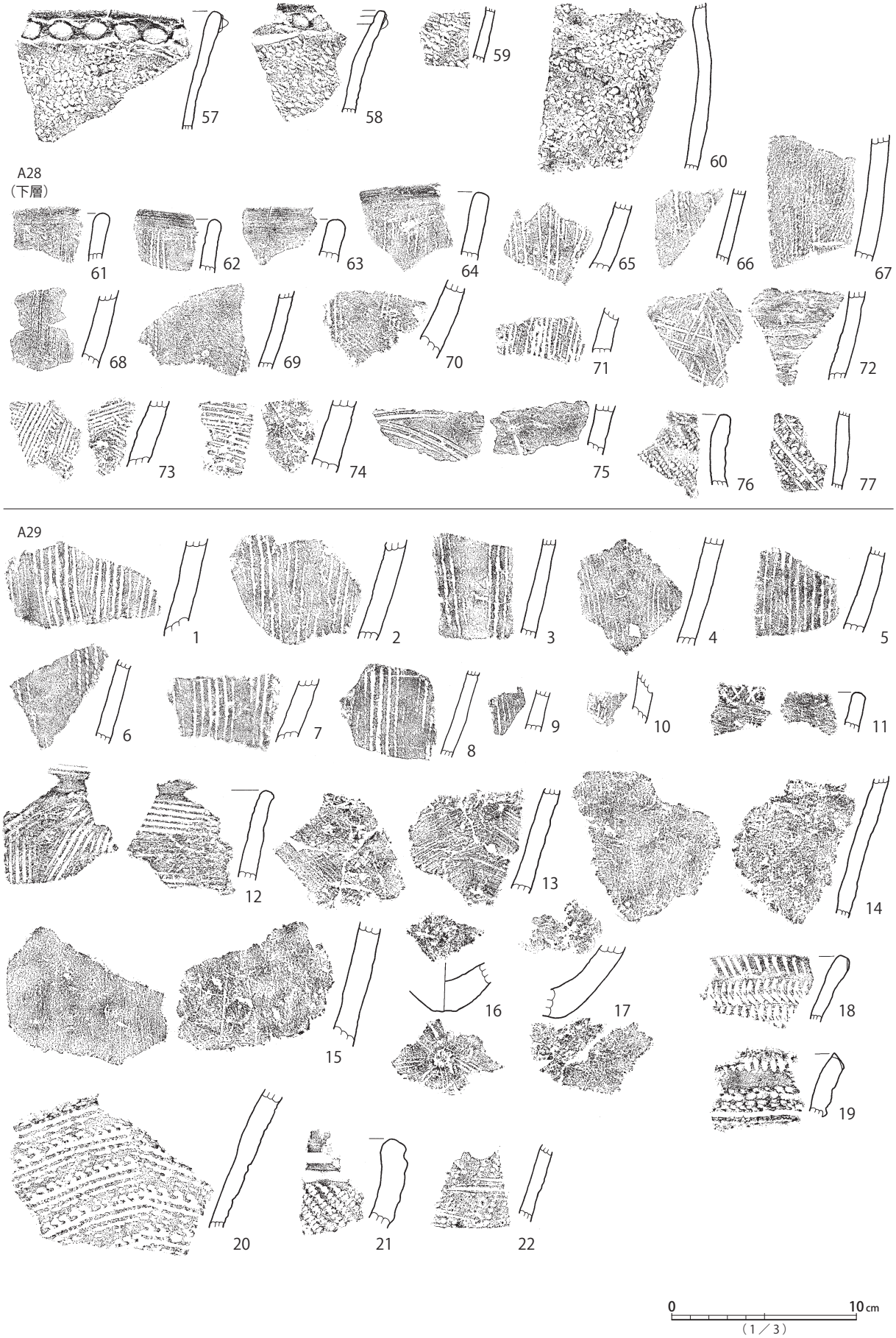
第75図　A40区出土土器（3）、A41区出土土器（1）



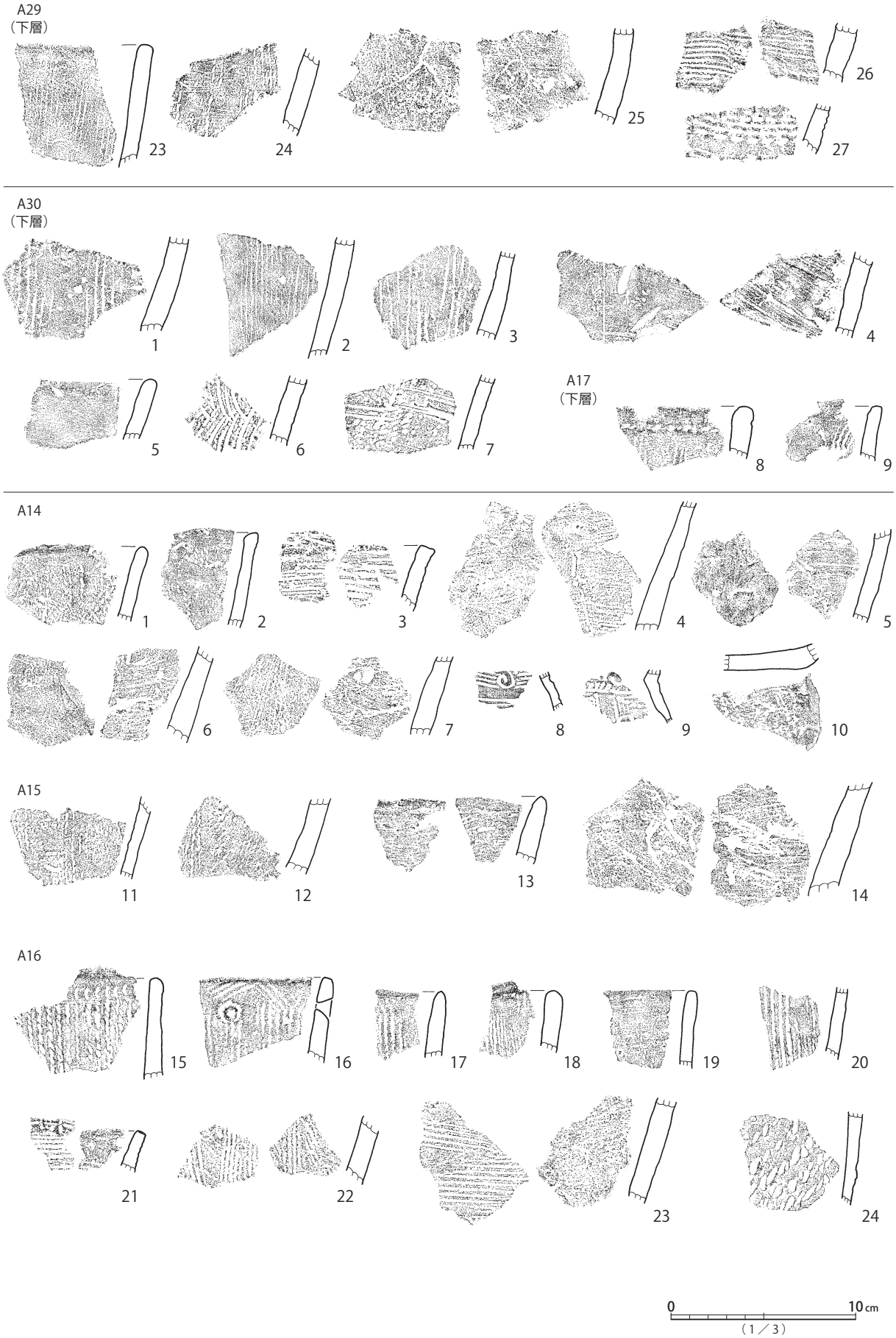
第76図　A41区出土土器（2）、A42区出土土器、A27区出土土器



第77図　A28区出土土器（1）



第 78 図　A28 区出土土器（2）、A29 区出土土器（1）



第 79 図　A29 区出土土器（2）、A30・A17 区出土土器、A14・A15・A16 区出土土器

720 点、20,224g のほとんどが被熱した小礫、2,533g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、中期後葉、後期中葉で、早期条痕文系が全体の 39.0％で主体となり、撚糸文系が 22.2％、前期後葉の浮島・興津式が 10.3％でこれに次ぐ。

第 78 図 1 ～ 10 は、撚糸文系土器の胴部である。11 ～ 15 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部、16・17 は尖底の底部である。18 ～ 20 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。21 は加曽利 E 式の口縁部、22 は加曽利 B 式深鉢形粗製土器の胴部である。第 79 図 23 ～ 27 には、同区の下層から出土したものを示した。23・24 は撚糸文系土器の口縁部及び胴部、25・26 は条痕文系土器の胴部、27 は浮島・興津式の胴部である。

A 30・17 区

151 点、5,173g の被熱した小礫、402g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、後期前葉で、早期撚糸文系が 49.5％で主体となり、条痕文系が 18.6％でこれに次ぐ。

いずれも同区の下層から出土したものを示した。第 79 図 1 ～ 3 は撚糸文系土器の胴部、4 は条痕文系土器の胴部、6 は堀之内 1 式の胴部、7 は加曽利 B 式深鉢形粗製土器の胴部である。8・9 は、撚糸文系土器の口縁部である。

A 14・15・16 区

140 点、3,983g のほとんどが被熱した小礫、2,307g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、後期中葉で、早期条痕文系が全体の 68.1％で主体となり、撚糸文系が 16.3％でこれに次ぐ。

第 79 図 1・2 は撚糸文系土器の口縁部、3 ～ 7 は条痕文系土器の口縁部及び胴部、8・9 は加曽利 B 式の胴部である。11・12 は撚糸文系土器の胴部、13・14 は条痕文系土器の口縁部及び胴部である。15 ～ 20 は撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。15 には口縁部直下に横位の C 字形刺突文が、16 には鋸歯状に絡条体圧痕が施される。花輪台式と見られる。21 ～ 23 は条痕文系土器の口縁部及び胴部、24 は加曽利 B 式深鉢形粗製土器の胴部である。

2　遺跡西側地点

【遺物出土状況】

遺跡西側地点は、東側地点と比較すると遺物の出土状態が希薄であったので、発掘調査では個々の遺物の位置を全て図面に記録し採集された。整理段階では、これらを分類した後、大グリッド単位で集計した（表 7・8）。

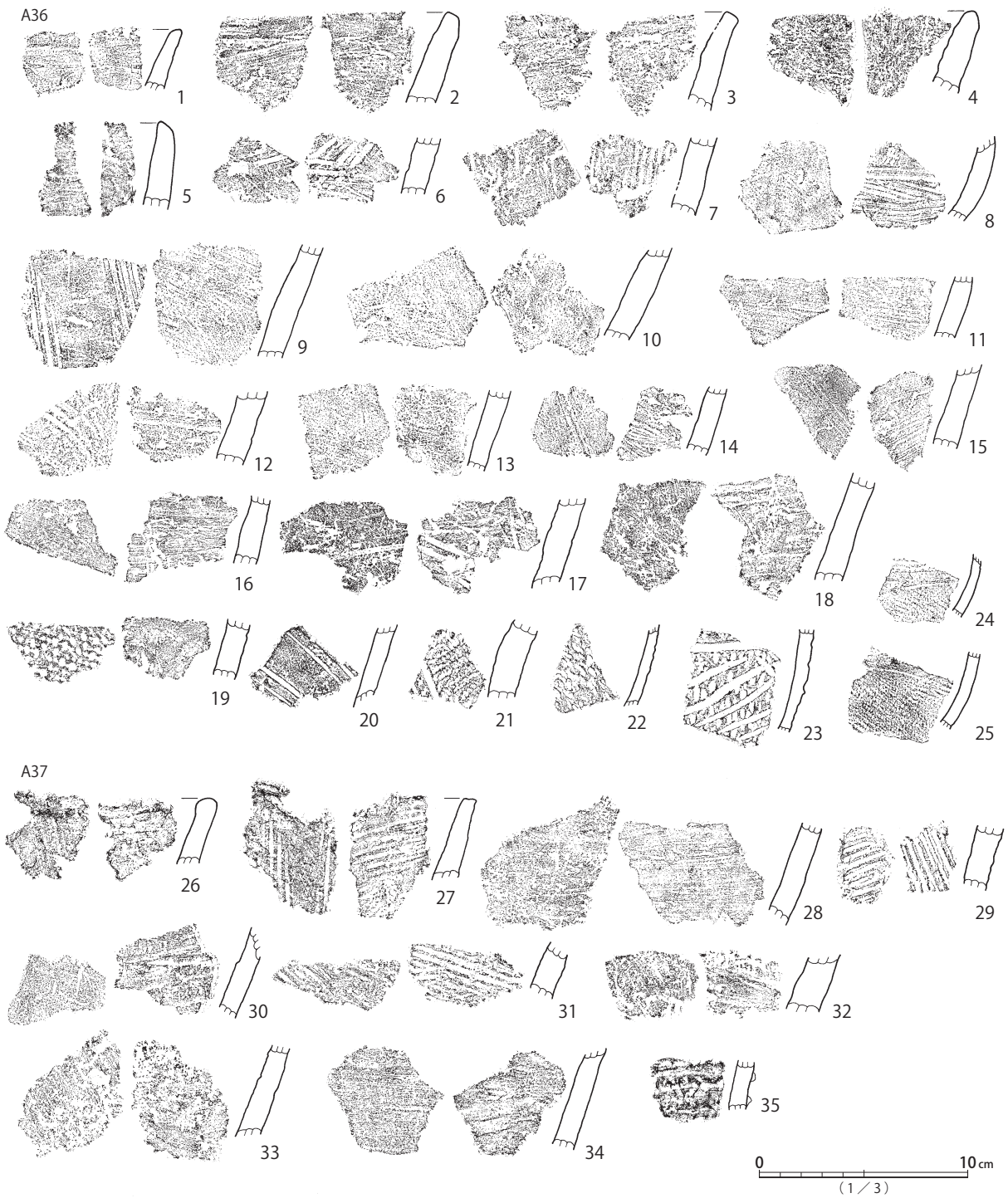
【遺物説明】

A 36・37・25 区

68 点、2,449g の被熱した小礫、3,551g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、後期前葉、後期中葉で、早期条痕文系が 93.0％で主体となる。A 36 区は 97 号遺構（方形周溝）下層出土の遺物である。

第 80 図 1 ～ 19 は条痕文系土器の口縁部及び胴部、20 は浮島式の胴部、21 は堀之内 1 式の胴部、22・23 は加曽利 B 式深鉢形粗製土器の胴部、24・25 は曽谷式の胴部である。26 ～ 34 は条痕文系土器の口縁部及び胴部、35 は諸磯 b 式の胴部である。

A 63・64・65・56・57・58 区



第80図　A36・A37区出土土器

5,196 点、98,993g のほとんどが被熱した小礫、5,705g の土器が出土した。土器の内訳は、早期撚糸文系、条痕文系、前期後葉、前期末、後期前葉、後期中葉、後期後葉、晩期で、早期条痕文系が 12.3％で主体となり、後期中葉が 10.7％、前期後葉が 9.3％、後期後葉が 6.2％でこれに次ぐ。また、晩期前葉も 1.6％の比率で見られる。

第 81 図 1 は堀之内 1 式の口縁部、2 は加曽利 B 式深鉢形粗製土器の胴部、3・4 は晩期とみられる土器の口縁部及び胴部である。5 は条痕文系土器の環状把手部、6 ～ 10 は浮島・興津式の口縁部及び胴部、12 は堀之内 1 式の口縁部、13 ～ 18 は安行式の口縁部及び胴部である。19 は条痕文系土器の胴部、20 は土師器甕の胴部である。21 は条痕文系土器の胴部、22 ～ 24 は浮島式の口縁部及び胴部、25 は前期末に位置づけられるものである。第 82 図 27 は条痕文系土器の胴部、28・29 は浮島式の口縁部及び胴部、30・31 は加曽利 B 式深鉢形粗製土器の胴部、32 ～ 38 は安行式の口縁部及び胴部である。39・40 は条痕文系土器の胴部、41 ～ 43 は加曽利 B 式鉢形土器の口縁部である。

A 20・34 区

42 点、3,020g のほとんどが被熱した小礫、2,232g の土器が出土した。土器の内訳は、早期条痕文系、前期後葉、前期末、後期前葉、後期中葉で、早期条痕文系が 67.7％で主体となり、後期中葉が 12.5％でこれに次ぐ。A 34 区は 96 号遺構（塚）下層出土の遺物である。

第 82 図 1・2 は条痕文系土器の胴部、3 は浮島・興津式の口縁部、4 は前期末に位置づけられるものである。5 ～ 16・第 83 図 17 ～ 22 は条痕文系土器の口縁部及び胴部、23 ～ 25 は堀之内 1 式の口縁部及び胴部、26 ～ 35 は加曽利 B 式の口縁部及び胴部である。

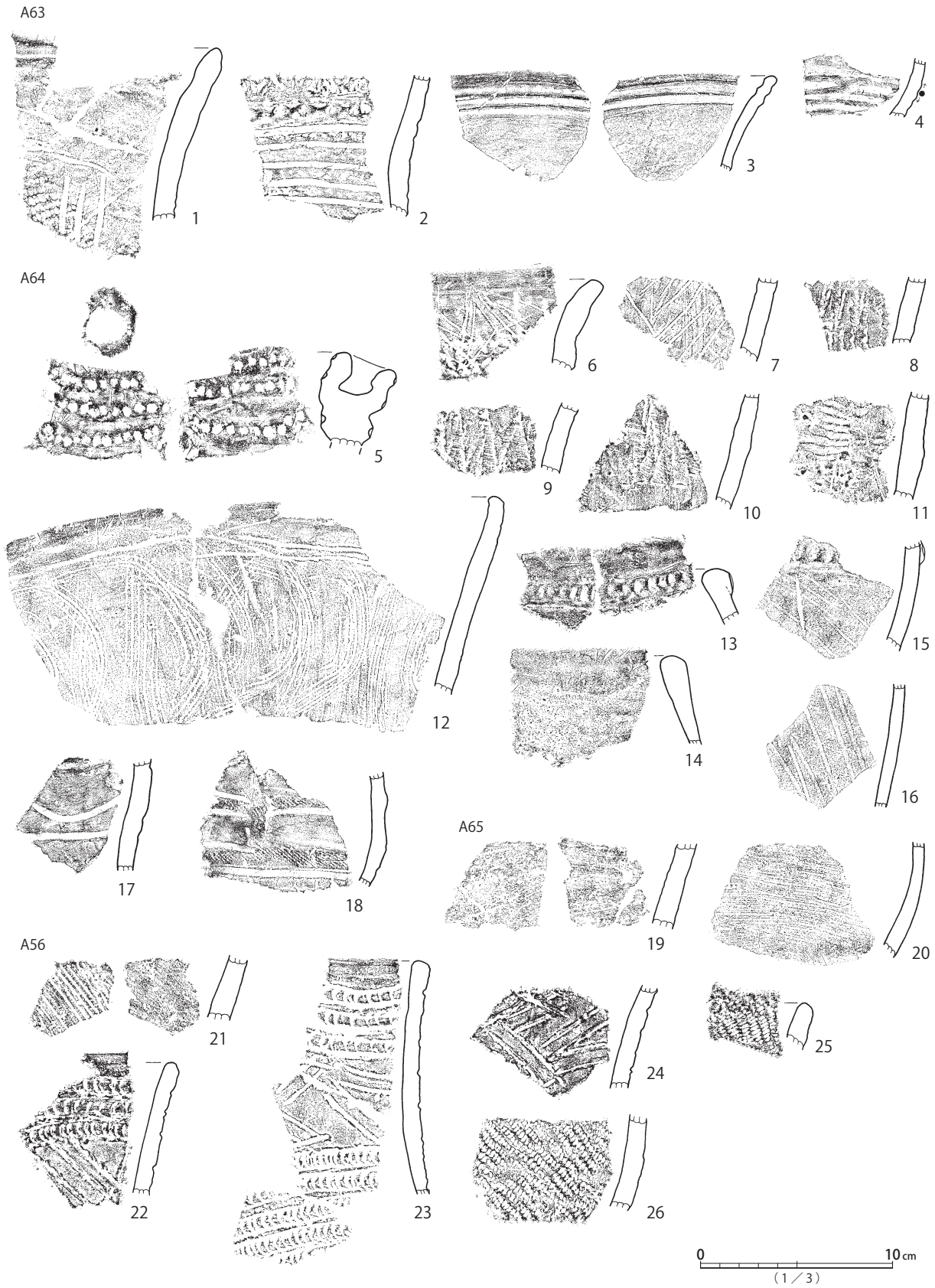
また、第 83 図 1 ～ 7 には表彩等で採集した遺跡一括資料を掲載した。1 は浮島式の口縁部で、内外面に赤彩が認められ、口縁下部には横位の細い竹管文が施される。2 は撚糸側面圧痕が見られる口縁部で、前期末に位置づけられるものである。3 は堀之内 1 式の口縁部、4 は加曽利 B 式の胴部、5 は三叉文の見られる安行 3a 式の口縁部、6 は粗製土器の口縁部、7 は弥生後期の甕形土器の口縁部である。

3　確認調査

【遺物説明】

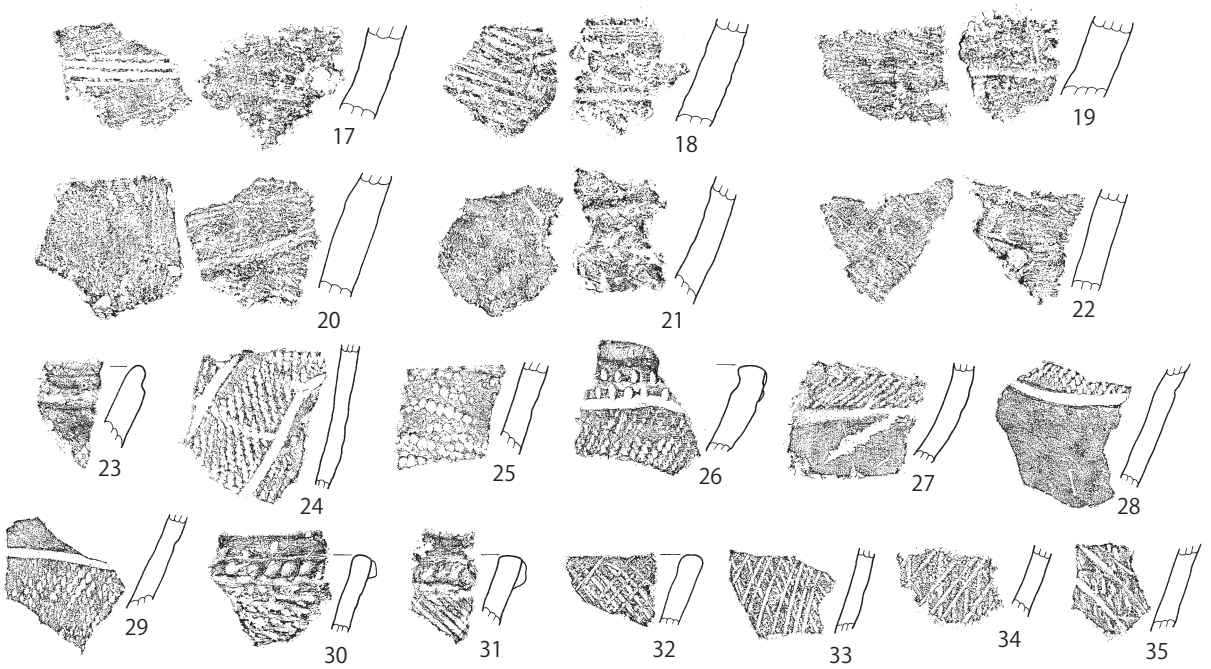
確認調査時に採集された遺物をまとめて示した（第 84 ～ 86 図）。出土位置はグリッド番号を図中に示してあるので、第 3 図と対照されたい。

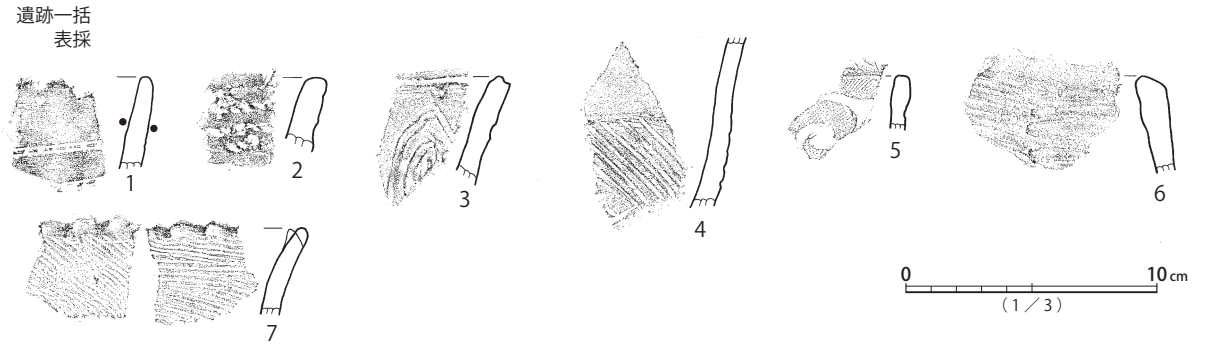
第 84 図 1 ～ 18 は、撚糸文系土器の口縁部及び胴部である。19 ～ 48 は、条痕文系土器の口縁部及び胴部、第 85 図 49・50 は、それぞれ平底・尖底をもつ底部である。51 ～ 82 は、浮島・興津式の口縁部及び胴部である。文様は、平行沈線文・変形爪形文・三角文・凹凸文・輪積文・波状貝殻文・垂直刺突貝殻文などバラエティに富む。83 ～ 90 は、諸磯 b 式・c 式の口縁部及び胴部、91・92 は底部である。浮線文･集合沈線文･貼付文･結節浮線文などが見られる。93 は十三菩提式の胴部である。第 86 図 98・99 は堀之内 1 式の口縁部及び胴部、100 ～ 106 は加曽利 B 式の口縁部及び胴部、107 ～ 108 は安行 3a 式の口縁部及び胴部、109 は安行式粗製土器の口縁部である。110・111 は須恵器、112 はカワラケである。



第81図　A63・A64・A65・A56区出土土器

第82図　A57・A58区出土土器、A20・A34区出土土器（1）





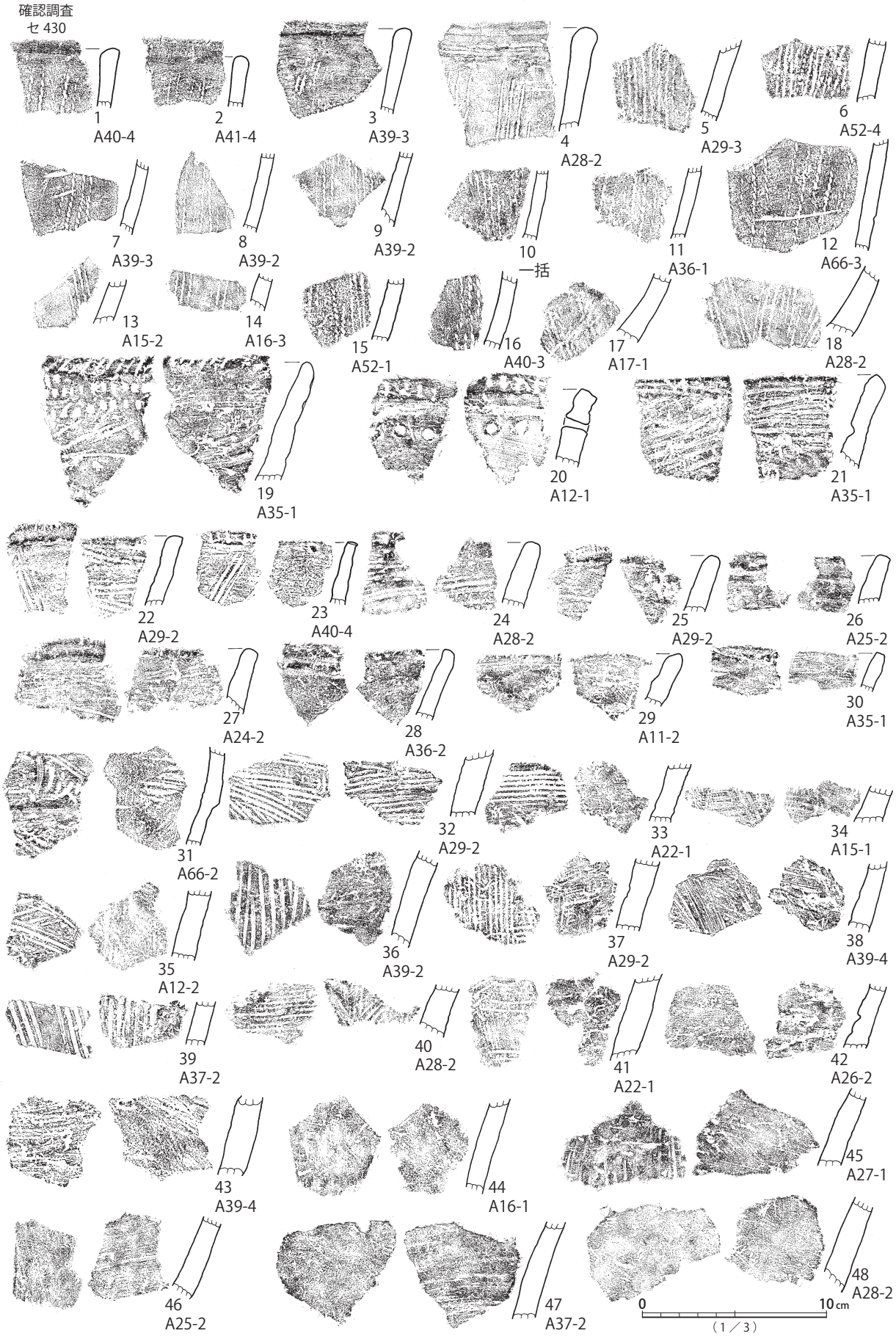
第 83 図　A34 区出土土器（2）、遺跡一括出土土器

第３節　石器

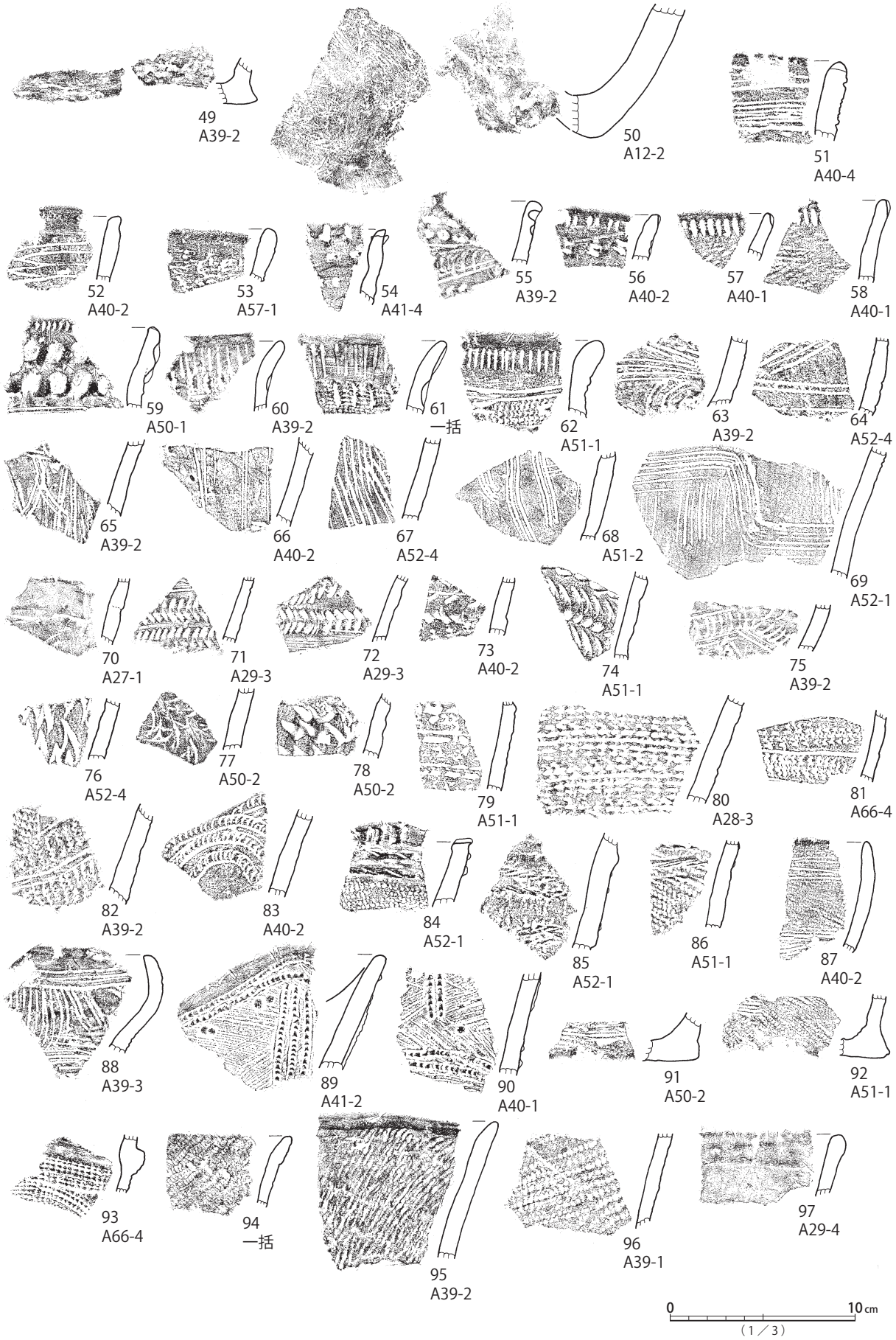
包含層中から出土した石器は総数 330 点ある。その内訳は、石鏃 29、石錐 2、楔形石器 4、楔状石器 5、石匙 1、調整剥片 3、剥片 204、石核 22、磨製石斧 3、敲石 6、敲石･磨石 11、磨石 28、砥石 8、石皿 4 点である。表 12 に個々の遺物の属性を示した。

第 87 図 1 ～ 29 は石鏃である。形態は、8 が有茎を呈する他は全て無茎鏃であり、11 と 22 が凸基である他は凹基鏃である。完形は 17 点あり、これらのサイズは最小 13.4・最大 27.9・平均 19.5mm である。石材としては、頁岩 4・黒曜石 9・チャート 8・無斑晶ガラス質安山岩 4・無斑晶質安山岩 2・菫青石ホルンフェルス 2 点という内訳となり、黒曜石・チャートが半数以上を占める。第 88 図 30・31 は、石錐である。31 には、片側に自然面が残る。石材は、無斑晶質安山岩とチャートである。

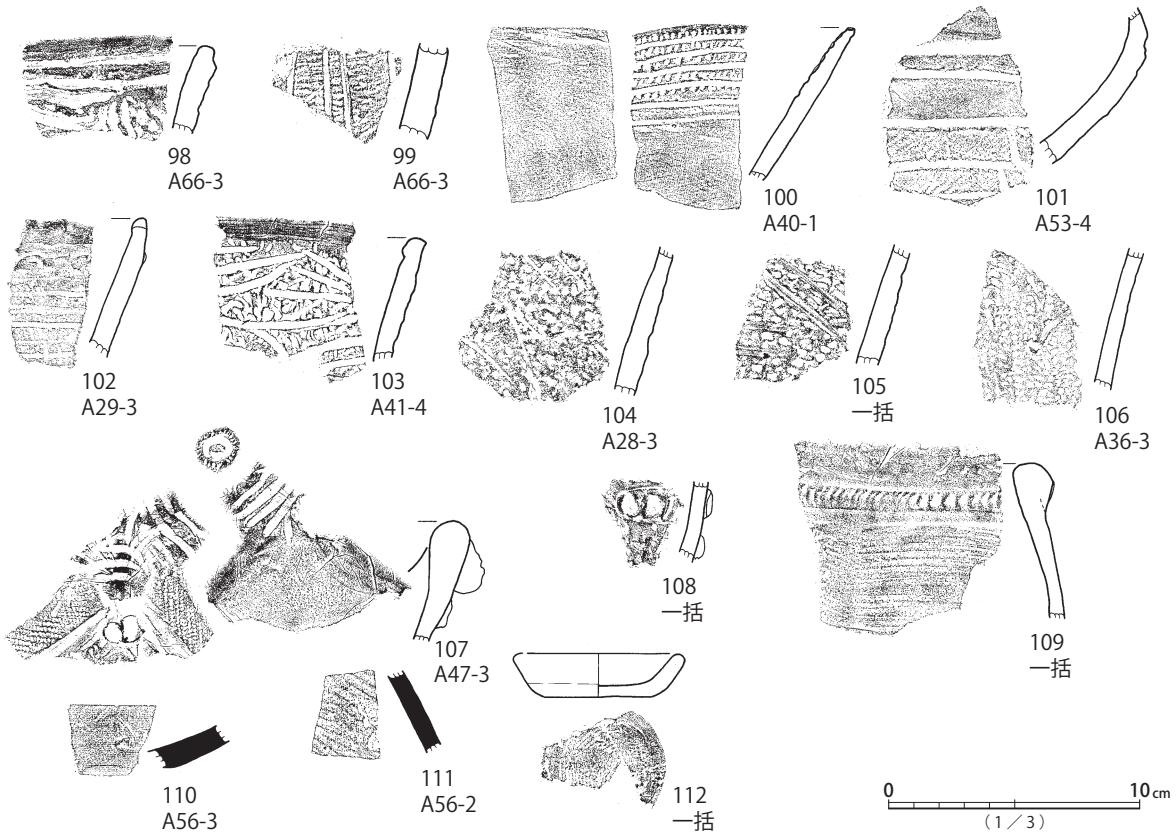
32 は、無斑晶質安山岩質性の石匙で、最大長 40.9mm、最大幅 45.6mm を測る横型のものである。33 ～ 35 は、楔形石器である。石材は、無斑晶ガラス質安山岩・菫青石ホルンフェルス・チャートである。36 ～ 38 は、楔状石器である。石材は、全てチャートである。第 89 図 39 は、下部を大き



第 84 図　確認調査時出土土器（1）



第85図　確認調査時出土土器（2）



第 86 図　確認調査時出土土器（3）

く欠損しており全体型が不明なため、調整剥片とした。表面に自然面を残し、裏面には素材の剥離面を残し、横型剥片を用いることが分かる。おそらく尖頭器の欠損品であろう。石材は頁岩である。40 は、定型的な形状でないため、調整剥片とした。調整面を打面とする厚手の剥片の右上部縁辺及び下端部に細かな剥離が集中している。左右側縁を刃部とする楔状石器とみることもできる。石材は黒曜石である。41 ～ 43 は、磨製石斧である。石材は、砂岩・ひん岩・頁岩である。サイズは、41 の 83mm を最大とする。小型の扁平な礫の片側端部を両面から局部的に研磨して刃部を形成している。44 ～ 49 は、小礫の一部に敲打痕が見られる敲石である。44・45・48・49 は、その上下端部に、46・47 は、表裏面の中央付近に敲打痕が残る。石材は、石英斑岩・チャート・凝灰岩・緻密質安山岩・砂岩がある。第 90 図 50 ～ 58・第 91 図 59・60 は、敲石・磨石である。礫の表裏面中央や側面に、敲打痕と摩耗痕が見られる。石材には、石英斑岩・花崗斑岩・砂岩・スコリア質凝灰岩・安山岩質凝灰岩がある。第 91 図 61 ～ 66・第 92 図 67 ～ 76・第 93 図 77 ～ 88 は、礫の表裏面を中心に摩耗痕が見られる磨石である。石材には、安山岩・安山岩質凝灰岩・輝石安山岩・砂岩・石英斑岩・デイサイト・花崗斑岩・溶結凝灰岩がある。第 94 図 89 ～ 95 は、砥石である。89・90 は自然礫の表裏面に摩耗痕があるもので、磨石ともできるが、形状が扁平なため砥石とした。いずれも石材は砂岩である。91 ～ 95 は、表裏面又は側面が平滑で、使用による擦痕が顕著に認められる。石材は、凝灰岩・砂岩・流紋岩である。96 ～ 99 は石皿とみられ、99 以外は破片である。99 は半欠品で、最大幅は 146mm・重さ 640g の大型品である。石材には、輝石安山岩・安山岩・スコリアがある。

表９　遺物包含層出土土器集計

重量：g

調査コード	大グリッド	中グリッド	合計	撚糸文系	沈線文系	条痕文系	羽状縄文系	浮島・興津	諸磯	十三菩提	前期末	加曽利E	称名寺	堀之内1	堀之内2	加曽利B	曽谷	安行	安行(晩期)	晩期末	不明	土師	須恵	中世	近世
セ 436	A49		596			92		244	8		11										241				
セ 436	A50	1																							
セ 436	A50	2																							
セ 436	A50	3																							
セ 436	A50	4																							
セ 436	A50	5																							
セ 436	A50	6																							
セ 436	A50	7																							
セ 436	A50	8																							
セ 436	A50	9																							
セ 436	A50	10																							
セ 436	A50	11																							
セ 436	A50	12		9		22		210	30		16					27									
セ 436	A50	13		18				364	23		20														
セ 436	A50	14		20		10		600	95		22														
セ 436	A50	15		58				905	171		32														
セ 436	A50	16						10	14																
セ 436	A50	17		123		40		699	33							32									
セ 436	A50	18		195		125		865	135		192					225									
セ 436	A50	19		33		108		1,849	381		16					49									
セ 436	A50	20						588	77		30					80									
セ 436	A50	21				22		34																	
セ 436	A50	22		38		55		329	91		21					32									
セ 436	A50	23		81		134		833	90		99					16									
セ 436	A50	24		25		36		972	380		111														
セ 436	A50	25		31		51		960	195		59														
セ 436	A50	計	23,735	631		603		9,227	1,715		618					461					10,480				
セ 436	A51	1																							
セ 436	A51	2																							
セ 436	A51	3						41																	
セ 436	A51	4																							
セ 436	A51	5																							
セ 436	A51	6																							
セ 436	A51	7																							
セ 436	A51	8						71	46																
セ 436	A51	9						143	17																
セ 436	A51	10		8				222	18																
セ 436	A51	11				10		805	218		124														
セ 436	A51	12		15		111		1,234	294		68														
セ 436	A51	13		50		70		543	289		105														
セ 436	A51	14		13				255	159																
セ 436	A51	15		19				230	106																
セ 436	A51	16				18		776	128		118														
セ 436	A51	17		75		129		1,161	453		79					141									
セ 436	A51	18		95		92		736	209		97														
セ 436	A51	19		62		26		429	225		8														

調査コード	大グリッド	中グリッド	合計	撚糸文系	沈線文系	条痕文系	羽状縄文系	浮島・興津	諸磯	十三菩提	前期末	加曽利E	称名寺	堀之内1	堀之内2	加曽利B	曽谷	安行	安行(晩期)	晩期末	不明	土師	須恵	中世	近世
セ436	A51	20		67		38		279	187							5									
セ436	A51	21		105		84		996	484		123			20		9									
セ436	A51	22		100		91		637	47		60					162									
セ436	A51	23		14		51		452	128							3									
セ436	A51	24		8		95		353	14		26					37									
セ436	A51	25		87		100		334			16														
セ436	A51	計	27,168	718		915		9,656	3,022		824			20		357					11,656				
セ436	A52	1						73	28																
セ436	A52	2				53		161																	
セ436	A52	3						23																	
セ436	A52	4																							
セ436	A52	5																							
セ436	A52	6		9				120																	
セ436	A52	7		13		8		15																	
セ436	A52	8				5		25																	
セ436	A52	9						62			119														
セ436	A52	10		32																					
セ436	A52	11		21		77		4																	
セ436	A52	12		27		11		90																	
セ436	A52	13				6		71	40																
セ436	A52	14						31																	
セ436	A52	15																							
セ436	A52	16						3																	
セ436	A52	17				65		24	80																
セ436	A52	18		64		39		5			37														
セ436	A52	19									60														
セ436	A52	20						80																	
セ436	A52	21		75		45		230	239		17														
セ436	A52	22		90		22		147	73		11														
セ436	A52	23		5		49		4	14																
セ436	A52	24																							
セ436	A52	25																							
セ436	A52	計	4,131	336		380		1,168	474		244										1,529				
セ436	A38		3,171	151		1,229		394	108						44	290					955				
セ436	A39	1				14		7																	
セ436	A39	2		39		42		189	10		23				35	4									
セ436	A39	3		28				50																	
セ436	A39	4						53	41																
セ436	A39	5		71		86		178	268																
セ436	A39	6		21		56		21	40						10	134									
セ436	A39	7		66		47		189	33						5	156									
セ436	A39	8		18		38		58								45									
セ436	A39	9		44		41		24			34														
セ436	A39	10				34		8																	
セ436	A39	11		38		161		53		146					9	64									
セ436	A39	12		32		40																			
セ436	A39	13		22		5		58																	

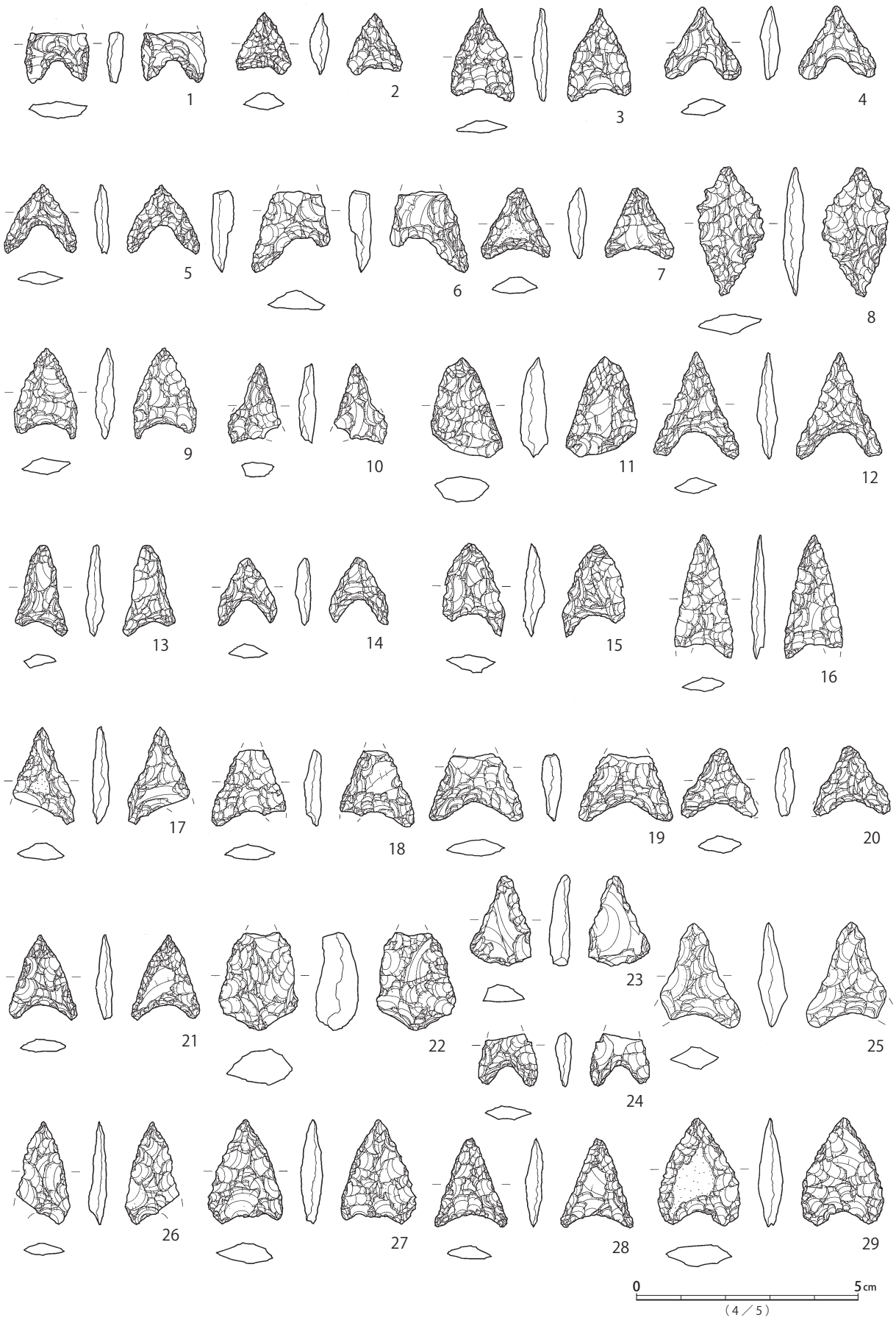
調査コード	大グリッド	中グリッド	合計	撚糸文系	沈線文系	条痕文系	羽状縄文系	浮島・興津	諸磯	十三菩提	前期末	加曽利E	称名寺	堀之内1	堀之内2	加曽利B	曽谷	安行	安行(晩期)	晩期末	不明	土師	須恵	中世	近世
セ 436	A39	14		3		7		24																	
セ 436	A39	15		33		108		54			37					50									
セ 436	A39	16				37																			
セ 436	A39	17		26		28		28																	
セ 436	A39	18				45			8		25														
セ 436	A39	19				22																			
セ 436	A39	20		122		120		68																	
セ 436	A39	21		7									10												
セ 436	A39	22		10																					
セ 436	A39	23		3		34		15																	
セ 436	A39	24		22		51		13																	
セ 436	A39	25		16		232		60								9									
セ 436	A39	計	6,691	621		1,248		1,150	400	146	119		10		59	462					2,476				
セ 436	A40	1		15		23		404	36																
セ 436	A40	2		12		61		382	48																
セ 436	A40	3		28		39		31																	
セ 436	A40	4		20		42		306	31																
セ 436	A40	5		84		16		219	48																
セ 436	A40	6				57		324	35																
セ 436	A40	7		78		87		302	55																
セ 436	A40	8		13		125		117	13																
セ 436	A40	9		37		74		232	51																
セ 436	A40	10		40		63		58	14						28										
セ 436	A40	11		53		45		33	7						42										
セ 436	A40	12		42		46		23	27																
セ 436	A40	13		35		51			21																
セ 436	A40	14		33		31		125	14																
セ 436	A40	15		6		83		135								33									
セ 436	A40	16		40		91		103								24									
セ 436	A40	17		55		138										18									
セ 436	A40	18		94		166																			
セ 436	A40	19		80		123		25						56		10									
セ 436	A40	20		60		20																			
セ 436	A40	21		30		116																			
セ 436	A40	22		13		25		7								7									
セ 436	A40	23		265		236		37	40																
セ 436	A40	24		203		255		25						97		22									
セ 436	A40	25		112		56		10																	
セ 436	A40	計	10,727	1,448		2,069		2,898	440					153	70	114					3,535				
セ 436	A41	1				102		40			54														
セ 436	A41	2		15		74		30																	
セ 436	A41	3		11		10																			
セ 436	A41	4																							
セ 436	A41	5																							
セ 436	A41	6		50		45		194			85														
セ 436	A41	7		39		31		126																	
セ 436	A41	8		20		27		40																	

調査コード	大グリッド	中グリッド	合計	撚糸文系	沈線文系	条痕文系	羽状縄文系	浮島・興津	諸磯	十三菩提	前期末	加曽利E	称名寺	堀之内1	堀之内2	加曽利B	曽谷	安行	安行(晩期)	晩期末	不明	土師	須恵	中世	近世
セ 436	A41	9																							
セ 436	A41	10																							
セ 436	A41	11		22		48		96																	
セ 436	A41	12		14		91		61																	
セ 436	A41	13				14																			
セ 436	A41	14																							
セ 436	A41	15																							
セ 436	A41	16				33		17																	
セ 436	A41	17		27		6		21																	
セ 436	A41	18																							
セ 436	A41	19																							
セ 436	A41	20																							
セ 436	A41	21																							
セ 436	A41	22		22		14																			
セ 436	A41	23																							
セ 436	A41	24		29																					
セ 436	A41	25																							
セ 436	A41	計	2,656	249		507		625			139										1,136				
セ 436	A42		62					14													48				
セ 436	A27		2,085	346		1,279		37	24							25					374				
セ 436	A28	1		36		98		30	35																
セ 436	A28	2		129		130		25								24									
セ 436	A28	3		94		144		43								12									
セ 436	A28	4		106		62																			
セ 436	A28	5		127		90																			
セ 436	A28	6		69		134																			
セ 436	A28	7		88		149																			
セ 436	A28	8		22		40																			
セ 436	A28	9		40		95																			
セ 436	A28	10		39		99																			
セ 436	A28	11		7		227		11	25																
セ 436	A28	12		6		128		61																	
セ 436	A28	13				59		18																	
セ 436	A28	14		24		57																			
セ 436	A28	15		24		52		12																	
セ 436	A28	16				23																			
セ 436	A28	17		20												105									
セ 436	A28	18		16		32																			
セ 436	A28	19																							
セ 436	A28	20		22		5																			
セ 436	A28	21																							
セ 436	A28	22																							
セ 436	A28	23																							
セ 436	A28	24																							
セ 436	A28	25																							
セ 436	A28	計	3,598	869		1,624		200	60							141					704				
セ 436	A29	1				16																			

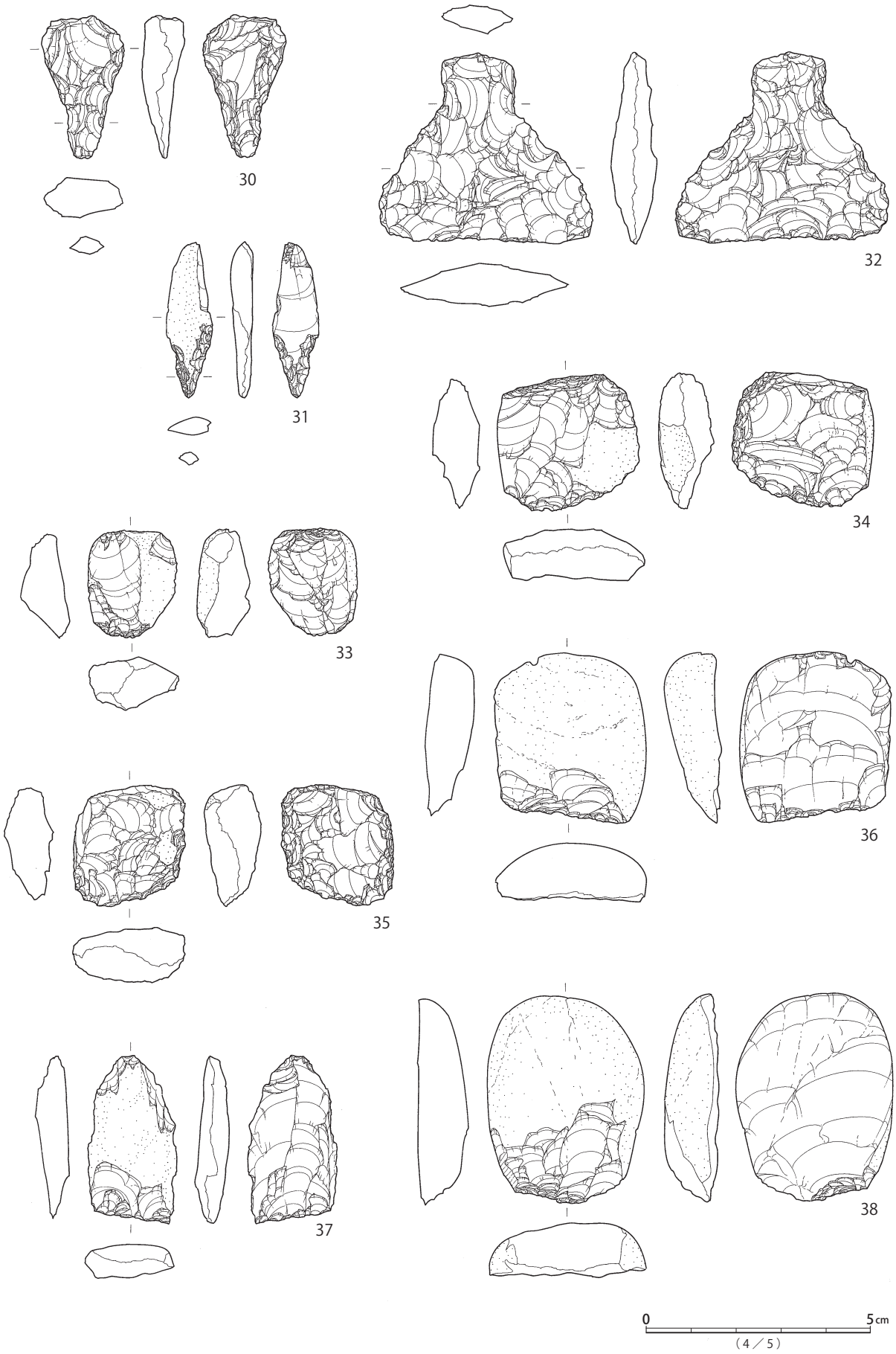
調査コード	大グリッド	中グリッド	合計	撚糸文系	沈線文系	条痕文系	羽状縄文系	浮島・興津	諸磯	十三菩提	前期末	加曽利E	称名寺	堀之内1	堀之内2	加曽利B	曽谷	安行	安行(晩期)	晩期末	不明	土師	須恵	中世	近世
セ 436	A29	2		78		44																			
セ 436	A29	3																							
セ 436	A29	4																							
セ 436	A29	5		21																					
セ 436	A29	6				24																			
セ 436	A29	7				14																			
セ 436	A29	8		13																					
セ 436	A29	9				26																			
セ 436	A29	10		62																					
セ 436	A29	11		9		11																			
セ 436	A29	12		4		57						23													
セ 436	A29	13				40		29																	
セ 436	A29	14																							
セ 436	A29	15		123																					
セ 436	A29	16				53																			
セ 436	A29	17		22		247		116																	
セ 436	A29	18		41		157		25								17									
セ 436	A29	19		65		5																			
セ 436	A29	20																							
セ 436	A29	21		20		67																			
セ 436	A29	22		68		86		15																	
セ 436	A29	23		25		142		76																	
セ 436	A29	24		13																					
セ 436	A29	25																							
セ 436	A29	計	2,533	564		989		261				23				17					679				
セ 436	A30		318	134		66								16		26					76				
セ 436	A17		84	65		9															10				
セ 436	A14		1,320	89		1,071		9								9					109	33			
セ 436	A15		423	59		294															70				
セ 436	A16		564	229		207										21					26			81	
セ 437	A36		2,969	6		2,552		16						26		41					318				10
セ 437	A37		333			279			9					7							38				
セ 437	A25		249			240															9				
セ 437	A63		852			124		24						118		346				12	150				78
セ 437	A64		1,959	44		226		206										223	77		1,177	6			
セ 437	A65		137			41										17					35	44			
セ 437	A56		449			64		197			11					15					158				4
セ 437	A57		1,894	23		217			106							178		354	15		974	27			
セ 437	A58		414			30										60					195	129			
セ 437	A20		82			47			7		13										15				
セ 437	A34		2,150			1,466								61		280					314	19			10

第 11 表　遺物包含層出土礫集計

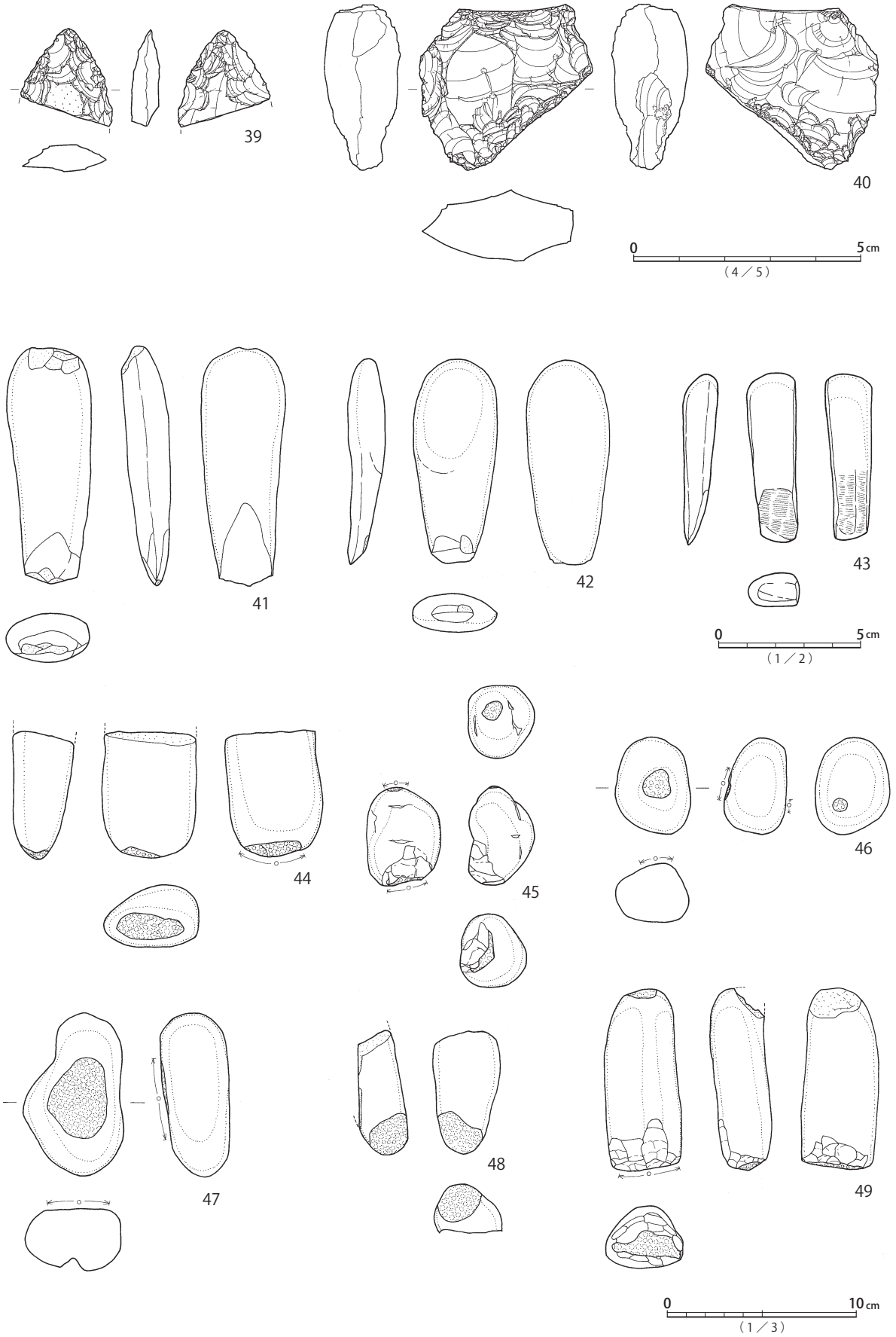
調査コード	大グリッド	赤化		黒・灰化		無被熱		礫計	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
セ 437	A18	53	200	3	76	0	0	56	276
セ 437	A53	58	1,247	7	218	0	0	65	1,465
セ 437	A60	4	195	0	0	0	0	4	195
セ 437	A66	26	1,151	19	584	1	5	46	1,740
セ 437	A70	9	226	7	366	0	0	16	592
セ 436	A49	5	86	7	169	0	0	12	255
セ 436	A50	313	8,777	234	5,302	11	591	548	14,670
セ 436	A51	823	16,787	499	7,912	5	291	1,327	24,990
セ 436	A52	604	13,386	219	4,281	3	61	826	17,728
セ 436	A38	272	5,127	249	2,823	16	184	537	8,134
セ 436	A39	1,219	23,248	1,644	19,971	5	179	2,868	43,398
セ 436	A40	2,500	51,303	1,236	17,894	9	417	3,745	69,614
セ 436	A41	756	17,653	414	8,207	6	82	1,176	25,942
セ 436	A42	36	831	30	486	0	0	66	1,317
セ 436	A27	415	9,926	379	6,567	8	223	802	16,716
セ 436	A28	1,289	30,680	915	17,428	17	817	2,221	48,925
セ 436	A29	531	15,895	178	3,895	11	434	720	20,224
セ 436	A30	41	1,381	10	294	0	0	51	1,675
セ 436	A17	51	1,947	49	1,551	0	0	100	3,498
セ 436	A14	24	671	29	857	5	50	58	1,578
セ 436	A15	6	253	4	151	0	0	10	404
セ 436	A16	42	1,013	30	988	0	0	72	2,001
セ 437	A36	36	1,607	32	842	0	0	68	2,449
セ 437	A63	17	306	11	369	1	62	29	737
セ 437	A64	1,057	23,301	486	8,036	1	106	1,544	31,443
セ 437	A65	147	3,631	100	1,692	1	46	248	5,369
セ 437	A56	23	505	19	328	0	0	42	833
セ 437	A57	1,834	36,465	1,108	16,115	6	149	2,948	52,729
セ 437	A58	228	5,324	114	1,979	1	13	343	7,316
セ 437	A64.57.58	28	390	14	176	0	0	42	566
セ 437	A34	25	1,804	15	906	2	310	42	3,020
	全体一括	9	144	4	69	0	0	13	213
計		12,481	275,460	8,065	130,532	109	4,020	20,645	410,012



第 87 図　遺物包含層出土石器（1）

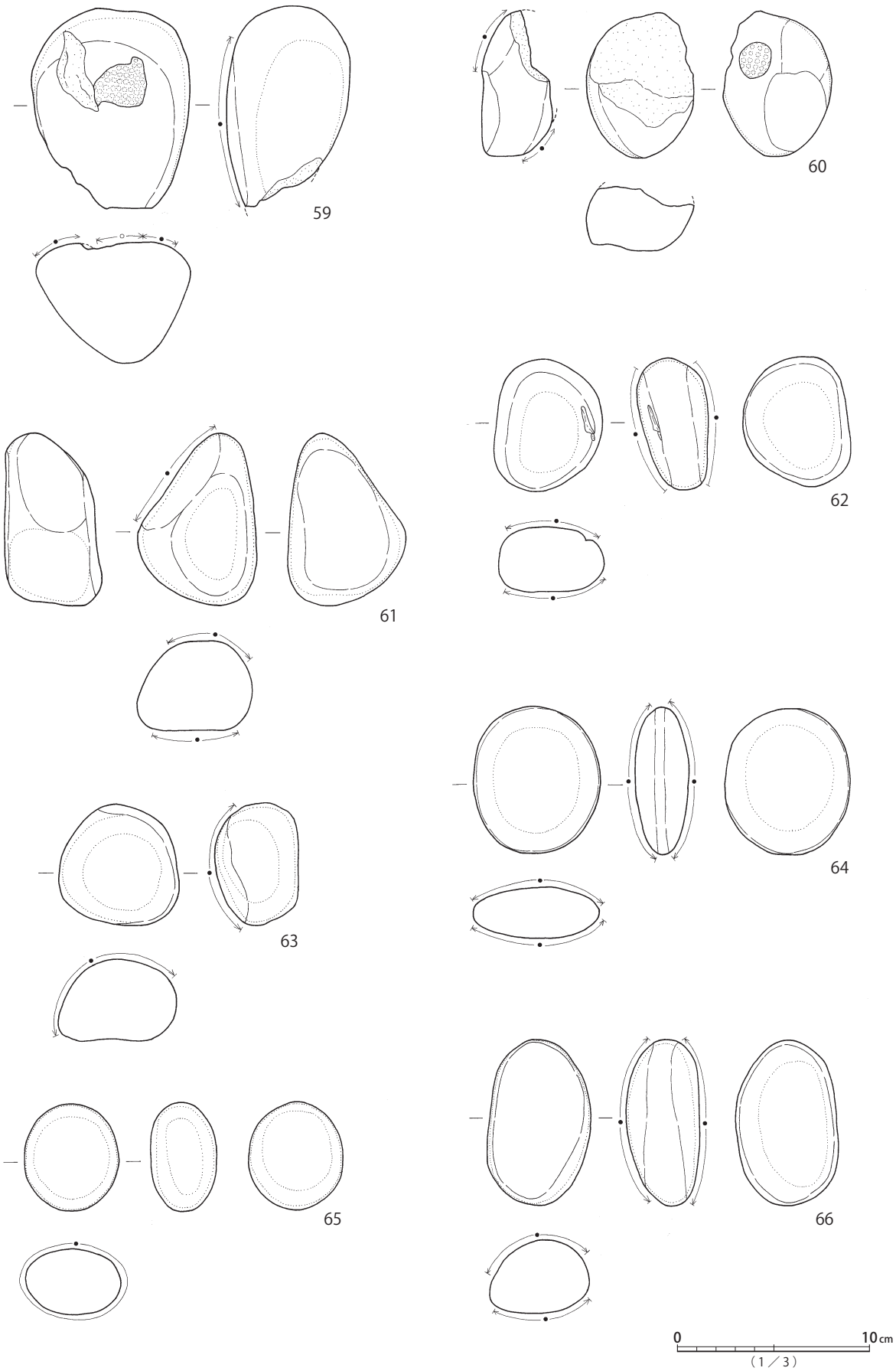


第 88 図　遺物包含層出土石器（2）



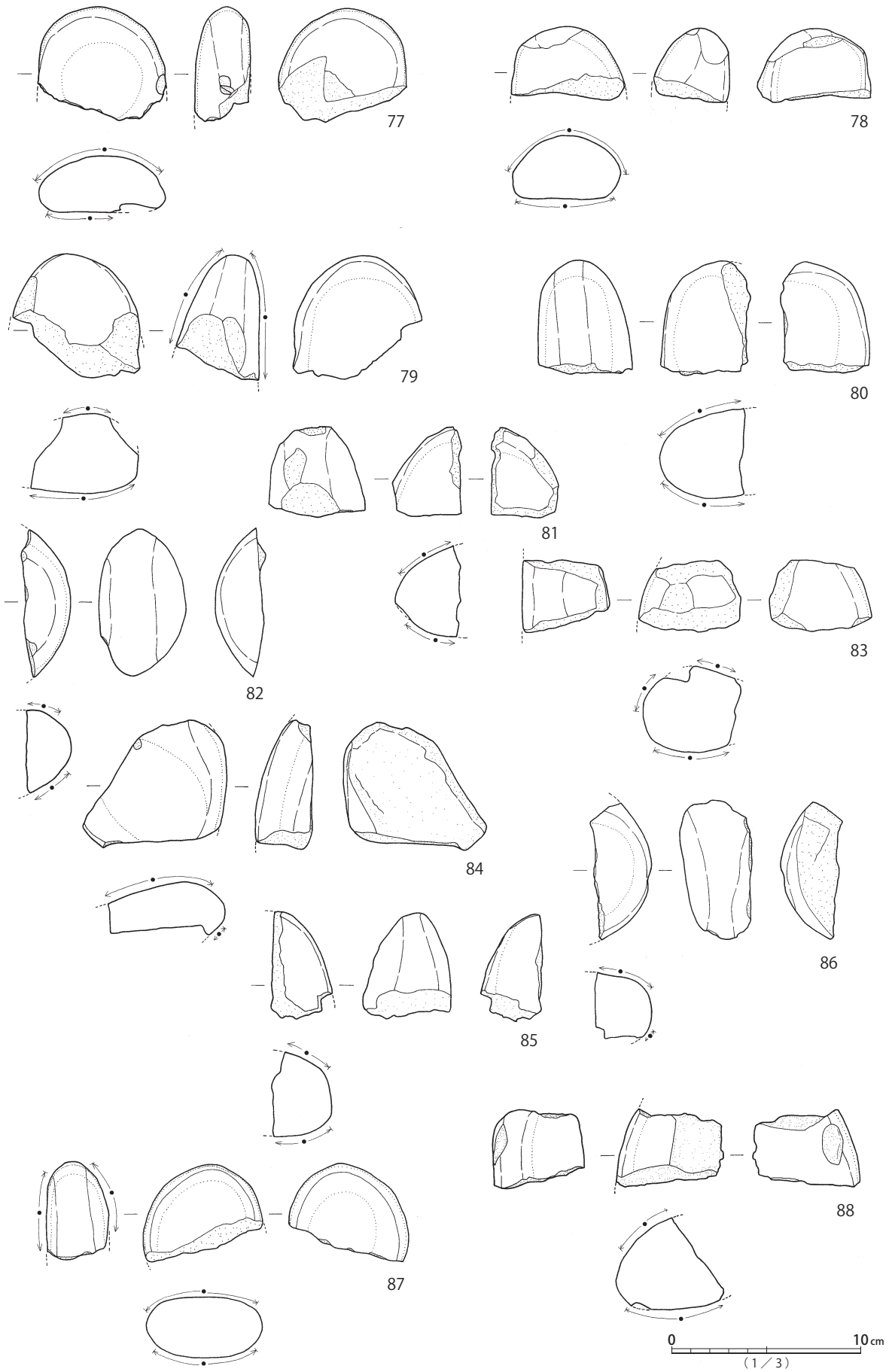
第 89 図　遺物包含層出土石器（3）

第 90 図　遺物包含層出土石器（4）

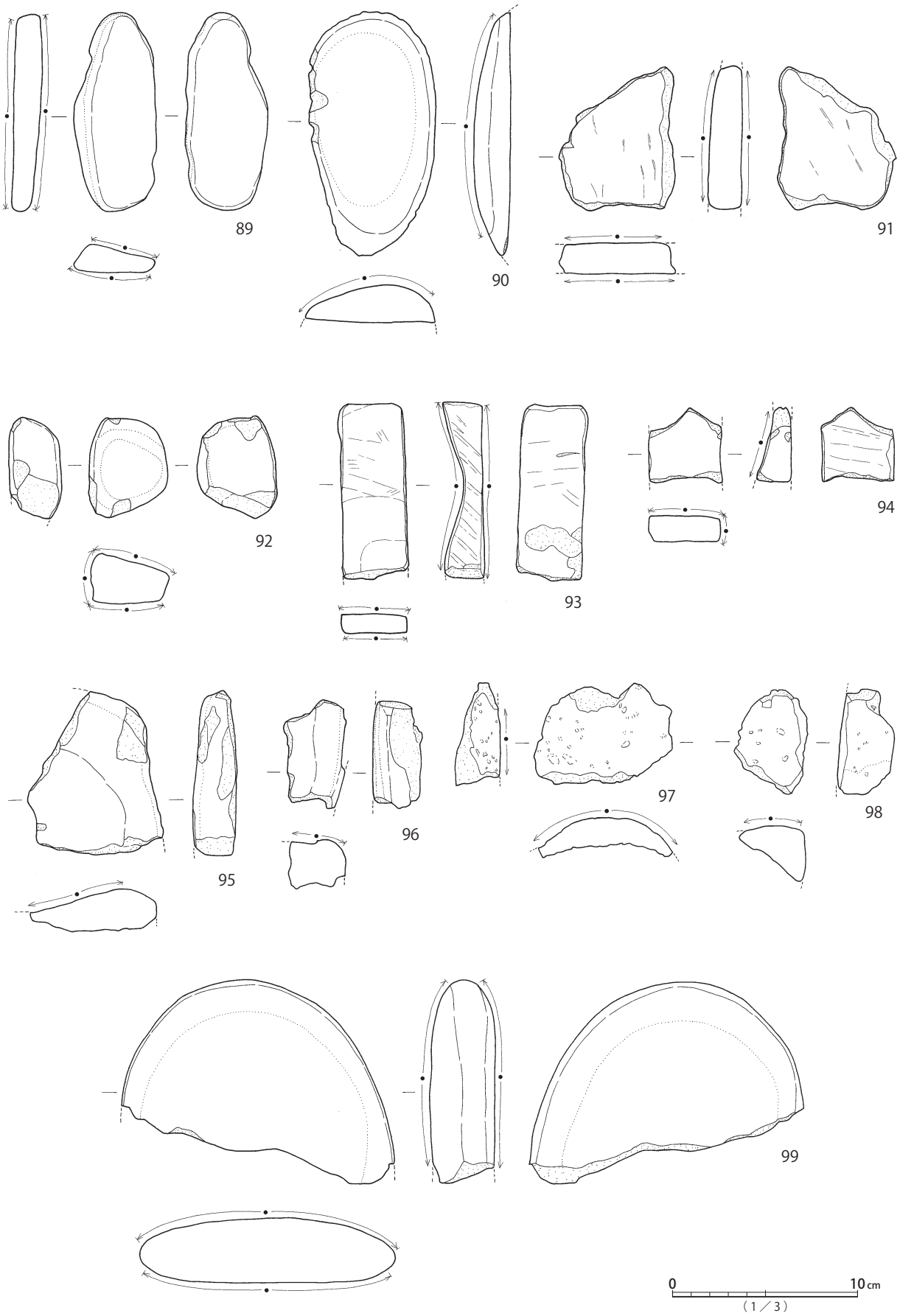


第 91 図　遺物包含層出土石器（5）

第 92 図　遺物包含層出土石器（6）



第 93 図　遺物包含層出土石器（7）



第 94 図　遺物包含層出土石器（8）

表 12　遺物包含層出土石器属性表

挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド取り上げ No.	層位	石器器種	残存状況	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	観察	備考	
87	1	セ 436	A38	38		石鏃	半欠	10.9	14.2	3.5	0.4	黒曜石	凹基無茎石鏃。上半分を欠く。表裏とも素材の剥離面を残し、調整は断続的で、抉れ部は深く 2 段階になっている。		
87	2	セ 437	A36	52		石鏃	完形	13.4	11.9	4.2	0.4	黒曜石	凹基無茎石鏃。非常に小型で、器長も短い。先端部は鋭いが、抉れは浅く左右非対称で、脚部の作り出しも相違している。	発掘時遺構取り上げ（旧 104 号）	
87	3	セ 436	A38	348		石鏃	完形	20.2	13.7	3.6	0.7	チャート	凹基無茎石鏃。器厚は薄く、先端部が非常に鋭い。両縁辺はややふっくらし、抉れ部は浅く、脚部は長さも異なり、調整は粗い。		
87	4	セ 436	A39	153		石鏃	完形	15.9	16.6	4.5	0.6	菫青石ホルンフェルス	凹基無茎石鏃。抉れ部は深く、脚部先端は丸みを帯びている。胴部が短く、正三角形のような比率になっている。先端部は鋭さを欠く。		
87	5	セ 436	A40	47		石鏃	完形	15.1	15.6	3.1	0.4	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。長さと幅が近い短形の石鏃で、抉れ部が深く、全体型はブーメラン状を呈する。先端部は尖るが、極めて短い。		
87	6	セ 436	A40	73		石鏃	半欠	17.8	17.0	5.1	1.1	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。先端部を大きく欠く。裏面に素材剥片の主剥離面を残し、右脚部が非常に短い、非対称な形状を呈する。全体的な調整を見ると、再調整による二次使用とはみられない。		
87	7	セ 436	A40	192		石鏃	完形	15.5	15.1	4.1	0.7	チャート	凹基無茎石鏃。表面に自然面を、裏面に素材の主剥離面をわずかに残す。全体形はやや非対称で、抉れ部はやや浅い。胴部が短く、先端部はあまり尖らない。		
87	8	セ 436	A40	1148		石鏃	完形	27.9	14.7	4.7	1.2	黒曜石	尖基石鏃。脚部を持たない尖基鏃に分類した。上下の判断が難しいが、器厚と反り具合から図のように判断した。		
87	9	セ 436	A40	1307		石鏃	完形	19.7	13.6	4.3	0.8	黒曜石	凹基無茎石鏃。左側縁の調整がやや粗いが、全体的には両側縁がやや膨らみ、左右対称形である。脚部は左右非対称で、抉れ部は浅い弧状を呈し、右脚部は極めて細めである。		
87	10	セ 436	A40	1415		石鏃	一部欠	17.4	11.5	3.8	0.5	黒曜石	凹基無茎石鏃。左側縁及び右脚部を欠く。欠損部が多いが、全体形は非対称とみられる。脚部の作り出しはわずかで、抉れ部もごく浅い。		
87	11	セ 436	A4 1	1130		石鏃	完形	21.7	15.5	5.8	1.8	黒曜石	凸基無茎石鏃。裏面に素材の剥離面を残し、下部には右縁辺を打点とする横向きの剥離があり、欠損品ともみられるが、裏面に再調整があり、この状態で使用されたものとみられる。		
87	12	セ 436	A50	911		石鏃	完形	23.3	18.5	4.6	0.9	チャート	凹基無茎石鏃。抉り部が深く、両脚部は細い。先端は尖り、全体的に細身で調整も入念である。		
87	13	セ 436	A50	1066		石鏃	完形	19.8	11.4	4.0	0.6	菫青石ホルンフェルス	凹基無茎石鏃。先端部は丸みを帯び、全体的に長く細身である。脚部は左側が短く非対称で、裏面の調整はやや粗い。		
87	14	セ 436	A50	1101		石鏃	完形	14.5	12.8	3.4	0.4	頁岩（古期）	凹基無茎石鏃。胴部が短く、全体的に短形。抉れ部は深く、脚部は長めである。左側縁がやや張り出し、全体的にやや非対称。		
87	15	セ 436	A50	1306		石鏃	完形	20.1	13.5	4.7	0.7	チャート	凹基無茎石鏃。左脚部が折れた後、表面からの再調整が見られる。抉り部は深くて広く、残存脚部は細く、先端が鋭く尖る。		
87	16	セ 436	A50	1520		石鏃	一部欠	27.0	12.7	3.1	0.8	チャート	凹基無茎石鏃。左脚部を欠く。抉れは浅く、脚部の作り出しは短い。先端部は尖り、胴部が長く、全体的に細身である。裏面に素材の主剥離面を残す。		
87	17	セ 436	A50	136		石鏃	一部欠	21.1	13.4	3.6	0.9	頁岩	凹基無茎石鏃。左脚部欠損。表面に僅かながら自然面を残し、裏面に素材の剥離面を残す。先端部は鋭く尖り、側縁部はやや内湾する。	発掘時遺構取り上げ（2 号）	
87	18	セ 436	A51	729		石鏃	一部欠	16.5	16.0	3.8	0.7	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。先端部及び右脚部を欠く。裏面には素材の主剥離面を残す。抉れ部はやや浅く広い。裏面の調整は全周に及ばず、効率的な整形をしている。		

挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド 取り上げNo.	層位	石器 器種	残存状況	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	観察	備考	
87	19	セ 436	A51	760		石鏃	半欠	14.6	20.3	4.3	1.0	無斑晶ガラス質安山岩	凹基無茎石鏃。先端部を大きく欠く。右側縁にわずかながらダメージが有る。残存部から見ると、調整は入念で、縁辺も対称形であったとみられる。		
87	20	セ 436	A51	768		石鏃	一部欠	14.9	16.4	4.3	0.6	無斑晶質安山岩	凹基無茎石鏃。右脚部先端を欠く。胴部が短く、先端部と脚部の幅がそれほど相違しない。全体的に短形で正三角形に収まる型状である。		
87	21	セ 436	A51	1316		石鏃	完形	18.5	15.0	3.6	0.5	黒曜石	凹基無茎石鏃。先端部は鋭く尖り、入念な調整が見られる。両側縁とも上部で肩が張ったようになっており、先端部は再調整の可能性もある。裏面に素材の主剥離面を大きく残す。		
87	22	セ 436	A51	1392		石鏃	一部欠	21.4	17.0	9.1	3.1	黒曜石	凸基無茎石鏃。先端部を欠くが、調整のあり方から基部の突出した石鏃とみられる。裏面に素材の剥離面を残す。器厚はやや厚く、中央部がやや盛り上がっている。		
87	23	セ 436	A27	698		石鏃	完形	19.7	13.4	4.5	1.0	チャート	非対称で統制された形状ではないが、素材の形状をうまく使って先頭部を作り出している。脚部は不明瞭で、再調整の可能性もある。ごくわずかに抉れが見られるので、凹基無茎石鏃とする。		
87	24	セ 436	A51	1335		石鏃	半欠	11.6	12.8	3.6	0.4	無斑晶質安山岩	凹基無茎石鏃。上部を大きく欠く。抉れはやや深く、左脚部がやや短い。裏面の調整は、表面に比べてやや粗い。		
87	25	セ 436	A51	32		石鏃	一部欠	22.6	17.4	6.3	1.4	頁岩	凹基無茎石鏃。左脚部を欠く。調整は粗いが、効率よく整形している。裏面に素材剥片の主剥離面を一部残す。中央部はややくびれ、脚部先端は丸みを帯びている。	発掘時遺構取り上げ（4号）	
87	26	セ 436	A51	1327		石鏃	一部欠	22.5	11.8	4.1	0.7	頁岩（新第三紀）	凹基無茎石鏃。左脚部を付け根から欠くが、右側の調整より抉れ部が確認できる。右脚部先端は尖らないが、再調整が見られることから、本来の脚部欠損の後再利用されたとみられる。		
87	27	セ 437	A57	2142		石鏃	完形	22.8	16.3	4.8	1.2	黒曜石	凹基無茎石鏃。左脚部の作り出しが不明瞭で、右側も短い。抉れ部が２つあるような形状を呈するが、有茎族の調整には見えない。		
87	28	セ 437	A58	269		石鏃	完形	19.3	15.6	3.8	0.7	チャート	凹基無茎石鏃。抉れ部は浅くて綺麗な弧状を呈する。均整のとれた全体形を呈する。先端部は僅かな俺の可能性もあるが、時期差は認められない。裏面に素材の主剥離面を残す。		
87	29	セ 430	A28-2	15		石鏃	完形	23.7	17.6	5.3	1.8	チャート	凹基無茎石鏃。表面に自然面を残し、裏面に素材の主剥離面を残す。抉れ部分がバルブにあたり、端部を先端部とし、剥片の形状をうまく使って整形している。		
88	30	セ 430	表採	9		石錐	完形	30.6	17.8	9.3	4.2	無斑晶質安山岩	やや厚手の横型剥片を用い、片側縁に錐部を作出している。裏面には素材剥片の剥離面を残し、錐部先端はあまり尖っていない。明確な擦痕は見られない。		
88	31	セ 436	A50	1018		石錐	完形	33.3	10.1	4.6	1.5	チャート	表面が自然面の小型で細長い剥片を素材とし、剥片端部を調整して錐部を作り出している。柄などに装着して使用されたとみられる。錐部に明確な擦痕は見られない。		
88	32	セ 436	A51	1051		石匙	完形	40.9	45.6	10.0	12.9	無斑晶質安山岩	全面にわたる調整のため素材の状況は判然としない。刃部は直線上で、表裏両面からの調整によって整形され、摘み部のくびれは浅い。		
88	33	セ 436	A51	テスト pit001-1		楔形石器	完形	23.3	19.2	11.5	5.3	チャート	小石を素材とし、上下方向からの調整によって加工し、下端部に鋭い刃部を作り出している。調整は部分的で入念ではない。一時的な使用が想起される。		
88	34	セ 436	A51	1411		楔形石器	完形	29.0	30.4	11.8	11.8	無斑晶ガラス質安山岩	表面に自然面を残し、上下方向からの調整が見られ、上部には細かな剥離が連続するが、断面形から、鋭い下端部を刃部としているものとみられる。		

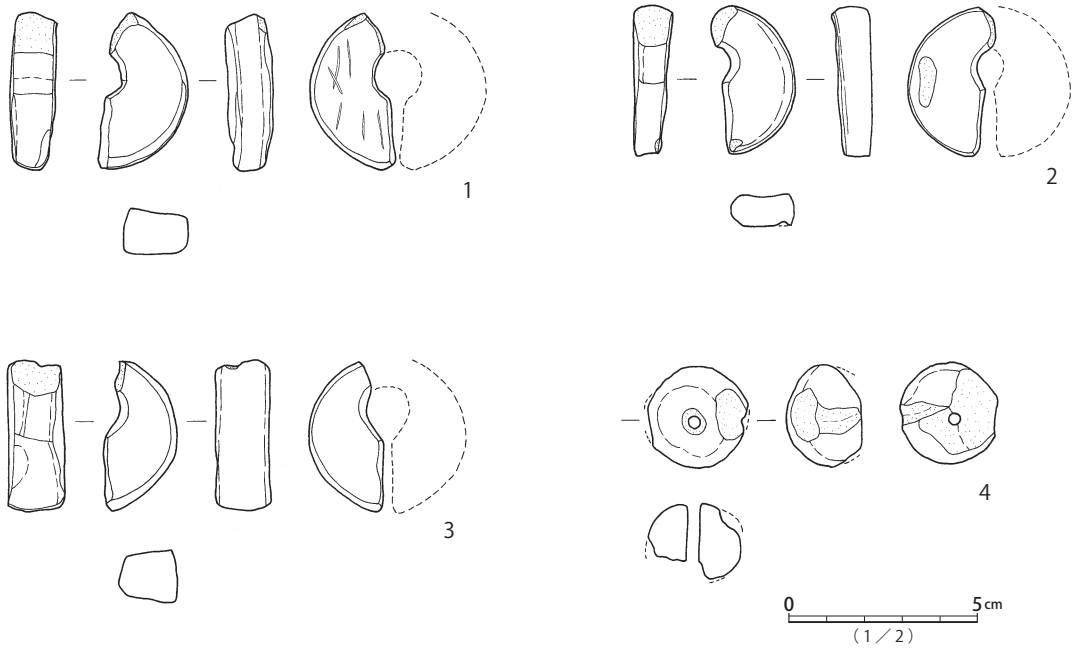
挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド取り上げNo.	層位	石器器種	残存状況	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	観察	備考	
88	35	セ 436	A50	1420		楔形石器	完形	26.1	24.3	12.4	8.8	菫青石ホルンフェルス	表面に 2 箇所の自然面を残す。下部及び右側縁部が鋭く、両方を刃部とした可能性があるが、縦方向の断面形状から、主たる刃部は下縁部であるとみられる。		
		セ 436	A51	1097		楔形石器	完形	22.9			3.2	チャート			
88	36	セ 436	A51	892		楔状石器	完形	36.6	32.7	12.1	17.0	チャート	やや扁平な小石を縦割りにし、一方の端部に鋭い刃部を作り出している。縦断面は楔状を呈するが、定型的でないため楔状石器とする。		
88	37	セ 436	A51	950		楔状石器	完形	36.2	19.2	7.3	5.1	チャート	細長の小石を縦割りにし、下部に鋭い縁辺を作り出している。裏面には、上端部まで届く下方からの打撃による調整がみられ、刃部と器厚を調整したものとみられる。		
88	38	セ 436	A51	1175		楔状石器	完形	44.6	33.5	11.8	21.4	チャート	小石を半割にし、一端に鋭い刃部を作り出している。楔として使われたものとみられるが、定型的でないため楔状石器とする。		
		セ 436	A50	1149		楔状石器	完形	42.2			12.2	チャート			
		セ 436	A52	1457		楔状石器	完形	25.3			5.5	ホルンフェルス			
89	39	セ 436	A51	1048		調整剥片	半欠	20.3	19.7	6.1	1.9	頁岩（古期）	下部を大きく欠損しており全体型が不明なため、調整剥片とした。表面に自然面を残し、裏面には素材の剥離面を残し、横型剥片を用いることが分かる。おそらく尖頭器の欠損品であろう。		
89	40	セ 430	A51-1	2		調整剥片	完形	34.8	36.7	16.0	16.6	黒曜石	定型的な形状でないため、調整剥片とする。調整面を打面とする厚手の剥片の右上部縁辺及び下端部に細かな剥離が集中している。左右側縁を刃部とする楔状石器とみることもできる。		
		セ 436	A51	807		調整剥片	完形	29.0			5.2	無斑晶質安山岩			
		セ 436	A27	360		石核		30.4			5.3	黒曜石			
		セ 436	A28	608		石核		26.7			7.1	黒曜石			
		セ 436	A29	11		石核		56.7			13.6	無斑晶ガラス質安山岩		発掘時遺構取り上げ（81 号）	
		セ 436	A34	2		石核		26.8			7.5	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（96 号）	
		セ 436	A40	35		石核		33.9			20.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A40	365		石核		31.2			7.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A40	632		石核		37.5			19.3	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A40	633		石核		36.3			23.8	黒曜石			
		セ 436	A40	767		石核		33.2			5.0	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 430	A45-4	3		石核		56.5			55.9	チャート			
		セ 436	A50	1215		石核		44.4			17.3	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	36		石核		29.2			9.2	無斑晶ガラス質安山岩		発掘時遺構取り上げ（4 号）	
		セ 436	A51	1010		石核		32.2			17.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	1174		石核		44.5			29.8	黒曜石			
		セ 436	A51	1371		石核		87.2			87.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 430	A51-1	15		石核		26.5			10.4	チャート			
		セ 430	A51-1	5		石核		55.0			10.8	チャート			
		セ 436	A52	1055		石核		47.2			61.3	チャート			
		セ 437	A56	26		石核		37.8			11.4	チャート			
		セ 437	A58	61		石核		39.0			15.6	チャート			
		セ 437	A66	4		石核		43.6			15.8	黒曜石			
		セ 430	A68-3	1		石核		31.4			17.1	黒曜石			
		セ 430	1 トレ	15		剥片		28.4			2.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 430	1 トレ	15		剥片		30.5			6.7	菫青石ホルンフェルス			
		セ 430	A12-1	5		剥片		28.6			6.4	黒曜石			
		セ 430	A24-2	5		剥片		36.1			3.2	黒曜石			
		セ 436	A27	16		剥片		19.3			1.4	黒曜石			
		セ 436	A27	701		剥片		16.9			1.0	チャート			
		セ 436	A28	0		剥片		10.1			0.3	黒曜石			
		セ 436	A28	80		剥片		13.9			0.5	黒曜石			
		セ 436	A28	530		剥片		15.7			0.5	黒曜石			
		セ 436	A28	689		剥片		15.9			1.4	黒曜石			
		セ 436	A28	794		剥片		15.1			1.1	黒曜石			
		セ 436	A28	1006		剥片		15.0			0.9	黒曜石			
		セ 436	A28	1608		剥片		19.1			0.4	黒曜石			
		セ 436	A28	1661		剥片		13.2			0.2	黒曜石			

挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド取り上げNo.	層位	石器	残存状況	計測値				石材	観察	備考	
						器種		最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)				
		セ 436	A28	1970		剥片		15.9			0.3	黒曜石			
		セ 436	A28	1829		剥片		13.6			0.5	黒曜石			
		セ 430	A30-4	2		剥片		19.4			1.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 437	A36	1		剥片		28.6			0.9	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（11 号）	
		セ 437	A36	43		剥片		21.4			1.5	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（旧 104 号）	
		セ 437	A36	104		剥片		16.7			0.3	頁岩		発掘時遺構取り上げ（旧 104 号）	
		セ 437	A36	174		剥片		15.1			1.1	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（旧 104 号）	
		セ 437	A36.37	48		剥片		9.6			0.5	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（97 号）	
		セ 437	A36.37	50		剥片		17.1			0.5	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（97 号）	
		セ 437	A36.37	64		剥片		11.4			0.3	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（97 号）	
		セ 437	A36.37	73		剥片		20.2			1.3	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（97 号）	
		セ 437	A36.37	75		剥片		20.5			0.7	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（97 号）	
		セ 437	A36.37	81		剥片		17			0.6	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（97 号）	
		セ 437	A36.37	141		剥片		23			1.4	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（97 号）	
		セ 436	A38	144		剥片		22.4			1.5	黒曜石			
		セ 436	A38	478		剥片		15.0			0.3	黒曜石			
		セ 436	A39	177		剥片		23.2			3.9	チャート			
		セ 436	A39	300		剥片		16.3			0.7	チャート			
		セ 436	A39	370		剥片		24.4			2.2	黒曜石			
		セ 436	A39	637		剥片		34.7			2.0	黒曜石			
		セ 436	A39	683		剥片		18.2			4.6	黒曜石			
		セ 436	A39	728		剥片		13.8			0.8	チャート			
		セ 436	A39	841		剥片		50.5			13.9	頁岩（新第三紀）			
		セ 436	A39	1228		剥片		11.8			0.4	黒曜石			
		セ 436	A39	1307		剥片		14.0			0.9	黒曜石			
		セ 436	A39	1313		剥片		18.9			1.2	黒曜石			
		セ 436	A39	1354		剥片		12.4			0.1	黒曜石			
		セ 436	A39	1497		剥片		9.9			0.2	黒曜石			
		セ 436	A39	15		剥片		12.8			0.8	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（32 号）	
		セ 430	A39-3	1		剥片		18.7			1.3	黒曜石			
		セ 430	A39-3	5		剥片		15.3			1.2	菫青石ホルンフェルス			
		セ 436	A40	67		剥片		9.0			+	黒曜石			
		セ 436	A40	77		剥片		19.1			1.2	黒曜石			
		セ 436	A40	158		剥片		23.5			2.9	チャート			
		セ 436	A40	192		剥片		33.8			5.4	頁岩（古期）			
		セ 436	A40	239		剥片		26.5			3.0	黒曜石			
		セ 436	A40	280		剥片		26.9			2.2	黒曜石			
		セ 436	A40	315		剥片		25.0			0.9	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A40	343		剥片		6.0			+	黒曜石			
		セ 436	A40	389		剥片		15.9			0.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A40	465		剥片		6.0			+	黒曜石		要顕微鏡観察	
		セ 436	A40	475		剥片		25.9			0.7	黒曜石			
		セ 436	A40	498		剥片		5.0			+	黒曜石			
		セ 436	A40	503		剥片		10.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A40	509		剥片		9.5			0.1	黒曜石			
		セ 436	A40	533		剥片		20.8			2.0	頁岩			
		セ 436	A40	585		剥片		27.6			7.2	黒曜石			
		セ 436	A40	586		剥片		30.1			3.9	チャート			
		セ 436	A40	627		剥片		16.2			1.6	黒曜石			
		セ 436	A40	747		剥片		11.5			0.4	黒曜石			
		セ 436	A40	755		剥片		12.1			0.1	黒曜石			
		セ 436	A40	907		剥片		15.2			0.4	黒曜石			
		セ 436	A40	908		剥片		15.7			1.0	黒曜石			
		セ 436	A40	917		剥片		9.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A40	998		剥片		14.4			0.4	黒曜石			
		セ 436	A40	1067		剥片		13.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A40	1085		剥片		16.0			0.3	黒曜石			
		セ 436	A40	1114		剥片		16.5			0.5	黒曜石			
		セ 436	A40	1123		剥片		18.2			0.7	チャート			
		セ 436	A40	1160		剥片		8.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A40	1163		剥片		14.2			0.6	黒曜石			
		セ 436	A40	1176		剥片		10.6			0.4	黒曜石			
		セ 436	A40	1205		剥片		25.8			2.8	黒曜石			
		セ 436	A40	1498		剥片		6.0			0.1	黒曜石			

挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド取り上げ No.	層位	石器 器種	残存状況	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	観察	備考	
		セ 436	A40	1508		剥片		8.0			+	黒曜石		要顕微鏡観察	
		セ 436	A40	1560		剥片		15.7			0.2	チャート			
		セ 436	A40	1560		剥片		15.4			0.8	黒曜石			
		セ 436	A40	1600		剥片		11.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A40	1602		剥片		22.5			3.3	チャート			
		セ 436	A40	一括	下層ソフトローム上面一括	剥片		24.4			1.3	チャート			
		セ 436	A40	一括	下層ソフトローム上面一括	剥片		11.1			0.4	黒曜石			
		セ 436	A40	19		剥片		7.2			0.1	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（42 号）	
		セ 430	A40-2	5		剥片		23.3			1.3	無斑晶質安山岩			
		セ 430	A40-2	14		剥片		21.2			3.0	黒曜石			
		セ 436	A4 1	325		剥片		11.0			0.2	黒曜石			
		セ 436	A4 1	800		剥片		18.3			0.7	頁岩（古期）			
		セ 436	A4 1	920		剥片		10.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A49	一括	カクラン	剥片		23.6			1.9	黒曜石			
		セ 436	A50	676		剥片		14.0			1.6	チャート			
		セ 436	A50	731		剥片		29.5			7.9	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	785		剥片		28.8			3.2	チャート			
		セ 436	A50	820		剥片		21.3			3.9	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	870		剥片		11.0			0.1	頁岩（古期）			
		セ 436	A50	874		剥片		22.2			2.2	チャート			
		セ 436	A50	933		剥片		35.6			5.9	チャート			
		セ 436	A50	951		剥片		23.0			0.6	頁岩（古期）			
		セ 436	A50	952		剥片		18.2			1.0	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	954		剥片		33.1			3.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	979		剥片		31.1			4.4	チャート			
		セ 436	A50	987		剥片		24.5			1.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	989		剥片		20.8			1.9	チャート			
		セ 436	A50	1067		剥片		36.5			2.7	頁岩（古期）			
		セ 436	A50	1067		剥片		12.0			0.3	黒曜石			
		セ 436	A50	1071		剥片		12.6			0.9	チャート			
		セ 436	A50	1151		剥片		26.2			1.6	チャート			
		セ 436	A50	1182		剥片		25.2			2.0	チャート			
		セ 436	A50	1238		剥片		25.1			3.9	黒曜石			
		セ 436	A50	1268		剥片		29.0			2.9	チャート			
		セ 436	A50	1268		剥片		22.0			1.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	1269		剥片		12.4			0.4	黒曜石			
		セ 436	A50	1297		剥片		26.7			5.3	チャート			
		セ 436	A50	1302		剥片		47.5			15.4	チャート			
		セ 436	A50	1319		剥片		15.8			1.3	チャート			
		セ 436	A50	1353		剥片		20.0			0.6	黒曜石			
		セ 436	A50	1386		剥片		23.3			3.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A50	1434		剥片		5.0			+	黒曜石			
		セ 436	A50	1470		剥片		7.0			+	黒曜石			
		セ 436	A50	1507		剥片		21.8			2.9	チャート			
		セ 436	A50	1537		剥片		15.0			1.0	黒曜石			
		セ 436	A50	135		剥片		23			1.2	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（2 号）	
		セ 436	A51	474		剥片		23.9			1.1	粘板岩			
		セ 436	A51	651		剥片		23.1			2.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	660		剥片		30.9			2.7	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	684		剥片		15.0			0.9	チャート			
		セ 436	A51	688		剥片		18.4			0.5	菫青石ホルンフェルス			
		セ 436	A51	688		剥片		22.8			1.0	珪質頁岩（新第三紀）			
		セ 436	A51	729		剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 436	A51	730		剥片		17.5			0.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	760		剥片		18.0			0.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	770		剥片		19.6			2.4	チャート			
		セ 436	A51	784		剥片		29.8			3.1	黒曜石			
		セ 436	A51	800		剥片		21.1			1.2	無斑晶質安山岩			
		セ 436	A51	848		剥片		38.9			4.1	頁岩（古期）			
		セ 436	A51	848		剥片		25.8			2.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	858		剥片		40.5			9.1	菫青石ホルンフェルス			
		セ 436	A51	889		剥片		15.0			0.2	無斑晶ガラス質安山岩			

挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド取り上げ No.	層位	石器 器種	残存状況	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	観察	備考	
		セ 436	A51	926		剥片		29.4			1.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	929		剥片		26.6			1.1	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	930		剥片		20.9			3.2	黒曜石			
		セ 436	A51	931		剥片		19.9			0.8	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	972		剥片		39.2			5.6	チャート			
		セ 436	A51	1007		剥片		26.0			4.4	無斑晶ガラス質安山岩			2点
		セ 436	A51	1013		剥片		15.0			0.8	黒曜石			
		セ 436	A51	1047		剥片		47.6			3.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	1048		剥片		14.0			0.3	頁岩（新第三紀）			
		セ 436	A51	1048		剥片		25.6			2.0	頁岩（古期）			
		セ 436	A51	1051		剥片		21.8			1.6	チャート			
		セ 436	A51	1091		剥片		15.4			0.7	ひん石			
		セ 436	A51	1091		剥片		20.5			0.8	頁岩			
		セ 436	A51	1110		剥片		32.9			5.6	チャート			
		セ 436	A51	1125		剥片		14.0			0.4	チャート			
		セ 436	A51	1162		剥片		18.3			1.5	頁岩（古期）			
		セ 436	A51	1162		剥片		19.4			3.1	チャート			
		セ 436	A51	1165		剥片		17.6			1.4	チャート			
		セ 436	A51	1218		剥片		20.9			0.5	頁岩（古期）			
		セ 436	A51	1238		剥片		24.0			1.3	黒曜石			
		セ 436	A51	1242		剥片		20.4			1.1	無斑晶質安山岩			
		セ 436	A51	1245		剥片		26.0			1.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	1250		剥片		25.9			1.5	黒曜石			
		セ 436	A51	1272		剥片		13.5			0.5	黒曜石			
		セ 436	A51	1338		剥片		25.2			2.6	チャート			
		セ 436	A51	1351		剥片		22.1			1.9	黒曜石			
		セ 436	A51	1353		剥片		7.0			+	黒曜石			
		セ 436	A51	1356		剥片		6.0			+	黒曜石			
		セ 436	A51	1399		剥片		10.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A51	1421		剥片		22.1			3.2	チャート			
		セ 436	A51	1437		剥片		5.0			+	黒曜石		要顕微鏡観察	
		セ 436	A51	1443		剥片		31.5			11.5	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	1444		剥片		22.5			2.4	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	1460		剥片		22.8			2.4	チャート			
		セ 436	A51	1470		剥片		23.7			2.0	黒曜石			
		セ 436	A51	1517		剥片		25.2			1.8	黒曜石			
		セ 436	A51	1532		剥片		19.1			1.2	頁岩（新第三紀）			
		セ 436	A51	1552		剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 436	A51	1560		剥片		23.7			1.3	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	1564		剥片		28.9			8.0	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A51	1592		剥片		15.1			0.5	黒曜石			
		セ 436	A51	1601		剥片		29.0			1.7	チャート			2点
		セ 436	A51	1601		剥片		26.8			2.2	チャート			2点
		セ 436	A51	テスト pit001-2		剥片		12.0			0.1	黒曜石			
		セ 436	A51	一括		剥片		17.5			0.4	黒曜石			
		セ 436	A51	27		剥片		15.2			0.2	黒曜石		発掘時遺構取り上げ（26 号）	
		セ 436	A52	1168		剥片		23.2			0.8	珪質頁岩（新第三紀）			
		セ 436	A52	1217		剥片		34.9			6.1	黒曜石			
		セ 436	A52	1249		剥片		26.0			0.9	チャート			
		セ 436	A52	1332		剥片		14.4			0.3	黒曜石			
		セ 436	A52	1370		剥片		17.2			1.0	黒曜石			
		セ 436	A52	1454		剥片		14.4			0.6	無斑晶ガラス質安山岩			
		セ 436	A52	1484		剥片		10.1			0.1	黒曜石			
		セ 436	A52	1493		剥片		6.0			0.1	無斑晶質安山岩			
		セ 430	A52-4	13		剥片		14.6			0.2	黒曜石			
		セ 437	A56	53		剥片		14.8			0.2	黒曜石			
		セ 437	A57	2095		剥片		8.0			+	黒曜石			
		セ 437	A57	2214		剥片		25.3			0.9	黒曜石			
		セ 430	A57-2	1		剥片		22.6			4.1	黒曜石			
		セ 437	A58	238		剥片		31.8			5.4	黒曜石			
		セ 437	A58	345		剥片		38.1			6.4	黒曜石			
		セ 437	A63	15		剥片		10.4			0.5	玉髄			
		セ 430	A9-1	1		剥片		38.7			16.7	珪質頁岩（古期）			
		セ 430	表採	9		剥片		17.1			0.7	チャート			

挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド取り上げNo.	層位	石器器種	残存状況	計測値 最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	観察	備考
89	41	セ 430	A41-1	2		磨製石斧	一部欠	83.0	29.0	15.0	52.0	砂岩（古期）		
89	42	セ 436	A28	1609		磨製石斧	完形	72.0	29.0	13.0	38.0	ひん岩		
89	43	セ 436	A40	17		磨製石斧	完形	59.0	18.0	12.0	18.1	頁岩		発掘時遺構取り上げ（40 号）
89	44	セ 436	A38	39		敲石	半欠	67.0	50.0	32.0	157.0	石英斑岩（奥日光）		
89	45	セ 436	A51	1473		敲石	完形	52.0	35.0	38.0	87.0	チャート		
89	46	セ 436	A28	827		敲石	完形	50.0	39.0	33.0	93.0	チャート		
89	47	セ 436	A52	1181		敲石	完形	86.0	53.0	37.0	227.0	凝灰岩（奥日光）		
89	49	セ 436	A38	564		敲石	一部欠	95.0	41.0	32.0	181.0	緻密質安山岩（新第三紀）		
		セ 430	A47-3	5		敲石	破片	65.0	35.0	25.0	78.0	砂岩（古期）		
90	50	セ 430	A39-2	8		敲石・磨石	一部欠	95.0	73.0	47.0	413.0	石英斑岩（奥日光）		
90	51	セ 436	A28	522		敲石・磨石	一部欠	133.0	83.0	37.0	617.0	花崗斑岩		
90	52	セ 436	A40	95	下層	敲石・磨石	破片	77.0	61.0	43.0	222.0	石英斑岩（奥日光）		
90	53	セ 430	A46-4	1		敲石・磨石	完形	75.0	56.0	43.0	260.0	砂岩（古期）		
90	54	セ 430	A51-1	11		敲石・磨石	一部欠	75.0	56.0	32.0	209.0	石英斑岩（奥日光）		
90	55	セ 430	A38-3	2		敲石・磨石	半欠	65.0	52.0	29.0	132.0	砂岩（古期）		
90	56	セ 436	A51	1110		敲石・磨石	一部欠	94.0	97.0	76.0	766.0	砂岩（古期）		
90	57	セ 436	A40	1499		敲石・磨石	一部欠	60.0	53.0	58.0	198.0	砂岩（古期）		
90	58	セ 430	A38-2	5		敲石・磨石	破片	102.0	85.0	37.0	238.0	スコリア質凝灰岩		
91	59	セ 436	A52	549		敲石・磨石	一部欠	103.0	80.0	62.0	644.0	砂岩（古期）		
91	60	セ 436	A40	1135		敲石・磨石	半欠	75.0	55.0	36.0	169.0	安山岩質凝灰岩(新第三紀)		
91	61	セ 436	A40	93		磨石	完形	89.0	60.0	49.0	362.0	砂岩（古期）		
91	62	セ 436	A30	23		磨石	完形	68.5	50.6	37.0	198.0	砂岩（古期）		
91	63	セ 436	A51	1234		磨石	完形	63.0	62.0	43.0	257.0	砂岩（古期）		
91	64	セ 436	A40	581		磨石	完形	76.0	65.0	27.0	196.0	砂岩（古期）		
91	65	セ 436	A51	966		磨石	完形	55.0	49.0	39.0	123.0	輝石安山岩（新第三紀）		
91	66	セ 436	A16	4		磨石	完形	86.0	54.0	38.0	246.0	石英斑岩（奥日光）		
92	67	セ 437	A63	9		磨石	一部欠	70.0	65.0	44.0	284.0	砂岩（古期）		
92	68	セ 437	A57	285		磨石	完形	87.0	58.0	51.0	283.0	砂岩（古期）		
92	69	セ 436	A51	559		磨石	完形	96.0	92.0	69.0	739.0	砂岩（古期）		
92	70	セ 436	A28	485		磨石	半欠	73.0	82.0	52.0	385.0	石英斑岩（奥日光）		
92	71	セ 436	A51	1205		磨石	半欠	82.0	51.0	42.0	189.0	花崗斑岩（古期）		
92	72	セ 436	A29	1665		磨石	半欠	65.0	63.0	51.0	259.0	デイサイト（古期）		
92	73	セ 430	A63-1	1		磨石	半欠	73.0	55.0	41.0	197.0	砂岩（古期）		
92	74	セ 436	A50	75		磨石	半欠	44.0	71.0	45.0	182.0	溶結凝灰岩（奥日光）		発掘時遺構取り上げ（1 号）
92	75	セ 436	A51	1343		磨石	破片	69.0	45.0	24.0	96.0	砂岩（古期）		
92	76	セ 436	A4 1	180		磨石	破片	42.0	79.0	51.0	179.0	砂岩（古期）		
93	77	セ 436	A39	715		磨石	半欠	60.0	66.0	29.0	140.0	デイサイト（新第三紀）		
93	78	セ 436	A51	748		磨石	半欠	39.0	60.0	40.0	107.0	輝石安山岩（新第三紀）		
93	79	セ 437	A57	2475		磨石	半欠	65.0	68.0	44.0	189.0	砂岩（古期）		
93	80	セ 436	A51	1198		磨石	破片	60.0	47.0	49.0	191.0	花崗斑岩（古期）		
93	81	セ 436	A50	820		磨石	破片	48.0	50.0	36.0	98.0	石英斑岩（奥日光）		
93	82	セ 436	A28	365		磨石	破片	77.0	45.0	26.0	93.0	石英斑岩（奥日光）		
93	83	セ 436	A52	449		磨石	破片	38.0	53.0	46.0	113.0	砂岩（古期）		
93	84	セ 430	A16-1	2		磨石	破片	67.0	74.0	30.0	170.0	砂岩（古期）		
93	85	セ 430	表採	9		磨石	破片	56.0	46.0	32.0	83.0	石英斑岩（奥日光）		
93	86	セ 436	A16	85		磨石	破片	72.0	32.0	38.0	97.0	デイサイト（新第三紀）		
93	87	セ 436	A15	1		磨石	半欠	52.0	64.0	33.0	105.0	安山岩質凝灰岩(新第三紀)		
93	88	セ 437	A36	46		磨石	破片	41.0	56.0	48.0	129.0	安山岩（新第三紀）		発掘時遺構取り上げ（旧 104 号）
94	89	セ 436	A39	762		砥石	完形	116.0	44.0	15.0	102.0	砂岩（古期）		
94	90	セ 436	A40	21		砥石	半欠	131	69.0	20.0	199	砂岩		発掘時遺構取り上げ（43 号）
94	91	セ 430	A16-1	2		砥石	破片	77.0	62.0	18.0	89.0	凝灰岩（新第三紀）		
94	92	セ 430	A16-1	2		砥石	一部欠	54.0	42.0	27.0	83.0	砂岩（古期）		
94	93	セ 436	A29	1120		砥石	一部欠	95.0	35.0	22.0	106.0	流紋岩		
94	94	セ 436	A52	1560		砥石	破片	41.0	34.0	18.0	36.7	流紋岩		
94	95	セ 436	A50	1540		砥石	破片	88.0	72.0	23.0	106.0	凝灰岩		
		セ 430	A15-2	8		砥石	破片	38.1	--	--	13.2	砂岩（古期）		
94	96	セ 430	A37-2	5		石皿	破片	58.0	33.0	26.0	58.0	輝石安山岩（新第三紀）		
94	97	セ 436	A50	ﾃｽﾄpit3 001		石皿	破片	54.0	74.0	24.0	72.0	安山岩		
94	98	セ 430	A39-4	5		石皿	破片	56.0	40.0	30.0	33.0	"スコリア（px,ol）"		
94	99	セ 430	A37-2	7		石皿	半欠	109.0	146.0	36.0	640.0	輝石安山岩（新第三紀）		



第95図　遺物包含層出土土製品

第 4 節　土製品

4 点の土製品が出土している。玦状耳飾 3 点と、土玉状の土製品 1 点である。表 13 に個々の遺物の属性を示した。第 95 図 1 ～ 3 は、玦状耳飾でいずれも半欠品である。最大長はいずれも 40mm 前後であるが、2 は厚さが他よりやや薄い。側面は、2・3 がかなりシャープであるのに対して、1 はやや鈍い。4 は、直径 26 ～ 27mm の土玉状の土製品である。小型で重量も現状で 9.7g しかないので、漁網用の土玉とするよりは、垂飾等の用途のものである可能性もある。

表 13　遺物包含層出土土製品属性表

挿図No.		調査コード	大グリッド	小グリッド取り上げ No.	層位	種別	残存状況	計測値				観察
								最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	
95	1	セ 436	A50	1600		玦状耳飾	半欠	41.0	23.0	12.0	11.2	
95	2	セ 430	A51-2	5		玦状耳飾	半欠	39.0	20.0	8.0	7.7	側面は稜線が明確
95	3	セ 436	A52	1454		玦状耳飾	半欠	39.5	19.0	14.0	11.6	側面は稜線が明確
95	4	セ 436	A51	1306		土玉？	一部欠	27.0	26.0	20.0	9.7	

第 4 章　分析篇

第 1 節　98 号遺構検出の貝層について

1　貝層検出の状況

98 号遺構は、調査区西側の A24 区から検出された掘立柱建物である。柱穴が東西方向の長方形に配列されたものである。遺構付近や柱穴内からの遺物出土は少なく、時期は明確でないが奈良・平安時代以降のものであることは間違いない（第 46 図）。柱は総数 34 箇所あり、覆土はほぼ全て貝層からなっていた。柱が安定するよう、据え付け部分に貝殻を利用したものと見られる。貝層の厚さは、最大 30cm 程度である（第 96 図）。

2　貝層の時期

貝層中からは、縄文時代後期の土器が検出された。堀之内 1 式から加曽利 B 式がみられ、加曽利 B 式を主体とする（第 47 図）。後期中葉を主体とする縄文貝塚の貝層が当該地に持ち込まれ、掘立柱建物の柱据え付けに利用されたものとみられる。縄文期の貝層が、後の時代に土木工事に利用された例としては、東京都千代田区外神田四丁目遺跡が知られる。江戸時代前期に、湿地帯の地盤改良を目的に搬入されたものと推定されており、ある程度の規模を持ち距離的に近くに存在した縄文後期のお茶の水貝塚や旧本丸西貝塚が搬入元の貝塚として候補にあげられている（中村 2004）。

3　分析の方法

二次堆積した貝層とは言え、縄文期の貝塚由来の貝層であることは間違いないので、通常の貝塚分析の方法で作業を行った。貝層サンプルは、柱穴ごとに全て採取されたので、乾燥後重量を計測した後、10・4・1mm の篩上で水洗し、各篩上の残留物の乾燥重量を計測後、内容物の分析を行った。

4　貝層の内容

貝層内容物の概要は、表 14 に示した。

（1）総量

34 箇所の貝ブロックの水洗篩後の乾燥重量は 202,852g あり、このうちの 36.2％にあたる 73,448g、8 箇所の柱穴内貝層について詳細な分析を行った。個々の貝層は、最小 150g、最大 14,300g で、平均は 6,339g である。

（2）混土率

混土率は最小 27.2％、最大 76.3％、平均 54.8％と比較的貝密度の高い貝層であった。利用目的が柱の据え付けにあることから、密度の高い貝層部分が選ばれたのであろう。

（3）破砕率

破砕率は最小 39.2％、最大 56.7％、平均 48.2％と比較的低い。

（4）包含遺物

土器　最小 9.7g、最大 145.3g、平均 39.2g と、比較的含有量は多い。

石器・剥片類　楔形石器が 1 点、微細な剥片類多数も含まれていた。

獣骨　最小 2.0g、最大 37.8g、平均 13.8g と、比較的含有量は多い。ただし、種・部位同定ができるような個体は少なかった。

魚骨　最小 0.1g、最大 3.5g、平均 1.0g と、検出量は比較的少ない。種・部位同定ができるような個体は少なかった。タイ科の歯、サメ・エイ類、マイワシなど小型魚の椎骨などが確認できた。

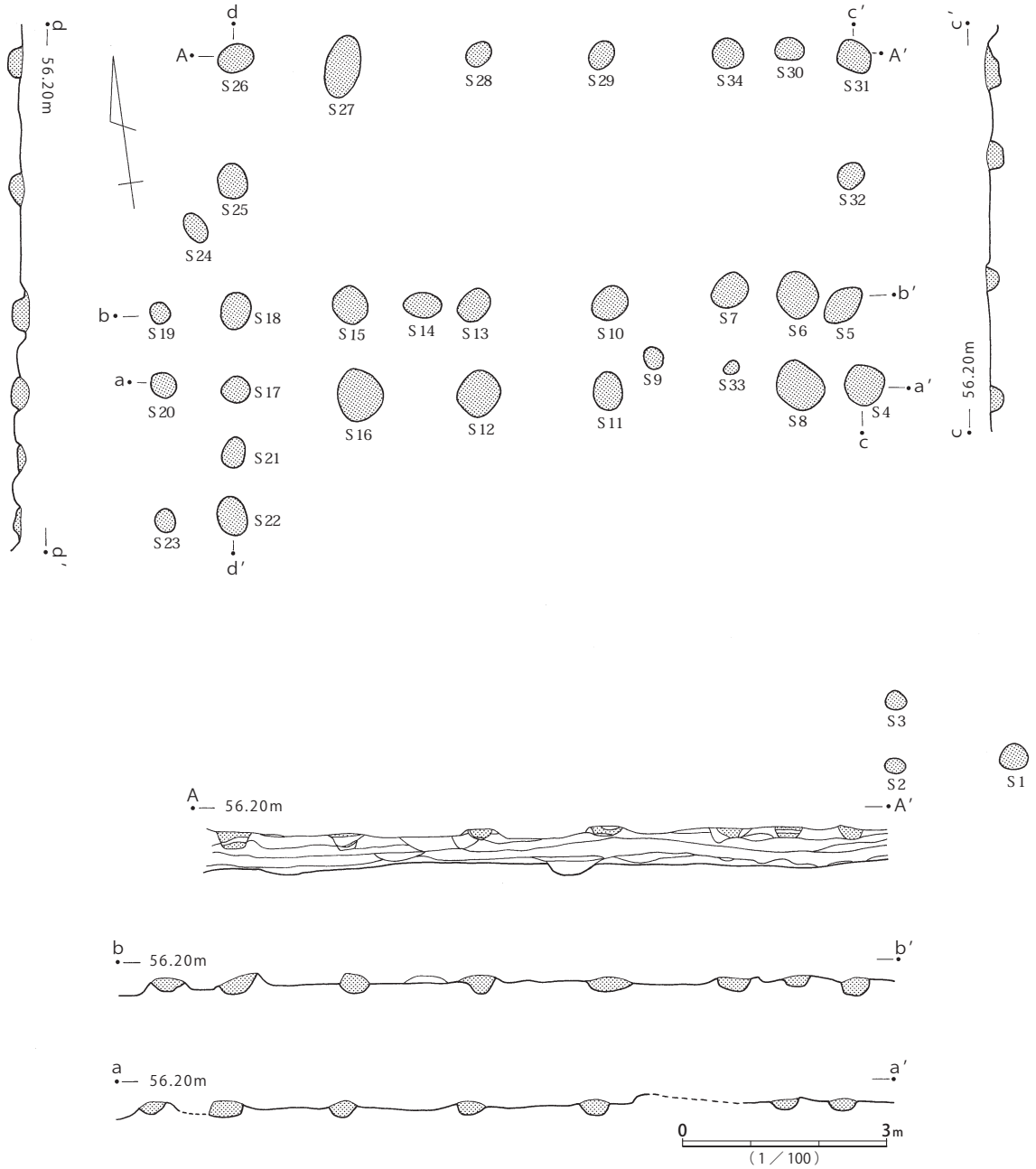
フジツボ　最小 1 点、最大 4 点と検出量はわずかであった。本来付着していたと見られるマガキの検出数が少ないことと関係があろう。

カニ類　微細な鋏部分の破片 1 点が検出された。

礫　最小 7.2g、最大 36.3g、平均 19.3g ほどの検出量であった。点数は多く、小礫状のものが主体である。

微小貝　最小 7、最大 68、平均 21 個体と、検出量は比較的少ない。

炭化物　最小 0.7g、最大 3.1g、平均 1.9g ほどの検出量であった。



第96図　98号遺構貝層検出状況

表 14　98 号遺構内貝層内容物組成

サンプル№	水洗前重量(g)	フルイ後残留物重量(g)				土壌重量(g)	混土率(%)	貝殻破砕率(%)
		10mm	4mm	1mm	計			
4	18,400	5,750	2,626	930	9,306	9,094	49.4	39.2
5	29,250	3,900	1,886	1,137	6,923	22,327	76.3	41.7
7	36,700	7,000	3,300	2,250	12,550	24,150	65.8	45.3
10	28,650	4,050	1,803	1,340	7,193	21,457	74.9	56.5
13	18,600	6,050	2,050	1,950	10,050	8,550	46.0	56.7
15	15,050	4,050	2,626	2,334	9,010	6,040	40.1	46.9
18	18,400	7,350	3,350	2,700	13,400	5,000	27.2	52.3
32	12,250	2,819	1,552	645	5,016	7,234	59.1	47.3

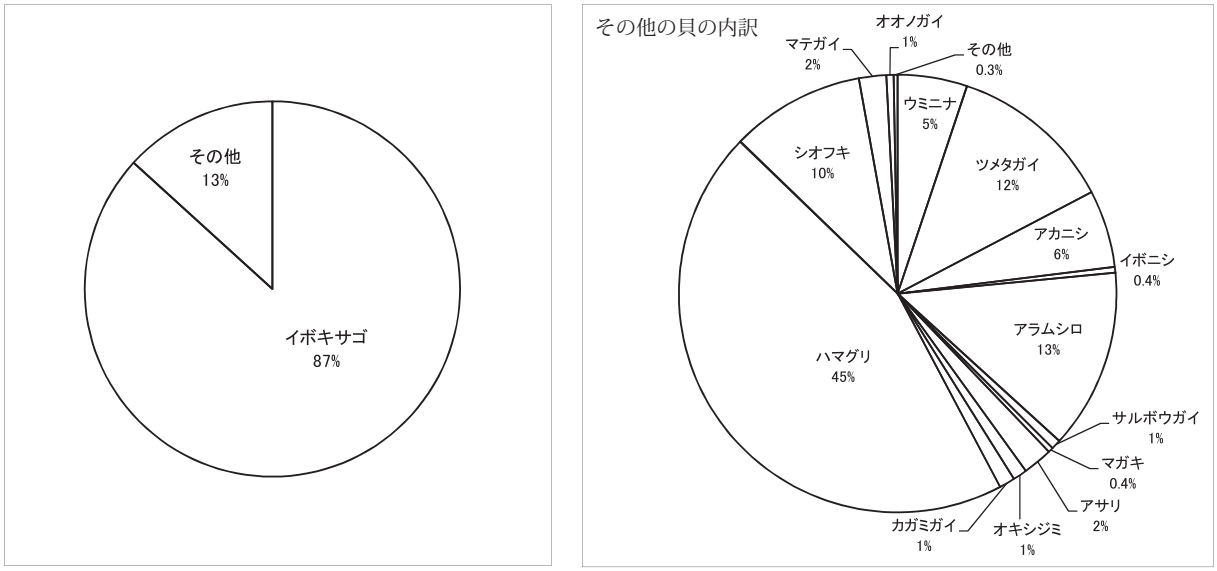
サンプル№	土器		フレーク・チップ		石器		貝殻	獣骨	魚骨	フジツボ		カニ		ウニ	礫		微小貝		炭化物
	点数(個)	重量(g)	点数(個)	重量(g)	点数(個)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	重量(g)	点数(個)	重量(g)	点数(個)	重量(g)	重量(g)	点数(個)	重量(g)	点数(個)	重量(g)	重量(g)
4	16	28.2					5,629	7.1	3.5	2	+				123	10.3	14	0.1	1.7
5	10	32.2	6	0.2			4,008	2.0	2.5	2	0.1	1	+		741	12.8	19	0.2	2.6
7	18	15.6	1	+			6,845	12.4	0.4					+	318	14.4	9	0.1	2.5
10	15	52.0	181	0.6			3,897	5.5	0.1	4	0.2				1,385	20.7	14	0.3	2.0
13	6	9.7	64	0.2			4,322	18.2	+	1	+			0.1	212	31.6	28	0.1	1.2
15	5	18.7	56	0.2	1	2.1	3,775	37.8	0.2						225	21.8	7	+	3.1
18	19	145.3	9	0.2			6,289	22.7	0.1	1	0.1				136	36.3	10	0.5	1.9
32	2	12.2	2	+			2,631	4.8	0.3						9	7.2	68	0.1	0.7

表 15　出土軟体動物種名表

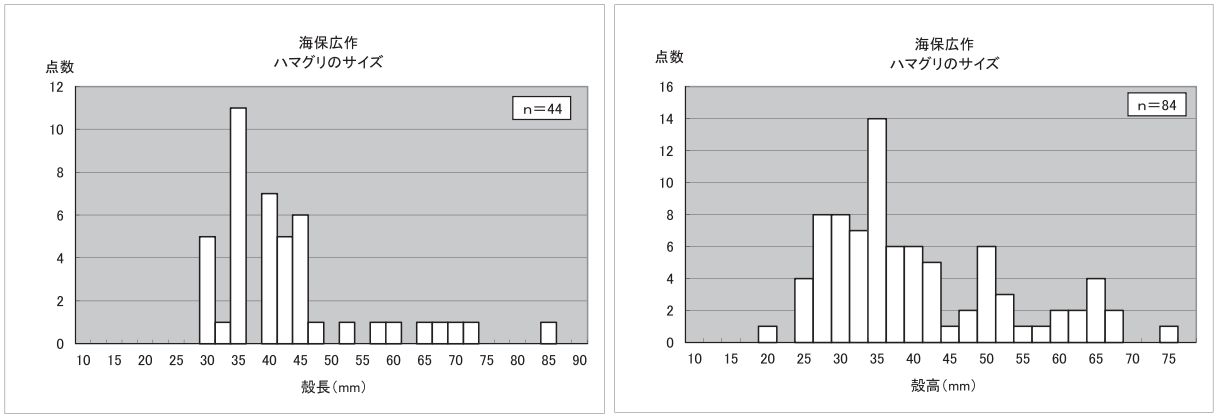
綱 Class		目 Order		科 Family		種 Species	
腹足綱	Gastropoda	原始腹足目	Archaeogastropoda	ニシキウズガイ科	Trochidae	イボキサゴ	*Umbonium (Suchium) costatum* (Kiener)
				サザエ科	Turbinidae	スガイ	*Lunella coronata coreensisi* (Récluz)
		中腹足目	Mesogastropoda	ウミニナ科	Batillariidae	ウミニナ	*Butillaria multiformis* (Lischke)
				タマガイ科	Naticidae	ツメタガイ	*Glossaulax didyma* (Röding)
		新腹足目	Neogastropoda	アッキガイ科	Muricidae	アカニシ	*Rapana verpsa* (Valenciennes)
						イボニシ	*Thais (Reishia) bronni* (Dunker)
				ムシロガイ科	Nassariidae	アラムシロ	*Reticunassa festiva* (Powys)
				エゾバイ科	Buccinidae	バイ	*Balylonia japonica* (Reeve)
二枚貝綱	Bivalvia	フネガイ目	Arcoida	フネガイ科	Arcidae	サルボウガイ	*Scapharca kagoshimensis* (Tokunaga)
						ハイガイ	*Tegillarca granosa* (Linnaeus)
		ウグイスガイ目	Pteroida	イタボガキ科	Ostreidae	マガキ	*Crassostrea gigas* (Thunberg)
		マルスダレガイ目	Veneroida	バカガイ科	Mactridae	シオフキ	*Mactra quadrangularis* Deshayes
				シオサザナミ科	Psammobiidae	ムラサキガイ	*Soletellina diphos*（Linnaeus）
				マテガイ科	Solenidae	マテガイ	*Solen strictus* Gould
				シジミ科	Corbiculidae	ヤマトシジミ	*Corbicula japonica* Prime
				マルスダレガイ科	Veneridae	カガミガイ	*Phacosoma japonicun*（Reeve）
						アサリ	*Ruditapes philippinarum*（A.Adams et Reeve）
						ハマグリ	*Meretrix lusoria* (Röding)
						オキシジミ	*Cyclina sinensis* (Gmelin)
		オオノガイ目	Myoida	オオノガイ科	Myidae	オオノガイ	*Mya arenaria oonogai* Makiyama

表 16　98 号遺構内貝層貝種組成

サンプル№	イボキサゴ	スガイ	ウミニナ	ツメタガイ	アカニシ	イボニシ	アラムシロ	バイ	ハイガイ	サルボウガイ	マガキ	ヤマトシジミ	アサリ	オキシジミ	カガミガイ	ハマグリ	シオフキ	ムラサキガイ	マテガイ	オオノガイ	計
4	4,468		17	90	37	2	65			6	2		10	7	5	225	69		14	6	5,023
	89.0%		0.3%	1.8%	0.7%	0.04%	1.3%			0.1%	0.0%		0.2%	0.14%	0.1%	4.5%	1.4%		0.3%	0.1%	
5	3,041		25	53	12		51			6	2	1	9	3	4	182	33	1	13	3	3,439
	88.4%		0.7%	1.5%	0.3%		1.5%			0.2%	0.1%	0.03%	0.3%	0.09%	0.1%	5.3%	1.0%	0.03%	0.4%	0.1%	
7	5,753	1	36	77	44	3	87			4	1		12	6	9	263	58			2	6,356
	90.5%	0.02%	0.6%	1.2%	0.7%	0.05%	1.4%			0.1%	0.02%		0.2%	0.09%	0.1%	4.1%	0.9%			0.03%	
10	341		20		16	2	44	1		3	1		6	6	5	149	43		7	1	645
	52.9%		3.1%		2.5%	0.3%	6.8%	0.2%		0.5%	0.2%		0.9%	0.93%	0.8%	23.1%	6.7%		1.1%	0.2%	
13	1,664	1	24	58	30	4	57			3	3	1	10	6	6	201	46		15	1	2,130
	78.1%	0.05%	1.1%	2.7%	1.4%	0.2%	2.7%			0.1%	0.1%	0.05%	0.5%	0.28%	0.3%	9.4%	2.2%		0.7%	0.05%	
15	389		19	49	18		64			1	2		5	3	3	138	29		8		728
	53.4%		2.6%	6.7%	2.5%		8.8%			0.1%	0.3%		0.7%	0.41%	0.4%	19.0%	4.0%		1.1%		
18	5,232		24	84	39	4	76		1	2	1	1	16	5	8	359	55		5	2	5,914
	88.5%		0.4%	1.4%	0.7%	0.1%	1.3%		0.02%	0.03%	0.02%	0.02%	0.3%	0.08%	0.1%	6.1%	0.9%		0.1%	0.03%	
32	2,844	1	21	31	11	1	37			1	2	2	11	2	2	113	27		11	4	3,121
	91.1%	0.03%	0.7%	1.0%	0.4%	0.03%	1.2%			0.03%	0.1%	0.1%	0.4%	0.06%	0.1%	3.6%	0.9%		0.4%	0.1%	
計	23,732	3	186	442	207	16	481	1	1	26	14	5	79	38	42	1630	360	1	73	19	27,356
	86.8%	0.0%	0.7%	1.6%	0.8%	0.1%	1.8%	0.004%	0.004%	0.1%	0.1%	0.02%	0.3%	0.14%	0.2%	6.0%	1.3%	0.004%	0.3%	0.1%	



第97図　98号遺構出土貝類の組成



第98図　98号遺構出土主要貝類のサイズ

5　貝類の分析

（1）貝種組成

表 15 に検出された貝類の種名一覧を、表 16 にその組成一覧を、第 97 図に比率を示すグラフを示した。腹足綱 8 種・二枚貝綱 12 種の計 20 種が検出されている。その主体はイボキサゴであり、全体の 86.8％を占める。これ以外の貝では、ハマグリが最も多く 6.0％、アラムシロ 1.8％・ツメタガイ 1.6％・シオフキ 1.3％がこれに次ぐ。

（2）主要貝類のサイズ

第 98 図に、主要二枚貝であるハマグリの計測値を示した。殻長と殻高に分けて表示する。殻長は、最小 30mm、最大 85mm、最も多いのが 35mm の個体で、35 ～ 45mm 程度の中型のものが多い。殻長は、最小 20mm、最大 75mm、最も多いのが 35mm の個体で、20 ～ 40mm 程度の中型のものが多かった。

6　搬入元の貝塚の推定

海保広作遺跡の周辺は、養老川左岸に比較的多くの縄文貝塚が存在する地域である。第 1 図に示すように、姉崎台貝塚、諸久蔵貝塚、分目貝塚、山見塚貝塚、掘込貝塚、深城貝塚、上高根貝塚などが知られる。このうち距離的に近く、縄文後期の比較的規模の大きな貝塚としては、姉崎台貝塚、諸久蔵貝塚があげられる。いずれの遺跡も、海保広作遺跡の東西 1.5km ほどにあり、純度の高い貝層の存在が知られている。しかし両貝塚とも正式な発掘調査は行われておらず、その詳細は明らかでない。仮に今回分析した海保広作遺跡の貝層がこれらに由来するなら、その意義は大きい。

参考文献

中村若枝 2004「付編 6　外神田神田四丁目遺跡出土の動物遺存体」「外神田四丁目遺跡－秋葉原駅付近土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査－」『東京都埋蔵文化財センター調査報告第 147 集』

第 2 節　石器と礫類の石材について

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

海保広作遺跡は、千葉県市原市海保に所在し、旧石器時代、縄文時代早期・前期主体の遺構や遺物が検出されている。今回、調査区内より出土した石器及び礫を対象として、肉眼鑑定を行い、石材の利用傾向を明らかにした。

1　試料

鑑定の対象とした石材は、剥片、石鏃、磨石、敲石、礫ほか計 1,703 点である。これらの遺物は、旧石器時代の遺物集中地点、縄文時代早期・前期の竪穴建物・炉穴・土坑・遺物包含層、奈良・平安時代以降の溝や土坑などから出土したものなどである。

2　分析方法

当社技師一名が、平成 26 年 5 月 12 ～ 14 日に市原市埋蔵文化財調査センターへ赴き、肉眼による石材鑑定を行った。石材鑑定には、野外用ルーペを用いて行い、表面の鉱物や組織を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。鑑定は、五十嵐（2006）に示される各種の分類基準を参考にした。

岩石名の決定には、薄片作製観察、蛍光X線分析、全岩化学組成分析等が併用することにより調べることができるが、今回は実施していないため、付与された岩石名は概査的なものである点に留意されたい。

3　結果

石材鑑定結果を表4・6・12の石材欄に、石質組成を表17～22、第99図に示した。

出土石材の石質としては、半深成岩類の石英斑岩（奥日光）、火山岩類の黒曜石、無斑晶ガラス質安山岩、火山砕屑岩類の溶結凝灰岩（奥日光）、堆積岩類の砂岩、頁岩、チャート、変成岩類のホルンフェルス、鉱物の玉髄などが認められた。出土点数の多い石材としては、剥片に使用される、黒曜石、無斑晶ガラス質安山岩、チャート、礫、磨石及び敲石に使用される、石英斑岩（奥日光）、溶結凝灰岩（奥日光）、砂岩などである。

石材のうち代表的なものについては、写真撮影を行い第100・101図に示した。

4　考察

（1）地質概略

遺跡が所在するのは、市原市姉崎台地の段丘上の山地斜面上にある。姉崎台地は、後期更新世の中位段丘堆積物が分布しており、それらは5万分の1「姉崎」地質図幅（徳橋・遠藤，1984）では、木下層及び姉崎層とされている。木下層や姉崎層は未固結の礫、砂、シルトからなり、木下層は袖ケ浦市下宮田付近で径2～6cmのチャート・砂岩・石英斑岩の亜円礫が確認されており、姉崎層は中礫（4～64mm）を含む砂層が認められる（徳橋・遠藤，1984）。

木下層や姉崎層を始めとする段丘堆積物を構成する礫・砂・シルトについては、房総半島の北方に分布する。鬼怒川水系に分布する地質に由来すると考えられる。鬼怒川水系の地質については、20万分の1地質図幅「宇都宮」（須藤ほか，1991）及び20万分の1地質図幅「日光」（山元ほか，2000）に基づく。

鬼怒川源流域～上流域に、先新第三系の頁岩・砂岩・チャートの堆積岩コンプレックスからなる足尾帯、白亜紀後期に噴出した流紋岩－デイサイト火山角礫岩・凝灰角礫からなる奥日光流紋岩類、鬼怒川水系流域の塩谷町から上河内町にかけて前期－中期中新世の流紋岩溶岩・火砕岩、玄武岩－安山岩の溶岩・火砕岩が分布する。また、宇都宮市周辺に、中新世のデイサイト－安山岩溶岩・火砕岩が分布する。

他方、房総半島南部には、新第三紀の古第三紀漸新世の砂岩・泥岩、凝灰質砂岩からなる葉山・保田層群、嶺岡層群が分布する。超苦鉄質岩は、20万分の1地質図幅「大多喜」（三梨・須田，1980）によれば、蛇紋岩、玄武岩及びドレライトが鴨川市の愛宕山から加茂川右岸の河口域にかけて分布している。超苦鉄質岩類の周縁部には、新第三紀中新世の砂岩・泥岩からなる天津層が分布している。

（2）海保広作遺跡の石材利用

①旧石器集中地点の出土の石器・礫

旧石器時代の遺物としては、ナイフ形石器や剥片を主体とする石器類と礫類がある（表17）。石器類には、黒曜石、無斑晶ガラス質安山岩、頁岩、チャート、玉髄が多用される傾向がある。礫群などに見られた礫には、石英斑岩（奥日光）、デイサイト（新第三紀）、輝石安山岩、溶結凝灰岩（奥日光）、砂岩、頁岩、チャートが多い傾向が認められる（第98図①・②）。旧石器遺物集中箇所は7地点あるので、地点別に石質組成を分類した（表18）。以下に各地点別に石材の傾向を示す。

表 17　旧石器時代遺物集中地点出土石器の石質組成

器種 / 石質	角錐状石器	ナイフ形石器	削器	掻器	楔形石器	RTF	UF	剥片	石核	石器類計	礫
深成岩類											
斑れい岩										0	1
半深成岩類											
石英斑岩（奥日光）										0	17
ひん岩										0	1
ドレライト										0	2
火山岩類											
流紋岩（新第三紀）										0	1
流紋岩								2		2	
黒曜石		3	2	2		15	5	129		156	
デイサイト（新第三紀）										0	13
デイサイト										0	2
輝石安山岩（新第三紀）										0	4
輝石安山岩										0	11
無斑晶ガラス質安山岩		1		1		1		45	1	49	
無斑晶質安山岩								2		2	
安山岩（新第三紀）										0	8
安山岩										0	6
スコリア質安山岩										0	1
火山砕屑岩類											
火山礫凝灰岩（奥日光）										0	3
凝灰角礫岩（奥日光）										0	1
結晶質凝灰岩（奥日光）										0	1
溶結凝灰岩（奥日光）										0	26
凝灰岩（奥日光）										0	4
凝灰岩（新第三紀）										0	3
堆積岩類											
含礫砂岩										0	1
砂岩										0	23
頁岩（新第三紀）								3	1	4	
頁岩（古期）							1			1	
頁岩		2				5	1	24	2	34	15
チャート		3			1	8	5	117	7	141	42
変成岩類											
菫青石ホルンフェルス								3		3	1
ホルンフェルス	1	1						7	2	11	7
変質岩類											
変質流紋岩				1			1	3	1	6	
珪化流紋岩				1		1		5	1	8	
珪化岩								1	1	2	
鉱物											
玉髄		1				2	2	13	2	20	
不明								1		1	
合計	1	11	2	5	1	32	15	355	18	440	194

表 18　旧石器時代ブロック別出土石器及び礫の石質組成

ブロック№	A-1									A-2		A-3				B					C								D									E		石器類総計	礫総計
器種 ＼ 岩質	角錐状石器	ナイフ形石器	楔形石器	RTF	UF	剥片	石核	石器類計	礫	剥片	礫	RTF	剥片	石核	石器類計	ナイフ形石器	RTF	UF	剥片	石器類計	ナイフ形石器	掻器	RTF	UF	剥片	石核	石器類計	礫	ナイフ形石器	削器	掻器	RTF	UF	剥片	石核	石器類計	礫	剥片	礫		
深成岩類																																									
斑れい岩								0	1						0					0							0									0				0	1
半深成岩類																																									
石英斑岩（奥日光）								0							0					0							0	11								0	2		4	0	17
ひん岩								0	1						0					0							0									0				0	1
ドレライト								0							0					0							0	1								0			1	0	2
火山岩類																																									
流紋岩 (新第三紀)								0							0					0							0									0	1			0	1
流紋岩								0					2		2					0							0									0				2	0
黒曜石		2		4	1	23		30				3	37		40	1	1	2	38	42			4		18		22			2	2	3	2	13		22				156	0
デイサイト（新第三紀）								0	1						0					0							0	6								0	4		2	0	13
デイサイト								0							0					0							0	1								0			1	0	2
輝石安山岩（新第三紀）								0							0					0							0	3								0	1			0	4
輝石安山岩								0							0					0							0	8								0	2		1	0	11
無斑晶ガラス質安山岩				1		1		2							0					0	1				42	1	44				1			2		3				49	0
無斑晶質安山岩								0		2					0					0							0									0				2	0
安山岩（新第三紀）								0							0					0							0	8								0				0	8
安山岩								0							0					0							0	6								0				0	6
スコリア質安山岩								0							0					0							0	1								0				0	1
火山砕屑岩類																																									
火山礫凝灰岩（奥日光）								0	1						0					0							0	1								0			1	0	3
凝灰角礫岩（奥日光）								0							0					0							0									0	1			0	1
結晶質凝灰岩（奥日光）								0							0					0							0									0	1			0	1
溶結凝灰岩（奥日光）								0							0					0							0	9								0	7		10	0	26
凝灰岩（奥日光）								0							0					0							0									0			4	0	4
凝灰岩（新第三紀）								0							0					0							0									0	1		2	0	3
堆積岩類																																									
含礫砂岩								0							0					0							0	1								0				0	1
砂岩								0	1						0					0							0	7								0	3		12	0	23
頁岩（新第三紀）						3	1	4							0					0							0									0				4	0
頁岩（古期）					1			1							0					0							0									0				1	0
頁岩				1		6	1	8	1	2	1				0					0	1		2		13	1	17	3	1			2	1	2		6	1	1	9	34	15
チャート		1	1	1		9	2	14	3						0					0	2		5	3	102	3	115	12				2	2	6	2	12	6		21	141	42
変成岩類																																									
菫青石ホルンフェルス						3		3							0					0							0	1								0				3	1
ホルンフェルス	1					1		2							0					0	1				1		2	2						5	2	7	2		3	11	7
変質岩類																																									
変質流紋岩								0							0					0		1		1	3		5								1	1				6	0
珪化流紋岩								0						1	1					0			1		5		6					1				1				8	0
珪化岩								0						1	1					0					1		1									0				2	0
鉱物																																									
玉髄		1			1	5		7				1	5		6					0					1		1					1	1	2	2	6				20	0
不明								0							0					0					1		1									0				1	0
合計	1	4	1	7	3	51	4	71	9	4	1	4	44	2	50	1	1	2	38	42	5	1	12	4	187	5	214	81	1	2	4	8	6	30	7	58	32	1	71	440	194

A-1 ブロックには、ナイフ形石器や使用痕のある剥片に加え多数の剥片がある。総数 71 点の石器類の石材は、黒曜石が 30 点、チャートが 14 点と主体を占める。礫には、斑れい岩 1 点、ひん岩 1 点、デイサイト（新第三紀）1 点、火山礫凝灰岩（奥日光）1 点、砂岩 1 点、頁岩 1 点、チャート 3 点がある。

A-2 ブロックは、4 点の剥片と礫 1 点からなる。剥片の石材は、無斑晶質安山岩 2 点、頁岩 2 点、礫の石材は頁岩である。

A-3 ブロックには、剥片を主体とした総数 50 点の石器がある。このうち黒曜石が 40 点と高い比率を占める。

B ブロックには、ナイフ形石器や使用痕のある剥片に加え多数の剥片がある。総数 42 点の石器類の石材は、全て黒曜石である。

C ブロックには、ナイフ形石器や使用痕のある剥片に加え多数の剥片がある。総数 214 点の石器類の石材は、チャートが 115 点、無斑晶ガラス質安山岩が 44 点、黒曜石が 22 点と主体を占める。礫は総数 81 点あり、石英斑岩（奥日光）11 点、輝石安山岩 8 点、安山岩（新第三紀）8 点、溶結凝灰岩（奥日光）9 点、チャート 12 点などが主体を成す。

D ブロックには、掻器や使用痕のある剥片に加え多数の剥片がある。総数 58 点の石器類の石材は、黒曜石が 22 点、チャートが 12 点と主体を占める。礫は総数 32 点あり、溶結凝灰岩（奥日光）7 点、チャート 6 点、デイサイト（新第三紀）4 点などが主体を成す。

E ブロックは、頁岩製の剥片 1 点がある他は焼礫から成る。礫は 71 点あり、その石材はチャート 21 点、砂岩 12 点、溶結凝灰岩（奥日光）10 点などを主体とする。

②遺構出土の石器類

【器種別石材の全体の傾向】

石器の種類としては、石鏃、剥片が多く、黒曜石、無斑晶ガラス質安山岩、頁岩、チャートが主に使用される傾向が見られる（表 19、第 98 図③）。

遺構出土の石鏃は、黒曜石 3 点、無斑晶ガラス質安山岩 4 点、頁岩 2 点が使用される。剥片は、黒曜石 17 点、無斑晶質安山岩 1 点、無斑晶ガラス質安山岩 5 点、溶結凝灰岩（奥日光）1 点、頁岩 6 点、チャート 12 点、ホルンフェルス 1 点が使用される。石核は無斑晶ガラス質安山岩 1 点が使用される。楔形石器は、チャート 1 点が使用される。砥石は、流紋岩（新第三紀）1 点が使用される。凹石は、凝灰岩（新第三紀）1 点が使用される。磨石は、輝石安山岩（新第三紀）1 点、溶結凝灰岩（奥日光）1 点が使用される。敲石・磨石は、デイサイト 1 点、凝灰角礫岩 1 点、溶結凝灰岩（奥日光）1 点が使用される。

【縄文早期、前期の出土石材の比較】

遺構出土の石器を時期別に分類した（表 20）。遺構は、縄文時代を主体とするものの、溝や土坑など、これより新しい時期のものがある。ただし、縄文より新しい時期の遺構出土石器のうち、器種や形態などから当該時期と断定できるものは、砥石などごく一部であり、ほとんどの石器は縄文時代のものとみられる。遺構時期の明確な出土遺物により、縄文時代早期及び縄文時代前期の石器石材を比較した。前者は 11 点、後者は 38 点ある。

縄文時代早期の剥片は、黒曜石 5 点、頁岩 1 点、チャート 1 点が使用される。石核は、無斑晶ガラス質安山岩 1 点が使用される。楔型石器は、チャート 1 点が使用される。磨石は、溶結凝灰岩（奥

表 19　遺構出土石器の石質組成

器種 / 石質	石鏃	楔形石器	剥片	石核	凹石	磨石	敲石・磨石	砥石	合計
火山岩類									
黒曜石	3		17						20
流紋岩（新第三紀）								1	1
デイサイト							1		1
輝石安山岩（新第三紀）						1			1
無斑晶質安山岩			1						1
無斑晶ガラス質安山岩	4		5	1					10
火山砕屑岩類									
凝灰角礫岩							1		1
溶結凝灰岩（奥日光）			1			1	1		3
凝灰岩（新第三紀）					1				1
堆積岩類									
頁岩	2		6						8
チャート		1	12						13
変成岩類									
ホルンフェルス			1						1
合計	9	1	43	1	1	2	3	1	61

表 20　時期別遺構内出土石器の石質組成

遺構時期	縄文早期						縄文前期				縄文		奈良・平安			奈良・平安以降			近世以降				合計
器種 / 岩質	楔形石器	剥片	石核	磨石	敲石・磨石	計	石鏃	剥片	敲石・磨石	計	剥片	計	剥片	敲石・磨石	計	剥片	凹石	計	剥片	磨石	砥石	計	
火山岩類																							
黒曜石		5				5	3	6		9	2	2	1		1	1		1	2			2	20
流紋岩（新第三紀）																					1	1	1
デイサイト					1	1																	1
輝石安山岩（新第三紀）																				1		1	1
無斑晶質安山岩								1		1													1
無斑晶ガラス質安山岩			1			1	4	5		9													10
火山砕屑岩類																							
凝灰角礫岩														1	1								1
溶結凝灰岩（奥日光）				1		1		1	1	2													3
凝灰岩（新第三紀）																	1	1					1
堆積岩類																							
頁岩		1				1	2	5		7													8
チャート	1	1				2		9		9	1	1	1		1								13
変成岩類																							
ホルンフェルス								1		1													1
合計	1	7	1	1	1	11	9	28	1	38	3	3	2	1	3	1	1	2	2	1	1	4	61

日光）1 点が使用される。敲石・磨石は、デイサイト 1 点が使用される。

縄文時代前期の石鏃は、黒曜石 3 点、無斑晶ガラス質安山岩 4 点、頁岩 2 点が使用される。剥片は、黒曜石 6 点、無斑晶質安山岩 1 点、無斑晶ガラス質安山岩 5 点、溶結凝灰岩（奥日光）1 点、頁岩 5 点、チャート 9 点、ホルンフェルス 1 点が使用される。敲石・磨石は、溶結凝灰岩（奥日光）1 点が使用される。

縄文時代早期の資料数が少ないので一概には言えないものの、早期と前期を比較すると、早期には黒曜石の使用頻度がやや高いのに対し、前期には黒曜石を使用しつつ、無斑晶ガラス質安山岩や頁岩、チャートなどの石材を併用する傾向が窺える。

③包含層出土の石器類

包含層出土の石器類は、多数の剥片に加え、石鏃、石核、磨石、敲石など総数 330 点が出土している。調査時の所見によれば、包含層出土の石器に共伴する土器の主体は、縄文時代早期・前期のもので、

石材の多くはこの時期と推定される。石器全体の石質組成を表 21・第 99 図④に示した。

剥片石器類では石鏃を筆頭に 270 点があり、これらの石材としては 14 種類が認められるが、このうち黒曜石が 125 点（46.2％）、チャートが 60 点（22.2％）、無斑晶ガラス質安山岩が 42 点（15.5％）と主体を占める。

礫石器としては、敲石、磨石を主体に 60 点があり、これらの石材としては 22 種類が認められるが、このうち砂岩（古期）が 23 点（38.3％）、石英斑岩（奥日光）が 9 点（15.0％）と主体を占める。

表 21　包含層出土石器の石質組成

器種 / 石質	石鏃	石錐	石匙	楔形石器	楔状石器	調整剥片	剥片	石核	磨製石斧	敲石	敲石・磨石	磨石	砥石	石皿	合計
半深成岩類															
花崗斑岩（古期）												2			2
花崗斑岩											1				1
石英斑岩（奥日光）										1	3	5			9
ひん岩							1		1						2
火山岩類															
流紋岩													2		2
黒曜石	9					1	108	7							125
デイサイト（古期）												1			1
デイサイト（新第三紀）												2			2
輝石安山岩（新第三紀）												2		2	4
緻密質安山岩（新第三紀）										1					1
無斑晶ガラス質安山岩	4			1			28	9							42
無斑晶質安山岩	2	1	1			1	4								9
安山岩														1	1
安山岩（新第三紀）												1			1
火山砕屑岩類															
溶結凝灰岩（奥日光）												1			1
安山岩質凝灰岩（新第三紀）											1	1			2
スコリア質凝灰岩											1				1
凝灰岩（奥日光）										1					1
凝灰岩（新第三紀）													1		1
凝灰岩													1		1
スコリア（輝石 , かんらん石）														1	1
堆積岩類															
砂岩													1		1
砂岩（古期）									1	1	4	14	3		23
頁岩（新第三紀）	1						3								4
頁岩（古期）	1					1	9								11
頁岩	2						3		1						6
珪質頁岩（古期）							1								1
珪質頁岩（新第三紀）							2								2
チャート	8	1		2	4		39	6		2					62
変成岩類															
粘板岩							1								1
菫青石ホルンフェルス	2			1			4								7
ホルンフェルス					1										1
鉱物															
玉髄							1								1
合計	29	2	1	4	5	3	204	22	3	6	10	29	8	4	330

④遺構出土の礫類

海保広作遺跡からは、遺構及び包含層中から多量の礫が出土した。これらは重量にして概ね 50g 以下程度の小型礫であったが、そのほとんどが被熱し赤化又は灰・黒化していた。遺物包含層中の礫については、帰属時期が断定できないため、遺構出土のものを中心に試料を選別し、石材鑑定対象とした。選別試料は、縄文早期の炉穴及び土坑の 5 遺構から 297 点、縄文前期の竪穴建物及び土坑の 4 遺構から 177 点の計 474 点である。ただし、これらの内には遺構の周囲に分布していたもの 184 点も含めてあるので、表 22 には区別して記載した。

縄文早期の遺構出土礫の石材には 21 種類が認められるが、このうち主体となるのは、チャート、頁岩、溶結凝灰岩（奥日光）、砂岩・石英斑岩（奥日光）、凝灰岩（奥日光）などである。チャートは全体の 50.5％、頁岩は 13.8％を占めこの 2 種が大半を占めている。

縄文前期の遺構出土礫の石材には 23 種類が認められるが、このうち主体となるのは、チャート、頁岩、溶結凝灰岩（奥日光）、砂岩、溶結凝灰岩（奥日光）、流紋岩質凝灰岩（奥日光）、石英斑岩（奥

表 22　遺構出土礫の石質組成

時期・遺構 / 石質	縄文早期			縄文前期			合計
	炉穴・土坑			竪穴建物・土坑			
	遺構内	遺構周囲	計	遺構内	遺構周囲	計	
半深成岩類							
石英斑岩（奥日光）	5	6	11	3	4	7	18
ひん岩			0	2		2	2
ドレライト			0	1		1	1
火山岩類							
流紋岩（奥日光）			0	2		2	2
流紋岩（新第三紀）		1	1	2		2	3
流紋岩	1	2	3	3	1	4	7
デイサイト（新第三紀）			0		1	1	1
安山岩（新第三紀）	1	1	2			0	2
輝石安山岩（新第三紀）	1		1			0	1
無斑晶ガラス質安山岩			0	3	1	4	4
火山砕屑岩類							
火山礫凝灰岩（奥日光）			0	1		1	1
溶結凝灰岩（奥日光）	15	14	29	10		10	39
溶結凝灰岩	1		1			0	1
流紋岩質凝灰岩（奥日光）	2	2	4		10	10	14
凝灰岩（奥日光）	6	5	11	1	1	2	13
凝灰岩（新第三紀）	5		5	1	1	2	7
凝灰岩	1	3	4	2	1	3	7
堆積岩類							
含礫砂岩		1	1			0	1
砂岩	13	6	19	14	7	21	40
頁岩	24	17	41	21	8	29	70
チャート	92	58	150	41	20	61	211
変成岩類							
菫青石ホルンフェルス	2		2	3	1	4	6
ホルンフェルス	3	2	5	4	3	7	12
変質岩類			0			0	0
珪化流紋岩		1	1		1	1	2
珪化凝灰岩		1	1			0	1
珪化頁岩	1	2	3	1		1	4
珪化岩	1	1	2		1	1	3
鉱物							
赤玉			0	1		1	1
合計	174	123	297	116	61	177	474

日光）などである。チャートは全体の 34.4％、頁岩は 16.3％、砂岩は 11.8％を占めこの 3 種が大半を占めている。

両時期ともに、遺構覆土内とその周辺に分布した礫の石材にほとんど違いはなく、また早期・前期での時期差もほとんど認められなかった（第 98 図⑤・⑥）。

(3) 石材の産地

前述の地質背景を考慮すると、在地性石材として主に挙げられるのは、石英斑岩（奥日光）、火山礫凝灰岩、流紋岩質凝灰岩、凝灰岩（奥日光）、砂岩、頁岩、チャート、ホルンフェルスなどである。

斑れい岩は旧石器時代の礫に認められる。角閃石の粗粒な斑晶から構成され、優黒質で完晶質を呈する。嶺岡層群を構成する超苦鉄質岩に産する石材である。

石英斑岩（奥日光）、花崗斑岩、花崗斑岩（奥日光）は、旧石器時代の礫、包含層の磨石、敲石などに認められ、完晶質で、主に算盤玉状を呈する石英斑晶が散含する岩相を示し、鬼怒川源流域に分布する白亜紀の中禅寺型酸性火山岩類に由来すると考えられる。石英斑岩（奥日光）は、経年変化による脱ガラス化作用による基質の結晶化と、花崗岩類の貫入による熱変成作用による結晶化により、火山ガラスが消失し、粒度が粗くなっていて、石英斑岩あるいは花崗斑岩と酷似する岩相を呈する（第 101 図－ 11）。石英斑岩（奥日光）と同地質に産する石材として、含まれる砕屑物の粒形及び量比、溶結状組織の有無などにより、凝灰角礫岩（奥日光）、結晶質凝灰岩（奥日光）、溶結凝灰岩（奥日光）（第 100 図－ 6）、火山礫凝灰岩、流紋岩質凝灰岩、凝灰岩（奥日光）として認められる。これらは、火山砕屑岩類（奥日光）として一括して表記している。

ひん岩は、旧石器時代の礫や包含層出土の磨製石斧などに認められる（第 100 図－ 5）。新第三系の地質に併入する石材で、完晶質で斜長石斑晶が散含する岩相を示す。磨製石斧は、搬入品として持ち込まれた可能性があるため、遠隔地の産地を想定する必要がある。

ドレライトは、旧石器時代の礫、縄文時代、縄文時代前期の遺構出土の礫に認められる。基質はハイアロオフィティックの組織を示す。房総半島南部の嶺岡層群に分布する超苦鉄質岩類に由来する石材と見られる。

黒曜石は、石鏃及び剥片に多用されている。黒曜石の関東近縁における産地としては、神奈川県箱根地区、栃木県高原山、長野県和田峠～星ヶ塔、東京都神津島などに産地が知られている。黒曜石に含まれる微量元素のデータ分析による産地判定が望まれる。また、一部の黒曜石は、顕微鏡観察による検討が必要である。黒曜石の微細な剥片は、黒色を帯びるチャートに外観が酷似しており、肉眼観察では判別が困難であるためである。正確に岩石名を決定するには顕微鏡観察の検討が必要である。

無斑晶ガラス質安山岩及び無斑晶質安山岩は、旧石器時代の石器類、縄文時代遺物包含層の剥片石器類及び縄文前期の遺構中の礫に認められる。無斑晶ガラス質安山岩は、風化により象の肌状を呈し、極めて微量の斜長石斑晶や、その脱落孔が観察される（第 100 図－ 3、第 101 図－ 12）。関東地域における無斑晶ガラス質安山岩の産地としては、栃木県高原山、群馬県武尊山、群馬－長野県境の八風山、群馬県の荒船山、小田原市箱根地区が有名である。詳細な産地の判定は肉眼鑑定のみからは難しいため、化学分析を併用した解析が必要となる。

磨石や旧石器時代及び縄文時代の礫として認められる、輝石安山岩（新第三紀）、輝石安山岩、緻密質安山岩、安山岩（新第三紀）、安山岩、デイサイト（古期）、デイサイト（新第三紀）、デイサイト、

凝灰岩（新第三紀）のうち、流紋岩（新第三紀）及び流紋岩は、砥石、旧石器時代の礫、縄文時代の遺構及び遺構周囲の礫に認められる。流紋岩は、鬼怒川上流から中流域にかけて新第三紀の流紋岩類の分布が認められるため、下流域において採取したと考えられる。ただし、砥石に使用される流紋岩は、比較的軟質のため、特定の産地近傍で採取された可能性がある。輝石安山岩（新第三紀）及び安山岩（新第三紀）は、鬼怒川中流域の宇都宮市周辺から塩谷町にかけて分布する新第三系の地質に由来すると考えられる。輝石安山岩や安山岩は、群馬県下の第四紀火山に由来する火山岩類に由来すると見られる。

凝灰岩（新第三紀）、デイサイト（新第三紀）、デイサイトは、鬼怒川中流域の宇都宮市付近、渡良瀬川右岸の群馬県太田市付近に分布する新第三系の地質に由来すると考えられる。デイサイト（古期）は、奥日光流紋岩類に由来すると考えられる。

スコリア質凝灰岩及びスコリア（輝石，かんらん石）は、包含層出土の敲石・磨石、石皿に認められる。遺跡周辺の下総層群や、その上部の更新統の地質に含まれる礫を採取したものと考えられる。

砂岩、頁岩、チャートは、旧石器時代及び縄文時代の剥片石器類・礫に多く認められる。鬼怒川水系においては、足尾山地を広く占める足尾帯を構成する主要岩相である。珪質頁岩（古期）は、包含層出土の剥片に認められ、チャートと類似する岩相を示し、泥質である。チャートが産する足尾帯の古期堆積岩類に由来する石材であると考えられる。

頁岩（新第三紀）は旧石器時代及び縄文時代の剥片石器類に認められる。軟質の岩相を示しており、市原市周辺には産地が認められない石材のため特定地域からの搬入品の可能性がある。

珪質頁岩（新第三紀）は縄文時代の剥片に認められる。茶褐色で、微化石由来の白色点紋が散在する岩相を示す。産地としては、新潟県下の七谷層、山形県下の草薙層、秋田県下の女川層、青森県の大童子層といった新第三紀の地質に知られており、搬入品と考えられる。東北日本の日本海側に産出する石材と岩相が酷似しており、これらの地域の石材と比較検討する必要があると考えられる。

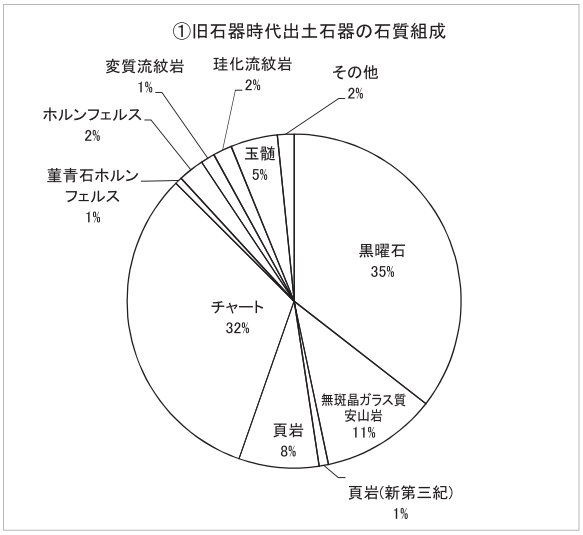
粘板岩は、縄文時代の遺物包含層中の剥片に 1 点のみ認められる。足尾帯の主要岩相である砂岩や頁岩に伴って産する石材で、砂岩や頁岩と同様の産地が推定される。

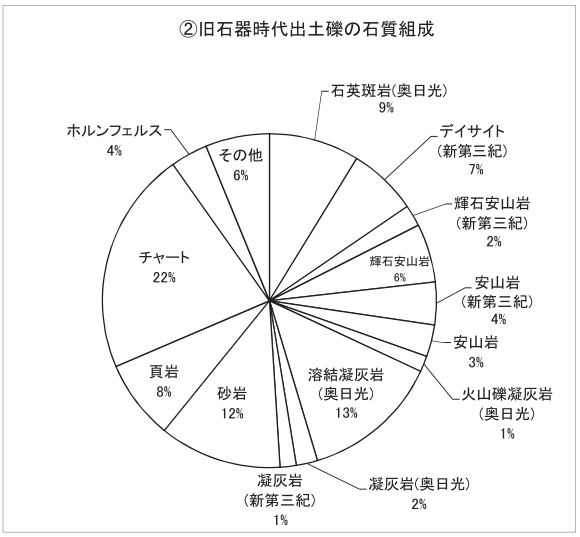
ホルンフェルス及び菫青石ホルンフェルスは、旧石器時代及び縄文時代の剥片石器類・礫として出土している（第 101 図－ 8）。一般に泥岩などの堆積岩類が、地下で花崗岩類の併入を受けて生じた変成岩で、関東地域では、渡良瀬川上流域の沢入花崗閃緑岩類の周囲や、多摩川・荒川源流域の甲府花崗岩体の周囲に分布が知られている。河床礫としては渡良瀬川流域において多く含まれる傾向がある。菫青石ホルンフェルスの表面に点在する菫青石は粘土鉱物化していることが多く、風化に対して弱く、菫青石が溶脱して橙色の点紋が観察される。

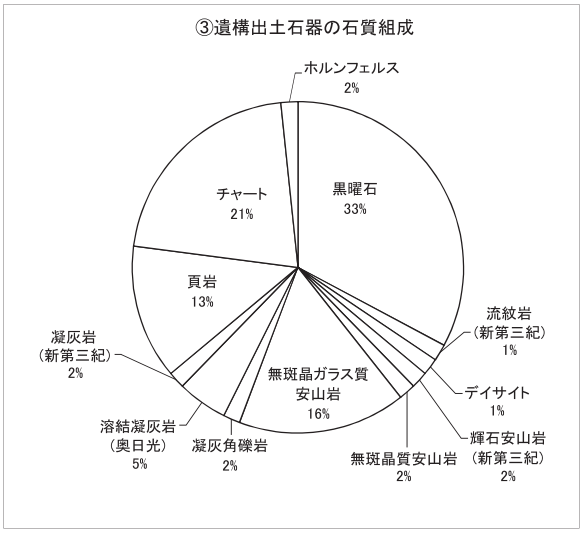
変質流紋岩は、旧石器時代の石器類に認められる。流紋岩が変質作用を受けて生じた岩石で、赤玉と同様の産地が推定される。

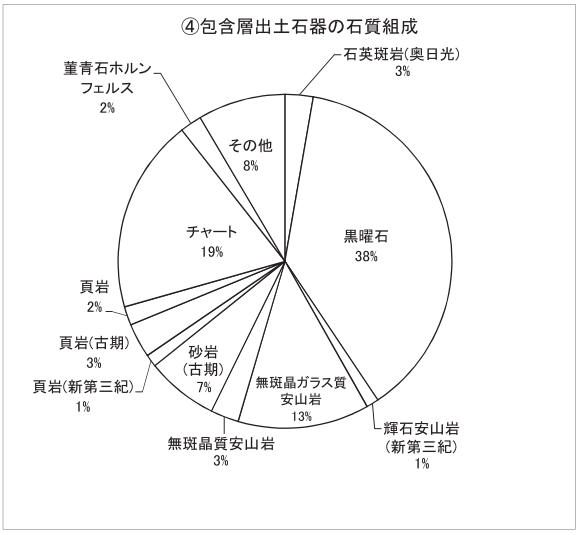
珪化流紋岩、珪化凝灰岩、珪化岩は、旧石器時代の石器類及び縄文時代の礫に認められる。二酸化ケイ素（SiO_2）が濃集した結果生じた石材で、源岩が不明の珪化岩を含めて、鬼怒川中流から上流域に分布する新第三系の地質に生じる石材と見られる。珪化頁岩は、白色を帯びて堅硬の岩相を示し、足尾帯の頁岩と同様の産地に由来すると考えられる。

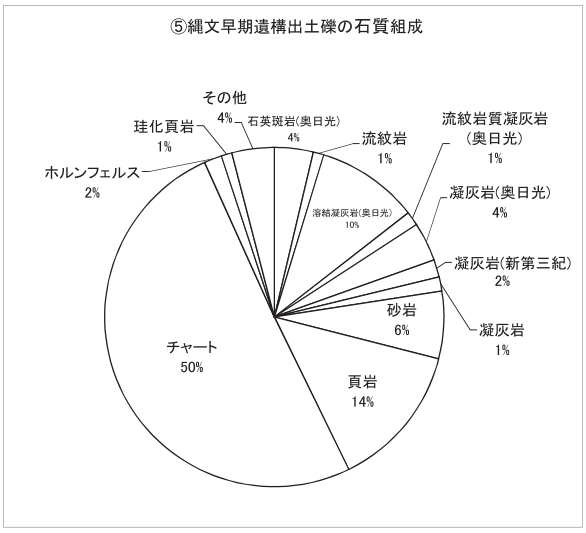
玉髄は、旧石器時代の石器類に認められる。火山岩や堆積岩類の晶洞部に産する鉱物であり、本遺

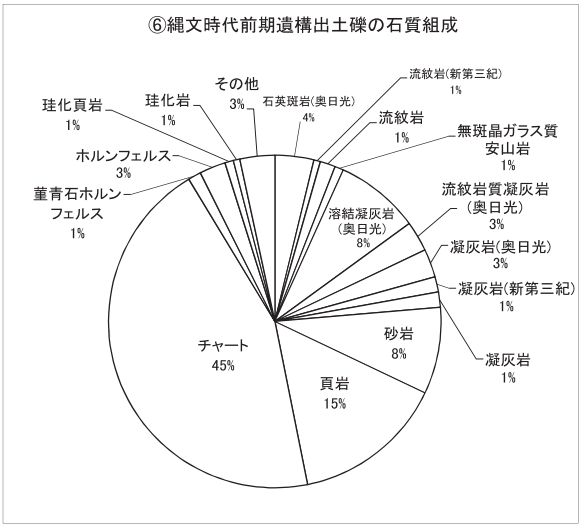






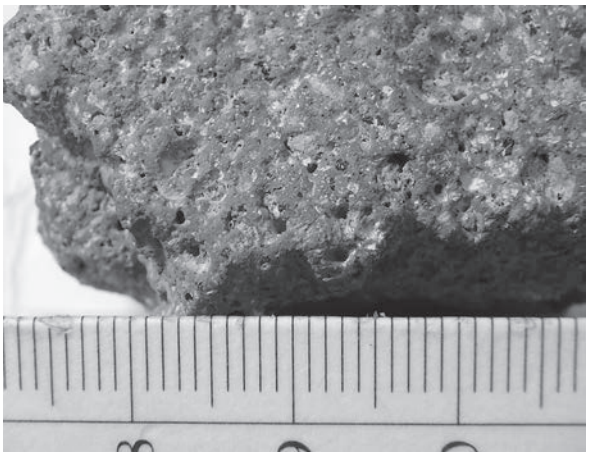






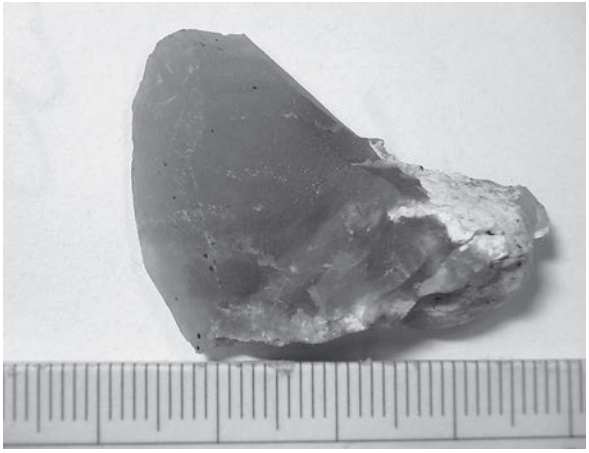
第99図　石器及び礫の石質組成

1 鑑定対象とした石材の一部



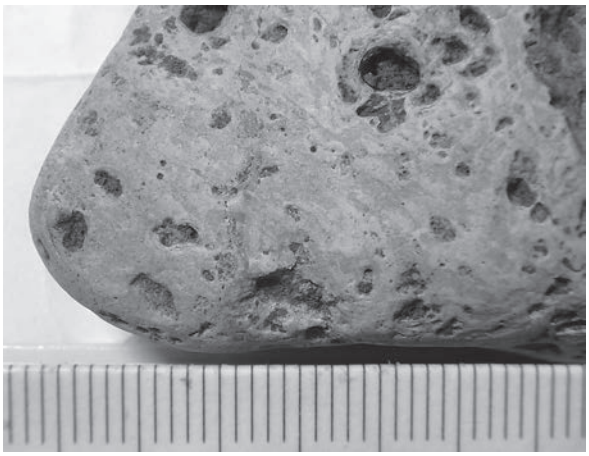
2 旧石器時代　礫　安山岩

3 旧石器時代　石器　無斑晶ガラス質安山岩



4 旧石器時代　石器　玉髄

5 縄文時代　遺構　礫　ひん岩

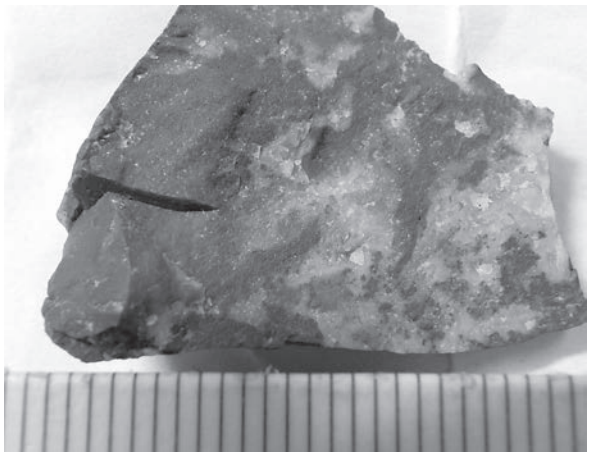


6 縄文時代　遺構　礫　溶結凝灰岩(奥日光)

第100図　石材の状況写真1

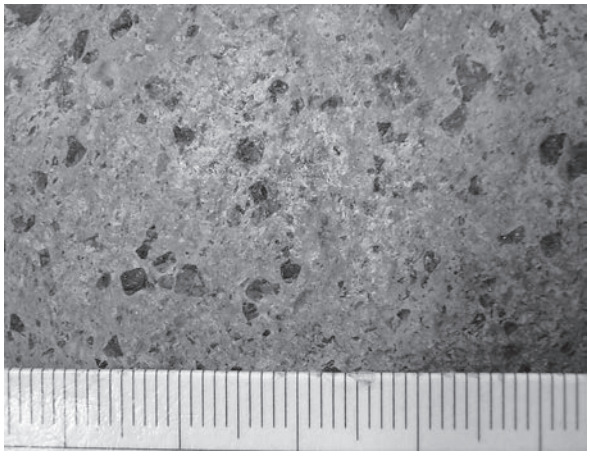
7 縄文時代　遺構　礫　砂岩

8 縄文時代　遺構　礫　菫青石ホルンフェルス



9 縄文時代　遺構　礫　赤玉

10 縄文時代　遺構　石器　チャート



11 縄文時代　遺構　石器　石英斑石（奥日光）

12 縄文時代　遺構　石器　無斑晶ガラス質安山岩

第101図　石材の状況写真2

跡で検出された鬼怒川中流域の新第三系の火山岩類に伴って産出するものを採取したと考えられる。

赤玉は、縄文時代前期の遺構内の礫として 1 点のみ出土している（第 101 図－ 9）。赤玉は、流紋岩の晶洞部に産出する石材で、鬼怒川中流から上流域において採取したものとみられる。

引用文献

五十嵐俊雄 ,2006, 考古資料の岩石学 . パリノ・サーヴェイ株式会社 ,194p.

三梨　昂・須田芳朗 ,1980,20 万分の 1 地質図幅「大多喜」. 地質調査所 .

須藤定久・牧本　博・秦　光男・宇野沢　昭・滝沢文教・坂本　亨・駒澤正夫・広島俊男 ,1991,20 万分の 1 地質図幅「宇都宮」. 地質調査所 .

徳橋秀一・遠藤秀典 ,1984, 地域地質研究報告 5 万分の 1 地質図幅「姉崎」. 地質調査所 ,137p.

山元孝広・滝沢文教・高橋　浩・久保和也・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久 ,2000,20 万分の 1 地質図幅「日光」. 地質調査所 .

第 3 節　溝状遺構等検出の「固結火山灰土塊」について

1　分析に至る経緯と分析経過

海保広作遺跡の発掘調査において、遺跡内の幾つかの遺構覆土等から、火山灰を母体としてこれらが固結して塊となった特徴的な物質（以下、固結火山灰土塊と呼ぶ）が土層中にまとまって検出された。これまでの市内の遺跡調査では見つかったことのないものであったため、その生成環境を知る目的から、2009 年 2 月、発掘調査担当の近藤は、関東第四紀研究会事務局会議にて会のメンバーに遺跡採取試料を回覧し意見を求めた。その後、同年 12 月、同様の物質が検出された隣接する海保西竹谷遺跡において、同会による巡検を実施して検出層位や産状の確認が行われた。そして、数名の研究者により、当該物質について年代測定、花粉分析、粒径・構造分析、固結要因分析など多角的視点での分析が実施され、その結果が同研究会会誌の「関東の四紀」31 号に掲載された。ここでは分析結果から推定される、当時の遺跡内環境や遺構の性格等についてのみ要点を記載する。なお、分析内容の詳細や、当該物質の検出状況及び構造などについては、接写写真などカラー図版等を添えて詳述している下記文献を参照されたい。

2　海保広作遺跡での検出層位と調査所見

（1）A20 区・旧石器時代遺物集中地点　A-1 ブロック（旧№ 87 号）

台地西辺の傾斜変換線上にあり、台地の肩部にあたる地点である。近世の生活道である赤道（アカミチ）下に硬化面を有する道があり、その下に 1707 年降下堆積した宝永スコリアがあった。さらにその下にほぼ水平に明褐色土層の堆積があり、その下の黒褐色土中に固結火山灰土塊が散在していた。その下はローム斬移層とつながる（第 11 図・11 層）。

（2）A34・A22 区・近世塚 96 号遺構（旧№ 99 号）

近世遺物の出土はないが、墳丘下に地鎮祭祀に伴うと見られる矩形に掘り窪められた土坑があることなどから、市内の調査事例を参考に近世塚と推定した（牧野 2011）。旧表土以下には 1707 年降下堆積した宝永スコリアは認められず、塚盛土の下に明褐色土があり、その下に固結火山灰土塊を含む黒色土層が検出された（第 43 図・12 層）。

（3）A70 ～ A18 区・古代溝 104 号遺構（旧№ 103 号）

台地東側の傾斜変換線上に掘削された長さ約 140m、幅上辺 3m、幅下辺 1m、断面が逆台形状の溝である。古代の遺物の出土は認められないが、海保西竹谷遺跡検出の同様の溝が 7 世紀前半の古墳を避けて掘削されていることや、その他遺構覆土の状態から古代の遺構であると推定した。溝覆土は、最初にロームブロック等のローム起源土壌の多い褐色土が堆積し、その後固結火山灰土塊を含む黒褐色土が堆積している（第 50 図～ 52 図）。固結火山灰土塊を含む覆土上層が堆積する前の段階では、溝は浅い皿状の凹地の状態だったと推定される。

3　固結火山灰土塊の年代と生成理由

（1）固結火山灰土塊を含む土壌中の耐酸性腐植質有機物の放射性炭素年代測定によれば、暦年補正値で 5 世紀前半から 10 世紀前半となる。したがって、固結火山灰土塊は古墳時代と奈良・平安時代に生成された有機質土壌を母材に固結したものとみられる。

（2）土壌の花粉分析によれば、固結火山灰土塊形成時には、周辺には草地が広がり、二次林的な疎林であったとされ、植生への人間の環境負荷が高かったとしている。ここから推定される環境は、古墳群や古墳時代後期の集落、奈良・平安時代の長大な溝の掘削などに反映される。

（3）花粉分析の結果から、古植生の草原状態が維持された人為環境が、固結火山灰土塊形成に影響した可能性があるとしている。樹木の伐採等により、太陽光を遮るものが少なく裸地となった地表は乾燥化が促進し、この過程で、湿潤で軟質な団粒は乾燥して固結化したものとみられる。これは、「長大な溝の用途が牛馬の放牧と関与する」という推論に一つの示唆を与える。当該地における古代（奈良・平安時代）～中世（鎌倉時代～戦国時代）の里山と牧の存在を想起させるものである。

なお、固結火山灰土塊の母材の粗粒物の大半は富士火山系のテフラ粒子とみられ、また母材中には伊豆諸島の神津島や新島起源と思われる流紋岩質テフラも相当量含まれているという。

参考文献

近藤　敏・上杉　陽・細野　衛・関東第四紀研究会 2011「市原市海保遺跡群の考古学土層と固結火山灰土塊層準との関係について」『関東の四紀』31

細野　衛・関東第四紀研究会 2011「市原市, 海保遺跡群の黒ボク土層に見出される固結団粒　仮称“チョコ玉”の固結原因（試論）」『関東の四紀』31

細野　衛・森　将志・関東第四紀研究会 2011「花粉分析から推定した西竹谷遺跡における“チョコ玉”層準の植生履歴」『関東の四紀』31

細野　衛・パレオラボ AMS 年代測定グループ・関東第四紀研究会 2011「資料：市原市海保遺跡群黒ボク土層に挟在する“チョコ玉”の放射性炭素年代値」『関東の四紀』31

菊地隆男・関東第四紀研究会 2011「千葉県市原市，海保遺跡群表層土層中の“チョコ玉”の粒径と構造について」『関東の四紀』31

上杉　陽・近藤　敏・細野　衛・関東第四紀研究会 2011「市原市海保遺跡群の腐植質火山灰土層中の固結火山灰土塊について」『関東の四紀』31

牧野光隆 2011「市原市平野馬頭塚」『市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書』第 20 集

第５章　総括

１　旧石器時代

５地点７箇所の遺物集中ブロックが検出された。このうち、１ブロックが礫群である。出土層位はⅢ層下部からⅥ層までであった。剥片等の遺物総数は、４点から214点までのブロックがあったが、50点前後のブロックが４箇所と小規模なものが多かった。石器の内訳では、いずれのブロックも剥片と石核を主体とし、第一剥離以後さらに手を加えたもの、使用の痕跡がある石器比率は、ブロック内石器総数の10％未満が４箇所、20％以上を占めるブロックが２箇所であった。石器の器種としては、ナイフ形石器、掻器、削器、角錐状石器、楔形石器などが見られた。使用石材としては、黒曜石とチャートを主体とするものが４箇所、チャートと無斑晶ガラス質安山岩を主体とするものが１箇所あった。また、被熱した礫多数を伴うブロックが２箇所あり、このうちの一つでは焼土の痕跡も認められた。

２　縄文時代

本遺跡のうち、主体をなす時期は縄文時代早期と前期である。早期後葉･条痕文系土器の時期には、炉穴25・土坑15基が検出されている。前期後葉の浮島・興津式の時期には、竪穴建物５棟・土坑７基が検出されている。遺構はいずれの時期も遺跡の東側区域を中心に分布する。早期後葉には、長軸約80mの範囲に遺構が分布し、この範囲にほぼ重なるように同時期の遺物包含層も分布している。また、焼礫の分布も類似し、特に遺物が集中する地点近くには炉穴や土坑が存在することから関連性が示唆される。土坑中には焼土や炭化物、そして焼礫がある程度まとまって検出されるものがあり、遺物密度は低いが集石状を呈するものもあった。遺跡内に広範囲に分布する焼礫は、本来はこういった調理施設に伴うものであった可能性がある。ただし、焼礫は早期の土器ばかりでなく後述する前期後葉の土器とも混在しているので、厳密に帰属時期を求めることはできない。前期後葉の遺構中にもある程度まとまって焼礫が出土するものもあるので、前期後葉の時期にも焼礫を介在する調理行為が続けられていた可能性がある。

前期後葉には、数箇所の竪穴建物と土坑が直径約30mの範囲に分布する。そして竪穴建物が集まる地点を中心に、同時期の遺物を多く含む土層が分布している。遺構、遺物包含層ともに、出土した土器は破片資料に限られ器形を復元できるような大型のものはなかった。特に遺構出土のものは細片で出土量も少ないので、厳密な土器細分は困難であった。確認できた土器型式からすると、浮島Ⅰ式から興津Ⅱ式までが見られるが、随伴遺物として諸磯ｂ・ｃ式があるので、遺構は浮島Ⅱ・Ⅲ式を主体とする時期の可能性が高い。そして遺構より上位の遺物包含層中には、興津式に加えて十三菩提式や撚糸側面圧痕が特徴的な前期末と見られる時期のものの比率が高くなる傾向が見られる。５軒の竪穴建物以外には遺構の存在は希薄であるが、前期後葉から末葉までムラは存続していたのであろう。ただし、遺構数が少なく遺構中にまとまった遺物が見られないことに加え、石器類も希薄で特に石皿や磨石などが少ない点からみて、長期間永続的に居住するムラは想定しにくい。季節的な短期居住を繰り返していたムラであった可能性が高い。

その他、時期は明らかでないが縄文期とみられる土坑 25 基も検出されている。遺物包含層中からは、これら遺構の時期以外にも、中期後葉、後期から晩期の土器が出土しており、このうち後期中葉の加曽利 B 式期の遺物は部分的にまとまりをもって出土している。遺構としては残されていないが、前期以降も一時的に生活の場となっていたものとみられる。

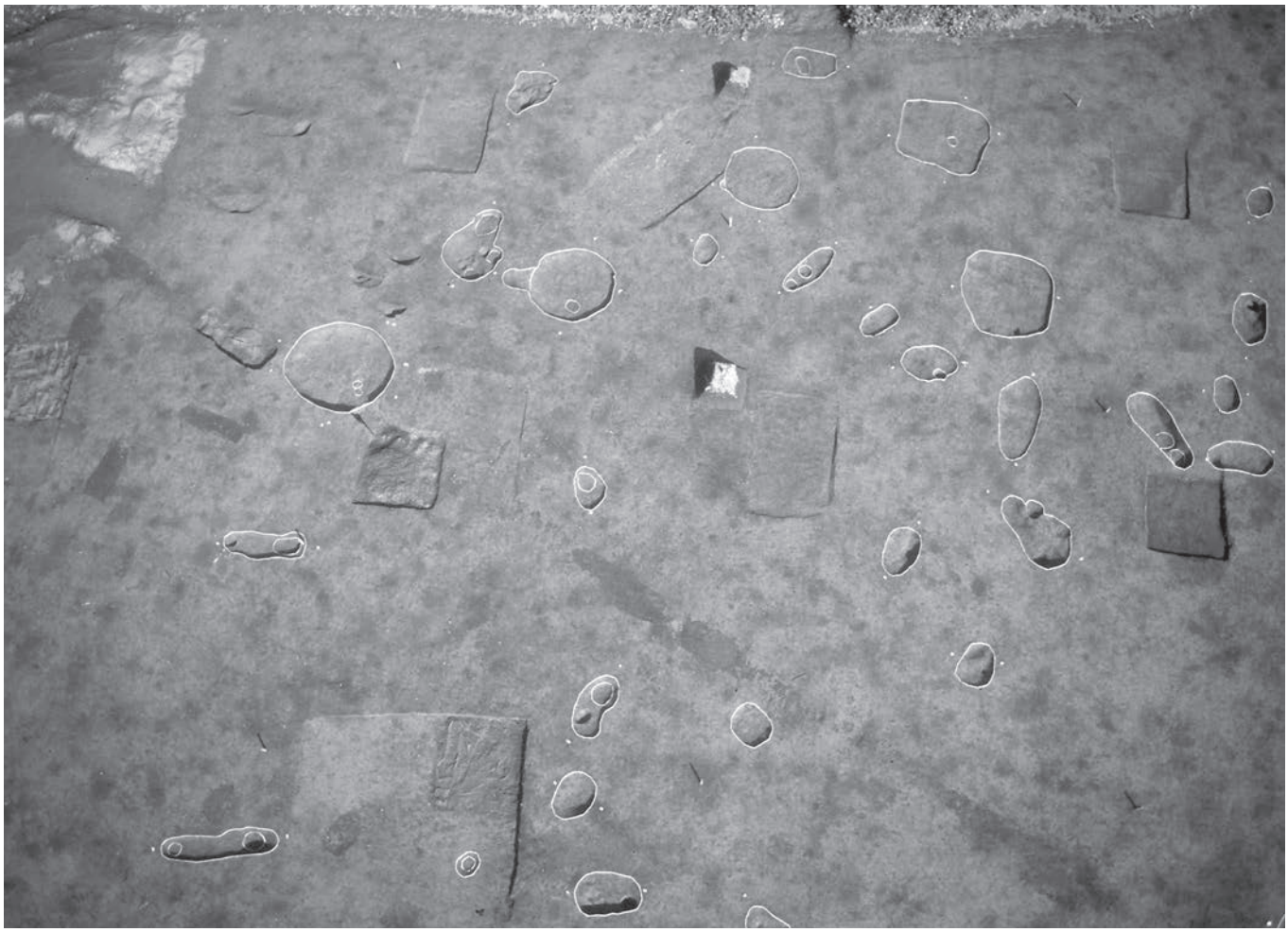
3　古墳、奈良・平安時代

海保広作遺跡では、縄文時代より後の時代の痕跡はわずかである。古墳時代前期には方形周溝状遺構が 1 基のみ検出された。海保大塚遺跡など、本遺跡より北に位置する遺跡群では、古墳時代の集落や古墳群が広く展開しているが、これらは広作遺跡までは及んではいなかった。奈良・平安時代以降には、掘立柱建物 1 棟、土坑 4 基、埋設土器 1 基、溝 2 条、道路 1 条が検出された。このうち、土坑と埋設土器の内部からは焼けた人骨片が出土しており、火葬墓の可能性が高い。時期不明とした土坑中には、焼土や炭化物を覆土中に含むものがあり、関連する遺構であるかもしれない。遺跡の東端からは、深さ最大約 90cm、全長約 130m の長大な溝が検出された。何らかの意図をもって台地上を区画したものとみられる。同様の遺構は、海保広作遺跡より北側に位置する海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡からも検出されており、広範囲にわたる区画溝の性格について検討する必要がある。これらについては、海保広作遺跡及び海保西竹谷遺跡、海保小谷作遺跡において、本溝をはじめとする遺構等から特徴的に検出された「固結火山灰土塊」の自然科学的な分析が行われた。そして、年代測定、花粉分析、粒径・構造分析、固結要因分析の結果を鑑み、牛馬の放牧に関わる「牧」的な性格の遺構である可能性が示され、広域にわたる土地利用の一端を垣間見ることとなった。また、溝から西に 100m ほど離れた地点から検出された 1 棟の掘立柱建物は、出土遺物からは時期を明確にできなかったものの、溝に関連した施設であった可能性もある。牛馬に関わる小屋的な施設だったかもしれない。この建物の柱部分には、根固めのために使われた貝殻の集積があった。貝類とともに検出された土器はいずれも縄文後期中葉のものだったことから、近隣の縄文貝塚の貝層が利用されたことが明らかになった。

この他、近世以降の塚 1 基と溝 3 条、時期不明の土坑 13 基と焼土 1 基も検出されている。

写真図版

東側調査区・全景(南から)



東側調査区・縄文前期遺構集中箇所(空撮)

旧石器時代遺物集中地点・A−1ブロック　南東から

旧石器時代遺物集中地点・A−1ブロック　東から

旧石器時代遺物集中地点・A−1ブロック　南西から

旧石器時代遺物集中地点・A−2ブロック　西から

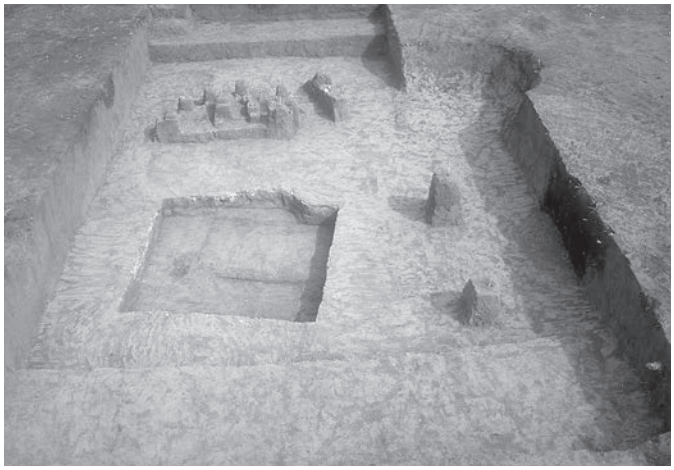
旧石器時代遺物集中地点・A−3ブロック　北から

旧石器時代遺物集中地点・Bブロック　南から

旧石器時代遺物集中地点・Cブロック　西から

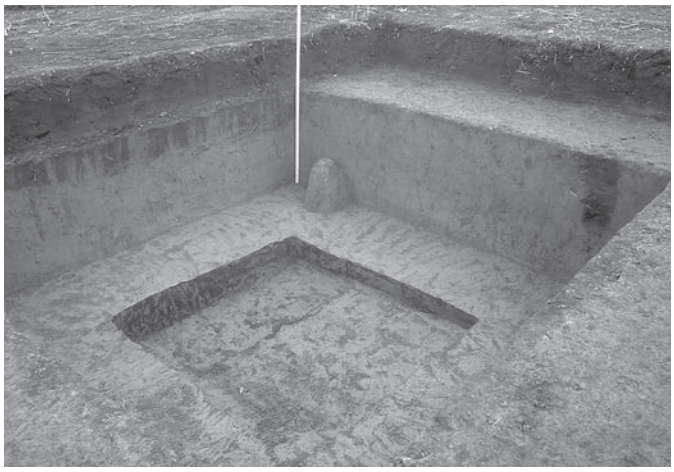
旧石器時代遺物集中地点・Cブロック　南西から

旧石器時代遺物集中地点・Cブロック　東壁土層断面



旧石器時代遺物集中地点・Dブロック　西から

旧石器時代遺物集中地点・Dブロック　北壁土層断面



旧石器時代集中地点・Eブロック　北から

1号遺構　南から　A−A′

1号遺構　遺物出土状況

1号遺構　北から

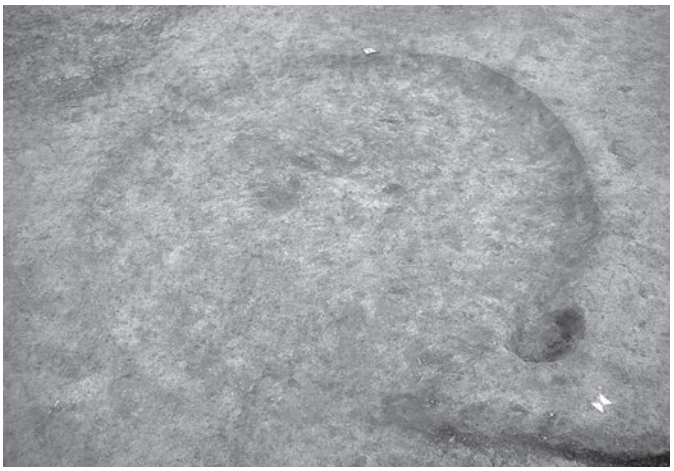
2号遺構　南から　A−A′

2号遺構　遺物出土状況　南から

2号遺構　西から

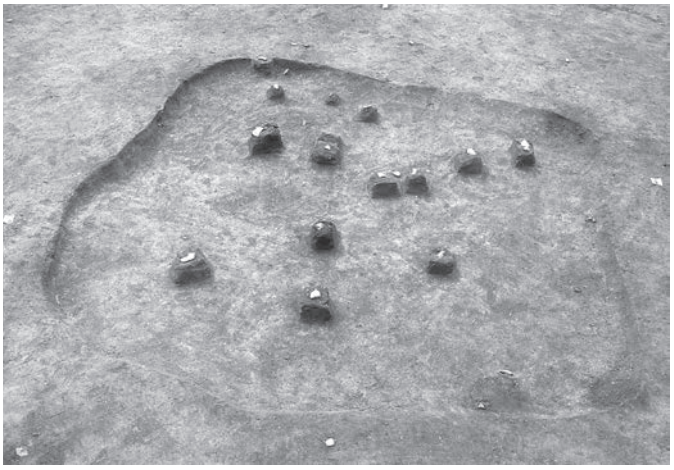
3号遺構　南から　A−A′

3号遺構　遺物出土状況　南から

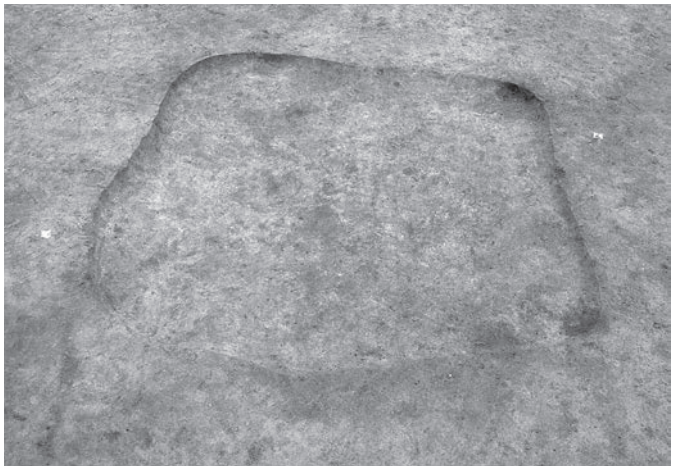


3号遺構　西から

4号遺構　南から　A−A′

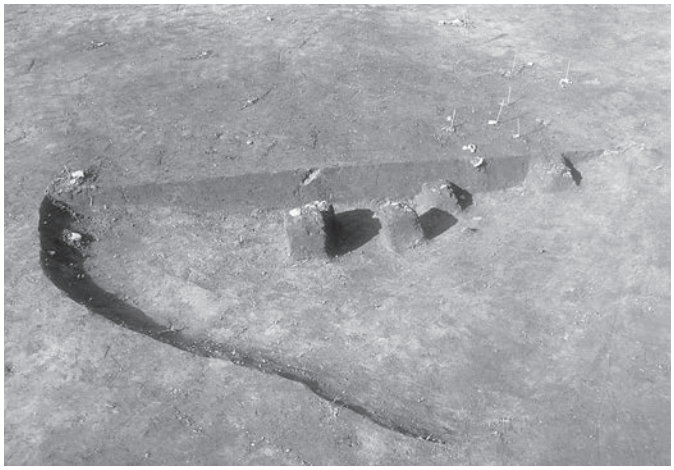


4号遺構　遺物出土状況　北から

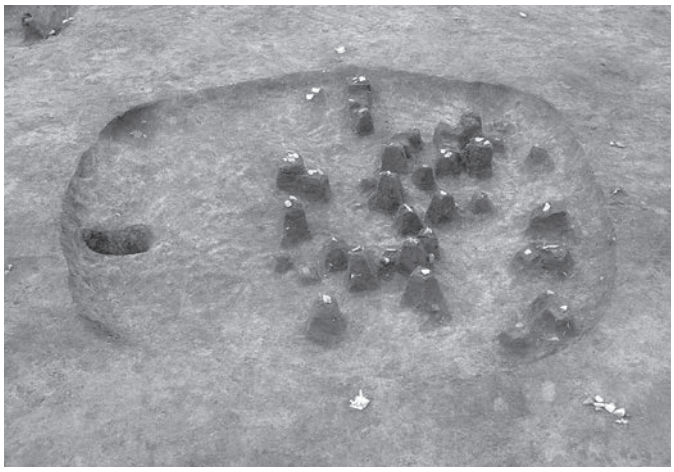


4号遺構　北から

4号遺構　東から

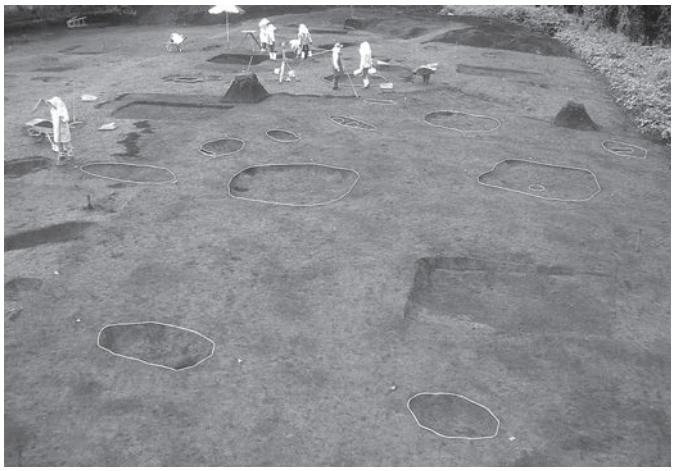


5号遺構　南から　A−A′



5号遺構　遺物出土状況　東から

縄文前期遺構集中箇所（西から）



縄文前期遺構集中箇所（東から）

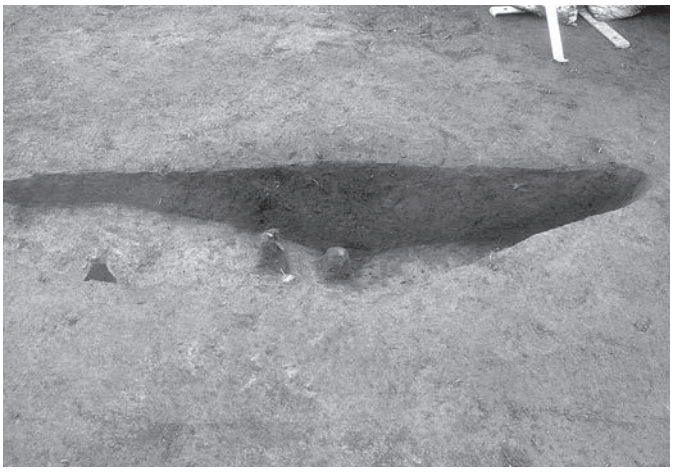
縄文前期遺構集中箇所（西から）

6号遺構　西から　A−A′

6号遺構　西から

7号遺構　北から　A−A′

7号遺構　東から

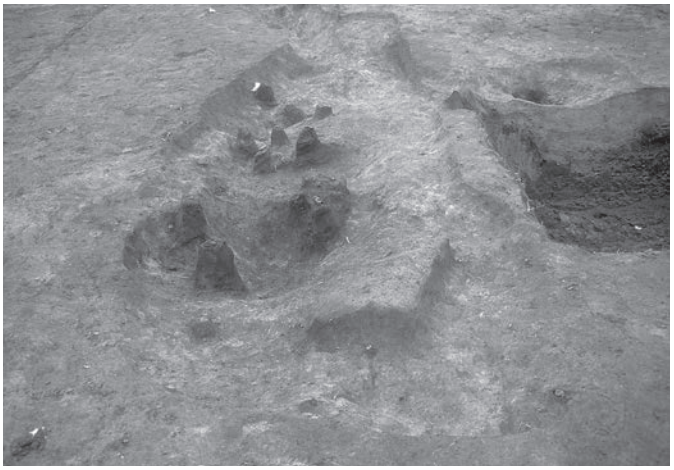


8号遺構　南から　A−A′

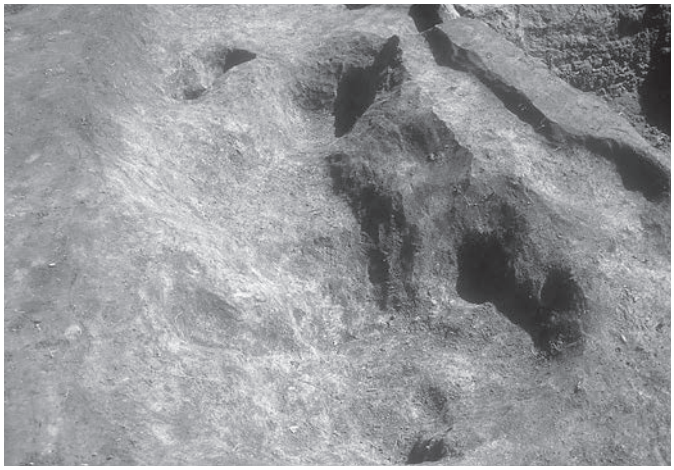
9号遺構　西から　A−A′

8・9号遺構　西から

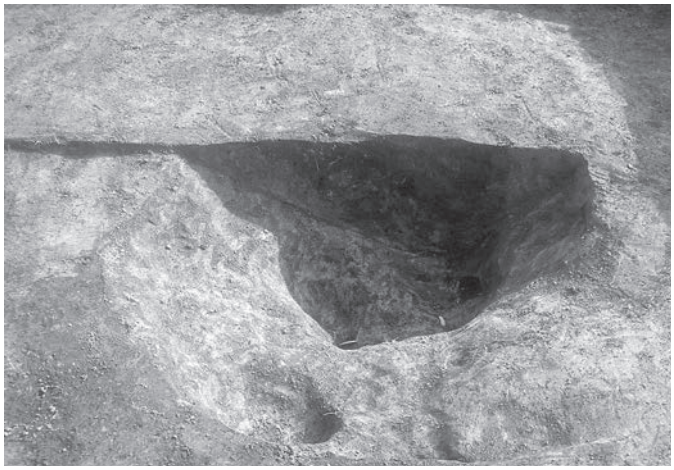
10号遺構　西から



11号遺構　遺物出土状況　西から



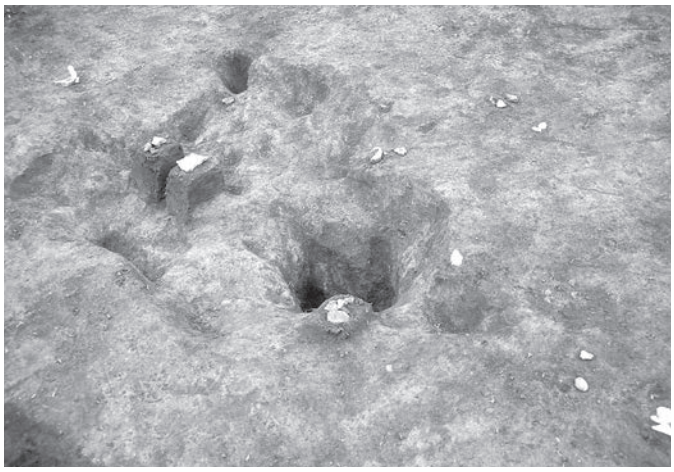
11号遺構　西から



12号遺構　北から　A−A′

13号遺構　西から

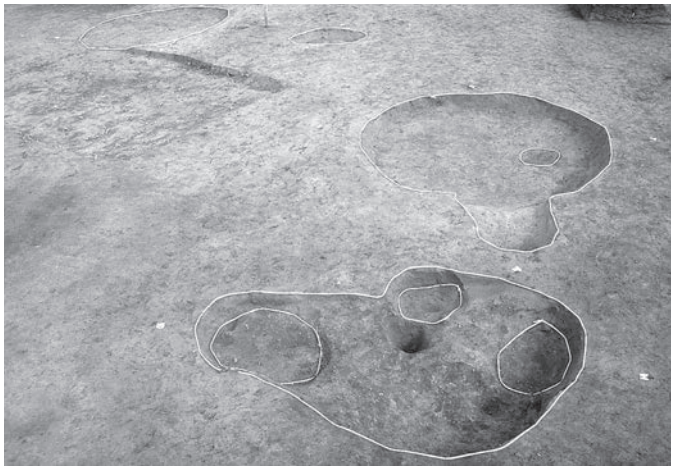
14・15・16号遺構　南から



17号遺構　西から

18号遺構　東から　A−A′

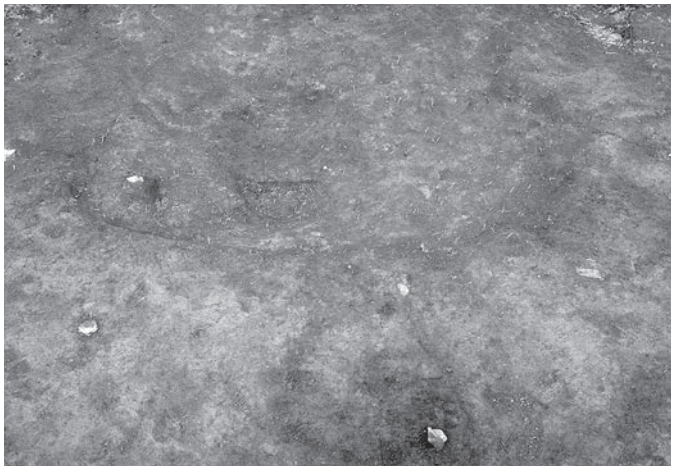
18号遺構　遺物出土状況　東から



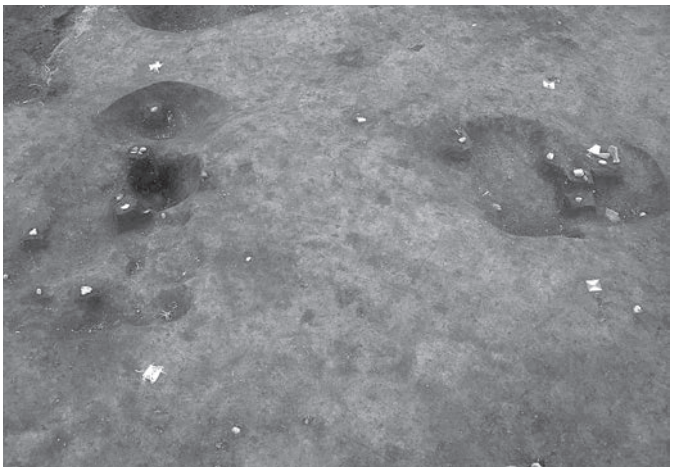
2号・18号遺構　西から

19号遺構　南から　A−A′

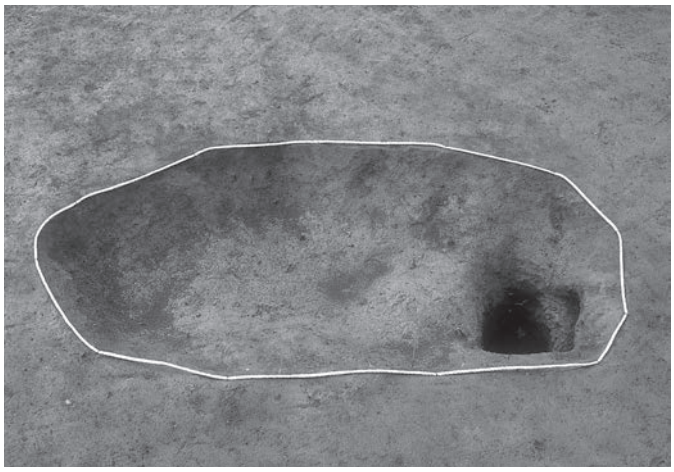
20号遺構　南から　A−A′



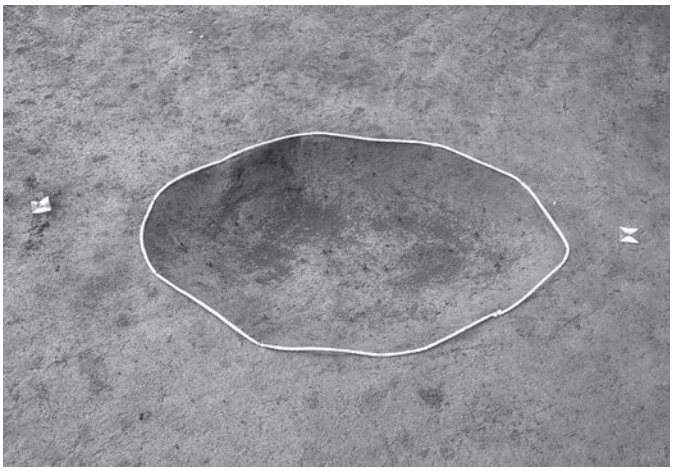
20号遺構　南から



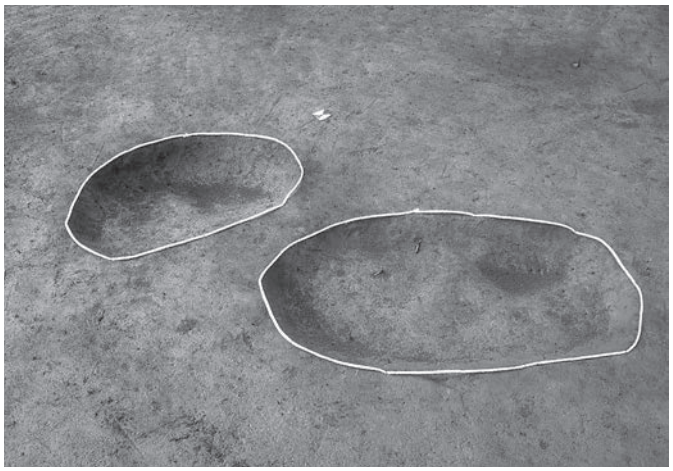
46・24号遺構　遺物出土状況　東から



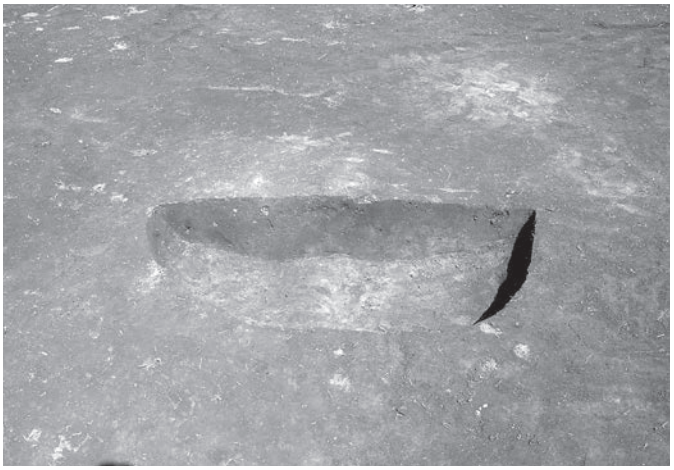
25号遺構　東から



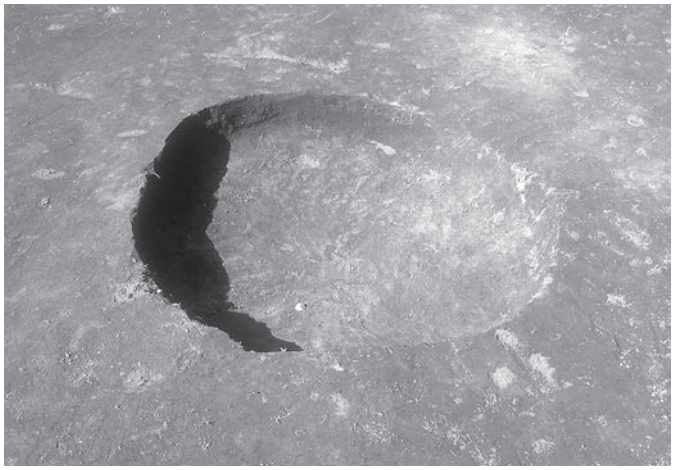
26号遺構　東から



27・28号遺構　南東から

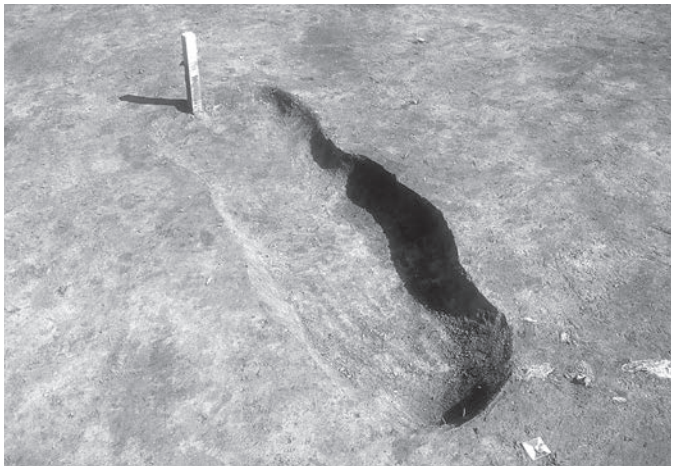


29号遺構　南から　A−A′



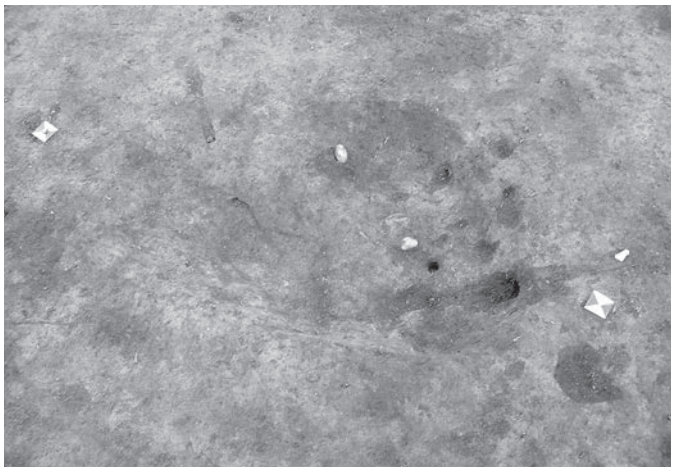
29号遺構　東から

30号遺構　西から　A−A′

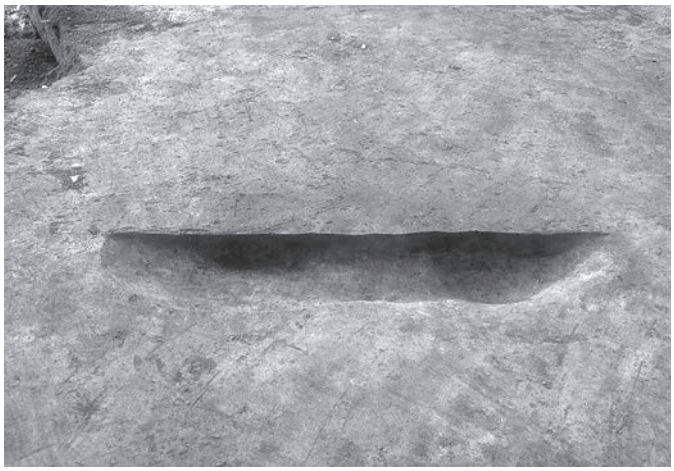


32号遺構　東から

33号遺構　南から

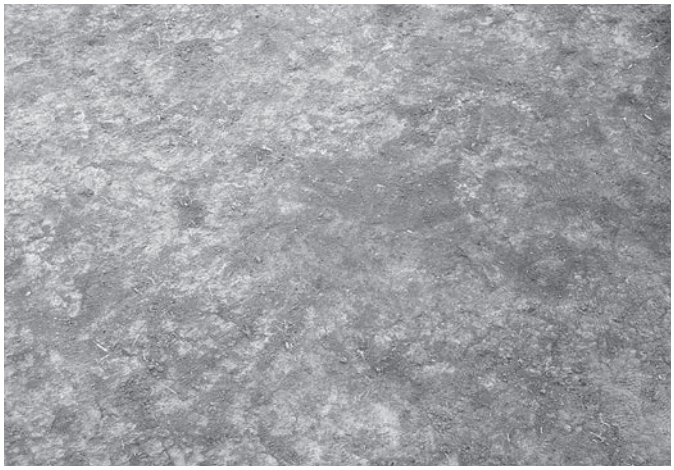


35号遺構　西から



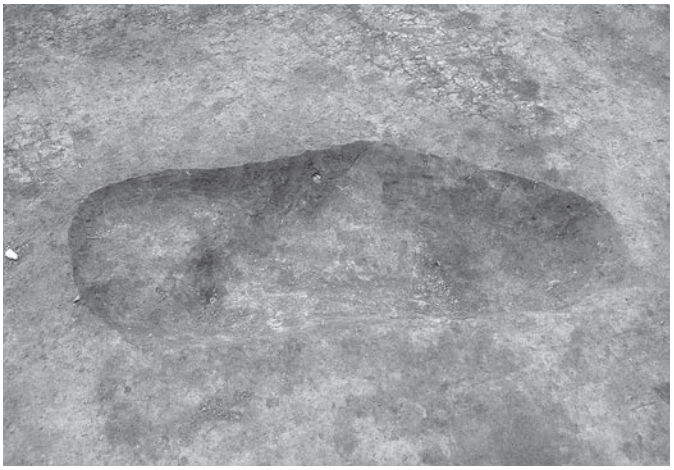
36号遺構　東から　A−A′

36号遺構　西から



38号遺構　南から

39号遺構　南から　A−A′



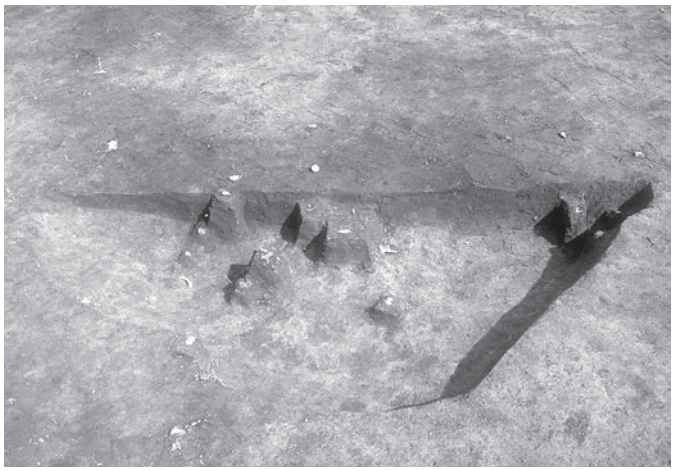
40号遺構　南西から

41号遺構　東から　A−A′

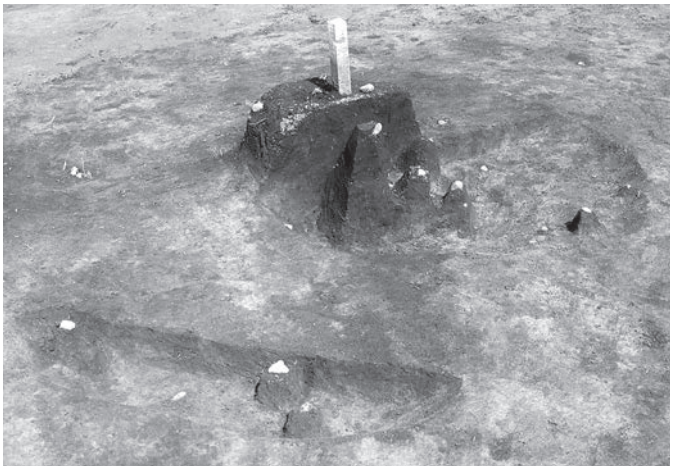
45号遺構　南から　A−A′

45号遺構　南東から

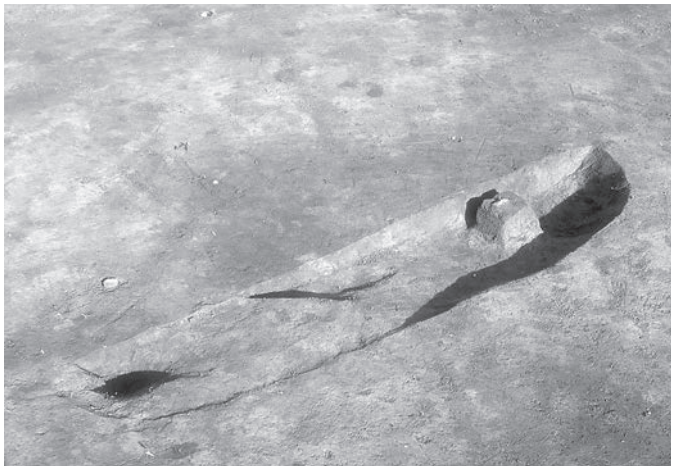
47号遺構　南から　A−A′



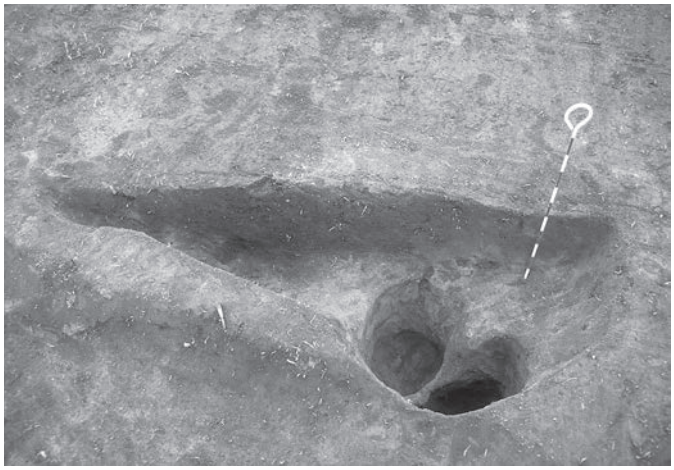
48号遺構　西から　A−A′



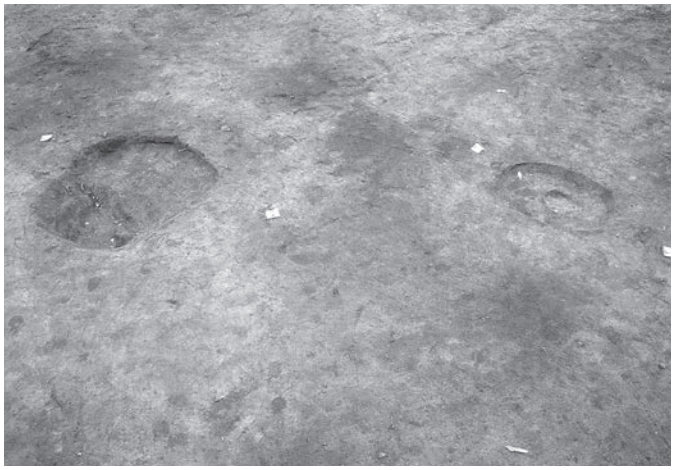
49・50号遺構　南から



51号遺構　西から　A−A′



55号遺構　南から　A−A′



56・57号遺構　東から

58号遺構　西から　A−A′

58号遺構　南西から

59号遺構　南から　A−A′

60~66号遺構　北から

60・61号遺構　西から

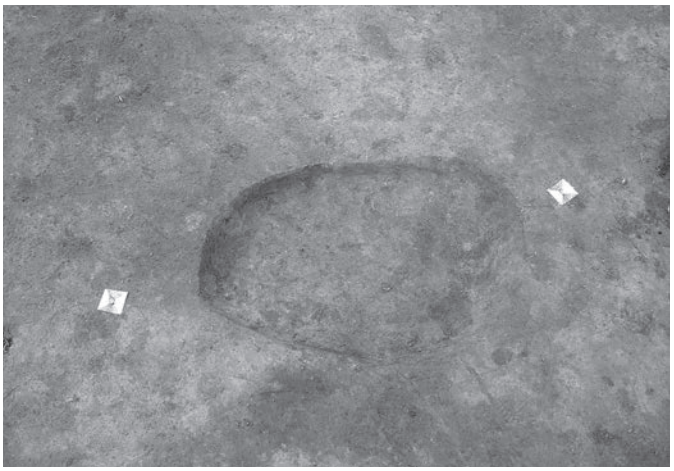
62号遺構　東から

63号遺構　南から　A−A′

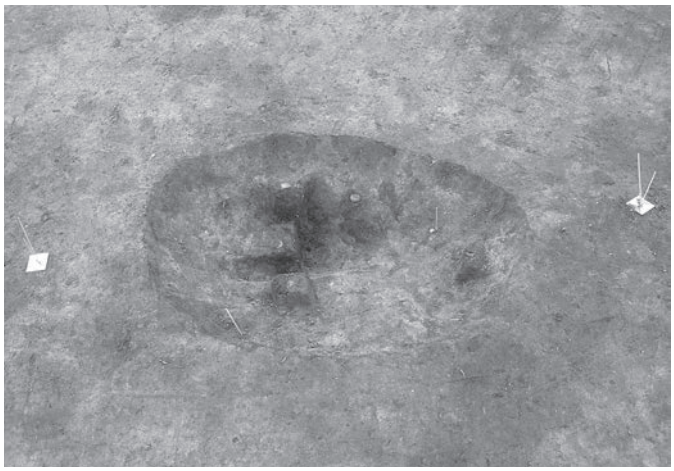
64号遺構　西から　A−A′

64号遺構　北から

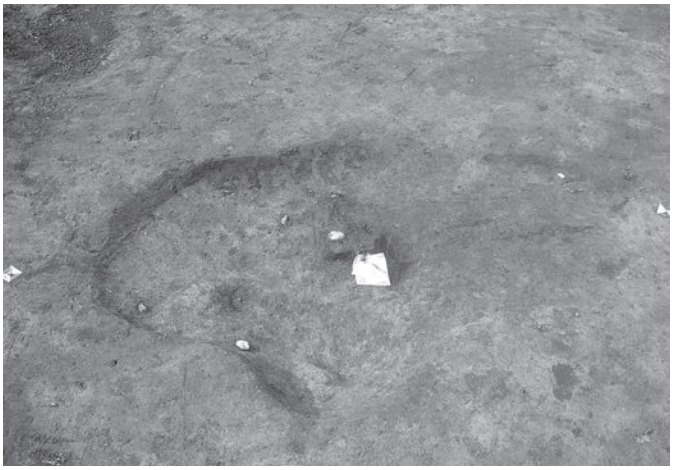
66号遺構　南から



67号遺構　西から



68号遺構　北から

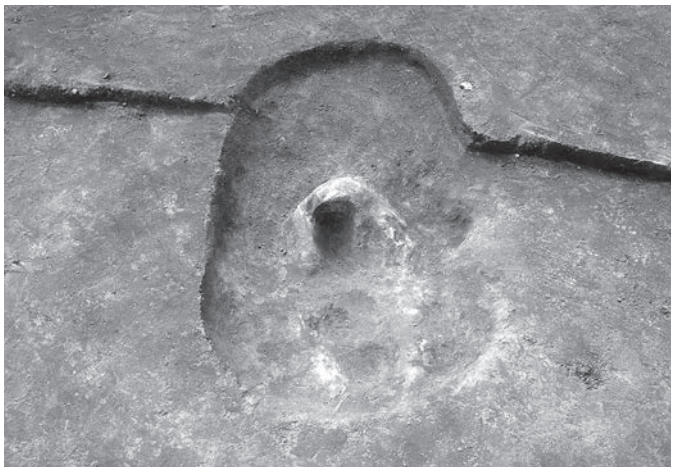


69号遺構　東から

70・71号遺構　西から

72号遺構　東から　A−A′

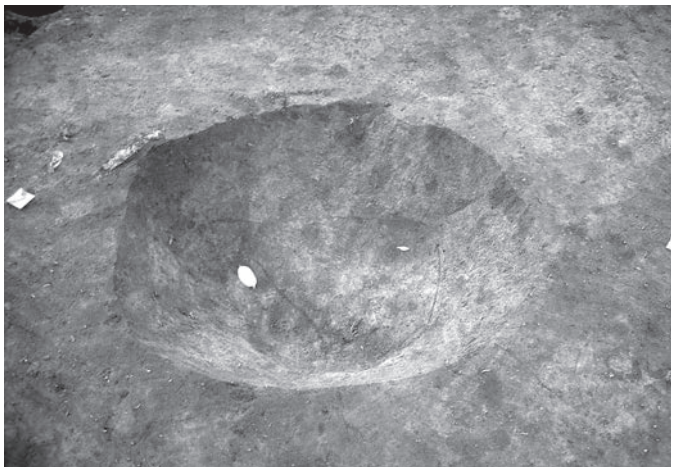
73号遺構　南から　A−A′



73号遺構　東から

74号遺構　　南西から　A−A′

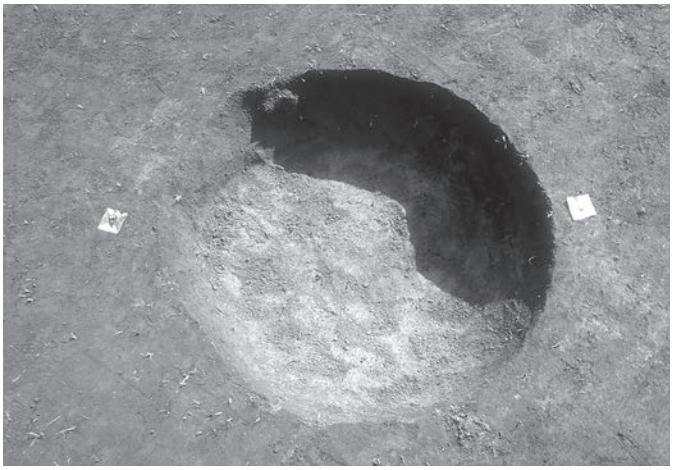
74・75号遺構　東から



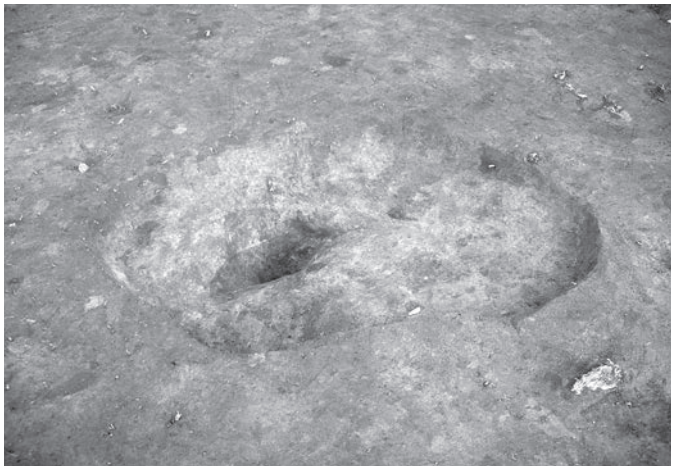
76号遺構　南東から

77号遺構　南東から

78号遺構　北西から



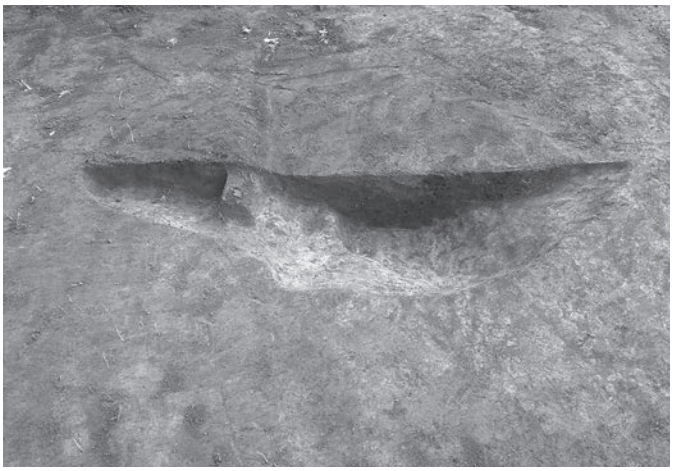
79号遺構　西から



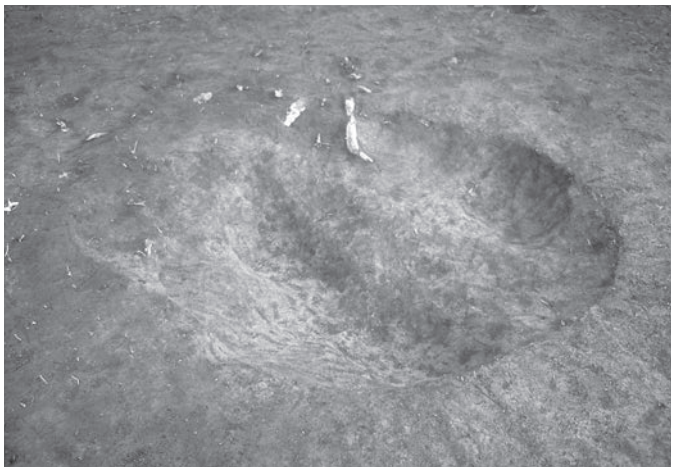
80号遺構　北西から

81号遺構　南から

82号遺構　東から



83号遺構　北から　A−A′

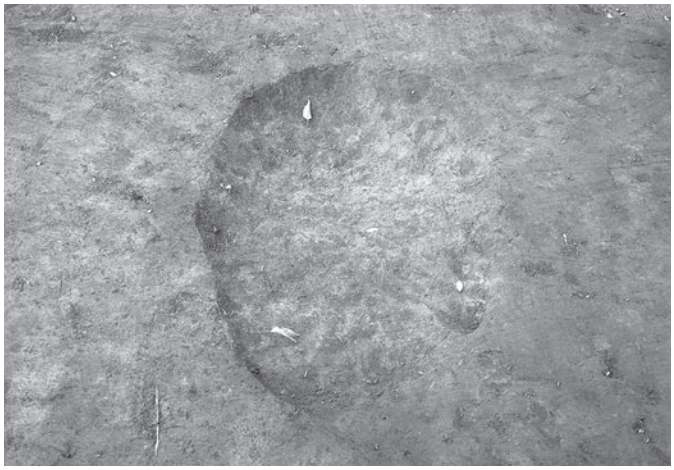


83号遺構　北から

84・85号遺構　北から

86・87・88号遺構　北から

89号遺構　東から


90号遺構　西から

91号遺構　東から　A−A′

92号遺構　東から　A−A′

93号遺構　南から

94号遺構　西から　A−A′

95号遺構　北から

96号遺構

96号遺構　南から　A−A′

96号遺構　南から　A−A′(近景)

97号遺構　東から

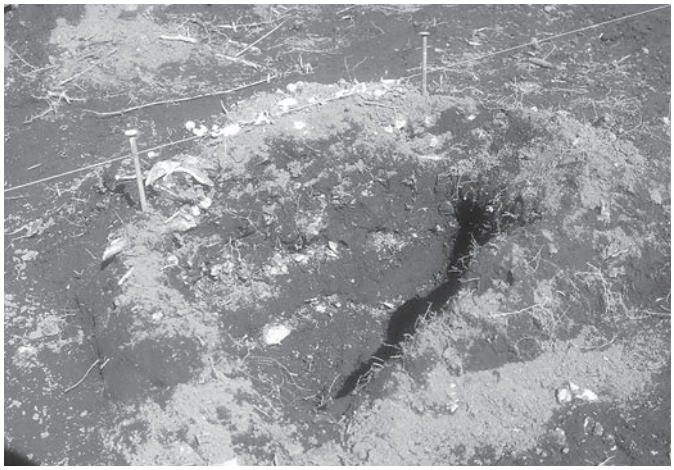
97号遺構　遺物出土状況

97号遺構　東から　B−B′

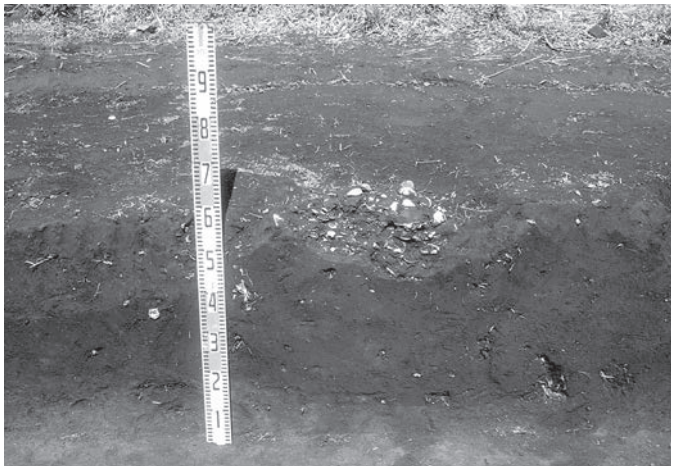
98号遺構　東から

98号遺構　南から

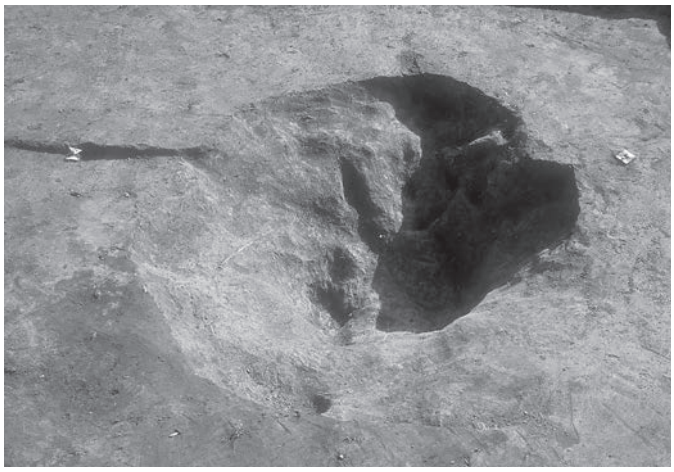
98号遺構　柱穴内貝層断面1



98号遺構　柱穴内貝層断面2



98号遺構　柱穴内貝層断面3



98号遺構　柱穴掘り上げ状況

99号遺構　遺物出土状況（側面）

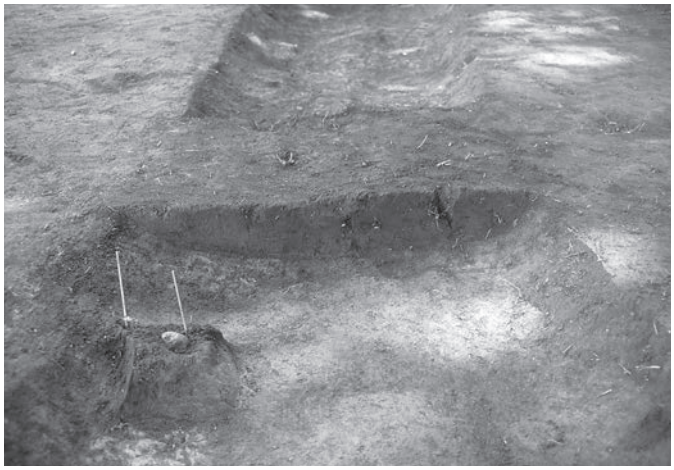
99号遺構　遺物出土状況（上面）

100号遺構　東から

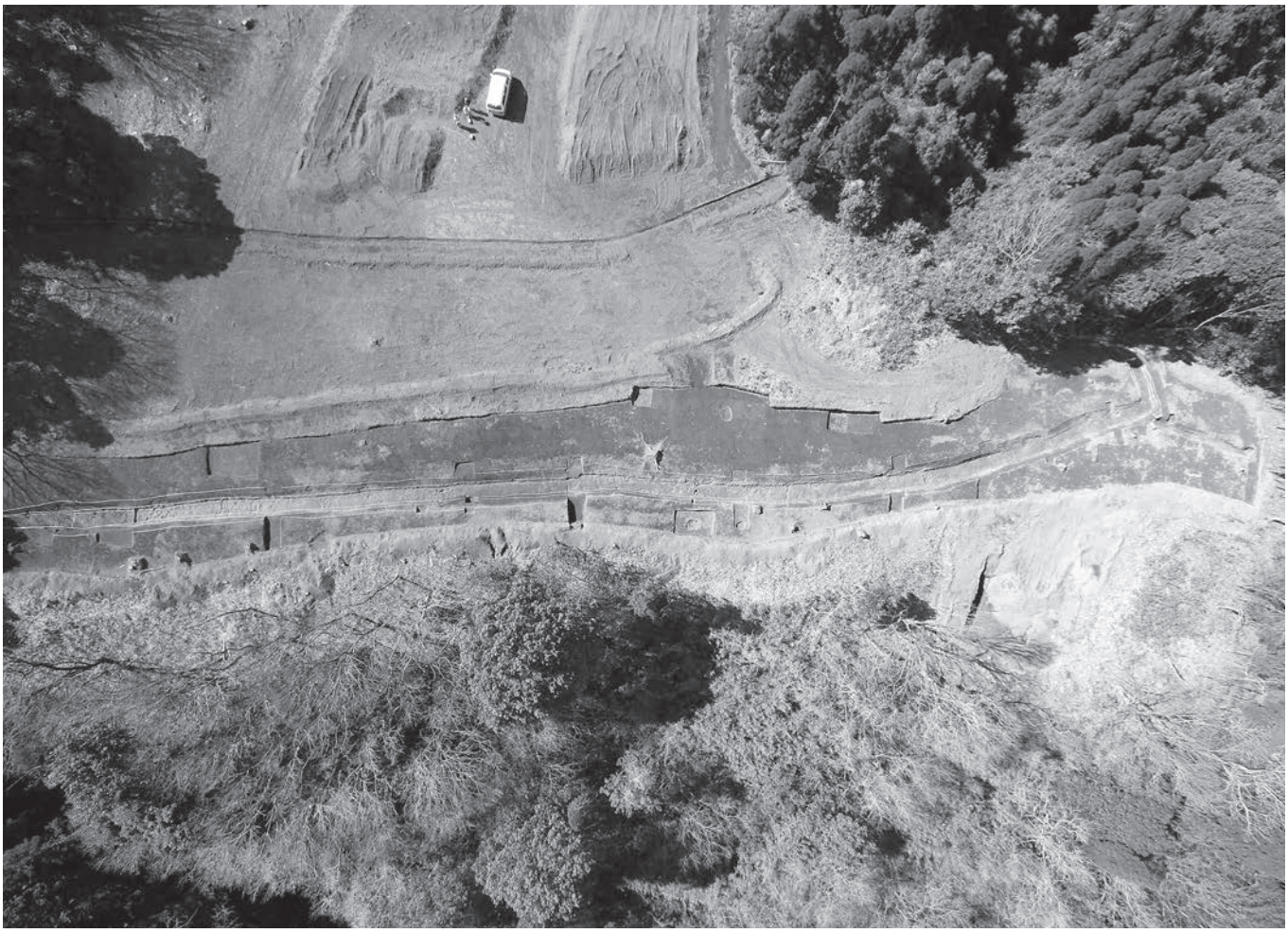
101号遺構　南西から

101号遺構　西から

103号遺構　西から



103号遺構　東から　A−A′



104号遺構　空撮　東から

104号遺構　南から

104号遺構　北から

104号遺構　北から

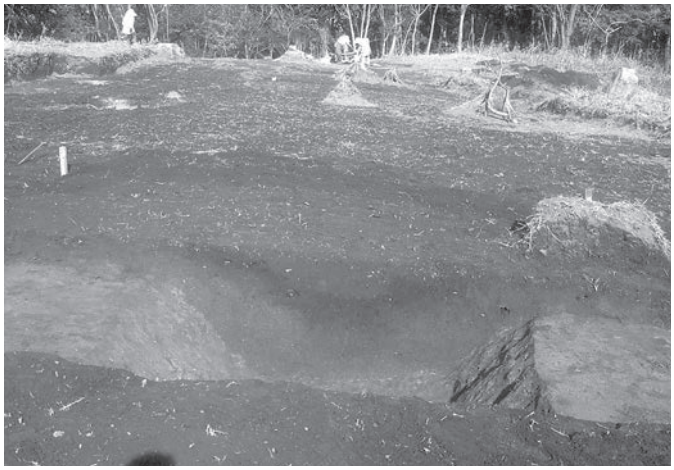
104号遺構　北から

104号遺構　南から

104号遺構　南から　B−B'

104号遺構　南から　D−D'

104号遺構　南から　F−F'

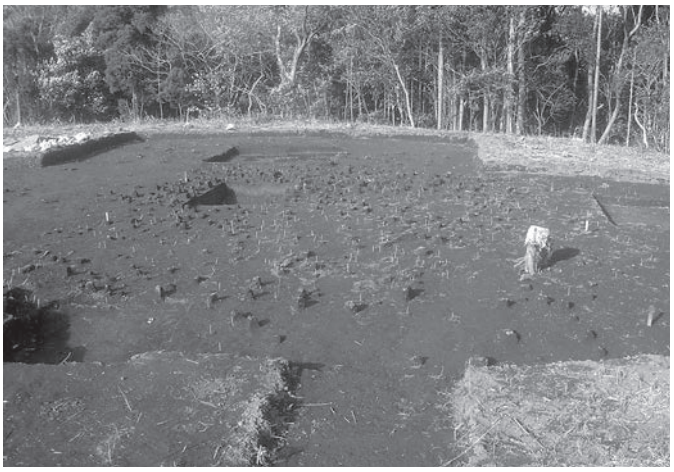


104号遺構　南から　I−I'

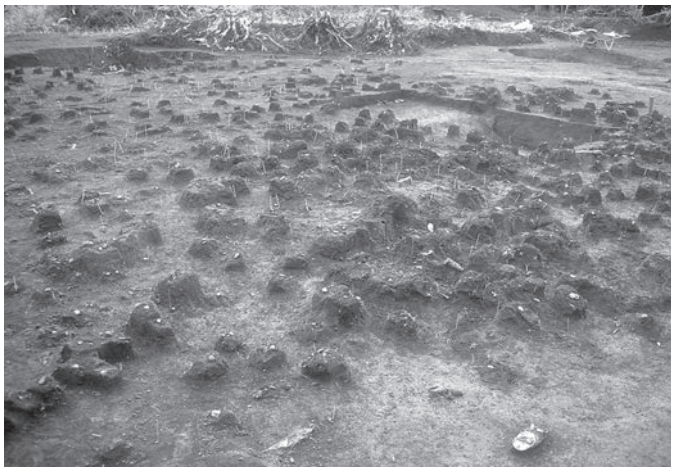
104号遺構　南から　L−L'

104号遺構　南から　M−M'

104号遺構　南から　N−N'



A57・58・64・65区遺物包含層　南から



A57・58・64・65区遺物包含層（近景）

A36区包含層　北西から

東側遺物包含層調査風景1

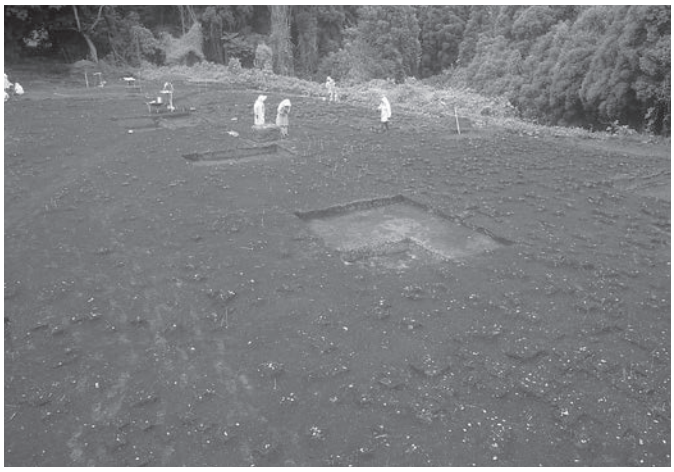
東側遺物包含層調査風景2

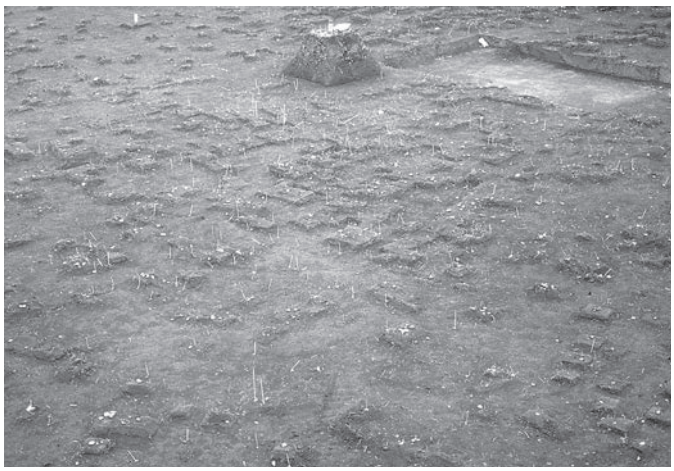
東側遺物包含層調査風景3

東側遺物包含層（土層断面）

東側遺物包含層　A50・51区　西から

東側遺物包含層　A52・53区　東から


東側遺物包含層　A39・40区　南東から


東側遺物包含層　A40区東側（礫集中箇所）

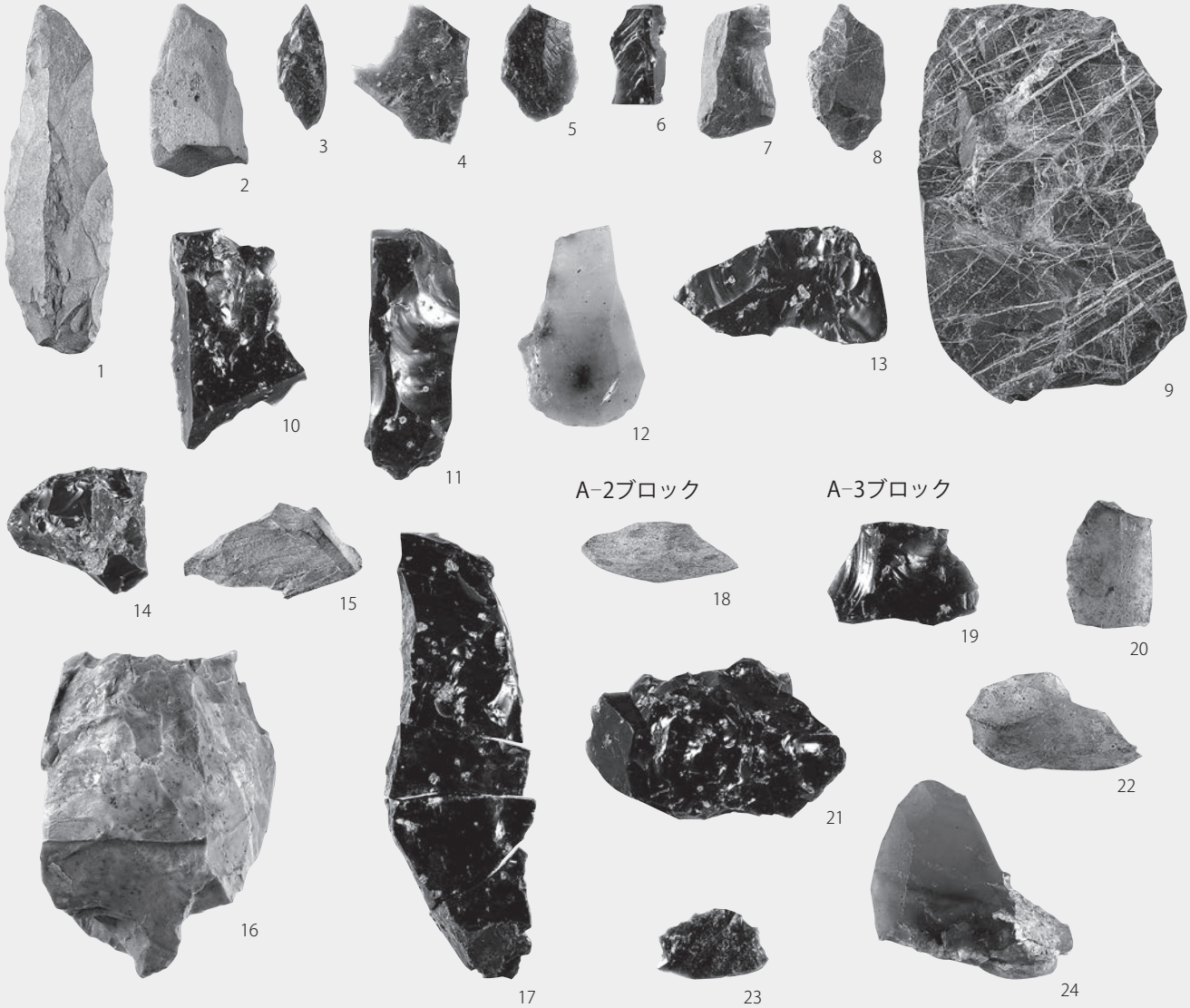
東側遺物包含層　A40・41区　南から

東側遺物包含層　A51・52・40・41区　南から

東側遺物包含層　A27・28区　北から

遺物集中地点

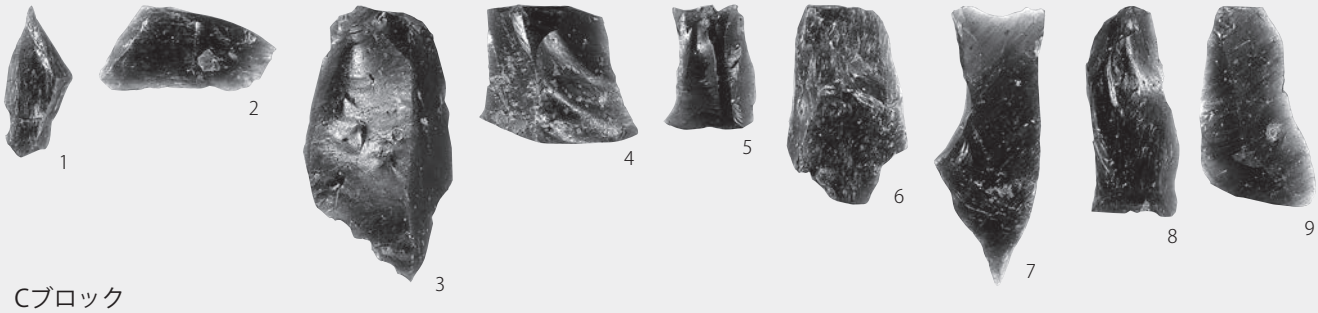
A-1ブロック



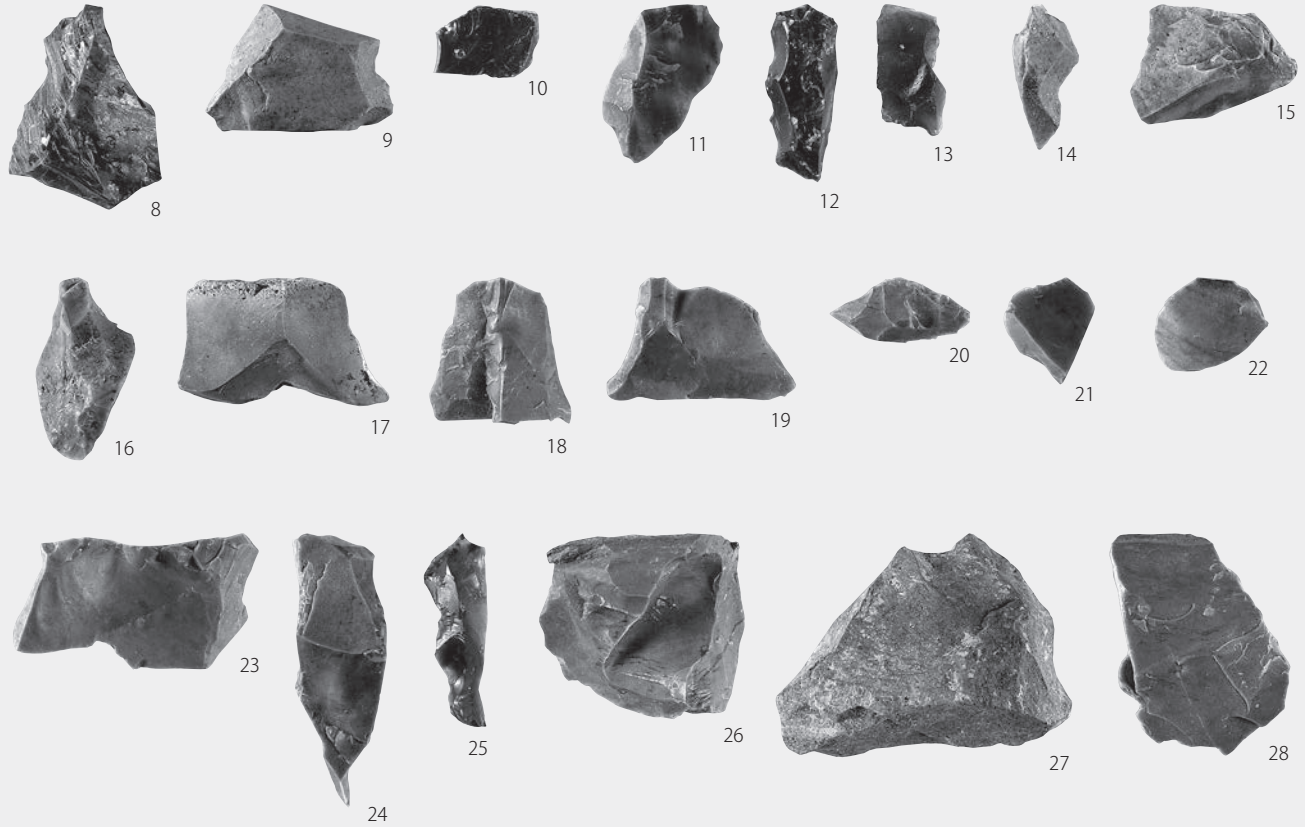
A-2ブロック

A-3ブロック

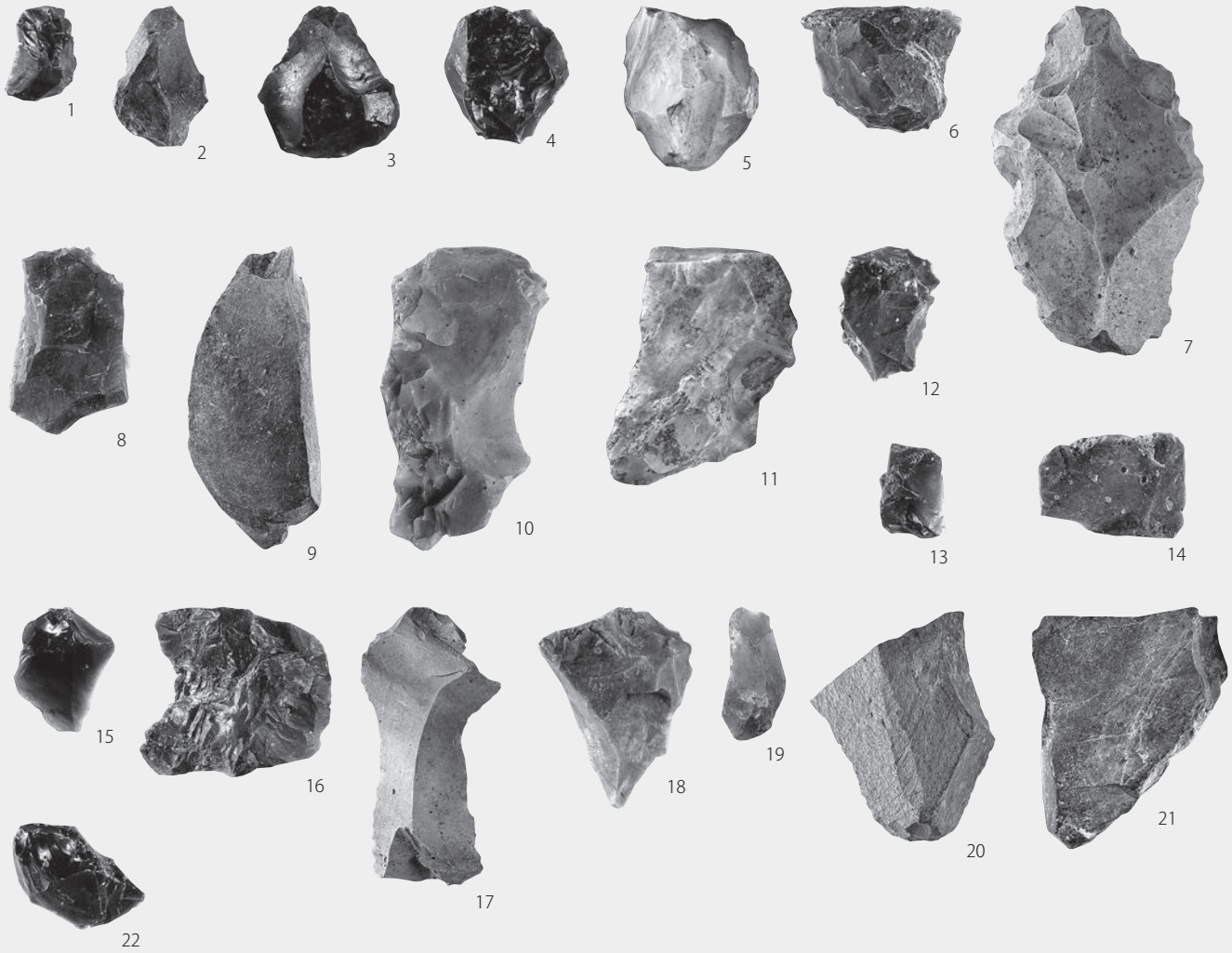
Bブロック



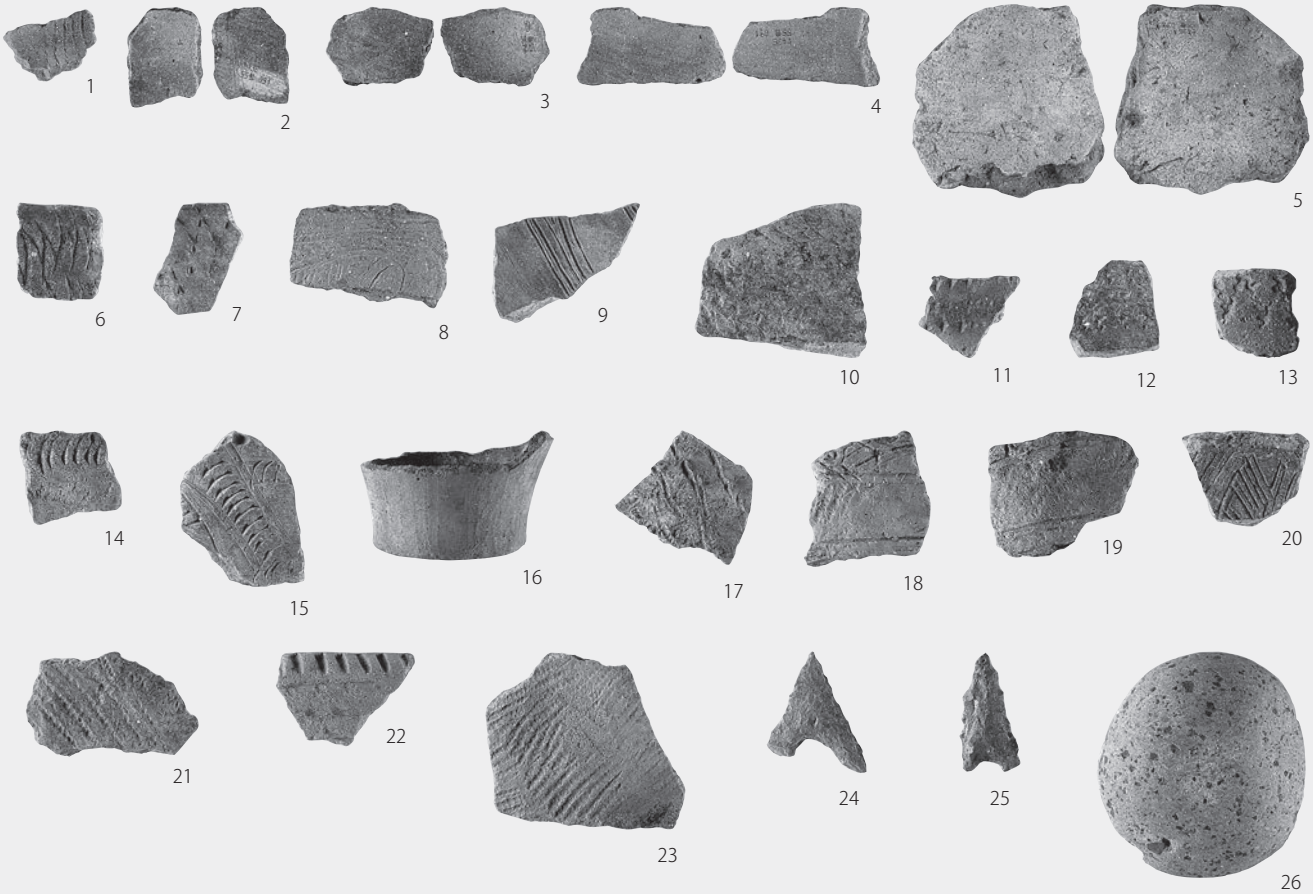
Cブロック


8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28

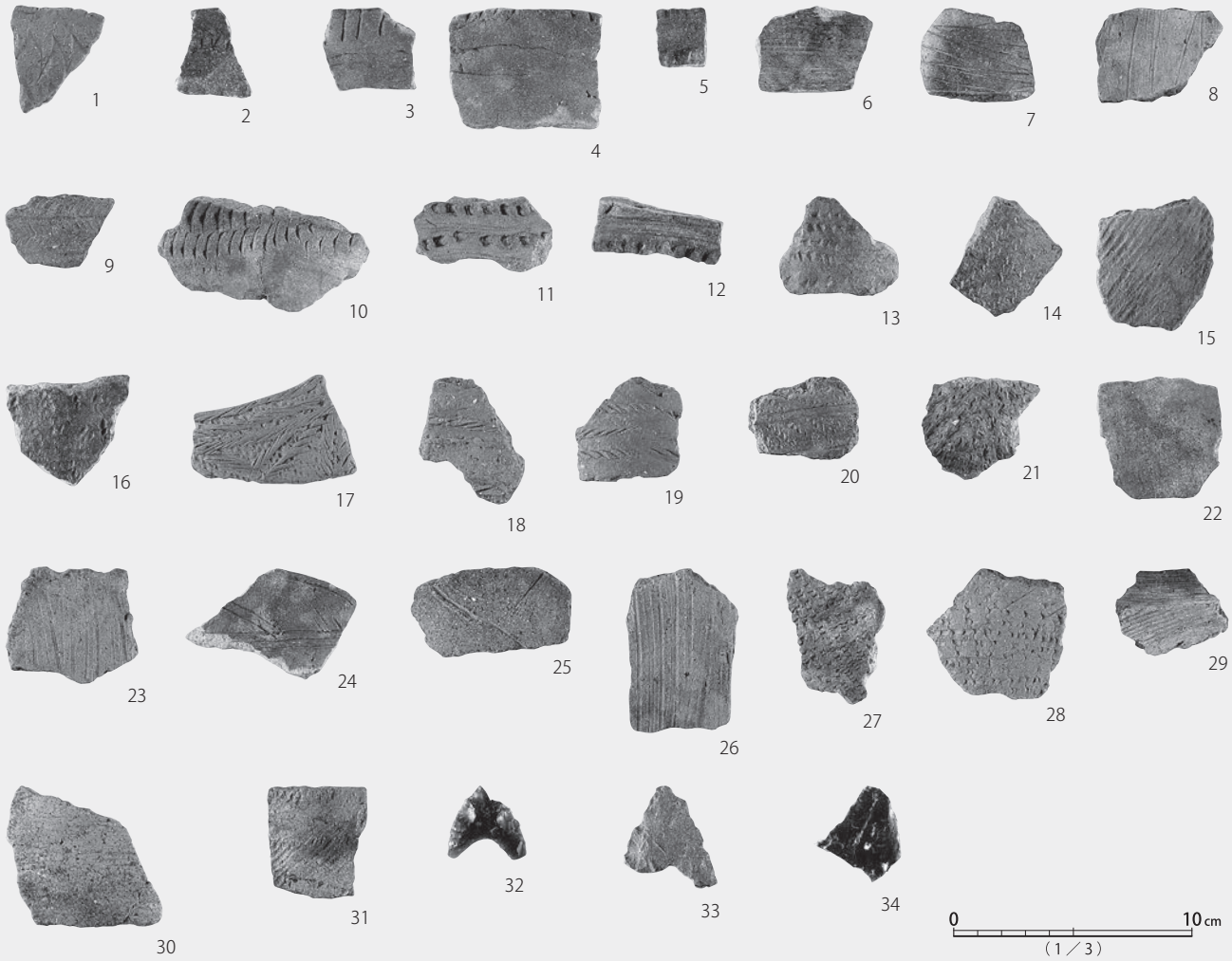
Dブロック


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

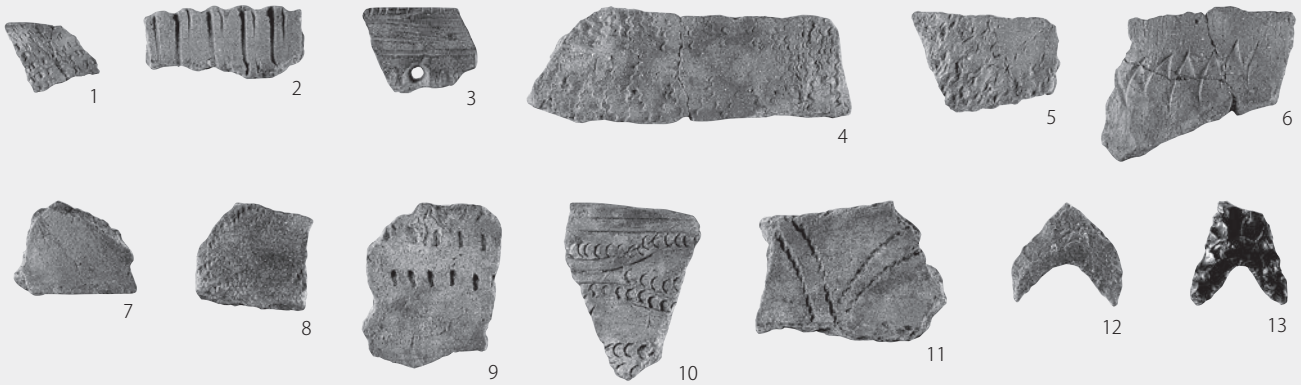
1号遺構


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26

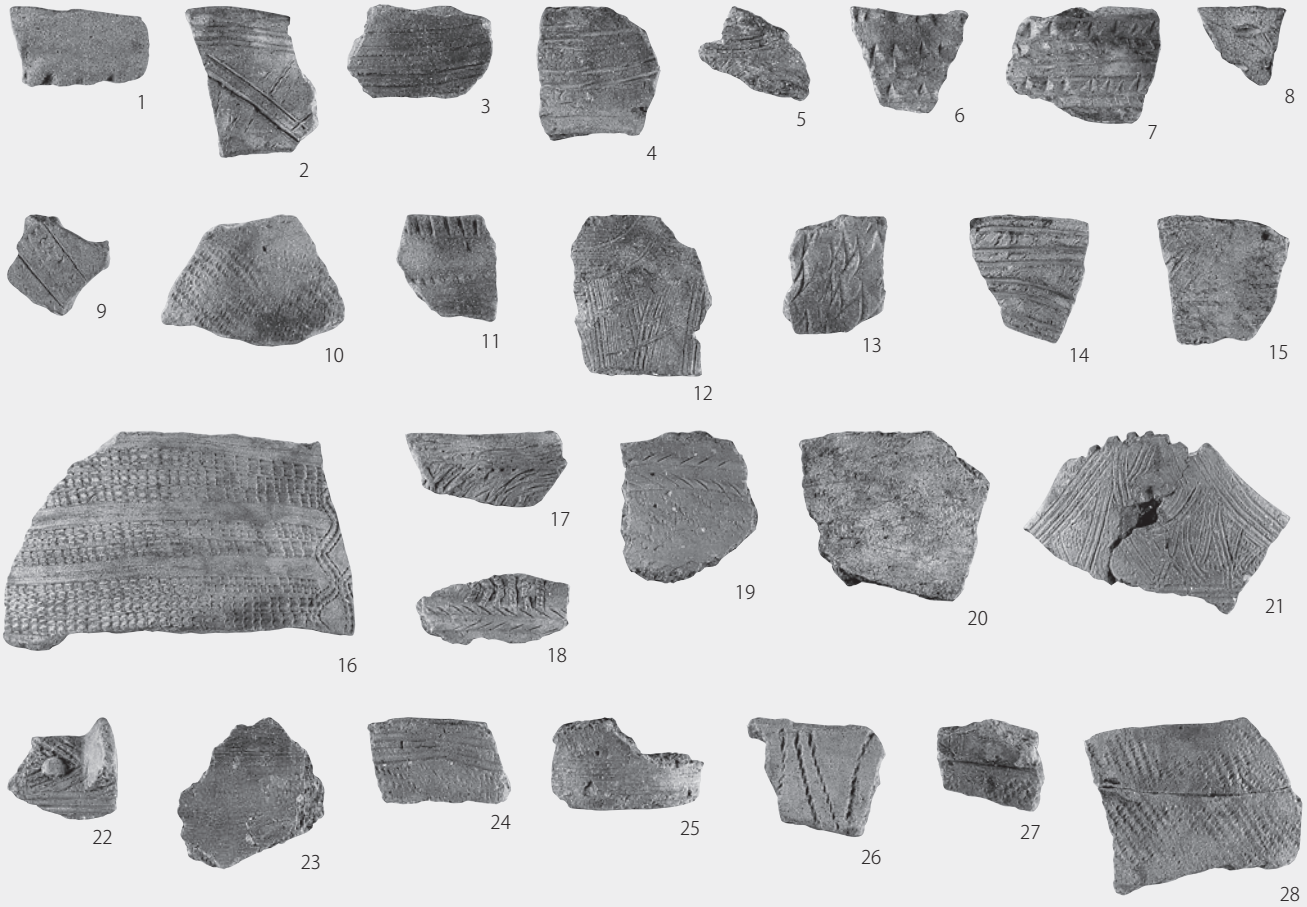
2号遺構


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
0
10cm
（1／3）

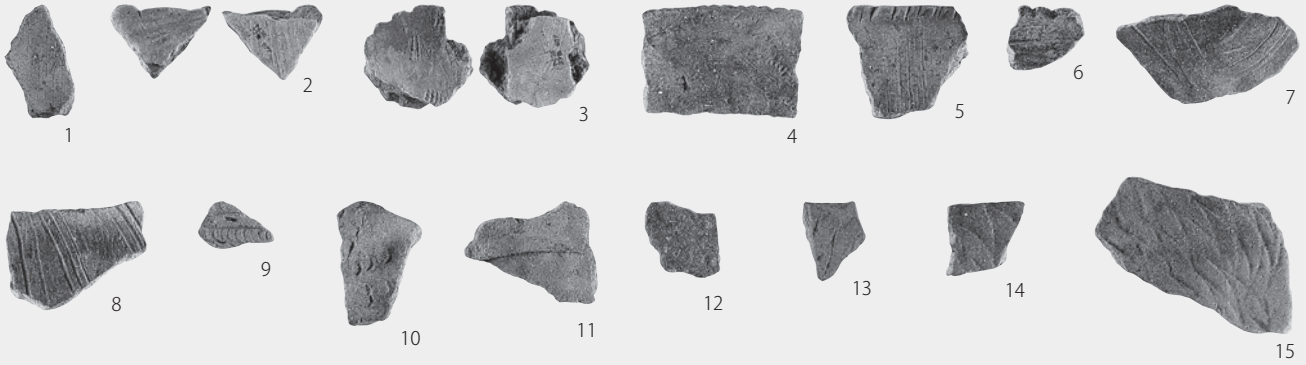
3号遺構



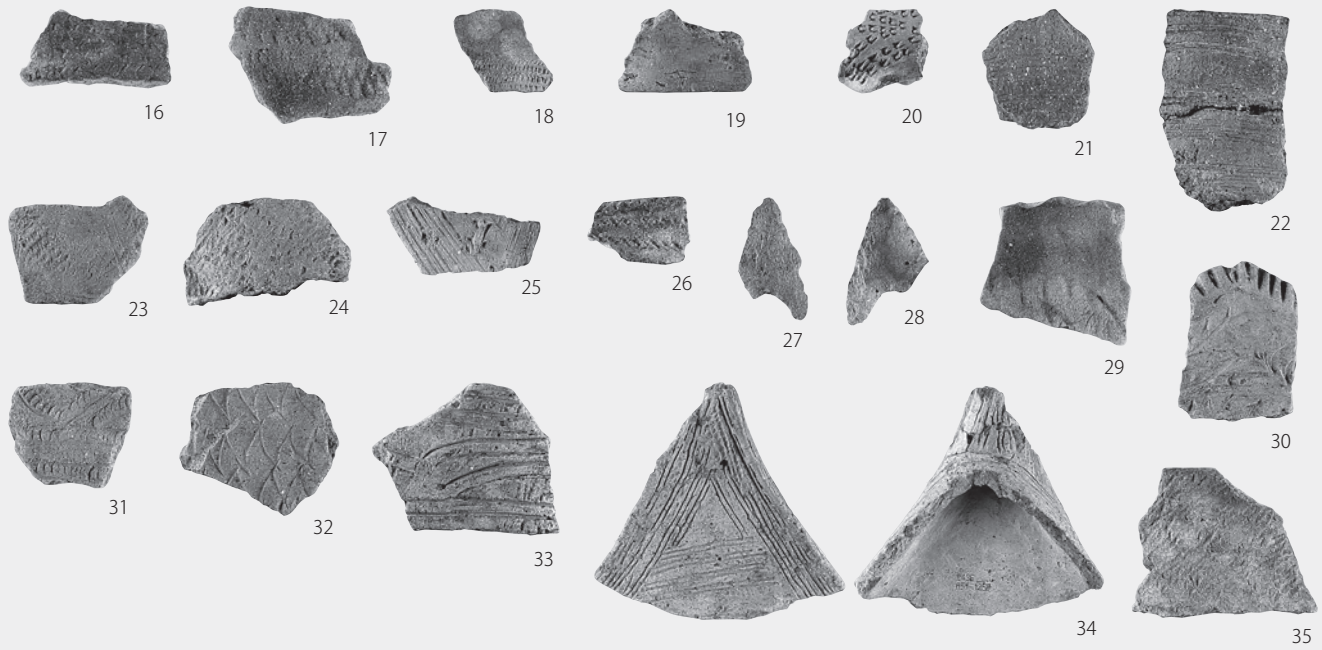
4号遺構



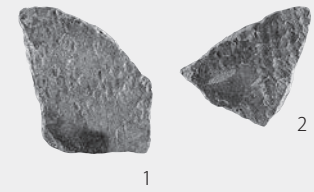
5号遺構



0　10cm
（1／3）

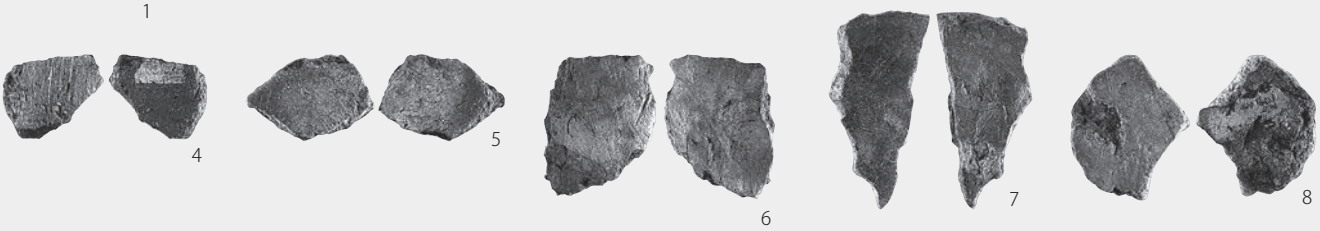


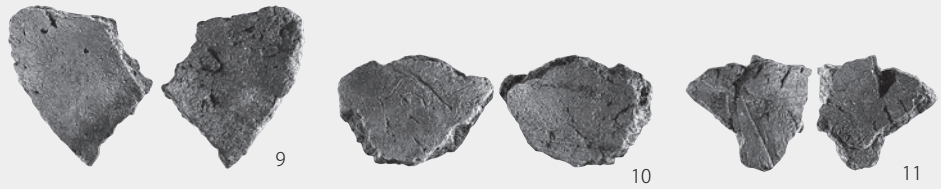
6号遺構



8号遺構

11号遺構





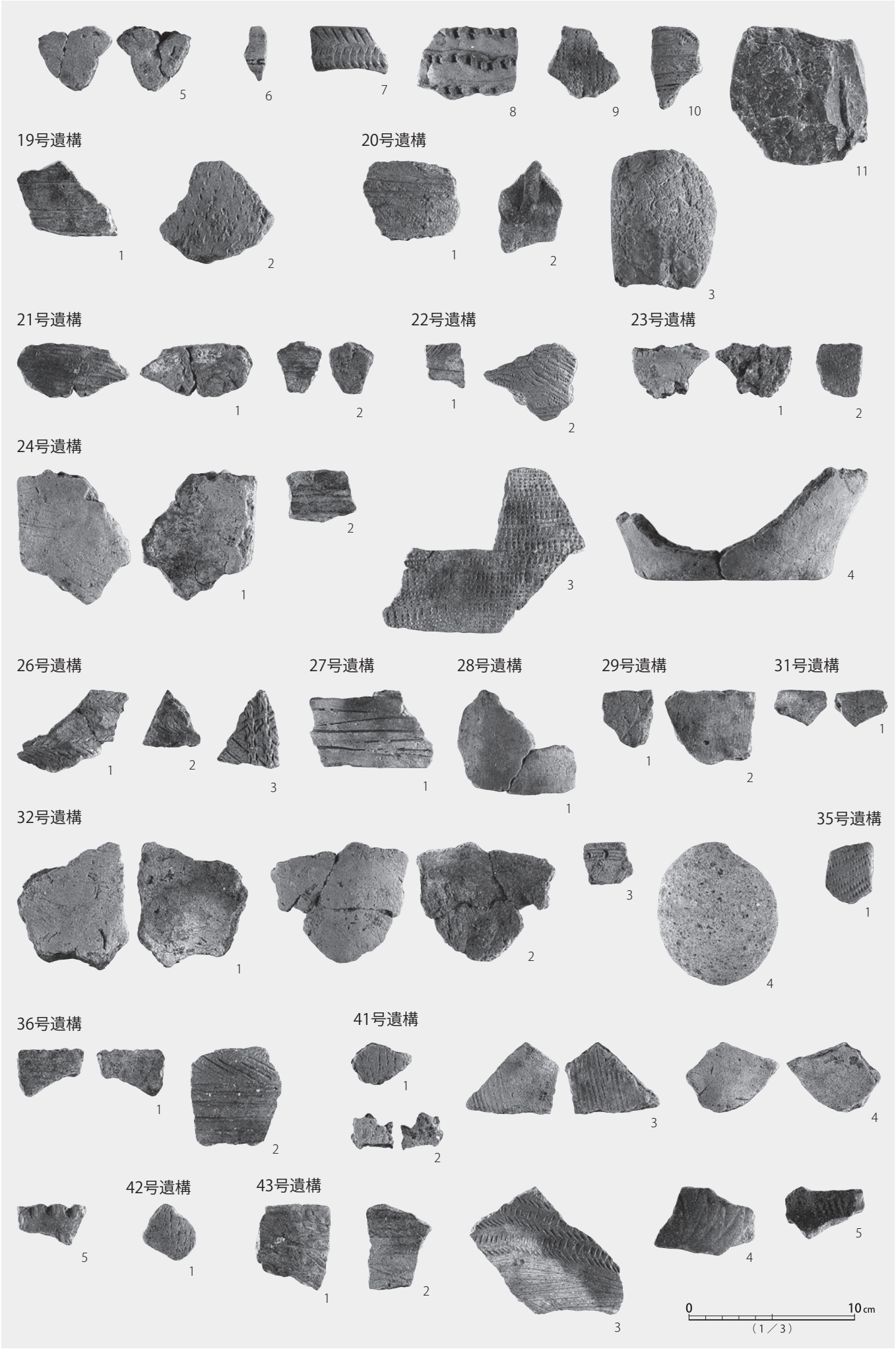
13号遺構

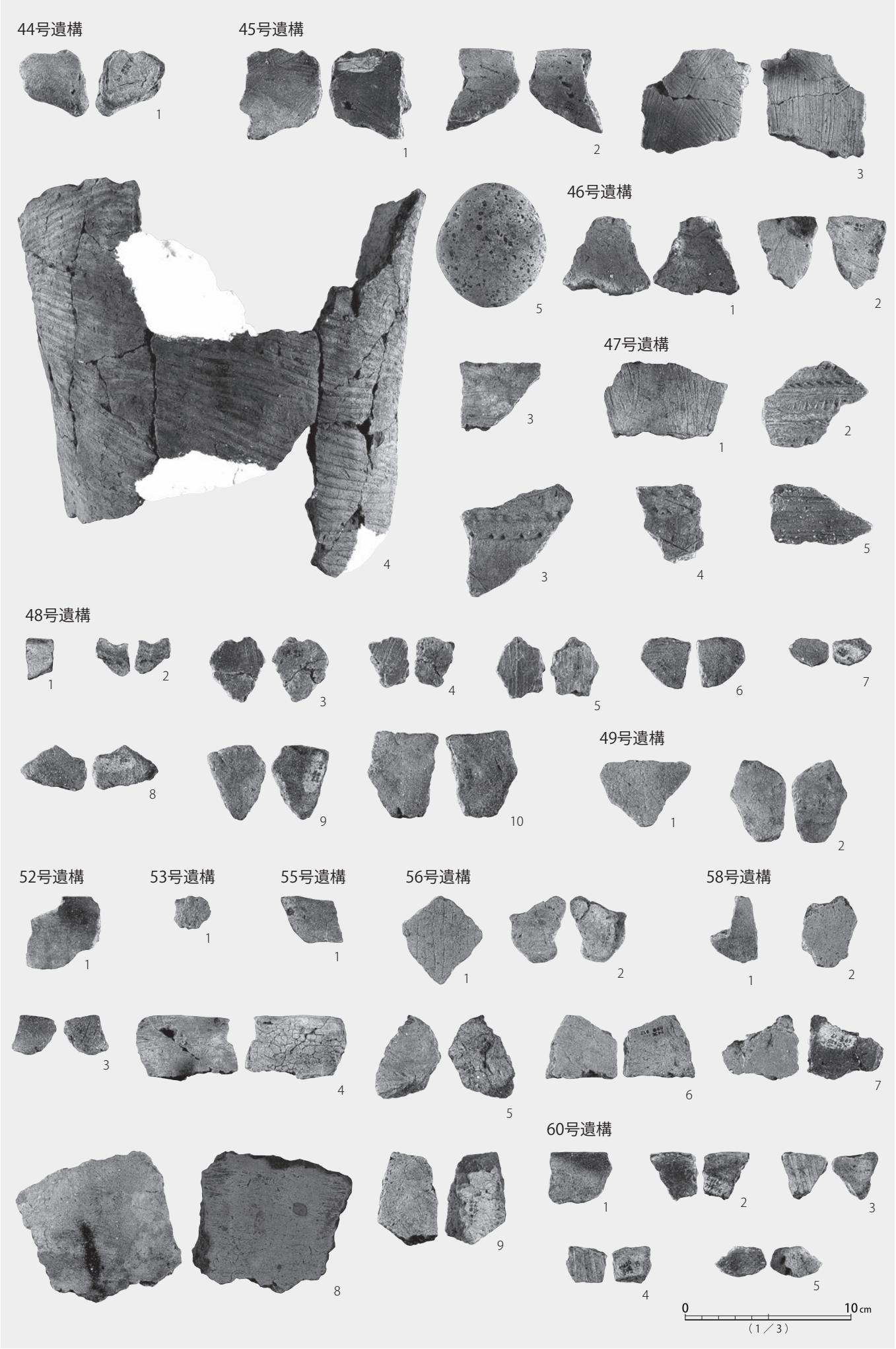
16号遺構

17号遺構

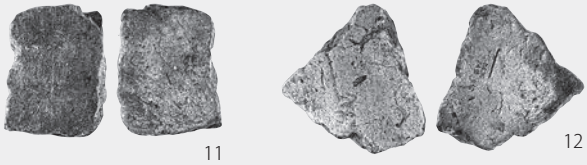
18号遺構

0 10cm
（1／3）


5
6
7
8
9
10
11
19号遺構
1
2
20号遺構
1
2
3
21号遺構
1
2
22号遺構
1
2
23号遺構
1
2
24号遺構
1
2
3
4
26号遺構
1
2
3
27号遺構
1
28号遺構
1
29号遺構
1
2
31号遺構
1
32号遺構
1
2
3
4
35号遺構
1
36号遺構
1
2
41号遺構
1
2
3
4
42号遺構
5
1
43号遺構
1
2
3
4
5
0
10cm
（1／3）


44号遺構
45号遺構
46号遺構
47号遺構
48号遺構
49号遺構
52号遺構
53号遺構
55号遺構
56号遺構
58号遺構
60号遺構
0
10cm
（1／3）

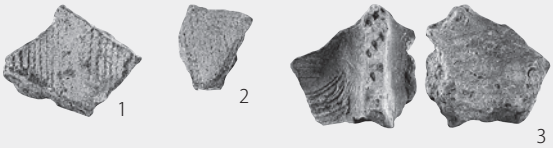
61号遺構



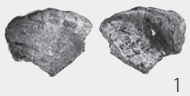
62号遺構

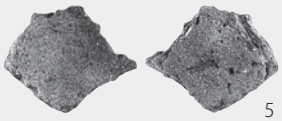
63号遺構

65号遺構

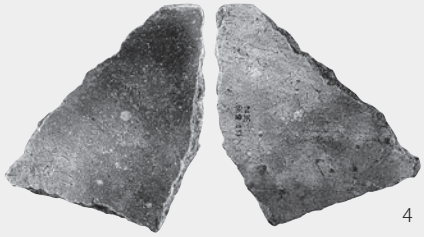


64号遺構

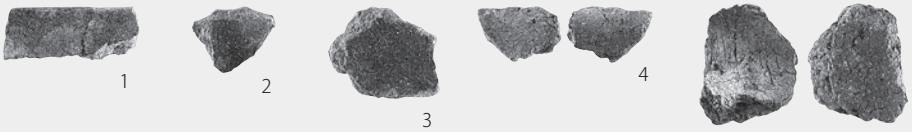




66号遺構

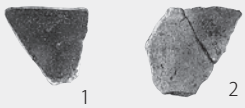


69号遺構

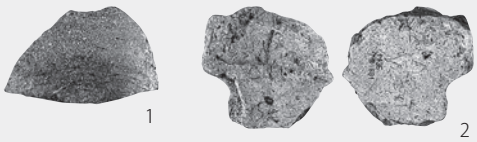


71号遺構

72号遺構



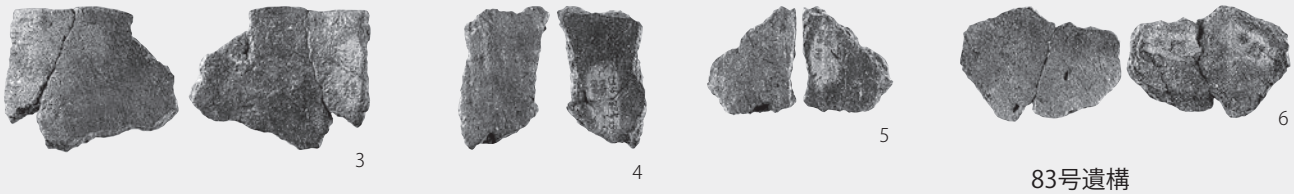
73号遺構

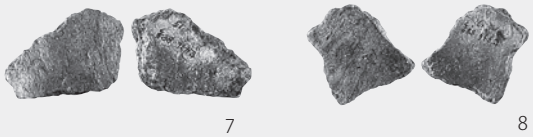


75号遺構

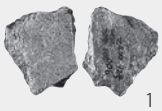
77号遺構

78号遺構

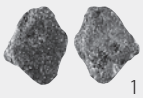




80号遺構



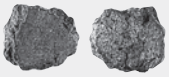
81号遺構



83号遺構

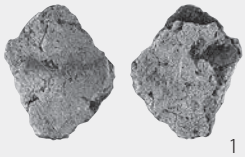
0　10cm
（1／3）

84号遺構



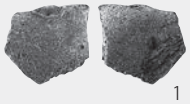
1

86号遺構

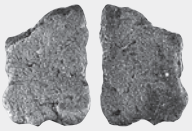


1

87号遺構

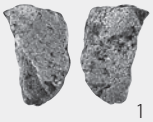


1



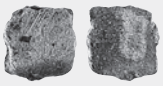
2

88号遺構



1

89号遺構



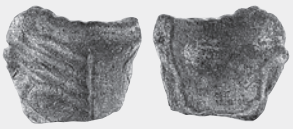
1

92号遺構

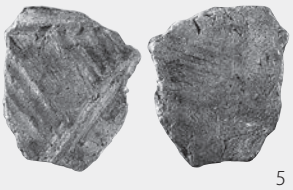
1

2

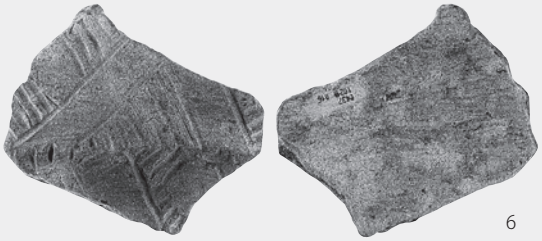
3



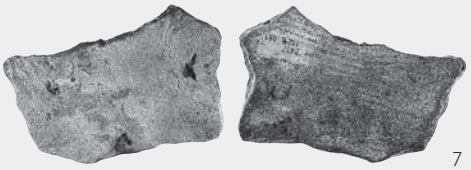
4



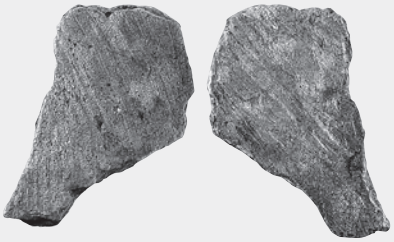
5



6



7

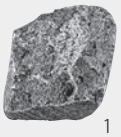


8

9

10

96号遺構

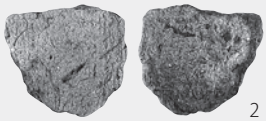


1

97号遺構

1

98号遺構



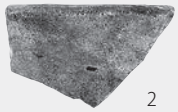
2

3

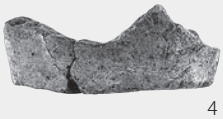
4

5

1

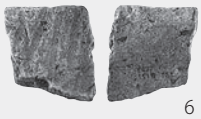


2

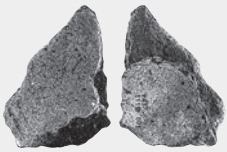


4

5



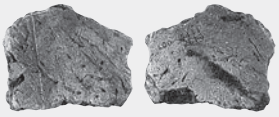
6



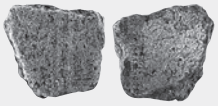
7

3

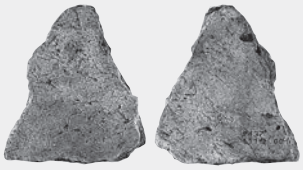
8



9



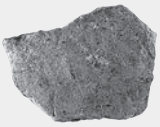
10



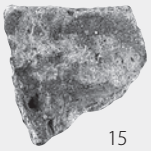
11

12

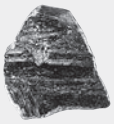
13



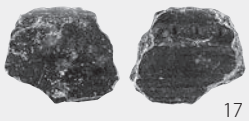
14



15

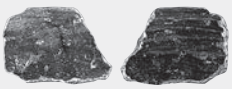


16



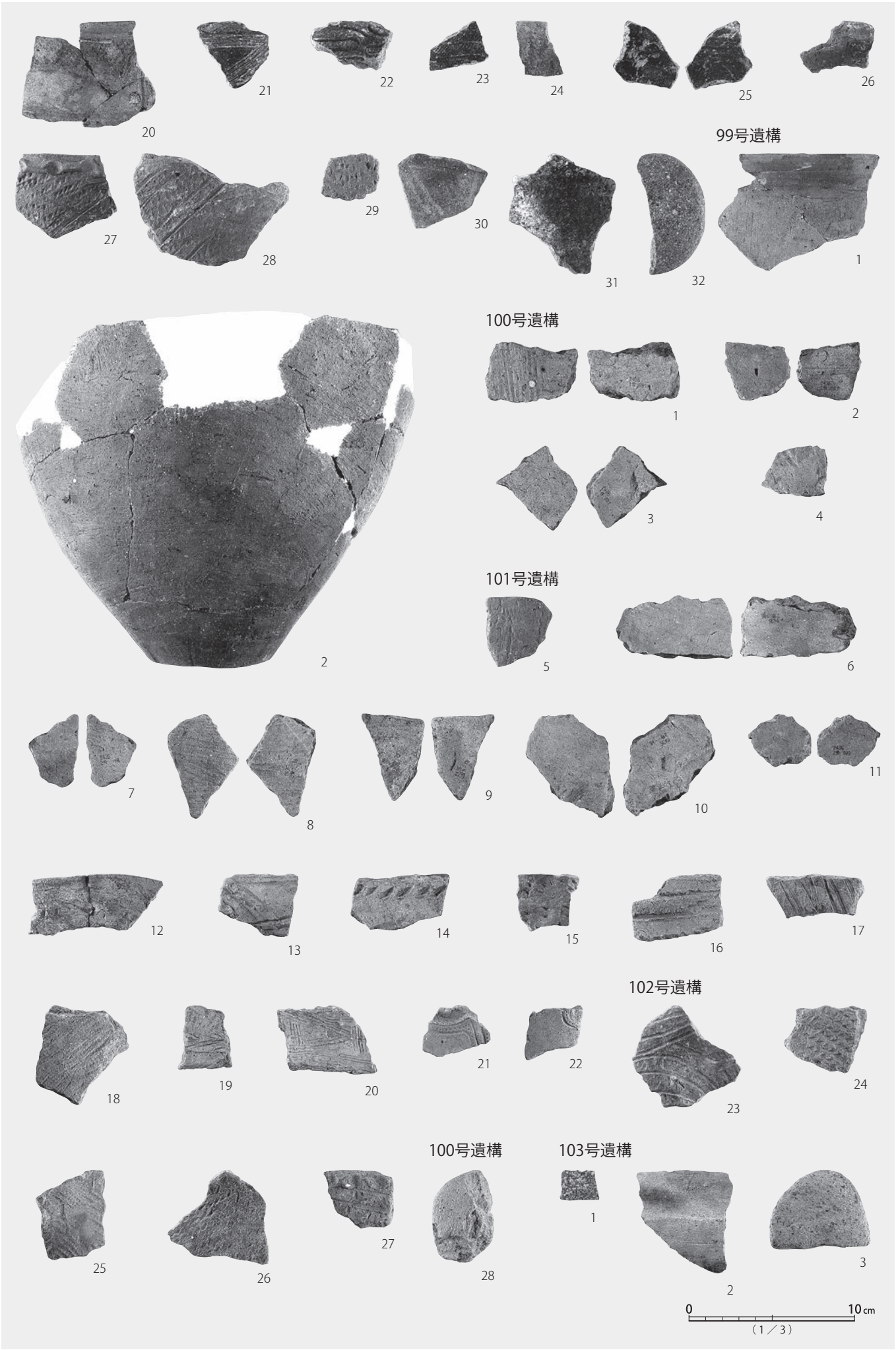
17

18



19

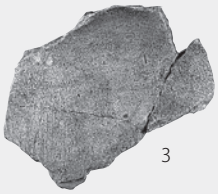
0 10cm
（1／3）


20
21
22
23
24
25
26
99号遺構
27
28
29
30
31
32
1
100号遺構
1
2
3
4
2
101号遺構
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
102号遺構
18
19
20
21
22
23
24
100号遺構
103号遺構
25
26
27
28
1
2
3
0
10cm
（1／3）

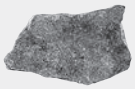
104号遺構

1

2

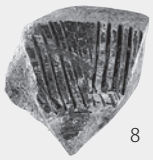

3

4


5

6

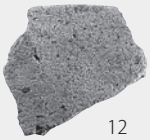
7


8

9

10

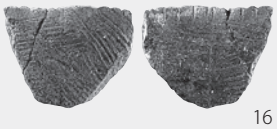
11

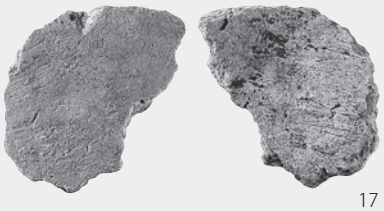

12

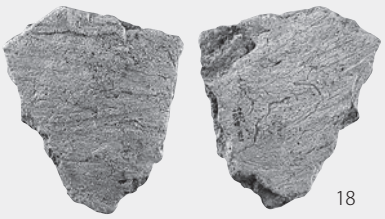
13

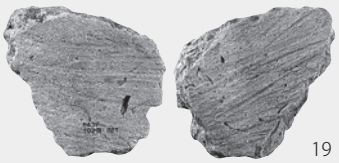
14

15


16


17


18


19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

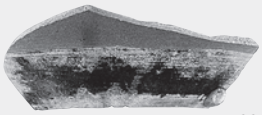
グリッド出土

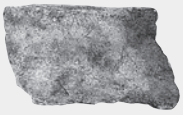
29

30

31

32

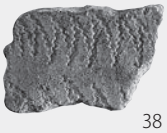

33


34

35

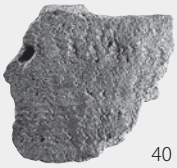
36

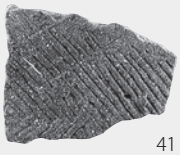
37


38

43

39


40


41

42

0 10cm
（1／3）

A49区

2

4

5

7

13

17

24

28

29

32

40

A50区

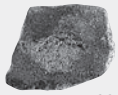
1

2

5

21

22


23

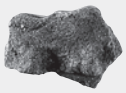
30

44

51

53

54


56

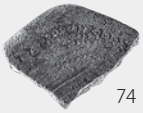
63

65

66

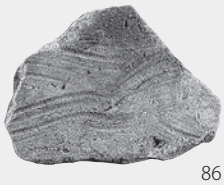
71

72


74

75

84


86

87

91

103

108

115

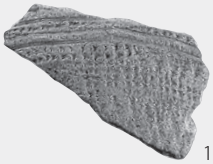
117

118

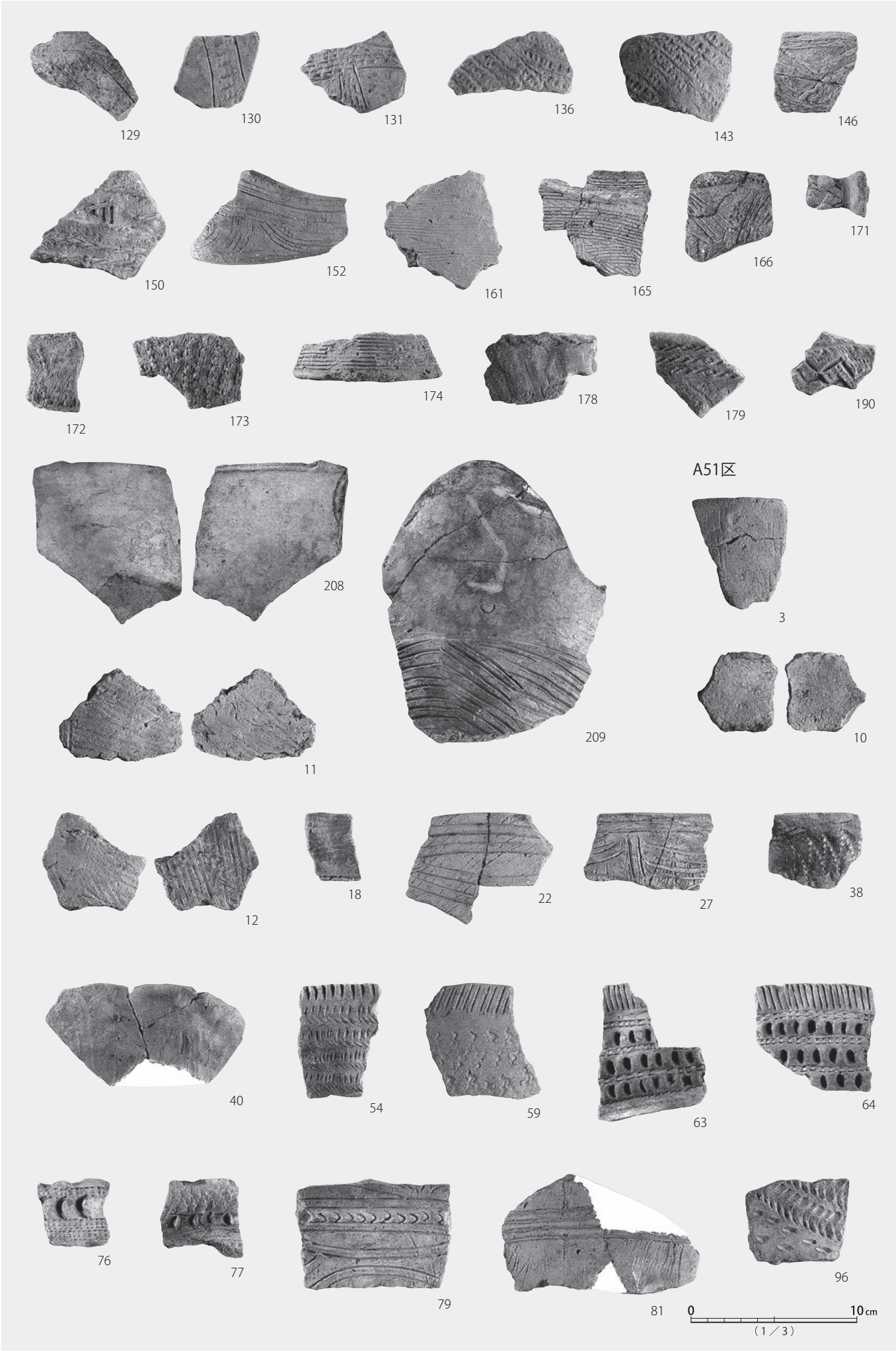
119

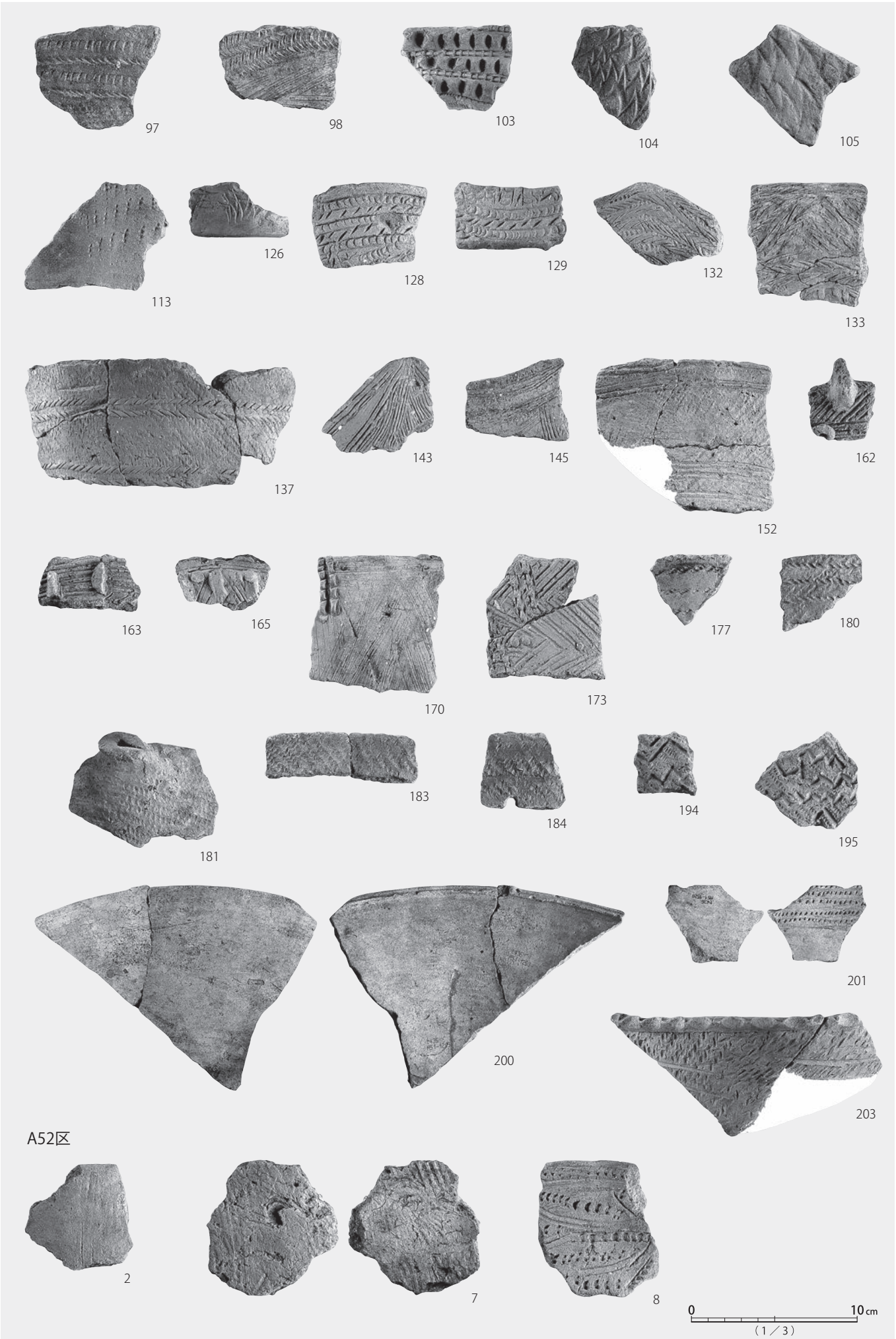
120

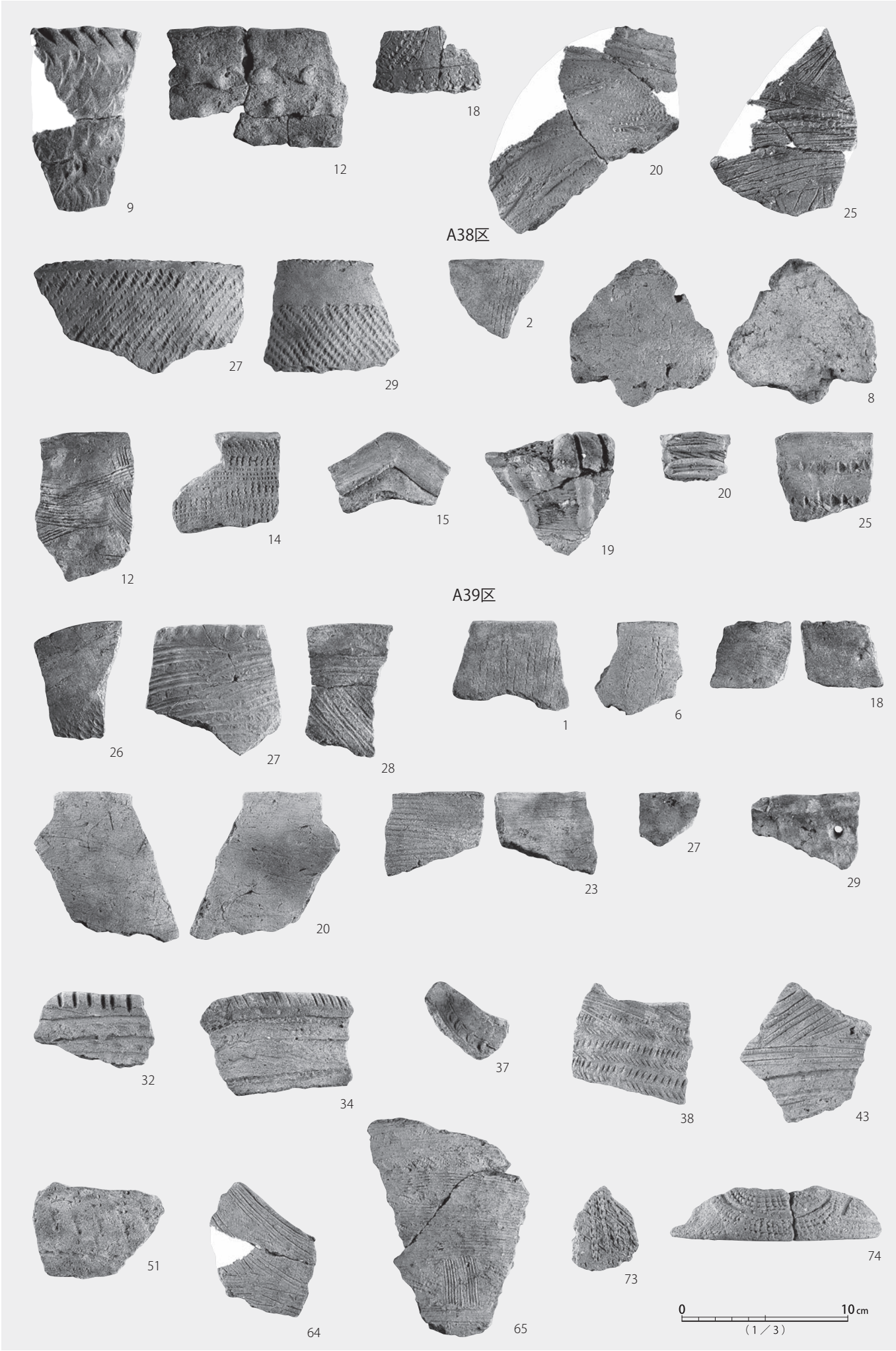
126

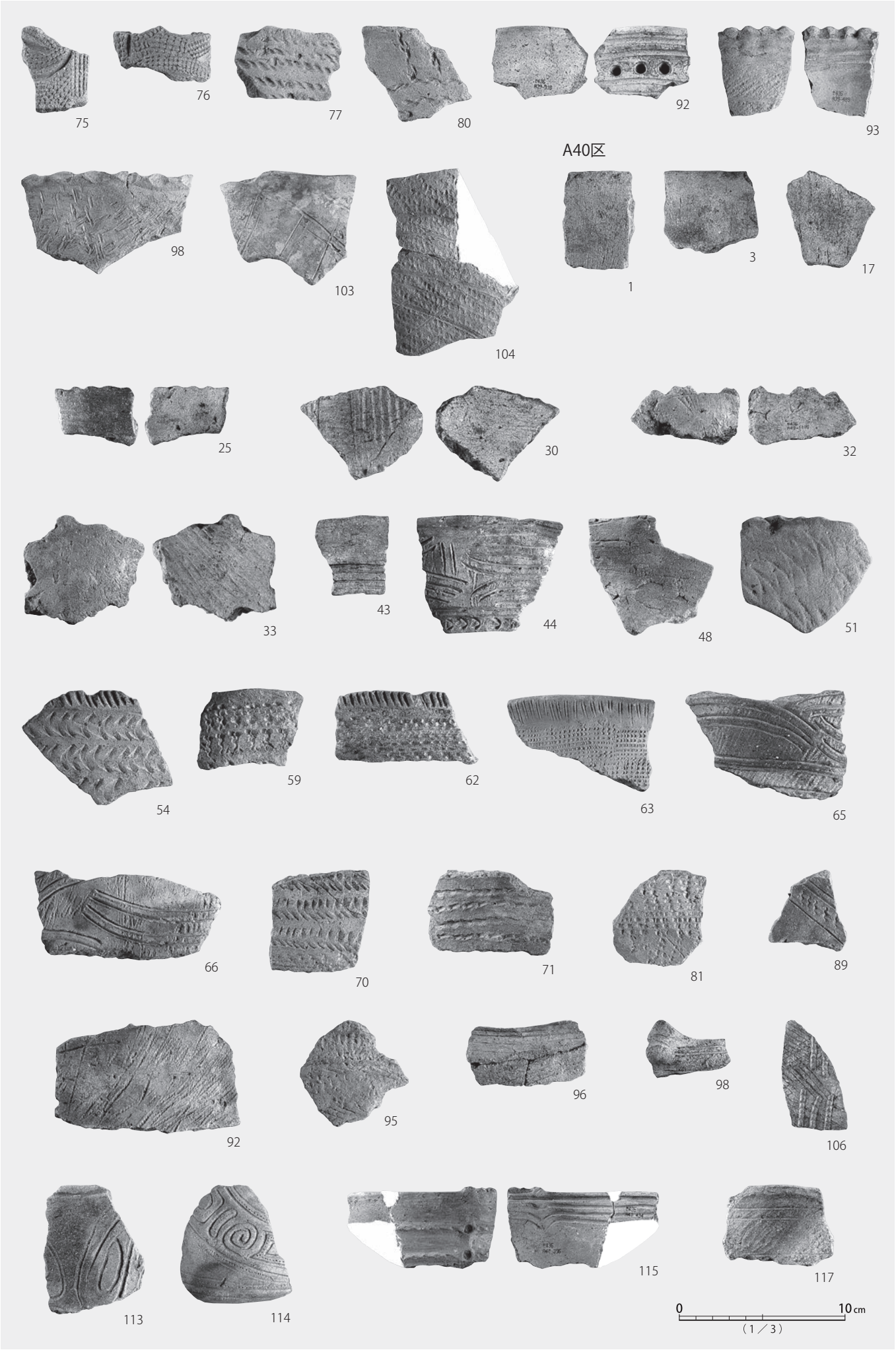

127

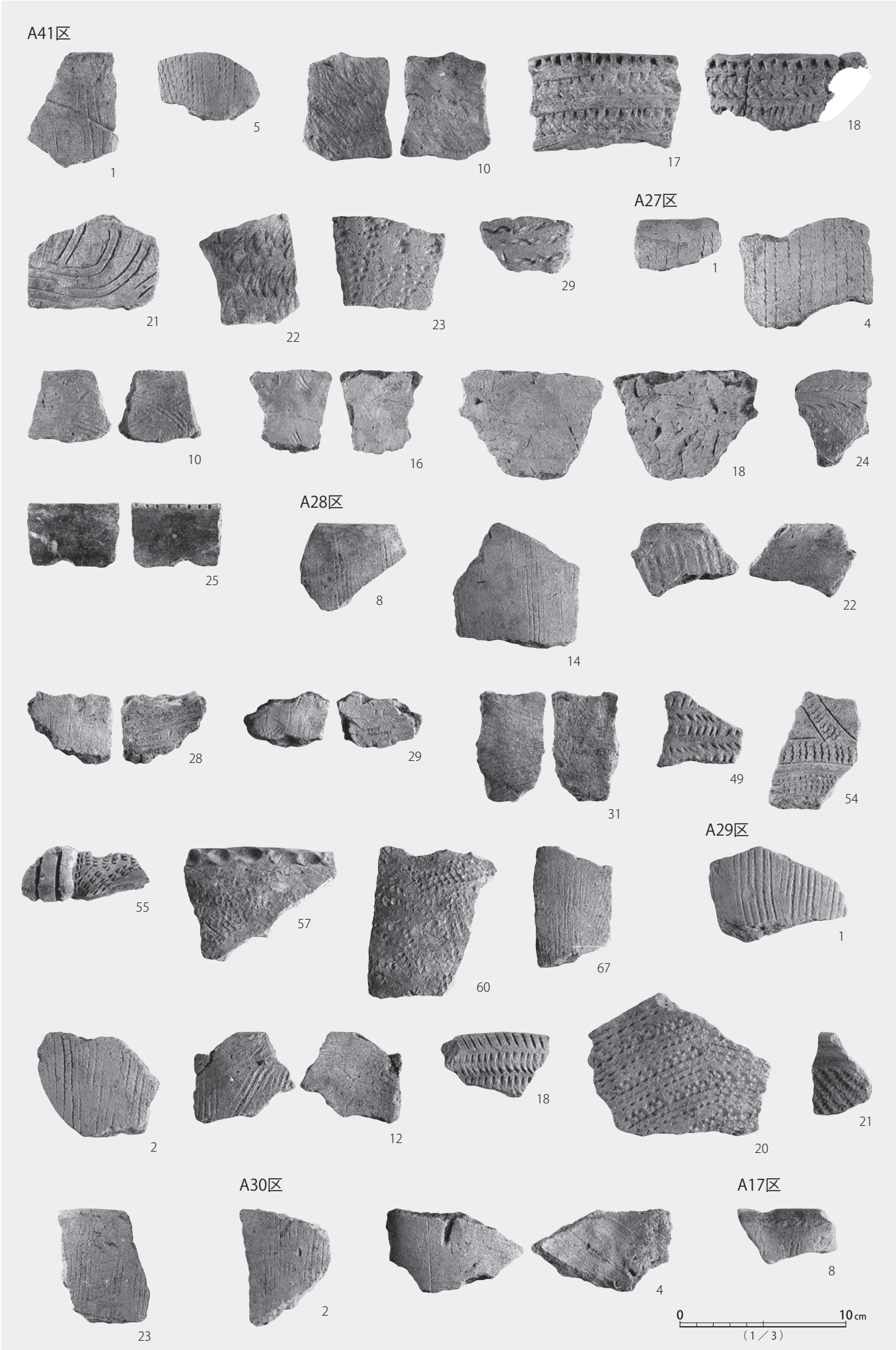
0　10cm
（1／3）

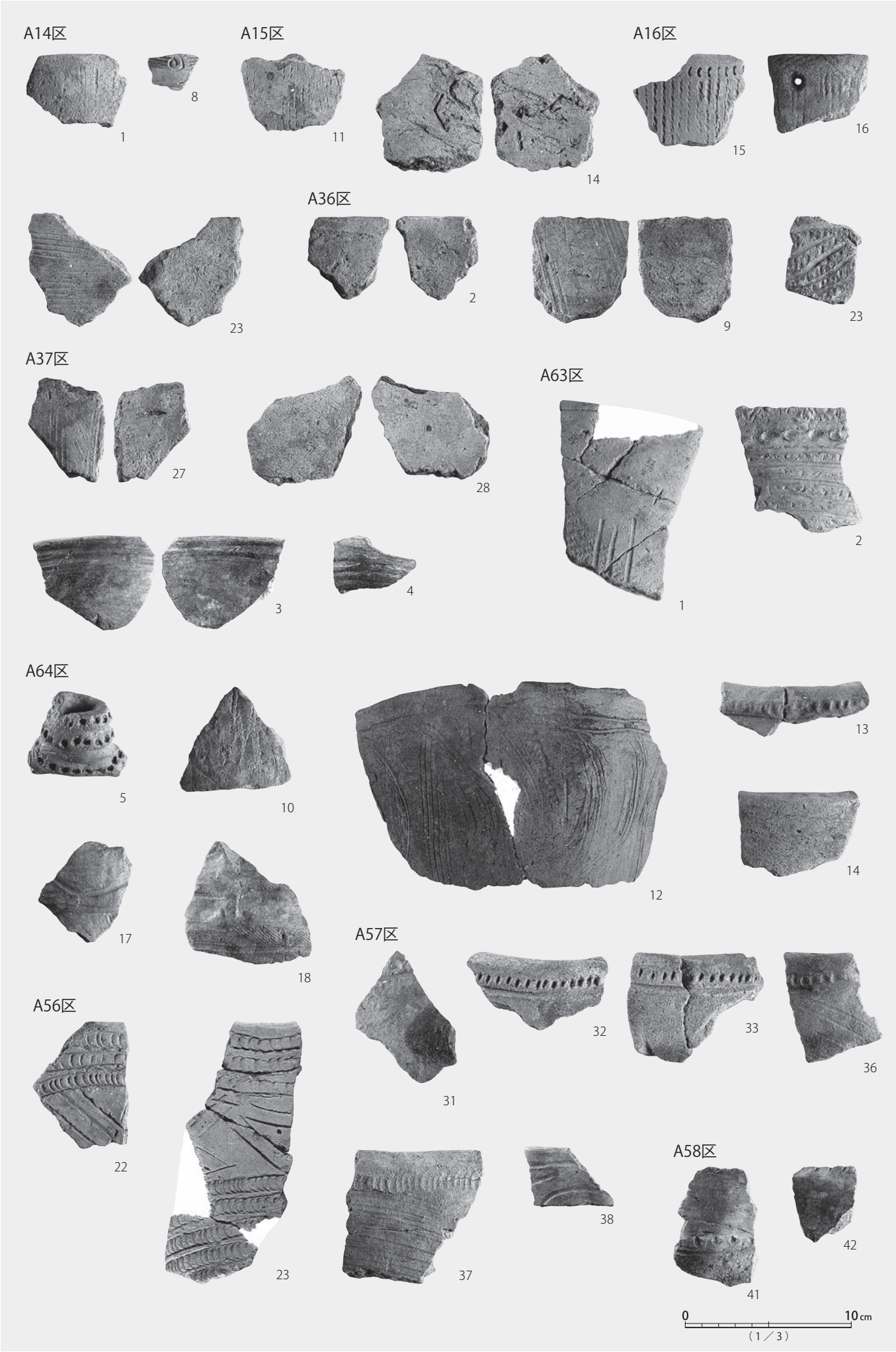

129
130
131
136
143
146
150
152
161
165
166
171
172
173
174
178
179
190
208
A51区
3
209
10
11
12
18
22
27
38
40
54
59
63
64
76
77
79
81
96
0
10cm
(1／3)


97
98
103
104
105
113
126
128
129
132
133
137
143
145
152
162
163
165
170
173
177
180
181
183
184
194
195
200
201
203
A52区
2
7
8
0
10cm
（1／3）


9
12
18
20
25
A38区
27
29
2
8
12
14
15
19
20
25
A39区
26
27
28
1
6
18
20
23
27
29
32
34
37
38
43
51
64
65
73
74
0
10cm
（1／3）


75
76
77
80
92
93
A40区
98
103
104
1
3
17
25
30
32
33
43
44
48
51
54
59
62
63
65
66
70
71
81
89
92
95
96
98
106
113
114
115
117
0
10cm
（1／3）

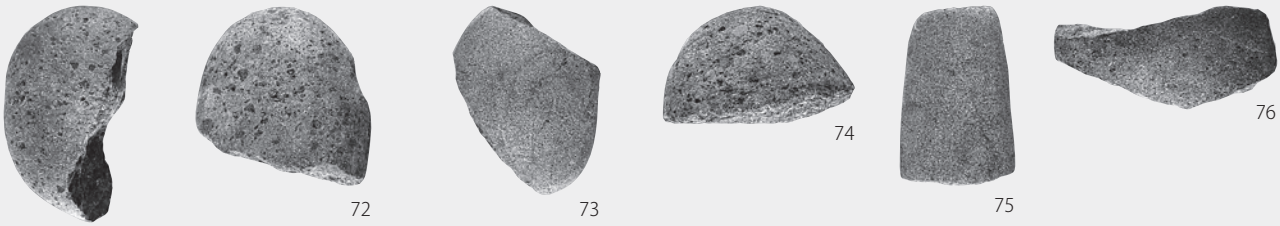

A41区
1
5
10
17
18
A27区
21
22
23
29
1
4
10
16
18
24
A28区
25
8
14
22
28
29
31
49
54
A29区
55
57
60
67
1
2
12
18
20
21
A30区
A17区
23
2
4
8
0
10cm
(1／3)

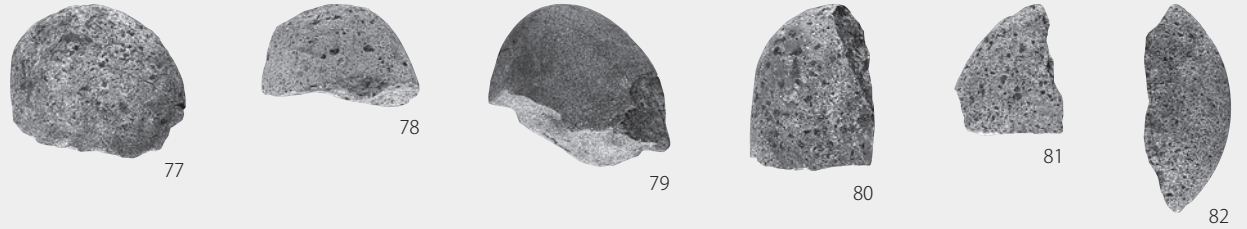

A14区
1
8
A15区
11
14
A16区
15
16
A36区
2
9
23
23
A37区
27
28
3
4
A63区
1
2
A64区
5
10
12
13
14
17
18
A57区
31
32
33
36
A56区
22
23
37
38
A58区
41
42
0
10cm
（1／3）

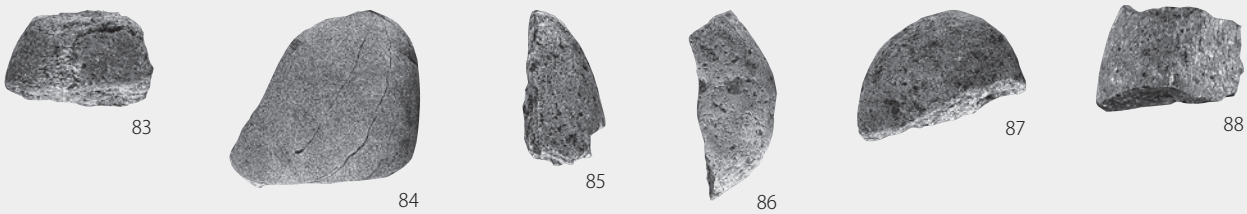
A20区
A34区
4
5
6
13
遺跡一括
24
26
30
1
2
3
4
5
確認調査
6
7
4
12
19
20
21
31
50
59
61
62
69
80
82
83
84
88
89
90
93
98
100
101
102
103
107
109
112
0
10cm
（1／3）

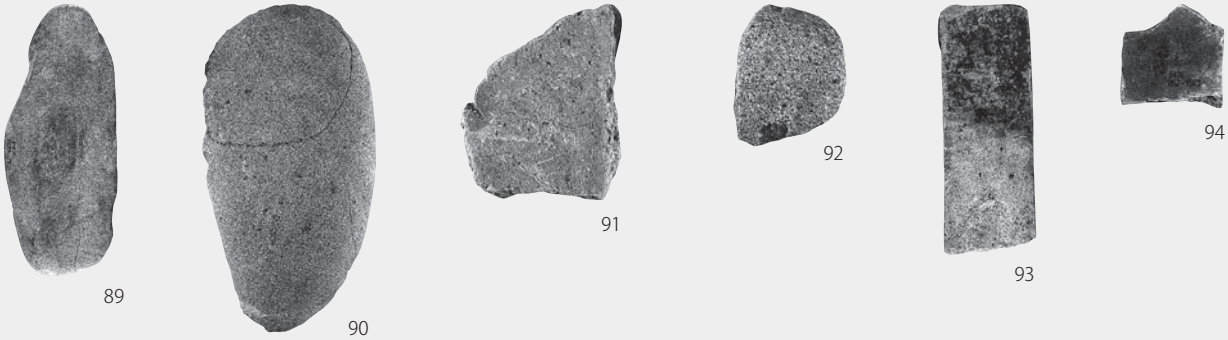
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43

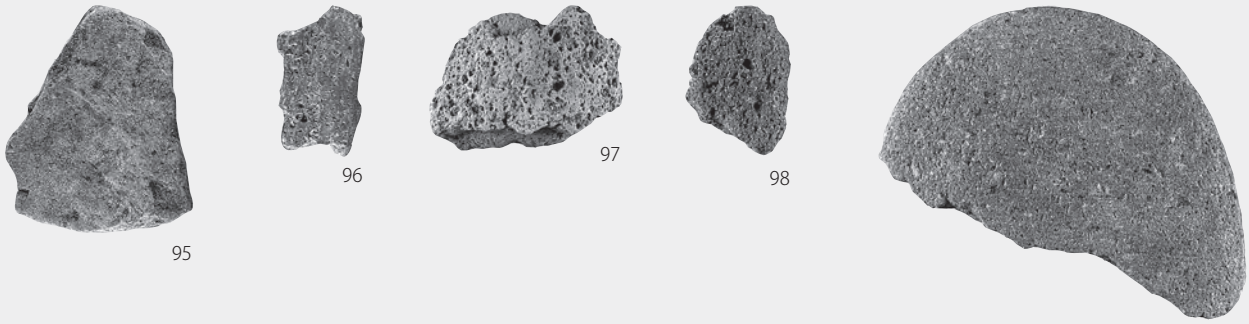
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
0
10cm
（1／3）





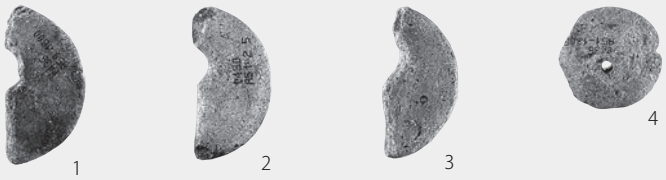






包含層　土製品

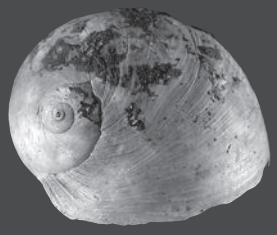
0　10cm
（1／3）

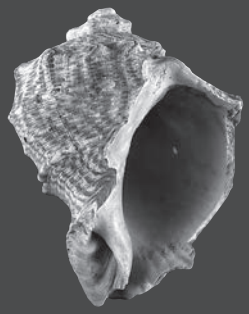


98号遺構

イボキサゴ

ウミニナ

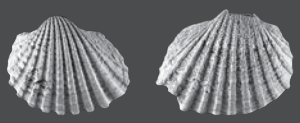

ツメタガイ

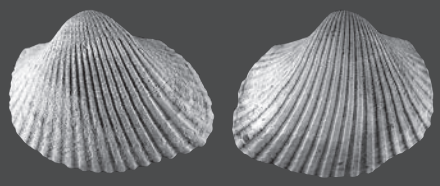

アカニシ

イボニシ

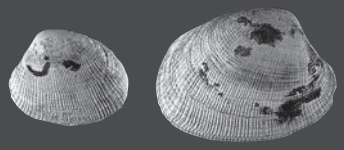
アラムシロ

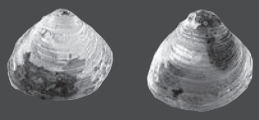
バシ

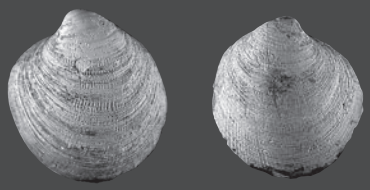

ハイガイ

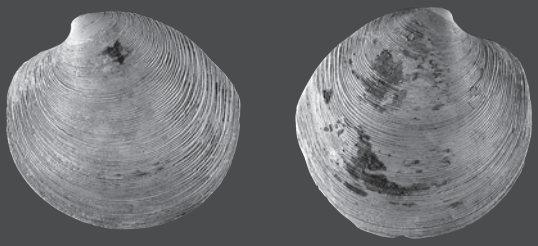

サルボウガイ

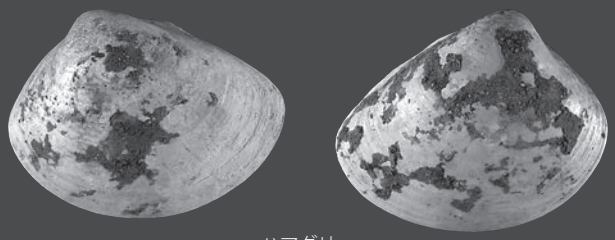
マガキ


アサリ

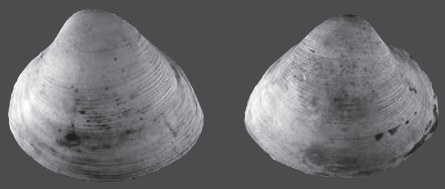

ヤマトシジミ

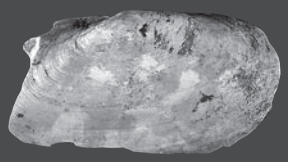

オキシジミ


カガミガイ


ハマグリ

オオノガイ


シオフキ


ムラサキガイ

マテガイ

報告書抄録

ふりがな	いちはらしかいほちくいせきぐん　に
書名	市原市海保地区遺跡群　Ⅱ
副書名	海保広作遺跡（かいほひろさくいせき）
巻次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第32集
編著者名	忍澤成視
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒290-0011　千葉県市原市能満1498　TEL 0436(41)9000
発行年月日	2015年（平成27年）3月10日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		世界測地系		調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
海保広作遺跡（かいほひろさくいせき）	市原市海保（いちはらしかいほ） 1449-3-7ほか	12219	359	35度 27分 49秒	140度 4分 10秒	2007.12.3～ 2008.3.17 2008.7.1～ 10.31、11.17～ 2009.3.19	7,532	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
海保広作遺跡	包蔵地 集落跡	旧石器時代	遺物集中ブロック 5地点 7箇所	ナイフ形石器、掻器、剥片、石核	市原市域では数少ない縄文時代前期後葉の集落と遺物包含層を検出した。遺構、遺物の在り方から、短期居住的集落と推定され、当該期のムラの在り方を知る上で重要である。奈良・平安時代以降では、遺跡の一部から全長約130mの長大な溝を検出した。同様の遺構は、海保地区遺跡群の他の遺跡でも見られ、奈良・平安時代以降に牛馬の飼育に関わる大規模な土地利用があった可能性が示された。また、時期が不明確ながら、同時期の可能性がある掘立柱建物を検出した。柱の据え付け穴内には、貝層が堆積。遺跡名不詳の縄文時代後期貝塚の貝層が利用されたものとみられる。
		縄文時代早期後葉、前期後葉	竪穴建物5 炉穴25 土坑47	縄文土器、石器、土製品、貝類	
		古墳時代後期 奈良・平安時代 近世	方形周溝墓1 埋設土器1 土坑17 掘立柱建物1 溝5 溝(道路)1 塚1 焼土1	土師器、須恵器、瓦	

要約	旧石器時代では、礫群を含む遺物集中ブロックを検出し、多数の石器製作や使用の痕跡を確認した。縄文時代では、早期後葉と前期後葉の集落と遺物包含層を検出した。特に縄文前期の浮島から興津式期の集落は、小規模ながら今回の調査範囲内で完結しており、当該期の集落の様子を示すものとみられる。遺構、遺物の在り方から、短期居住的集落と推定される。古墳時代の集落や古墳は、海保地区遺跡群の他の遺跡では多数発見されているが、本遺跡内では古墳時代前期の方形周溝墓1基を検出したのみである。奈良・平安時代以降では、遺跡東端で長大な溝を検出した。これらの覆土中堆積物の分析結果等から、牛馬の放牧に関わる遺構と推定した。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書　第 32 集

市原市海保地区遺跡群Ⅱ
海保広作遺跡

平成 27 年 3 月 10 日　発行

編　　集　　市原市埋蔵文化財調査センター
市原市能満 1489 番地

発　　行　　大成建設株式会社
千葉県市原市教育委員会
市原市国分寺台中央 1-1-1

印　　刷　　株式会社　弘　文　社
市川市市川南 2-7-2